

ふくしま道徳教育推進プラン

# 道徳教育推進校 報告書

平成29年度道徳教育総合支援事業

平成30年3月

福島県教育委員会





## はじめに

本報告書は、「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内7地区における小・中・高等学校7校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道徳教育を学校全体でどのように推進していくのか、②道徳教育推進教師はどのような役割を果たしていくのか、③道徳の時間の授業をどのように展開していくのかについて、その取組の実際を次のプロットに従って報告しております。

なお、道徳の時間の授業については、ふくしま道徳教育資料集「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」「第Ⅲ集『郷土愛・ふくしまの未来へ』」を活用した実践を多く紹介しております。

1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

伊達市立大田小学校	道徳的問題場面に対して多面的・多角的な見方をしようとする児童の育成
福島県立小野高等学校	教育活動全体を通じた道徳教育によって、いかに生徒の内面を成長させることができるか
棚倉町立棚倉中学校	自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動できる生徒の育成
喜多方市立駒形小学校	自他のよさに気付き、よりよい人間関係を育む指導
檜枝岐村立檜枝岐小・中学校	9年間を見通した小中一貫教育を活かして、自ら伸びようとする児童生徒の育成
南相馬市立原町第三中学校	豊かな学び合いを通して、郷土を愛し、自分の生き方を深める道徳の時間
いわき市立赤井中学校	自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成

## 【報告書のプロット】

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について
- 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について
- 9 平成29年度 学級における指導計画について
- 10 道徳教育推進教師等の実践について
- 11 道徳の時間について
- 12 成果と課題

# 《 目 次 》

はじめに .....	1
------------	---

## 1 道徳教育推進校報告

(1) 県北地区 伊達市立大田小学校 .....	5
(2) 県中地区 福島県立小野高等学校 .....	27
(3) 県南地区 棚倉町立棚倉中学校 .....	47
(4) 会津地区 喜多方市立駒形小学校 .....	65
(5) 南会津地区 檜枝岐村立檜枝岐小・中学校 .....	81
(6) 相双地区 南相馬市立原町第三中学校 .....	97
(7) いわき地区 いわき市立赤井中学校 .....	115

## 2 資料

○ 「ふくしま道徳教育推進プラン」 .....	136
○ 道徳教育推進校の役割について .....	137
○ 平成 29 年度道徳教育実施状況調査について .....	138
○ 道徳だより「道徳のかけ橋」第 12 ～ 17 号 .....	139



## 「ふくしま道徳教育資料集」実践事例一覧

校種	学年	資料名	内容項目	実践校	ページ
小学校	2年	ぼくのカブトン（第Ⅲ集）	自然愛、動物愛護	駒形小	75
	6年	きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～（第Ⅰ集）	希望と勇気 努力と強い意志	大田小	23
	5・6年	外国からのメッセージ（第Ⅰ集）	規則の尊重	檜枝岐小	95
中学校	1年	手渡されたパン（第Ⅱ集）	思いやり、感謝	赤井中	128
	2年	500人の大家族（第Ⅱ集）	思いやり、感謝	赤井中	129
		ヒューストン日本語補習校だより（第Ⅱ集）	集団生活の充実	棚倉中	59
		こどもの日（第Ⅲ集）	伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度	原町三中	109
	3年	たった1秒のありがとう（第Ⅱ集）	思いやり、感謝	赤井中	131
高等学校	1年	道標（みちしるべ）（第Ⅱ集）	自己変革 自己を認め、変える勇気	小野高	40
	2年	長崎からの手紙（第Ⅰ集）	生命の尊さ	小野高	42
	3年	それでも僕は桃を買う（第Ⅲ集）	他者との平和的な 共存・協働	小野高	44





**【県北地区】 伊達市立大田小学校**



# 道徳教育推進校《実施報告書》

## 1 学校紹介

学校名	福島県伊達市立大田小学校
所在地	福島県伊達市保原町大泉字前原内111
校長名	平子 宗司
学校の教育目標	◎ 思いやりの心を持ち、互いに高め合い、たくましく生きる子ども ・ よく考え、高め合う子ども ・ 思いやり、協力し合う子ども ・ 健康で、最後までやりぬく子ども
学級及び児童生徒数	学級数 7 (特別支援1) 児童数 76
道徳教育にかかる取組の概要	○ 現職教育として学校全体での研修 全学年 1授業の実施 学年ブロックでの道徳授業による指導力の向上 ○ 外部講師による授業研究の充実 ○ 外部講師による道徳教育講座の開催

## 2 研究テーマ

道徳的問題場面に対して多面的・多角的な見方をしようとする児童の育成  
 ～ 道徳における対話的な学習活動の充実を通して ～

## 3 テーマ設定の理由

### (1) 教育の今日的課題

平成27年に小学校学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」が位置付けられた。今後グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観を持ち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要と示され、道徳教育の果たす役割が大きくなっている。

そこで平成30年度から始まる「特別の教科 道徳」の完全実施を前に、授業の質的改善が求められ以下のように述べられている。

「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へ転換を図るものである」

つまり、変化の大きな世界の中で、自ら考え判断し、よりよく生きるためには、多様な価値観を自分との関わりで理解し、多様な立場や価値観をもつ児童同士が互いを深く知る機会を増やすことが必要である点を示唆していると考える。

### (2) 本校の教育目標から

本校では教育目標 「思いやりの心を持ち、互いに高め合い、たくましく生きる子ども」と設定し、目指す児童像として次の3つの姿を設定している。

思いやり、協力し合う子ども

よく考え、高め合う子ども

健康で、最後までやりぬく子ども

これらの達成のためには、「相手の考えを受容したり尊重したりし、互いに高め合えるようにすること」が重要と考え、昨年度まで算数科における言語活動の充実を図ってきた。今年度は、その学び合う姿勢を基盤として、道徳の授業において、さまざまな感じ方や価値観、思いの違いを表出させ、それらを尊重しながら自分の行動を振り返ったり、自分の考えを深めたりする学習を充実させたいと考えた。そうした指導観を明確にした授業を年間を通して実践することで、互いの思いや考えを深く理解し合い、多様な価値観の理解や多面的・多角的な見方を育み、主体的な判断を基によりよく生きようとする姿が育まれ、道徳性の育成につながると考える。

#### 4 研究計画

月	年 間 計 画		
	日	曜日	◎ 現職教育全体会 ☆ 事前・授業・事後研究協議会 ◇ その他
4	10	月	◇ 現職教育推進委員会
	17	月	◎ 現職教育全体会 (テーマの確認)
5	2	火	◎ 現職教育全体会 (別葉 見直し)
	17	水	☆ 事前研究会① 【5年】 B 親切、思いやり 資料名「くずれ落ちた段ボール箱」
6	8	木	◇ 郡山第三中学校長 荻野由則先生による示範授業 第4学年 「こまったプレゼント NHK for School」 ☆ 第5学年 授業研究・事後研究会① 講師：郡山第三中学校長 荻野由則先生
	17	土	◇ 先進校視察：筑波大学附属小学校
	19	月	☆ 事前研究会② 【3年】 B 親切、思いやり 資料名「おじいさんの顔」
	26	月	☆ 第3学年 授業研究・事後研究会②
7	8	土	◇ 土曜授業(全学年 道徳授業参観) 道徳教育についての保護者アンケート実施
	20	木	◎ 現職教育全体会 (方向性の改善・確認)
8	21	月	◇ 先進校視察：東京学芸大学附属小学校世田谷校
	24	木	◎ 伝達講習会 (筑波大附属小 東京学芸大附属小 小教研 全国道徳特別活動研究会)
9	13	水	◎ 現職教育全体会 (道徳推進協議会の進め方について)
	25	月	☆ 事前研究会③ 【1年】 B 親切、思いやり 資料名「はしの上のおおかみ」
10	2	月	☆ 第1学年 授業研究・事後研究会③ 講師：郡山第三中学校長 荻野由則先生 県北教育事務所 指導主事 佐藤隆彰先生
	11	水	☆ 事前研究会④ 【2・4・6年】
11	1	水	道徳教育講演会 「道徳科の実施に向けた授業改善と評価」 講師：帝京大学大学院教職研究科教授(前文部科学省教科調査官) 赤堀博行 先生
	2	木	◇ 先進校視察：郡山市立橘小学校
	2	木	☆ 授業・事後研究会⑤ 【4年 3学年授業 B 友情、信頼 「絵はがきと切手」】
	6	月	☆ 授業・事後研究会⑤ 【6年 5学年授業 A 希望と勇気、努力と強い意志 「きぼうの水族館～アクアマリンふくしま」】 講師：郡山第三中学校長 荻野由則先生
	8	水	☆ 授業・事後研究会⑤ 【2年 1学年授業 B 親切、思いやり 「ぐみの木と小とり」】 ※ ローテーション道徳 (ブロックによる授業実践・事後研究会)

11	24	金	道徳教育地区別推進協議会 ○ 推進校における取組 : 道徳教育推進教師 ○ 伝達講習「道徳教育指導者養成研修報告」 講師 : 伊達市立松陽中学校 教頭 渡邊定行 先生 ○ 第2・4・6学年 授業公開 及び 事後研究会 ○ 講演 「これからの道徳教育のあり方」 講師 : 福島大学総合教育研修センター 特任教授 丹野 学 先生
	30	木	道徳教育推進協議会を振り返って ・ 各分科会からの報告                      ・ 協議会の内容から
12	13	水	研究のまとめについて
2	7	水	伝達講習会
	19	月	現職研究協議会

## 5 児童生徒の実態及び地域の課題

地域や保護者については、学校教育に対して協力的である。学校行事や総合的な学習の時間などを通じて、地域の人・もの・ことについての学習でも、ゲストティーチャーや見学学習の受け入れとして、地域の方々と交流する機会も多く、子ども達も地域との関わりをもって生活している姿が多くみられる。

また、1学期に実施した保護者アンケートの結果からは、大田小学校の児童に対して「生命尊重」や「思いやり・親切」、「尊敬・感謝」等の内容項目に対して課題があるという回答があった。これは、道徳教育全体計画を作成する際に、教職員で確認した重点事項におおむね重なるものであり、本校の課題として、今年度重点化した年間計画を作成している状況である。傾向をみると、「生命尊重」に対する課題を多く上げる保護者は下学年に多く、自然体験や直接体験等の機会が少なくなっていることに起因していると考えられる。上学年になると、「思いやり・親切」「友情や信頼関係」といった人間関係が広がる中での課題を挙げる保護者も少なくない。

本校児童の実態としては、素直で何事にもまじめに取り組むことができる。また、与えられた役割に対しては責任をもって取り組む児童が多く、教師の指示や学校の規則を尊重しようという意識が高い。しかし一方で、主体的に物事に取り組むことに課題がみられ、自分で考え自分で判断する力は、決して高いとは言えない。また、昨年度までの校内研修の積み重ねから、自分の考えを話すことや、相手の考えを聞くことに対する意識は高まっているものの、自分の考えを立場や理由を明確にして伝える姿や互いの思いや考えを交流する中でよりよい考えに行きついたり、より深く理解したりする姿を追求する必要性を感じる。

新学習指導要領の道徳科の目標と照らしてみると、児童のメタ認知が低い傾向がみられ、自己理解に対する指導機会を多くする必要がある。さらに、多面的・多角的なものの見方を苦手としている児童も少なくなく、相手の立場に立ったり、思いやったりすることにつながらないことが、トラブルの原因になる場面もある。自己の生き方についての考えを深めるという視点に対しても、与えられた立場や役割を果たすことに価値を見出す児童が多くみられ、自分たちの力で生活を改善していこうとする姿は少なく感じる。

こうした点から本校の研修テーマと関わらせ、『道徳の授業において、道徳的な事象を自分事としてとらえて話したり、互いの感じ方や考え方をその理由や背景まで考えて交流したりする児童の姿を求め続けることが、互いをより深く理解するとともに、一人一人に多面的・多角的に道徳的事象をとらえる視点を育むことにつながる』と、道徳の授業の方針を考えた。これらを意識した授業を年間を通して実施する中で、児童の道徳性を育んでいこうと考えている。



＜多様な考えを交流する授業＞

## 6 道徳教育における校長の指導の方針 「資料1」

- 道徳の時間を要として、学校教育活動全体を通して道徳教育を推進し、目指す児童像（特に「思いやりのある子ども」）の具現化を図る。
- 児童一人一人が、道徳的課題を自分のこととしてとらえ、「考え、議論する」授業を通して道徳的価値を深めることができるよう、道徳教育推進教師を中心として全職員で現職教育に取り組み、指導力の向上や授業の質的改善を図る。
- 本校の研究実践を家庭・地域に広め、連携・協力しながら、道徳教育の充実を図る。



## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について 「資料2」

- 学校教育目標を受け、本年度の道徳教育の重点目標を設定し、さらにブロックごとの重点目標・指導の重点を明確にしている。
- 各教科・領域との関連を明らかにするとともに、生活面や体験活動との関連も明記している。
- 道徳の授業における指導方針を明確にし、学校教育活動全体を通じた道徳教育の重点を見渡せるようにしている。



<異学年で交流しながら行う活動>

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別業」について 「資料3」

## 9 平成29年度 学級における指導計画について 「資料3」

- 本校の道徳教育全体計画別業は、教職員が共通理解を図り、学校教育全体で重点とする内容項目の指導に当たれるように、本校の重点内容項目についてのみ作成している。
- 表の縦に内容項目、横に時期を明記し、「いつ、どの教科・領域で」行うかを確認できるようにしている。また、単元だけでなく、年間を通して行う活動や時期で継続する活動についても欄を設け、清掃や異学年交流、登校班等の日常生活についても、道徳教育との関連を明記している。
- 学級における指導計画については、特に学年の実態と目指す児童の姿・学級の姿を常に意識できるよう、別業と併せる形で作成し、1年間を見通した別業のよさと意識すべき目指す姿を明記した指導計画を1枚でみられるようにした。

## 10 道徳教育推進教師の実践について

- 道徳教育に関する現状と教科化についての伝達講習の充実
  - ・ 「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会
  - ・ 伊達市教職員研修講座「道徳教育研修」
  - ・ 先進校視察（筑波大学附属小学校・東京学芸大学附属世田谷小学校・郡山市立橋小学校）8月24日には、伝達講習会を開き、研修内容の伝達を行った。先進校視察の内容については、指導者の意図を明確にし、学級において実践をした内容も含めて伝えるようにした。

- 道徳教育通信として、教職員向けに「まいまい通信」を作成・配布内容は、以下のようなものとした。 「資料4」
  - ・ 教科化についての情報（指導要領の改訂や内容項目、評価等）
  - ・ 授業について（道徳の授業の展開、指導案、実践例の紹介等）
  - ・ 道徳教育全体について（全体計画別業の作成等）



<多面的・多角的な思考を促す授業>

- 家庭・地域と連携した道徳教育の展開
  - ・ 5月 保護者向け道徳教育に関するアンケートを実施
  - ・ 7月 土曜授業において全学年道徳授業参観を実施
- 道徳の授業の悩みの共有
  - ・ 7月20日に現職教育全体会において、1学期の道徳の授業の実践から、担任の悩みや困り感を共有するため、KJ法を用いて話し合った。研修を行う際の視点とし、8月24日の伝達講習会を充実する手立てとした。

## ○ 道徳教育講演会の実施

**演題** 「道徳科の実施に向けた授業改善と評価」 帝京大学大学院 教職研究科教授

前 文部科学省教科調査官 赤堀 博行 先生

- 内容
- ・ 道徳の教科化の意義について（量的確保・質的改善、いじめの未然防止 等）
  - ・ 授業における指導観の重要性について（道徳的諸価値の理解・児童の実態・ねらい）
  - ・ 「特別の教科 道徳」における評価の在り方について（道徳性に係る成長の様子・学習状況の評価）

## 11 道徳の時間について 「資料5、6、7」

## 12 成果と課題

### 【道徳の授業研究について】

- 道徳の授業の足跡を残すこと、「第〇回道徳」の掲示を行うことで、児童も指導者も1回1回の授業を大切にしようという思いを強くするとともに、年間35回の授業の完全実施に向けて取り組むことができた。
- 思考ツールを活用し、見えない気持ちを可視化する手法を取り入れた。児童も自分の感じ方との共通点や相違点に気づき、相手の感じ方を聞くことの意識を高めていた。
- 保護者の道徳教育意識アンケートを全体計画に生かしたり、7月の道徳授業参観において、保護者の経験や考えを取り入れて充実させたり、授業で扱った道徳的価値について保護者のメッセージをもらい、次の授業に生かしたりすることができた。本校の道徳教育への取り組みや道徳の授業について、保護者と共通理解を図ることができた。
- 道徳教育の研究において、「多面的・多角的な考え方」に焦点を絞り、そのための手立てとして心情の可視化や体験的な学習過程を取り入れた授業を実践してきた。指導者の立場としても、次年度以降の授業に活用できる手法を蓄積することができた。また、児童も問題場面や登場人物に対して多様な感じ方や考え方を共有する学習に取り組んできたことで、自分以外の感じ方・考え方に気づき、自分に生かそうとする児童が増えてきている。
- 道徳の授業を「好き」「楽しみ」と感じている児童も増えており、児童にとっても互いの感じ方や考え方を知ることの意義を感じていることが伺える。

- 児童に考えさせたい部分に時間を十分に確保するため、補助発問や状況の確認の時間をもっと精選する必要がある。それにより、お互いの思いの深い部分まで交流することが、より多面的・多角的な考え方につながると考える。
- 資料を通して、意図せず自己を見つめる時間をもつことはできているが、道徳的価値の一般化を図る上で、指導者の意図的な「自己を見つめる時間」の設定と充実が必要だと感じた。

### 【道徳教育推進教師の取組】

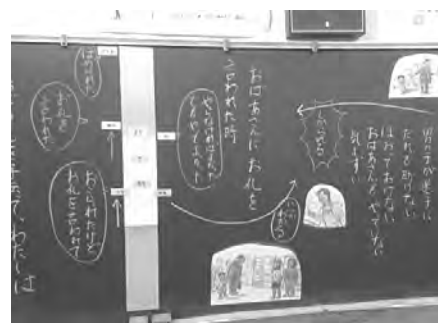
- 道徳教育通信については、不定期ではあったが道徳教育の現状や教科化の意義、先生方の疑問に答えるような内容で発行してきた。内容を精選し、見やすく短時間でも読んでいただけるように作成したことで、学校内で研究内容や授業づくりについて共通理解を図りながら、今年度の研究を進めることができた。
- 自己の実践を踏まえて伝達講習をすることで、先進校の取組のよさや難しさについても考えるよい機会となった。指導の意図は何か、取り入れられるところはどこかと道徳の授業の質的改善につなげる意識を、全教職員でもつことができた。
- 日常的に職員同士が道徳について相談する雰囲気できており、学校全体で道徳の指導力を高めていこうという意識を互いにもつことができた。
- 今年度の道徳教育の校内研究日程について、見通しを共有することが足りていなかった。学校全体で作り上げるためにも、全員が共通理解した上で、互いの考え方を生かした研究にする必要がある。
- 道徳の授業について不安をもっている教員がおり、先進校視察等、他校の授業を見る機会をもっと多くもつことができればよかった。また、互いの授業を見合う機会も多くは設定できなかったため、自由に参観し合う雰囲気づくりも必要だと感じた。

### 【道徳教育講演会の実施】

- 赤堀先生の道徳教育講演会を実施することで、道徳の教科化の意義や求められているもの、育成すべき資質・能力、指導観と評価等について、講演をいただいた。本校職員だけでなく、近隣校にも声をかけ50名ほどの参加者を迎えて実施した。「特別の教科 道徳」の本質やこれからの授業の在り方について、時に俯瞰的に、時に具体的に話していただいたことで今後の見通しをもって授業改善に取り組むことができた。



＜道徳授業の足跡を残す取り組み＞



＜思考ツールを活用した授業の様子＞



＜体験的な学習活動を取り入れた授業＞



基本方針

- ・ 学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえた教育活動の一層の充実を図る。
- ・ めざす児童像や重点目標、実践事項を設定し、創意工夫を生かした教育活動を展開する。
- ・ 児童が放射線についての理解を深め、健康で安全な生活を送ることができるようになる。
- ・ 児童が自ら予測・判断し、危険を回避できるよう防災教育の充実を図る。
- ・ 幼小中連携を意識した教育の充実を図る。

教育目標

おもいやりの心をもち お互いに高め合い たくましく生きる子ども

めざす児童像 (徳)

思いやり、協力し合う子ども

めざす児童像 (知)

よく考え、高め合う子ども

めざす児童像 (体)

健康で、最後までやりぬく子ども

めざす学校像

- ◇ 地域に信頼される学校に
- ◇ 生きる力を育てる学校に
- ◇ 教師が自ら学ぶ学校に
- ◇ 安全・安心な学校に

めざす教師像

- ◇ 情熱をもって子どもと向き合う教師に
- ◇ 向上心を持って取り組む教師に
- ◇ 温かく厳しく育てる教師に
- ◇ 感性豊かな教師に

〔重点目標〕

きまりを守り、思いやりのある行動ができる子どもの育成

- ☆ 日常生活や体験活動との関連を図った道徳の時間の充実
- ☆ 縦割り班活動や様々な人々との交流の充実
- ☆ 基本的な生活習慣や規範意識の育成
- ☆ ボランティア精神の育成

- ◎ 「思いやり・親切、感謝」を重点とし、生活経験を生かしたり、家庭や地域と連携したりして授業を工夫します。  
【道徳・担任】
- 縦割り班活動や様々な人々との交流を通して、温かい人間関係を深めます。  
【児童会・総合・担任】
- ◎ あいさつなどの基本的な生活習慣や規範意識の育成を図り、家庭や地域においても実践できるよう指導を工夫します。  
【総合・道徳・担任】
- 思いやりの心もち、気付き・考え・実践するボランティア精神を育成します。  
【児童会・総合・担任】

互いの考えを伝え合い、確かな学力を身につけることができる子どもの育成

- ☆ 基礎・基本の定着と活用を図る授業の充実
- ☆ 言語活動を重視し思考力・判断力・表現力を育成する授業の工夫
- ☆ 読書活動の充実
- ☆ 家庭学習の充実

〔具体的実践事項〕

- ◎ 個に応じた指導を進め、チャレンジテスト等による基礎・基本の定着や定着確認シート、『学力向上タイム』等による活用力を高める指導を充実します。  
【学力向上・担任】
- ◎ 毎時間のめあての明確化やまとめの時間を確保するとともに、言語活動を重視し、思考力・判断力・表現力を育成する授業を工夫します。  
【現職・担任】
- 表現力の向上を意識した「読書紹介」や「読書プロジェクト」の推進を図るなど、読書活動を充実させます。  
【図書館・教務・担任】
- 授業で学習したことを活用できる家庭学習の取り組み方を指導します。  
【学力向上・担任】

自分の体力・運動能力に関心をもち、進んで運動したり、けがや病気の予防に気をつけたりできる子どもの育成

- ☆ 運動の楽しさを味わうことができる授業の充実
- ☆ 年間を通じた運動の日常化
- ☆ 健康的な生活への意識の高揚、習慣化
- ☆ 食育・性教育等の充実

- ◎ 自己の成長が早える学習カードを活用したり、専門的な外部講師と連携を図ったりすることにより、運動する楽しさを味わわせます。  
【体育・担任】
- ◎ 『運動身体づくりプログラム』を授業の中で必ず取り入れたり、4月から全校生でマラソンに取り組みだりすることにより、年間を通して体力の向上を進めます。  
【体育・担任】
- 各種専門機関や家庭・地域と連携しながら、健康で安全な生活への意識を高めます。  
【保健・生徒指導・担任】
- 養護教諭や外部講師の専門性を生かし、食育や性教育等の授業の充実と、家庭への啓蒙を図ります。  
【保健・学級活動・担任】

評価結果の公表

- ◆ 保護者 ◆ 学校評議員 ◆ 市教育委員会

評価方法

- ◆ 調査 ◆ 保護者・教職員・学校評議員による学校評価 ◆ 児童アンケート調査 ◆ 学力検査の分析 ◆ 人事評価システム

学年（学級）経営・教職員人事評価制度の自己目標

★ 信頼関係を基盤とした学級経営の充実

- ・ 笑顔ある楽しい学級を作ります。
- ・ 子ども一人一人のよさを生かします。

★ 教職員研修の充実

- ・ 共同研究を推進し、授業力の向上を目指します。
- ・ 自分の授業の課題を明確にし、教材研究を充実して、日常の授業改善に努めます。

★ 信頼関係を基盤とした学級経営の充実

- ・ 笑顔ある楽しい学級を作ります。
- ・ 子ども一人一人のよさを生かします。

- ★ 家庭や地域・社会との連携、協力の深化
- ・ 情報や地域の発信と受信に努めます。
- ・ 地域住民との交流活動を推進します。
- ・ 積極的に学校を開放します。

資料1

# 道徳教育全体計画

資料 2









## 第2学年 道徳学習指導案

11月24日（金）5校時

授業者： 鈴木 明恵

場 所： 2年教室

### 授業テーマ

児童が自らの課題を持ち、役割演技を通して、主人公の思いを話し合うことで、主人公の行動の根底にある道徳的価値に迫る授業

1 主題名 友達に親切にできるためには？【B－（6）思いやり，親切】

2 資料名 「ぐみの木と小とり」 文溪堂 「2年生の道徳」

### 3 主題設定の理由

#### （1） ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

本主題は、内容項目「B 主として人とのかかわりに関すること」の「（6）身近にいる人に温かい心で接し，親切にする」ことを扱う主題である。「身近にいる人」とは，家族，家の周りの人々，学校の人々，友達も含み，様々な年齢の人々のことである。集団の中で，よい人間関係を築くには，相手に対して「思いやり」の心を持つことが大切である。「思いやり」とは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。具体的には，相手を励ましたり，援助したり，温かく見守ったりするような親切な行為のことである。そのような親切な行為を自然と行えるようにするには，こういった人々との触れ合いの中で，温かい心で接し，親切にするものの大切さについて考えを深めていけるよう指導することが大切となってくる。このような行為を継続していくためには，身近にいる人々に対して，優しく接することができた結果として，相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるような心を育てることも大切である。

低学年でも2年生の2学期ぐらいになると，友達とのかかわりが広がってくる時期である。学校の集団生活の中で，一番身近な「友達」に対しても，年少者同様，進んで温かい心で接し親切にしようとする態度を育てていきたい。

#### （2） 児童の実態（児童観）

2年生の児童は，自分の事で精一杯になってしまい，周りのことがよく見えてなかったり，友達に目が行き過ぎて，自分の事がなおざりになってしまったり，注意するあまり逆に疎まれてしまったりすることが多い。だからといって，親切な行為が見られないというわけではなく，友達に落としたものを拾ってもらったり，忘れていた当番活動に気づかせてもらったり等，友達に温かく接してもらってうれしいと感じることもある。友達から「親切にされてうれしい」と感じるだけでなく，自分が友達に親切にしてあげることで「親切にできてうれしい」「親切にしてよかった」と感じるような心を育てたいと思い指導してきた。

#### 【道徳】

1学期に同様の価値項目において，上級生に親切にしてもらったときの気持ちを考え，1年生に思いやりのある温かい心で，進んで親切にしようとする態度を育てるために，「どうしたらいいのかな」という資料で親切について考えさせた。1年生が困っている場面で，単に「かわいそう」と思うだけでなく，1年生の立場になって考えることで，人を思いやり，親切にすることは，されるほうだけでなく，するほうも温かい気持ちになり，喜びにつながっていくということを感じさせたところ，生活の中で，1年生だけでなく友達に対しても，進んで親切にしようとする姿が増えてきている。

#### 【生活指導】

「親切にできてうれしい」「親切にしてよかった」と感じるように，友達に助けてもらったなら，感謝の気持ちを持つことができるように指導してきた。「ありがとう」と友達に言えた児童がいたら称賛し，その行為を学級に広げるようにしてきた。

また，帰りの会では友達のよさを発表したり，日常の生活の中で，自分や友達のすてきなところを見つけ，カードに書かせたりして，自分や友達の思いやりや温かい心に気づくことができるように指導してきたところ，友達を励ましたり，援助したりする親切な行為が見られるようになってきている。

### (3) 教材について（教材観）

#### 【資料の概要】

ある日、ぐみの木が小とりに、このごろりすがぐみを食べにこないで心配だと話すと、小とりは、りすにぐみを届けに行く。小とりが様子を見に行くと、りすが病気でねていた。小とりが運んだぐみを食べると、りすは力が出たようだった。それを見た小とりは、また明日と約束をする。次の日は、嵐。嵐の中をりすのところに行こうとしている小とりに、ぐみの木が止めに入る。小とりは、しばらく待ってから、嵐の中をりすのところへぐみを届けに行く。

本資料では、相手の立場に立った励ましや援助が想起できる。また、親切にするときには、相手に対する思いやりが不可欠であり、小とりの行動を通して、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れることが、親切という行為へと結びついていくことに気づくことができるように、活用していきたい。

本時では、導入時に「自分は身近な人に親切にできているか」と問い、理由を尋ね、いろいろな理由を聞かせることで、「親切にするとはどういうことなのか」と課題意識を持たせ、資料を読み、ぐみの木、小とり、りすのそれぞれの思いを読み取らせる。

本時の学習の中心部分としては、嵐の中、ぐみの木に止められたのにもかかわらず、りすにぐみの実を届けに行った場面を中心に考えさせていきたい。まず、ぐみの木に止められて、嵐がおさまるまで待つ小とりの気持ちを、役割演技を通して考えることで、小とりのりすやぐみの木に対する親切な思いを捉えるようにする。その上で、小とりの思いや行動を考えることで「りすを助けてあげたい」「りすの役に立ちたい」「りすに喜んでもらいたい」等の価値の核心となる部分に気づかせていきたい。親切という行為は何かの代償のために行うのではなく、相手に喜んでもらったり、喜んでいて相手を見て嬉しいと感じたりする行為であることを、小とりの行動や気持ちを通して、感じとらせるようにしたいと考える。そして、終末においては、課題や学習を振り返り、親切について自分のこととして、具体的に実践できそうな場面について想像し、道徳的実践意欲を高めていけるようにしたい。

## 4 ねらい

親切について、自ら課題を持って、役割演技を通して考えることで、身近な人々を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする心情を養う。

## 5 テーマに迫るための手立て

手立て① 理由や経験を話したくなり、より深く多様な価値観が表出させるために

- 一人一人が深く考えたくなる、必要感のある「中心発問」の工夫

嵐の中、嵐がおさまるまで待つ小とりの思いを役割演技を通して考えさせる。その後、その思いの根底にある気持ちに気付かせるために「小とりはどのような思いでとんでいったのか」と問うことで、価値に迫れるようにする。

手立て② 資料を離れ、一人一人の主題への考えを問う「振り返りの充実」

- 展開後段における、主題と自分を重ねて考えることができる振り返りの工夫

導入で、「自分は親切にできているか」と自分のこれまでの生活を振り返ることで、自分の課題や目標を持たせる。児童は、課題意識をもって、教材を通して学習を進めていくことができると考える。展開後段では、課題や学習を振り返り、自分の考えをノート（シート）に書くことを通して、相手に喜んでもらったり、喜んでいて相手を見て嬉しいと感じたりする行為であることを味わいながら、「親切」について自分との関わりで考えられるようにする。

6 板書計画

第二十三回 道徳

親切 できている  
できていない

親切にするとは、どういうことかな？

「ぐみの木と小とり」

- ・心配だな
- ・どうしたのかな
- ・困っていないかな
- ・自分が届けにいければいいのに

- ・行くのはこわいな
- ・行きたくないな
- ・いやだな
- ・早く行ってあげなくちゃ
- ・約束したから行かなくちゃ
- ・病気が悪くなっちゃう
- ・困ってしまう

ぐみの木→りす  
小とり →ぐみの木  
りす

思いやり

りすをたすけてあげたい  
りすに親切にしたい  
ぐみの木の役に立ちたい  
みみこんでもらいたい  
よみこんでもらえたらうれしい

とてもうれしい  
小とりさん ありがとう  
ぐみの木さん ありがとう



## 7 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問 ○主な発問 ・予想される反応)	時間	◆ テーマに迫るための手立て ◇ 指導上の留意点 ※ 評価
<p>1 ねらいとする道徳的価値の方向付けをし、課題意識を持たせる。</p> <p>○ 自分は、親切にできているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ できている (鉛筆を貸した。物を拾ってあげた。等)</li> <li>・ できていない (恥ずかしい。勇気が出ない。等)</li> </ul> <p>親切にすると、どういうことかな？</p>	5	<p>◆ 導入で、「自分は親切ができているか」と自分のこれまでの生活を振り返らせ、自分の課題や目標を持たせることで、課題意識をもって、学習を進めていくことができるようにする。(手立て②)</p> <p>◇ 事前に道徳ノートに自分の考えを書かせておくことで、児童の親切についての実態を把握しておくようにする。</p>
<p>2 資料「ぐみの木と小とり」を読んで、話し合う。</p> <p>○ ぐみの木は、どんな気持ちでりすのことを小とりに話したのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心配だ</li> <li>・ どうしたのかな</li> <li>・ 困っていないかな</li> <li>・ 自分が動けばいいのに</li> </ul> <p>○ 嵐の中、ぐみの木に止められ、嵐がおさまるまで待っていた小とりは、どんなことを考えていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵐の中、行くのは怖いな</li> <li>・ 行きたくないな</li> <li>・ いやだな</li> <li>・ 早く行ってあげなくちゃ</li> <li>・ 約束したから行かなくちゃ</li> <li>・ 病気がもっと悪くなってしまうかも</li> <li>・ 届けなかったら、困ってしまう</li> </ul> <p>◎ 嵐の中、りすにぐみの実を届ける小とりは、どんな思いで飛んでいったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ りすを助けてあげたい</li> <li>・ りすに親切にしたい</li> <li>・ ぐみの木の役に立ちたい</li> <li>・ りすやぐみの木に喜んでもらいたい</li> <li>・ 喜んでもらえたら、うれしい</li> </ul> <p>○ 嵐の中を、小とりが届けたぐみの実を見て、りすはどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とてもうれしい</li> <li>・ 小とりさん、ありがとう</li> <li>・ ぐみの木さん、ありがとう</li> </ul>	28 (5)	<p>(5) ◇ 「どうしてそういう気持ちになったのか」と問うことで、ぐみの木のりすへ、小とりのぐみの木やりすへの思いやりに気付かせるようにする。</p> <p>(10) ◆ 嵐がおさまるまで待つ小とりの思いについて役割演技を通して考えることで、小とりの親切な行為の根底にある気持ちに気付かせる。(手立て①)</p> <p>◇ 役割演技(ぐみの木：教師 小とり：児童)では、児童全員に演技させることで、止めるぐみの木に対して、小とりのりすへの思いやる心や小とりの不安を考えさせる。</p> <p>(5) ◆ 役割演技で考えた小とりのりすへの思いをもとに、どうしてそういう思いを持ったのかを話し合わせることで、価値の核心に迫れるようにする。(手立て①)</p> <p>◇ 親切にした「相手が喜ぶ」「相手がうれしい」だけでなく、親切にすると「相手に喜んでもらえるからうれしい」という、小とりの気持ちに共感できるようにする。</p> <p>※ 小とりの気持ちに共感しながら、親切にするよさにも、いろいろな感じ方があることに気づいたか。</p> <p>(3) ◇ りすの小とりの親切に対する感謝の気持ちだけでなく、心配してくれたぐみの木の思いやりにも感謝の気持ちがあることに気付かせるようにする。</p>
<p>3 課題を振り返り、親切について感じたことを考える。</p> <p>○ 小とりのように、相手に親切にしたことはあるか。それはどんなことか。また、どんな気持ちになったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉛筆を拾ってあげたら、「ありがとう」と言ってもらえて、うれしかった。これからも親切にしていきたい。</li> </ul>	10	<p>◆ 課題や学習を振り返り、自分の考えをノート(シート)に書くことを通して、自分との関わりで道徳的価値を捉えられるようにする。(手立て①)</p> <p>◇ 書いたことを発表し合い、親切に対するいろいろな感じ方や考え方を捉えることができるようにする。</p> <p>※ 本時の学びを生かして、相手に親切にしようとする気持ちを高めることができたか。</p>
<p>4 親切な行為をしていた児童についての話を聞く。</p>	2	<p>◇ 親切に関する児童の姿を紹介し、そのよさを伝えることで、進んで親切にしようとする実践意欲を高める。</p>



## 第4学年 道徳学習指導案

11月24日（金）5校時

授業者：黒澤 智恵子

場 所：4年教室

### 授業テーマ

思考ツールを使った話し合いで、多面的・多角的な思考をしながら主人公の心の葛藤を理解し、「本当の友情」について考える授業

1 主題名 信頼のきずな【B 友情・信頼】

2 資料名 「絵はがきと切手」 文溪堂「4年生の道徳」

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

本主題は、内容項目「B 主として人との関わりに関すること」の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」を扱う主題である。友達は家族以外で特に深いかかわりを持つ存在であり、友情は、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、自分が困ったときは、助けてくれたり慰めてくれたりするし、過ちを犯したときは、諭し、励ましてくれる存在でもある。このように、友達とは一生涯にわたって互いに信頼し合いながら、影響し合って、互いを成長させていく存在である。

本当の友達は、互いの考えをはっきりと伝えることができ、そしてそれを素直に受け止められる関係であると考えられる。同時に、相手のわがままや過ちなども温かく受け止められる関係でなくてはならない。そんな良好な友達関係を築くには、相手のことを深く考え、思いやる必要がある。

中学年の時期は「ギャングエイジ」と言われ、気の合う友達と仲間をつくり、楽しいことを一緒に言い、仲良く行動する場面が多く見られる。そして、その中でも気の合う友達とは友情らしいものも芽生え、相手を気遣ったり助け合ったりすることもできるようになってくる。しかし、友達関係が壊れることや友達に嫌われることを恐れて、悪いことだと気がついても注意することをためらってしまう傾向がある。そこで、相手にとって何が良いのかを考え、お互いを理解し、信頼し、高め合っていくことのできる関係の大切さに気付かせていきたい。

#### (2) 児童の実態（児童観）

学級の児童は、明るく活発な児童が多い。休み時間は仲良く遊ぶ姿も見られ、学校生活を楽しく送っている。しかし、友達に強い口調で注意したり、気づいていても注意しないで知らんぷりをしたりしている様子も見られることがある。まだ、本当に友達のためにという思いで行動するまでには至っていないと思われる。

そこで、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うために、以下のような指導を行ってきた。

## 【道徳】

6月に学習した「貝がら」や「こまったプレゼント」(友情・信頼)では、相手の身になって考え、困っているときには互いに助け合うことや、価値葛藤場面で自分ならどうするかを考えながら本当の友達・友情とは何かを考えることを経験してきた。そこでは、多様な考えがあることに気づき、友達についての理解も少しずつ深まってきている。

## 【日常指導】

クラスの中での友達同士の関わりや児童の言動で気になることがあったときはその場で話し合い、みんなで考えるようにしてきた。同時に、友達の良い所にも気づいて帰りの会で発表するなど、成長が感じられるようになってきた。

## 【学校行事など】

音楽祭や運動会、桃花林訪問などクラス全体で協力し合う中でそれぞれ感じたことや学んだことを作文に書くことによって、友達との関わり方に気づかせるようにしてきた。協力し合うことを経験して、自分から周りの友達のことを考えられるようになってきている。

このように、友だちと互いに理解し、信頼し、助け合うことについては、学校生活のあらゆる場において日常的に指導してきた。本当の友情とは、互いの長所を認め合い、欠点を指摘されれば直そうと努力できることである。信頼関係が土台にあれば、自分の考えをはっきりと伝えたり、相手の考えを素直に受け入れたりすることができる。それによって、それぞれが人間性を高めていくことにつながる。本学級の児童において、相手のことを考えてどうすればよいのかを判断する中で、「本当の友達とは」についてさらに深く考える機会をもちたい。

## (3) 教材について (教材観)

本資料は、「未納不足」と書いてある紙が貼ってある大きめの絵はがき(料金不足の定形外郵便)を受け取ったひろ子が主人公である。送り主である友達の正子に忠告すべきかどうか迷いながら「本当の友達とは」を考える姿が描かれている。ひろ子は、母の「お礼だけ言うほうがよい。」という考えと、兄の「教えてあげるべきだ。」という考えの間で揺れ動く。ひろ子は仲の良い正子と過ごした懐かしい日々を思い出し、「友達なら、信頼して正しいことを伝えよう。」という結論を出す内容である。

本時は、ひろ子の心の迷いに注目させ、資料全体に共感させながら友だちを大切にするこの意味に気づかせていきたい。

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことの大切さについて考えさせるために、中心発問では、兄と母の言葉を聞いて料金不足のことを伝えるか伝えないかで迷ってしまうひろ子の心の中を想起させる。児童にひろ子の立場で考えさせ、思考ツールを使ってそれぞれの判断の根拠を発表させることとなるべく多くの意見に触れることができるようにする。しかし、どちらも友達として相手の気持ちや相手のことを考えたものであり、お互いに信頼し合うことや相手のことを考えて行動することが大切であることを感じ取らせていきたい。展開の後段に、「本当の友達」について本時の学習で感じたことや友達に対するこれからの自分について考えさせ、道徳的価値に関して自覚できるようにしていきたい。

#### 4 ねらい

思考ツールを使い、相手のことを考えた行動について対立する考えを出し合い、話し合いながら、友達の気持ちをよく考え、信頼して、よりよい関係を築こうとする心情を育てる。

#### 5 テーマに迫るための手立て

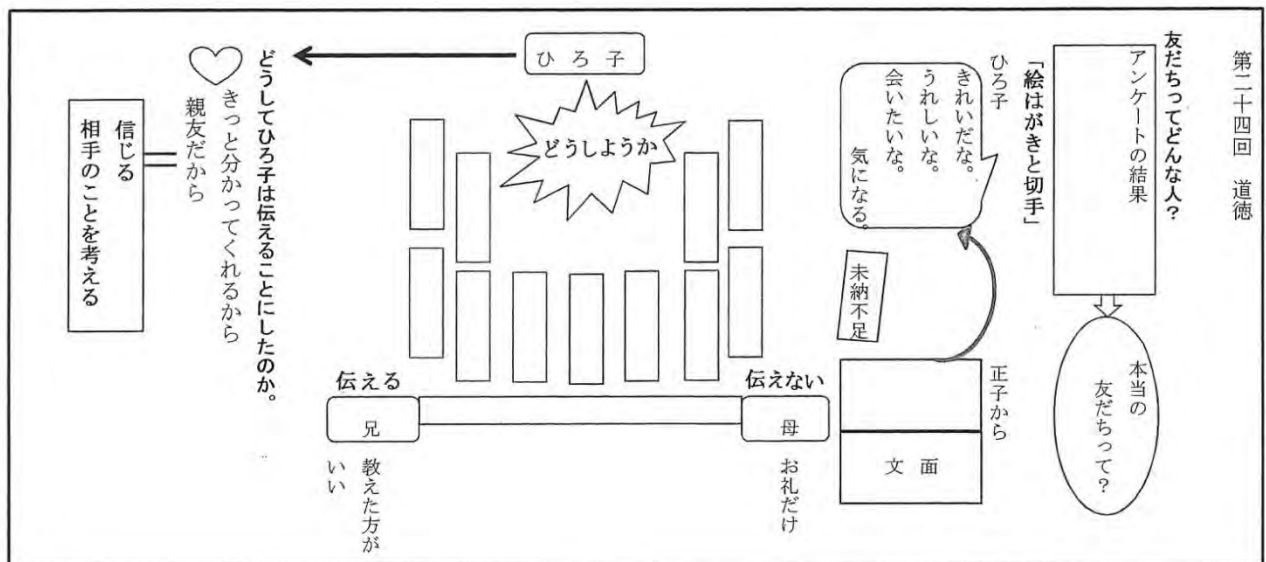
手立て① 理由や経験を話したくなり、より深く多様な価値観が表出する「中心発問」

道徳的事象に関して、多角的な考えをワークシートに書いて発表させ、自分と関わらせながら意思決定をする場を設定する。

手立て② 資料を離れ一人一人の主題への考えを問う「振り返りの充実」

友情・信頼について「本当の友達」になるために大切なことをワークシートにまとめ、考えを表出することで、自分にとっての道徳的価値を見つめられるようにする。

#### 6 板書計画



## 7 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応)	時間	◆テーマに迫るための手だて ◇指導上の留意点 ※評価
1 ねらいとする道徳的価値の方向付けをする。 ○ 友達について考えていることを発表する。 ・本当の友達って、どんな人なのかなあ。	5	◇ 事前にアンケートをとることで、実態を把握するとともに、アンケート結果を知らせ、資料に関心をもたせる。
2 資料「絵はがきと切手」の前半の内容を確認し、話し合う。 ○ 正子から美しい絵はがきが届いたとき、ひろ子はどんな気持ちになったでしょう。 ・美しいけしきだな。 ・なつかしいな。会いたいな。 ・うれしいな。返事を書かなくては。 ・「未納不足」が気になるなあ。 ◎ 兄と母の話を聞いて、ひろ子はどう思ったかを考え、話し合う。 <u>兄（教えた方がいい）→伝える</u> ・友達なら間違っていることは教えてあげた方がいい。 ・他の人に出したら、正子がかわいそう。 ・「友達なのにどうして教えてくれなかったの」と言われるかもしれない。 <u>母（お礼だけ）→伝えない</u> ・友達なら言わない方がよい。 ・せっかく送ってくれたのに相手に悪い。 ・正子さんを傷つけない。 3 資料の後半を読み、話し合う。 ○ どうして、ひろ子はお礼の手紙に料金不足のことを書き足すことにしたのか。 ・正子さんなら、きっと分かってくれたから。	25	◇ 児童にプリントを配布して資料前半の読み聞かせをし、正子に未納不足を伝えるべきかどうか迷うひろ子の気持ちを理解させる。 ◆ 絵はがきをもらったひろ子の、正子に対する思いを十分にとらえさせる。 ◇ 兄と母のそれぞれの考えを、それぞれの立場で考え、ワークシートに書いて発表させて、ひろ子の心の迷いをとらえさせる。 ◆ 自分だったらどちらにするかを決め、思考ツールを使って黒板にネームを貼らせ、理由に着目して話し合わせる。(手立て①) ◇ お互いの考えを比較しながら、兄も母も、ひろ子や正子の立場に立ってアドバイスしてくれていることを理解させる。 ※ 返事を書こうとして、料金不足のことを伝えるか伝えないかで迷っているひろ子の心の中を考えることができたか。 ◇ 資料後半のプリントを配布し、きっと分かってくれると思って手紙を書き始めたひろ子には、正子を信頼する気持ちが根底にあることを確かめる。
4 「本当の友達」について考える。 ○ 今日の学習で感じたことをもとに、「本当の友だち」になるために大切なことは何かを考えましょう。	10	◆ 「本当の友達」について考えたことをワークシートに書いて発表する。(手立て②) ※ 「本当の友達」について感じたことや考えたこと、友だちに対するこれからの自分について考えることができたか。
5 児童の作文を読み、価値の深化を図る。	5	◇ 児童の作文の中から友だちに対する思いやりや信頼について書かれたものを紹介する。

## 第6学年 道徳学習指導案

11月24日(金) 5校時  
授業者：上遠野 直人  
場 所：6年教室

### 授業テーマ

困難を乗り越えた人の気持ちを、心情円盤を使って視覚的に表現し、多様な価値観を伝え合うことにより、困難な状況の中でも、希望をもって前向きに生きていこうとする心情を育てることができる授業

1 主題名 【A－(5) 希望と勇気、努力と強い意志】

2 資料名 「きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～」ふくしま道徳教育資料集

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

本主題は、内容項目「A 主として自分自身に関すること」の「(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」を扱う主題である。「より高い目標を立て」とは、自分の成長のために、高い理想を追い求めることである。しかし、目標が高いために、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果がでなかったりして、夢と現実との違いを意識することになる。このような困難な場面においても、高い目標の達成を目指して、夢や希望、ものおじせずに立ち向かう勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。

#### (2) 児童の実態（児童観）

より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く態度を育てるために、以下のような指導を行ってきた。

##### 【社会科】

「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、地域に残る学童疎開中の子どもの日記や、戦争当時の食糧難の様子をインタビューした記述、当時の小学生の作文などの資料を活用しながら、学習を行ってきた。このような学習を通して、児童は、戦争という困難な状況の中でも、当時の人々が、家族の命を守ることを目指し、あきらめずに生き抜いた姿に感動する児童が多かった。

##### 【特別活動】

水泳記録会や陸上記録会、学習発表会などの行事では、それぞれの行事でリーダーを決め、自分たちで目標を立てたり、練習計画を考えたりしながら、互いに励まし合って、目標が達成できるように努力する姿が見られた。

このように、自分たちで目標を立て、最後まで努力して物事をやり抜くことについては、各教科や特別活動、日常生活において繰り返し指導してきた。それにより、「集団として、目標に向かって努力する」ことの大切さについては、経験することができている。しかし、一人一人の行動を見た場合には、目標を低く設定したり、自分で考えずに友達の判断を待っていたりなど、主体的に困難を乗り越えようとする点には、まだ課題が見られる。来年から中学生になり、自分の目標に向かって努力しなければならない場面が増える本学級の児童にとっては、困難な場面であっても、あきらめず自分の意志で物事をやり抜く態度を育てていく必要がある。

### (3) 教材について (教材観)

本資料の概要は、次のとおりである。東日本大震災により、アクアマリンふくしまは、施設の破損や物資の不足が発生し、大切な生き物たちが次々に命を落としていった。さらに、原発事故により、見えない放射線との戦いも始まった。しかし、このような困難な状況においても、飼育職員である津崎さんたちは、生きている動物の保護を他の水族館にお願いしたり、施設の整備を進めたりしながら、復興に向けて努力を続けるという内容である。

本時は、津崎さんたちの東日本震災が起きて、施設が崩壊し、原発事故が起きたときの気持ちについて考えさせていく。さらに、困難な状況の中で、不安を感じながらも、希望をもって努力し続けた津崎さんたちの姿から、あきらめないで物事をやり抜く大切さについて考えさせるために、「なぜ津崎さんは不安があってもあきらめなかったのか？」という中心発問をする。この中心発問により、津崎さんたちが、もう一度水族館に来る人の笑顔が見たいという夢や、生き物の命を守るという責任感をもち、最後まで自分の意志を貫いた、津崎さんの生き方の素晴らしさに気付かせたい。

## 4 ねらい

震災を乗り越え、水族館の再開まで努力し続けた飼育委員さんの気持ちを、心情円盤を使って視覚的に表現し、児童相互の多様な価値観を伝え合うことにより、困難な状況の中でも、希望をもって前向きに生きていこうとする心情を育てる。

## 5 テーマに迫るための手立て

手立て① 理由や経験を話したくなり、より深く多様な価値観が表出する「中心発問」

「なぜ津崎さんは、不安があってもあきらめなかったのか？」と発問することにより、生命の尊重や、自分の行動に責任をもつこと、希望をもって生きることなど、津崎さんの生き方について、多面的に価値付けできるようにする。

手立て② 資料を離れ一人一人の主題への考えを問う「振り返りの充実」

「自分にとって希望をもって生きるとは？」と「自分にとって」という言葉を板書し、「津崎さんの生き方から考えたこと」と発問することにより、本時の学習内容や、今までの自分の考え方などを振り返りながら、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。

## 6 板書計画 (別紙参照)



## 7 学習過程

学習活動・内容 (○主な発問 ◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	◆テーマに迫るための手立て ◇指導上の留意点 ※評価
<p>1 アンケート（希望をもって生きるとは？）の結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あきらめずに物事に取り組むこと。</li> <li>・ 目標に向かってがんばること。</li> <li>・ 夢やあこがれをもちながら生きること。</li> <li>・ 自分を信じて生きること。</li> <li>・ たくましく生きること。</li> </ul>	5	<p>◇ アンケートの結果を確認することにより、「希望をもって生きる」という言葉に対する児童相互のイメージを共有できるようにする。</p>
<p>2 資料「きぼうの水族館」を読み、津崎さんの気持ちについて想像し、話し合う。</p> <p>○ 津崎さんのすごいところはどこだと思いましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災や原発事故があったのにあきらめなかったところ。</li> <li>・ 生き物の命を守ったところ。</li> <li>・ みんなに協力をお願いしたところ。</li> </ul> <p>○ 原発事故が起きたばかりの津崎さんは、どのような気持ちだったと思いますか？</p> <p>&lt;不安な気持ちの理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命が助けられないかも。</li> <li>・ 施設も使えないかも。</li> <li>・ だれも助けてもらえないかも。</li> <li>・ 自分の命もあぶない。</li> </ul> <p>&lt;希望の理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちがやるしかない。</li> <li>・ 命を救いたい。</li> <li>・ あきらめない。</li> </ul> <p>◎ なぜ津崎さんは、不安があってもあきらめなかったのですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の水族館も助けてくれたから。</li> <li>・ 励ましの手紙ももらったから。</li> <li>・ 生き物の命を助けたいから。</li> <li>・ 自分の好きな仕事だから。</li> <li>・ 自分の夢だから。</li> <li>・ 自分の仕事に責任を感じていたから。</li> </ul>	5  10  15	<p>◇ 「津崎さんのすごいところはどこだと思いましたか？」と発問することにより、資料の内容を確認しながら、震災や原発事故などの大変な時期を乗り越えた津崎さんの行動に着目できるようにする。</p> <p>◇ 津崎さんのすごいと思ったところに線を引ながら読ませることにより、話し合いの準備ができるようにする。</p> <p>◇ 津崎さんの気持ちを、児童一人一人が心情円盤を使って表現し、ワークシートに理由を書くことにより、不安と希望の両面から津崎さんの気持ちを想像し、互いの考えを伝えやすくする。</p> <p>◇ 学級全体での発表の前に、ペアで伝え合うことにより、自分の考えを整理し、安心して話し合いに参加できるようにする。</p> <p>◇ 震災に関する児童のアンケート結果から、震災当時の大変な状況を思い出させ、津崎さんの不安な気持ちに共感できるようにする。</p> <p>◆ 「なぜ津崎さんは、不安があってもあきらめなかったのか？」と発問することにより、生命の尊重や、自分の行動に責任をもつこと、希望をもって生きることなど、津崎さんの生き方について、多面的に価値付けできるようにする。 (手立て①)</p>
<p>3 今日の授業を振り返る。</p> <p>○ 今日は、「希望をもって生きるとは？」について考えてきました。津崎さんの生き方から皆さん一人一人が考えたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 希望をもっていきるとは、不安な気持ちがあっても、困難なことが起きても、あきらめず、自分の夢に向かって努力することだと思いました。私も津崎さんのように夢に向かってがんばりたいです。</li> </ul>	10	<p>◆ 「自分にとって希望をもって生きるとは？」と「自分にとって」という言葉を板書し、「津崎さんの生き方から考えたこと」と発問することにより、本時の学習内容や、今までの自分の考え方などを振り返りながら、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。 (手立て②)</p> <p>※ 不安を抱えたり、困難なことが起きたりしても、前向きに希望をもって生きることを自分のこととして考えることができたか。</p>

6 板書計画

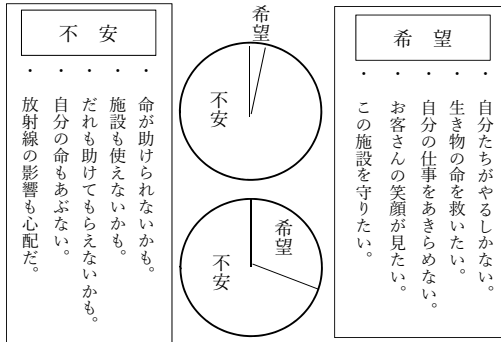
第23回 道徳 きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～

希望をもって生きるとは？

- ・がんばること
- ・あきらめないこと
- ・前向きに取り組むこと
- ・努力すること
- ・目標をもつこと
- ・夢をもつこと



なぜ津崎さんは、不安があったのにあきらめなかったのか？



自分にとって希望をもって生きるとは？

- ・不安を乗り越えてがんばること。
- ・自分を信じてあきらめないこと。
- ・周りの人を信じて前向きに取り組むこと。
- ・自分の仕事に責任をもち努力すること



あきらめる



津崎 順さん

- ・生き物の命を救いたいから。
- ・自分の仕事だから。
- ・お客さんが喜ぶ顔を見たいから。
- ・他の水族館の協力があったから。
- ・励ましの手紙をもらえたから。



**【県中地区】 福島県立小野高等学校**



# 道徳教育推進校《実施報告書》

## 1 学校紹介

学校名	福島県立小野高等学校																																																														
所在地	福島県田村郡小野町大字小野新町字宿ノ後63番地																																																														
校長名	渡邊 学																																																														
学校の教育目標	<p>[校訓] 質実剛健 明朗闊達</p> <p>[スローガン] 夢をカタチに</p> <p>[教育目標]</p> <p>①学力の育成 ②学び続ける力の育成 ③豊かな心の育成 ④人間力の育成</p> <p>[教育方針]</p> <p>①総合学科の特色である多様な選択制と少人数構成の授業により、きめ細かな指導を展開し、基礎学力の定着と系列の専門性を高める。</p> <p>②各種行事やボランティア活動・体験活動などを通し、協調性や思いやりの心を育み、何事にも主体的に取り組むことができる生徒を育てる。</p> <p>③地域に根ざした教育活動を実践し、積極的に情報を提供し、開かれた学校づくりを実践する。</p>																																																														
学級及び生徒数	<p>総合学科9学級307名（男子194名・女子113名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">1年</th> <th colspan="3">2年</th> <th colspan="3">3年</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1組</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>27</td> <td>13</td> <td>40</td> <td>22</td> <td>13</td> <td>35</td> <td rowspan="4">合計</td> </tr> <tr> <td>2組</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>35</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>3組</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>13</td> <td>38</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>53</td> <td>37</td> <td>90</td> <td>76</td> <td>37</td> <td>113</td> <td>65</td> <td>39</td> <td>104</td> <td>307</td> </tr> </tbody> </table>		1年			2年			3年			合計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	1組	18	12	30	27	13	40	22	13	35	合計	2組	17	13	30	24	11	35	22	14	36	3組	18	12	30	25	13	38	21	12	33	計	53	37	90	76	37	113	65	39	104	307
	1年			2年			3年			合計																																																					
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計																																																						
1組	18	12	30	27	13	40	22	13	35	合計																																																					
2組	17	13	30	24	11	35	22	14	36																																																						
3組	18	12	30	25	13	38	21	12	33																																																						
計	53	37	90	76	37	113	65	39	104		307																																																				
道徳教育にかかる取組の概要	<p>①学校としての指導の重点や方針を明確にした全体計画を作成する。</p> <p>②小・中学校における道徳教育を踏まえ、各教科・科目等の特質に応じた人間としての在り方生き方に関する指導の計画や方法を工夫する。</p> <p>③人間としての在り方生き方の教育の観点から、中核的な指導場面となる「ホームルーム活動」「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」などについて内容の改善を図る。</p>																																																														

## 2 研究テーマ

教育活動全体を通じた道徳教育によって、いかに生徒の内面を成長させることができるか

～生徒の自主性・主体性とコミュニケーション力を育む取組～

### 3 テーマ設定の理由

本校の生徒は、基本的な生活習慣である身だしなみや挨拶等の「型」はできているが、心や内面の成長については物足りないというのが、教職員の思いである。近年、特に、自己肯定感の低さから来る自主性・主体性の低さ、また、コミュニケーション力不足で、人間関係の構築がうまくできない生徒も少なくない。本校の学校経営・運営ビジョンの重点目標の一つである「豊かな心の育成」を踏まえて、あらゆる教育活動の場面で生徒の内面の成長を図りたいと考え、上記のテーマを設定した。

### 4 研究計画

- (1) 教科、ホームルーム活動、学校行事、部活動等、学校教育全体を通しての取組
- (2) ゲストティーチャーを活用しての講話による生徒への啓発と教職員への研修
- (3) 「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業の実践

月	道徳教育に関する主な行事
4月	24日 福島県地域安全標語コンクール全校生徒応募
5月	31日 道徳教育推進協議会（福島市）【校長】
6月	28～29日 福島大学附属中学校道徳教育研究公開【高山・和田】
7月	3～5日 田村市立船引中学校道徳授業公開【校長・平野】 11日 性に関する講演会（講師：桜井産婦人科医院 桜井秀氏） 20日 薬物乱用防止講話（講師：田村警察署小野分庁舎生活安全課 内藤奈津美氏） 20日 AED・エピペン講習会 21日 道徳教育推進実施計画書提出
8月	5～6日 沖縄県立八重山農林高等学校との交流事業（小野高校・小野町・いわき市） 28～30日 北海道・東北ブロック道徳教育指導者養成研修（盛岡市）【坂本】 31日 福島県教育センター「道徳の授業づくり講座」【志賀光】
9月	1日 福島県教育センター「道徳の授業づくり講座」【志賀光】 6日 道徳教育総合支援事業「モラル・エッセイ」コンテスト全校生徒応募
10月	2日 GT講演会（情報モラル）（講師：元東京女子体育大学准教授 榎本竜二氏） 18～21日 沖縄県立八重山農林高等学校との交流事業（沖縄県石垣市・八重山農林高校）
11月	2日 道徳教育地区別推進協議会及び道徳教育推進校研究公開（会場：小野高等学校） （午前）実践発表・・・岩江中学校・小野高等学校 校内研修・・・伝達講習 等 （午後）公開授業・・・3学級（予定） 事後研究会 講演会・・・（講師：福島大学総合研究センター特任教授 丹野学氏）
12月	上旬 GT講演会
1月	下旬 道徳教育推進実施報告書提出
2月	14日 道徳教育推進協議会（福島市）
3月	中旬 校内研修一年間の道徳教育の振り返り

## 5 生徒の実態及び地域の課題

### (1) 生徒の実態

地元の小野町や近隣の田村市・平田村出身の生徒がほとんどを占める、地域に根ざした学校である。素朴な生徒が多く、教師の話を素直に聞き入れるため、身だしなみや挨拶、清掃への取組等、指導の成果が表れている。反面、自らの考えで行動することに自信が持てず、いわゆる「指示待ち」の生徒が多い。また、コミュニケーション力が不足していることから、人間関係を構築する力も個人差が大きい。

### (2) 地域の課題

小野町唯一の高校であるため、保護者や町民に同窓生が多く、また、小野町と共に取り組んでいる六次化商品開発や沖縄県立八重山農林高校との交流事業もあり、本校の教育活動への地域の理解が深く、協力的である。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針（資料1）

教育活動全体を通じて、協調性や思いやりの心を育み、何事にも主体的に取り組むことができる生徒を育てる。各家庭や地域との連携を深め、望ましい職業観や社会性を身に付けさせ、社会に有為な人材を育てる。

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

本校の教育目標と道徳教育の重点目標を踏まえ、「ホームルーム活動」、「産業社会と人間」、「総合的学習の時間」、「各教科」等の学校教育全体を通して、道徳教育を実践することに配慮している。

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別業」について（資料3）

道徳教育に関わる各部の計画を、月別に一覧できるものを作成した。

## 9 平成29年度 学級における指導計画について（資料4）

各学級のLHR年間計画に、道徳教育の目標が達成できるようなテーマを設定するように配慮している。

## 10 道徳教育推進の取組・実践について（資料5）

### (1) 学校の教育活動全体を通じての取組

#### ① 基本的な生活習慣の定着を目指す指導

##### ア 登校指導（資料5-1）

・年間を通して全教員（輪番制）で実施している。生徒に「あいさつをすること」「身だしなみを整えること」「時間を遵守すること」を定着させた。

##### イ 清掃指導（資料5-2）

・毎日の清掃において、床の雑巾がけまで丁寧に実施している。生徒に、環境を整えることの重要性に気づかせることができている。

#### ② 道徳教育の視点を取り入れた授業の展開

努力・活躍の場を与える工夫と何事も最後までやりきらせる指導による自己肯定感の涵養

##### ア 文理総合系列（資料5-3）

- ・グループ活動や発表・討論を多く取り入れ、生徒に主体的に言語活動に取り組ませることで、生徒の自主性やコミュニケーション力を高めることができた。

イ ビジネス系列（資料5—4）

- ・生徒自らが設定した目標である各種検定試験の合格を目指し、放課後の課外授業や補習を含めた取組を通して、生徒に最後までやり抜く強い意志を持たせることができた。

ウ 福祉教養系列（資料5—5・6）

- ・小野町内の保育園や介護施設での実習を多く取り入れることで、生徒のコミュニケーション力や他に対する思いやりの心を高めることができた。

エ 産業技術系列（資料5—7・8・9）

- ・シクラメン販売等の各種実習に加えて、小野町立飯豊小学校や県立たむら支援学校の児童・生徒との交流を通して、生徒の自主性やコミュニケーション力を高めることができた。

③道徳教育の視点を意識した学校行事の展開

ア 校歌指導（資料5—10）

- ・4月に3回にわたって新入生に対して在校生が校歌・応援歌の指導を行った。最後に全校生で高らかに校歌を歌い上げることで、愛校心を高めることができた。

イ クリーン活動（資料5—11）

- ・月に一度放課後に、各クラスが輪番制で町内の通学路を中心に清掃活動を行った。地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を高めることができた。

ウ 漢字力テスト（資料5—12）

- ・全校生対象の漢字力テストを年に7回実施した。事前の学習が成果に結びつくことで、生徒は基礎学力の向上とともに達成感や自己肯定感を高めることができた。

エ 性に関する講演会（資料5—13）

オ 薬物乱用防止講話（資料5—14）

カ AED・エピペン講習会（資料5—15）

- ・各種講演会等を通して、生徒は異性についての正しい理解を深め、かけがえのない自他の生命を尊重する心を養うことができた。

④地域を越えた生徒交流活動の展開（資料5—16・17・18・19・20）

○ 沖縄県立八重山農林高等学校との交流事業

- ・8月5日～6日に八重山農林高校生30名が来校。全校生で迎え、交流会を実施した。
- ・10月18日～21日、本校生10名が石垣島にある八重山農林高校を訪問した。授業体験や販売実習等の交流を行った。
- ・生徒はそれぞれの個性や立場を尊重し、多様な価値観や考え方があることを理解した。

⑤人間教育を心掛けた部活動（資料5—21・22・23）

(2) ゲストティーチャーを活用しての講話による生徒への啓発と教職員への研修

○ 講演「ネット社会の歩き方」

- ・日時：平成29年10月2日（月） ・講師：聖心女子大学 榎本竜二氏

- ・内容：現代の情報化社会における身近な例を題材として、生徒の情報モラルを向上させる。

### (3) 教員の道徳教育指導力向上を目指す取組

#### ①福島大学附属中学校公開授業・「学習指導法研究会」(6/28～6/29)

- ・道徳(3年3組) ・主題：「多様な価値観を認め合う」

#### ②北海道・東北ブロック道徳教育指導者養成研修(8/28～8/30、岩手県盛岡市)

- ・行政説明：「道徳教育の充実に向けて」 ・講義1：「今求められる道徳教育」
- ・演習1：「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」
- ・事例発表1：「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践」
- ・講義2：「高等学校における道徳教育の在り方」 ・事例発表2：「道徳教育の実践例」
- ・演習2：「高等学校における道徳教育の全体計画の作成・展開例の検討」
- ・講義3：「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 ・演習3：「効果的な校内研修プランの作成」
- ・講義4：「道徳教育の充実を図るリーダーとして」

#### ③福島県教育センター「特別の教科 道徳」の授業づくり講座(8/31～9/1)

- ・講義1「道徳教育の推進と課題」 ・演習1「道徳教育の意義と授業の構想について」
- ・講義2「これからの道徳科授業の進め方」
- ・事例発表1「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践」
- ・演習2「読み物資料を活用した道徳科の授業構想」

### 1.1 道徳の授業について—「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業の実践(道徳学習指導案①～③)

#### ○道徳教育地区別推進協議会(県中地区)での研究授業及び研究協議の実施

- ・日時：平成29年11月2日(木) ・会場：福島県立小野高等学校
- ・参加者：県中地区の小・中・高・特別支援学校の道徳教育の推進を担当する教員
- ・研究授業

①道徳(1年1組) 主題：「自己理解・自己変革」 資料：「道標」(ふくしま道徳教育資料第Ⅱ集)

②道徳(2年1組) 主題：「かけがえのない命」 資料：「長崎からの手紙」(同 第Ⅰ集)

③道徳(3年3組) 主題：「他者との平和的な共存」 資料：「それでも僕は桃を買う」(同 第Ⅲ集)

### 1.2 成果と課題

#### (1) 成果

- 各教科の授業の視点として「道徳教育に関する指導の充実」を取り入れて道徳教育を推進することで、生徒の道徳性(特に、自主性・主体性・コミュニケーション力)を高めることができた。
- 学校生活や特色ある様々な取組を通して道徳教育を展開したことにより、生徒の「豊かな心を育む」という教員の意識高揚を図ることができた。
- 日頃、道徳教育の授業が設定されていない県立高校の教員にとって、道徳教育地区別推進協議会での小中学校の先生方からの感想や助言は、非常に有意義で勉強になった。

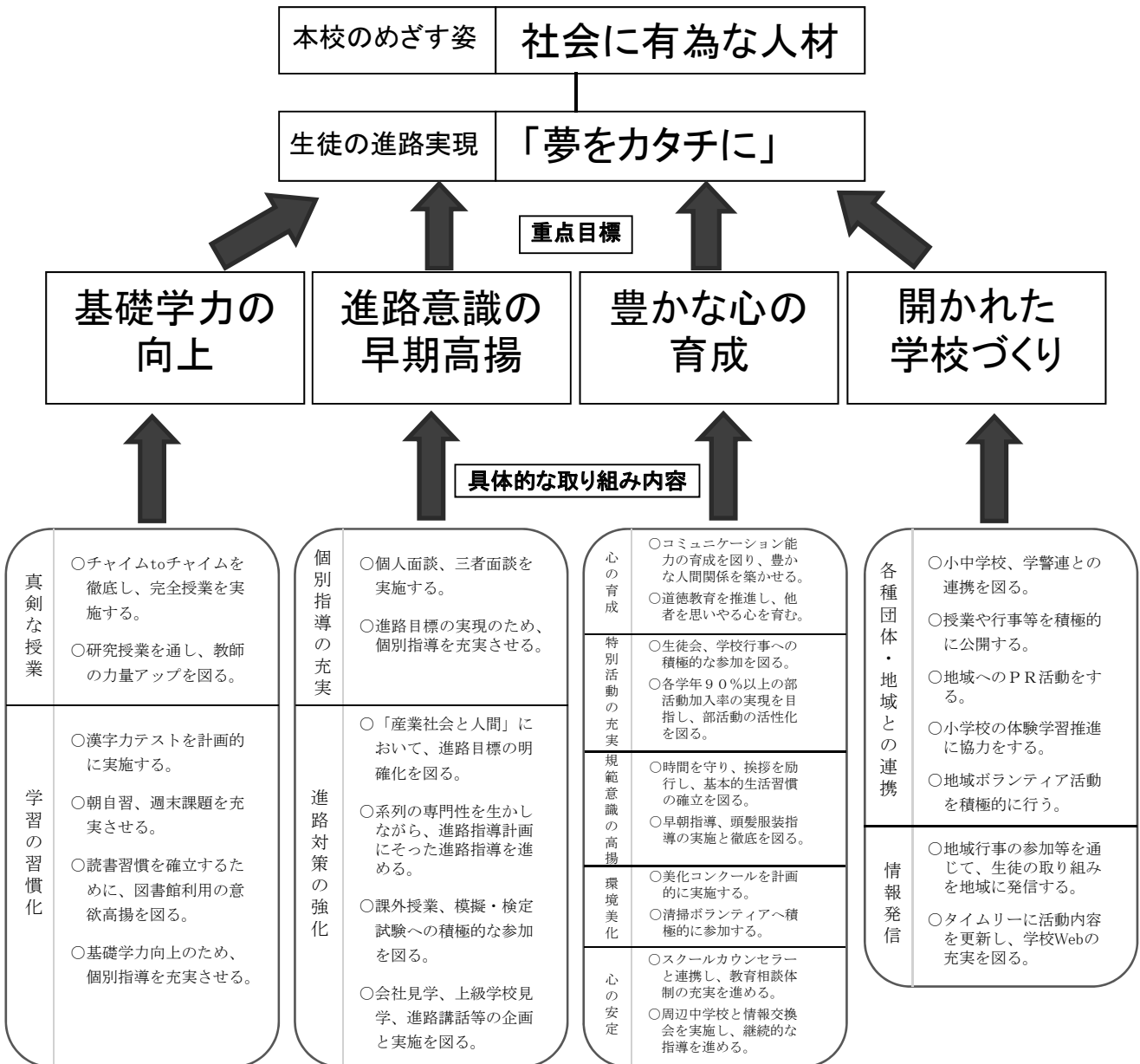
#### (2) 課題

- より良い「道徳教育の全体計画」を作成し、今年度取り組んだ道徳教育を発展的に継続させる。
- 家庭や地域と道徳教育に関する共通理解を図り、より効果的な取組を模索する。

# 福島県立小野高等学校 平成29年度 学校経営・運営ビジョン

## 【校訓】 質実剛健 ・ 明朗闊達

<p>－ 教育目標 －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学力の育成</li> <li>② 学び続ける力の育成</li> <li>③ 豊かな心の育成</li> <li>④ 人間力の育成</li> </ol>	<p>－ 本校の教育方針 －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 総合学科の特色である多様な選択制と少人数構成の授業により、きめ細かな指導を展開し、基礎学力の定着と系列の専門性を高めます。</li> <li>2 各種行事やボランティア活動・体験活動などを通し、協調性や思いやりの心を育み、何事にも主体的に取り組むことができる生徒を育てます。</li> <li>3 地域に根ざした教育活動を実践し、積極的に情報を提供し、開かれた学校づくりを実践します。</li> </ol>
---	---

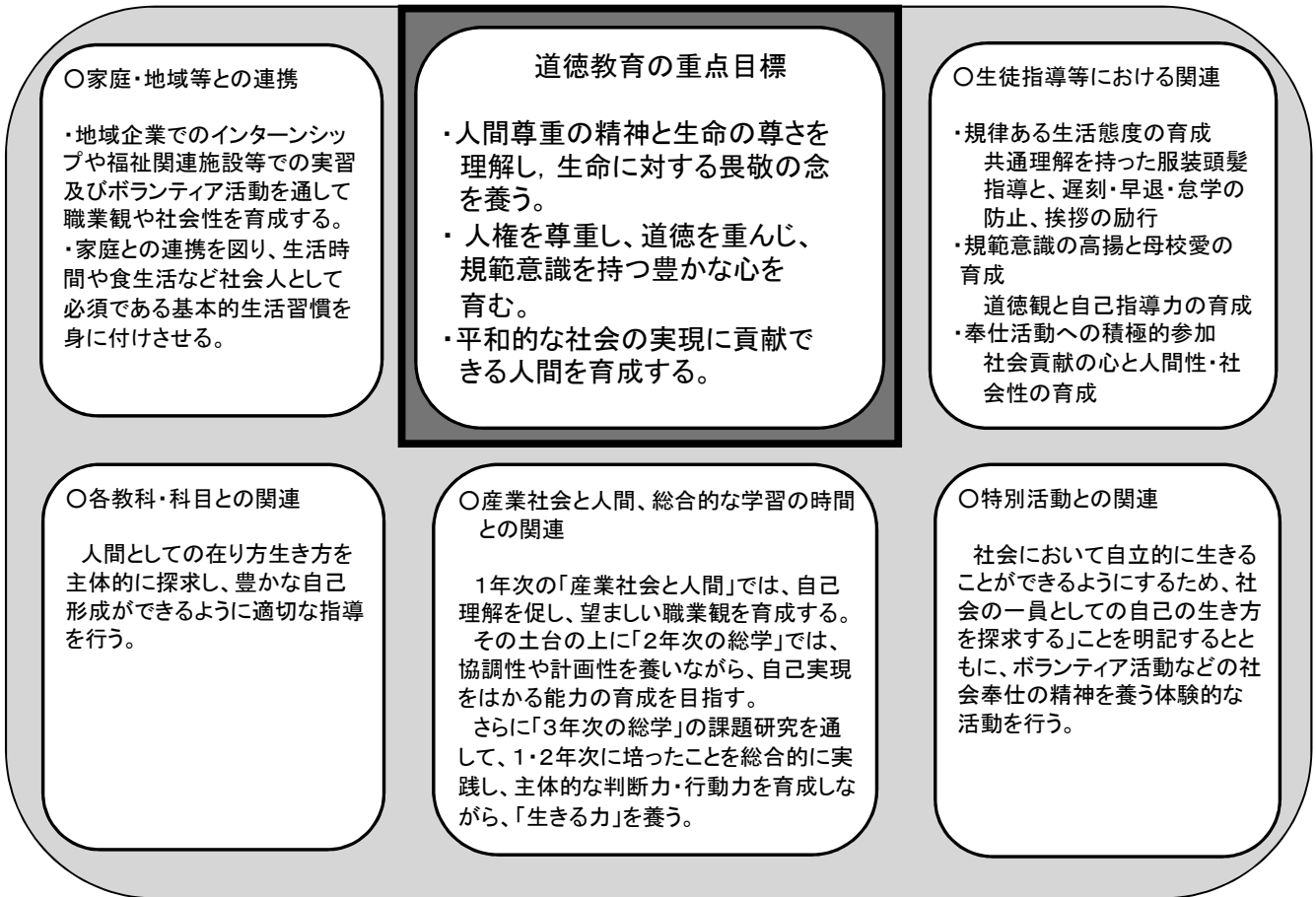
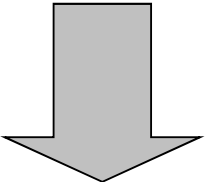
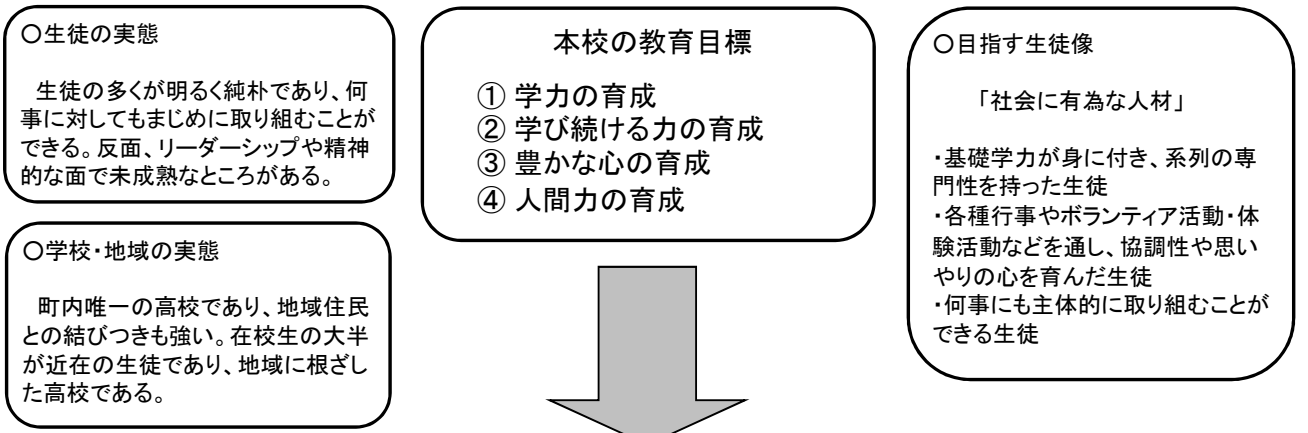




# 平成29年度 道徳教育の全体計画

資料2

福島県立小野高等学校 全日制の課程 総合学科



※ 校内での道徳教育の推進体制

本校では、道徳教育の基本計画について、生徒指導部が中心となり教育課程委員会並びに各教科と協議しながら、全体計画の立案策定を行い、道徳教育の推進を図る。また、道徳教育推進校として組織的な取り組みを推進し、道徳教育の一層の充実を図る。

- 校内研修の実施
- 外部講師による講演会
- 地区別推進協議会の開催
- 先進校の研究授業への参加
- 福島県教育センター専門研修への参加



## 平成29年度 道徳教育に関する各部の取組

資料3

月	教務部	生徒指導部	進路指導部	厚生部	図書部
4	・全校集会での話	・登校指導(毎朝・通年) ・SCカウンセリング(通年) ・全校集会での話 ・服装頭髪検査 ・生活指導ガイダンス(1年)	・全校集会での話 ・進路希望調査(2・3年) ・進路ガイダンス	・ゴミの分別指導(通年) ・エコキャップ収集(通年)	・図書室利用ガイダンス
5	・漢字カテスト ・担任による面接週間	・服装頭髪検査 ・町内クリーン作戦	・進路希望調査(1年)		
6	・漢字カテスト	・挨拶身だしなみ運動 ・町内クリーン作戦	・進路ガイダンス		
7	・漢字カテスト	・服装頭髪検査 ・町内クリーン作戦 ・薬物乱用防止講話 ・校内球技大会 ・全校集会での話		・校内美化コンクール ・性に関する講演会	・夏季休業中長期貸し出し
8	・全校集会での話 ・八重山農林高校との交流	・全校集会での話 ・服装頭髪検査	・全校集会での話 ・進路希望調査(1・2年)		・夏季休業中長期貸し出し
9	・漢字カテスト	・登校指導(毎朝) ・町内クリーン作戦			
10	・八重山農林高校との交流 ・漢字カテスト	・挨拶身だしなみ運動 ・服装頭髪検査 ・町内クリーン作戦 ・薬物乱用防止講話 ・校内体育祭			・芸術鑑賞教室
11	・漢字カテスト	・町内クリーン作戦	・職場体験学習(1年)		
12	・漢字カテスト	・全校集会での話 ・服装頭髪検査	・インターンシップ(2年)	・校内美化コンクール	・冬季休業中長期貸し出し
1	・全校集会での話	・全校集会での話 ・服装頭髪検査	・全校集会での話 ・進路希望調査(1・2年)		・冬季休業中長期貸し出し
2		・服装頭髪検査			
3		・全校集会での話			・春季休業中長期貸し出し

平成29年度 学級における指導計画(ホームルーム活動) 資料4

月	1学年	2学年	3学年
4	①HR役員編成 (集団の一員としての自覚を持つ) ②生活指導ガイダンス (小野高生としての心構えと自覚を持つ) ③校歌応援歌指導 (校歌を歌い、母校愛を持つ)	①HR役員編成 (集団の一員としての自覚を持つ) ②今年度の誓い (目標を立て、自らがすべきことを捉える) ③学年の絆 (校歌を歌い、集団帰属意識を高める)	①HR役員編成 (集団の一員としての自覚を持つ) ②今年度の誓い (目標を立て、自らがすべきことを捉える) ③クレペリン検査 (適性検査を通し、進路意識を高める)
5	①入学後1ヶ月が過ぎて (この1ヶ月を振り返り、反省を生かす) ②初めての考査に向けて (前期中間考査に向けて意識を高める) ③いじめについて考える (事例を元に、他者を思いやる心を持つ)	①ケーススタディ (学校生活でのトラブル事例から考える) ②前期中間考査に向けて (時間割確認・学習計画表の作成をする) ③地域理解 (小野町の将来の姿を考えてみる)	①小野高校を考える (学校の改善点を話し合い、問題提起する) ②前期中間考査に向けて (時間割確認・学習計画表の作成をする) ③進路ガイダンス (進路決定の一助とし、今後を確認する)
6	①先輩に学ぶ (3年生の話聞き、自らを振り返る) ②科目選択について (将来を考え、適切な科目を選択する) ③球技大会にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する)	①先輩に学ぶ (3年生の話聞き、自らを振り返る) ②科目選択について (将来を考え、適切な科目を選択する) ③球技大会にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する)	①選挙に行こう (主権者教育を通し社会への関心を持つ) ②進路ガイダンス (提出書類等の注意点を理解する) ③球技大会にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する)
7	①球技大会にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める) ②夏休みの計画を立てる (実り多き期間にするための準備をする) ③学年集会 (7月までの振り返り・夏休みの過ごし方)	①球技大会にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める) ②夏休みの計画を立てる (実り多き期間にするための準備をする) ③学年集会 (7月までの振り返り・夏休みの過ごし方)	①球技大会にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める) ②夏休みの計画を立てる (実り多き期間にするための準備をする) ③学年集会 (7月までの振り返り・夏休みの過ごし方)
8	①夏休みを振り返る (反省をして、今後の生活を考える)	①夏休みを振り返る (反省をして、今後の生活を考える)	①模擬面接 (進学就職の面接試験にむけて準備する)
9	①男女交際を考える (講話を振り返り、異性への尊重心を持つ) ②QUテスト (自分の状態を客観的に把握する) ③上級学校見学会事後指導 (お互いに感想を話し合い、意識を高める)	①男女交際を考える (講話を振り返り、異性への尊重心を持つ) ②なぜ人は働かなければならないのか (1年後にむけて、勤労観を高める) ③修学旅行にむけて (意義を知り、クラスの団結を深める)	①男女交際を考える (講話を振り返り、異性への尊重心を持つ) ②学年集会 (就職・進学試験にむけて出陣式を行う) ③就職試験の意見交換 (互いに感想や反省点を出しあう)
10	①健康について (講話を元に薬物の恐ろしさを再確認する) ②体育祭にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する) ③体育祭にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める)	①修学旅行にむけて (行動班や部屋割りを話し合って決める) ②体育祭にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する) ③体育祭にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める)	①自動車運転するという事 (運転免許を取得する責任を理解する) ②体育祭にむけて (話し合い、目標・メンバーを決定する) ③体育祭にむけて (学年で練習をし、クラスの団結を深める)
11	①人としての生き方なり方を考える (研究授業:県道徳教育教材を活用する) ②職場体験事後指導 (お互いに感想を話し合い、意識を高める) ③情報モラルを考える (講話から真のコミュニケーションを考える)	①人としての生き方なり方を考える (研究授業:県道徳教育教材を活用する) ②修学旅行を振り返る (思い出を元に民泊先へ感謝の手紙を書く) ③情報モラルを考える (講話から真のコミュニケーションを考える)	①人としての生き方なり方を考える (研究授業:県道徳教育教材を活用する) ②未来設計 (1年次のライフプランを再構築させる) ③情報モラルを考える (講話から真のコミュニケーションを考える)
12	①いじめについて考える (事例を元に、他者を思いやる心を持つ) ②進路ガイダンス (次年度にむけた取り組みを考える) ③学年集会 (12月までの振り返り、冬休みの過ごし方)	①いじめについて考える (事例を元に、他者を思いやる心を持つ) ②進路ガイダンス (次年度にむけた取り組みを考える) ③学年集会 (12月までの振り返り、冬休みの過ごし方)	①いじめについて考える (事例を元に、他者を思いやる心を持つ) ③感謝の手紙を書く (お世話になった人へ感謝の心を表す) ③学年集会 (12月までの振り返り、冬休みの過ごし方)
1	①ライフプラン作成 (自分の人生を設計する) ②ライフプラン発表 (人生設計を発表し合い、他者を理解する) ③ライフプラン発表会 (学年全体での発表会を行う)	①18歳の誓い (2年間を振り返り、今年の目標を立てる) ②自分の性格について (自己理解・他者理解を深め、長所を知る) ③職業適性検査 (自己の特性を客観的に捉える)	①高校生活最後の考査に向けて (最後まで気を抜かぬよう、計画を立てる) ②残りの高校生活の過ごし方 (卒業式までの日程等を確認する) ③学年集会 (自宅学習期間の留意点を理解する)
2	①考査に備えて (学年末考査にむけて意識を高める) ②卒業式にむけて (卒業式の心構えを理解する) ③理想の先輩とは (先輩像から、学校生活の改善につなげる)	①考査に備えて (学年末考査にむけて意識を高める) ②卒業式にむけて (卒業式の心構えを理解する) ③理想の先輩とは (先輩像から、学校生活の改善につなげる)	①卒業式にむけて (卒業式の心構え等を理解する) ②卒業式にむけて (本番にむけ式歌・礼法の最終確認をする)
3	①今年度を振り返って (目標に対する自己評価をする) ②学年集会 (1年間の振り返りと次年度について)	①今年度を振り返って (目標に対する自己評価をする) ②学年集会 (1年間の振り返りと次年度について)	

1 登校指導  
～あいさつ・身だしなみ・時間



2 清掃  
～毎日、雑巾がけまで



3 授業① 文理総合系列  
～グループ学習、発表、討論



4 授業② ビジネス系列  
～検定試験への取り組み



5 授業③ 福祉教養系列  
～介護施設実習



6 授業④ 福祉教養系列  
～保育園実習



7 授業⑤ 産業技術系列  
～シクラメン販売



8 授業⑥ 産業技術系列  
～小学生との交流



9 授業⑦ 産業技術系列  
～特別支援学校の生徒との交流



10 学校行事① 校歌指導  
～先輩から後輩へ、愛校心



11 学校行事② クリーン活動  
～奉仕の心、地域に感謝する心



12 学校行事③ 漢字力テスト



13 講演会① 性に関する講演会



14 講演会② 薬物乱用防止講話



15 講演会③ AED・エピペン講習会



16 八重山農林高校との交流①



17 八重山農林高校との交流②



18 八重山農林高校との交流③



19 八重山農林高校との交流④



20 八重山農林高校との交流⑤



21 部活動①



22 部活動②



23 部活動③



福島県立小野高等学校 第1学年1組 道徳学習指導案

日 時：平成29年11月2日（木）5校時

場 所：1年1組教室

授業者：教諭 高山 真実

研究主題 「自己理解・自己変革」

研究副主題 「自らを認め、互いに理解し、自らを変える勇気の大事さを、道徳教育を通じて学ぶ」

- 1 主題名 自己変革 自分を認め、変える勇気
- 2 資料名 「道標（みちしるべ）」（福島県道徳資料集補訂版第Ⅱ集）
- 3 主題の設定

(1) 価値観

自分について知る、自分を受け入れる、ということは年代を問わず必要なことであり、難しいことでもある。高校生が社会に出ていくために、今現在の自分について知り、何を不安に思っているのか、現状の不満は何が原因なのかをよく考え、それを認め、受け入れ、同時にその不安や不満を取り除き、自分に自信が持てるようになるためには何が必要かを考えることは大事であるといえる。また、相互に理解し、補い合うことが、自身の変革、成長に大きく寄与することに気付かせたい。

本時では、まず自分の認められない部分について考えた後、資料を通して自己変革のきっかけを掴ませ、今後の指導に生かしていきたい。

(2) 生徒観

本校生の特徴として、自己肯定感が低い生徒が多いことがあげられる。また、高校1年生という年齢にしては、精神的に幼く、視野が狭く、自己理解・他者理解の能力に乏しい生徒もいる。このような状況は「いじめ」などの問題を誘発する原因となりうる。今回の授業を通し、自己理解をしながら自己肯定感を高め、良い部分を伸ばし、悪い部分を変えていけるように、また、相互理解の大切さを学んでほしい。

(3) 資料観

本時の資料は視覚障がいのある生徒が、互いを理解しあうことで困難を乗り越え成長する内容である。自己を認め、他者をいたわり大切にすることが、ひいては自分自身を大切にすることにつながる。これからの生活について考えさせる機会となる資料となっている。

4 本時

(1) 本時のねらい

資料を通して、互いを理解しあうことで困難を乗り越え成長することができることに気づき、自らに照らし合わせて、自己を認め、互いに理解し、自らを変えていこうとする態度を育てる。

(2) 参加視点

- 生徒観に照らし合わせて、本時の内容選択は適切であったか。
- 交流活動は相互理解につながっていたか。



◇指導過程

課程	学習活動	時間 形態	○主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 ◆評価規準
導入	1 ワークシートに自らの変えたい部分を書き込む。	5分 一斉	○自分の良い部分と変えたい部分は何か、ワークシートに書いてみよう。 ・明るく元気がいい。 ・もっと皆と話せるようになりたい。 ・注意力や集中力を付けたい。	◇具体例を挙げながら、自分の中にある認められない部分を書き出させる。
展開 I	2 資料を読み、主人公の思いを想像し、ワークシートに書く。	15分 個人	○発問1. 主人公の真一が変えたい「今の自分」とはどんな自分だろうか。 ・目が見えないことを認められない自分。 ・視覚障がいがあることで卑屈になっている自分。 ○発問2. 主人公は、富士山頂からの景色を眺めることはできなかったが、達成感を得ている。これはどんな達成感だったのだろうか。 ・つらい山登りをやりきった。 ・視覚障がいがあっても健常者と同じように富士山に登ることができた。 ○発問3. 富士登山の後、主人公は変わることができたといっているが、それはなぜだろうか。 ・視覚障がいがあってもできることがたくさんあることに気付いたから。 ・挑戦することの楽しさを知ったから。	◇机間指導を行いながら、特に気になる表現をしているものを取り上げ発表する。  ◇主人公以外の視点から見た思いについても考えるように指示し、相互理解の大事さに気付かせると共に、話し合いに向けた契機とする。
展開 II	3 班を作り、それぞれの意見を交換し、班の意見をまとめて発表する。	25分 班 一斉	○班を作り、お互いの意見を交換しよう。 ・目が見えないことがつらいのではなく、そのことによって積極性を失ってしまったことを変えたいのではないか。 ・単純に山登りの達成感ではないのではないか。 ○班の意見を発表しよう。	◇机間指導を行いながら、討論的な話し合いが活発になるように促し、生徒の多様な考えを引き出すようにする。 ◇各班の発表を板書にまとめる。 ◆主体的・能動的に取り組んでいるか。
終末	4 自分を変えるために自分は何をすべきか考え、ワークシートに書く。	5分	○今回の例を通じて、最初に書いた自分の変えたい部分をどのようにして変えていくか。	◇本時のまとめとして、今後自分をどう変革していくか、文章に書いて残させる。

福島県立小野高等学校 第2学年1組 道徳学習指導案

日 時 平成29年11月2日(木) 5校時

場 所 2年1組教室

授業者 教諭 志賀 光博

研究主題 「友人や家族の愛情、かけがえのない命」

研究副主題 「よりよく、力強く生きていこうとする心を育む」

1 主題名 生命の尊さ

2 資料名 「長崎からの手紙」(ふくしま道徳教育資料集 第I集 生きぬく・いのち)

3 主題設定の理由

(1) 価値観

変化の激しいこれからの社会を生きていく中で、他人を思いやり、他人と協調し、共存していくことが非常に大切なことだと感じている。しかし、世間では自己中心的な価値観を押しつけたり、命を軽視したりするような事件が多くみられる。社会全体の規範意識が低下し、相手を思いやることができなくなってきたことや自分の感情をコントロールできなくなってきたことなど様々な要因が考えられる。

このような現状の中で、生命尊重の心を育むことはとても重要なことと考える。自分の命が様々なつながりの中で存在していることを感じ、友人や家族の愛情に気づき、かけがえのない命を大切にするとともに、よりよく生きていこうとする心を育てたいと考え設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は修学旅行を間近に控え、生命と平和の尊さについて事前に学習をしてきた。一人ひとりの生命はかけがえのない命、限りある命という認識を持っている生徒がいる一方で、人の死や生命について身近なこととして捉えられない生徒もいる。言葉や概念だけでなく、命の重みを感じ、悲しみや苦しみなどの困難から逃げずに、これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てたい。

(3) 資料観

本資料は、修学旅行で長崎を訪れた福島の高校生が慰霊碑の前で歌を捧げる様子に感銘を受けた女性との手紙のやりとりが描かれている。戦争で亡くなった方たちと高校生という時代と場所を越えて存在する生命が、「相思樹の歌」という一つの歌を通して結びついたことを示している。人の生命は、その生命が存在するときだけでなく、終わりを迎えても生きていく人の心を動かしたり、行動を起こさせたりする力があることを感じるができる感動的な資料である。

自分自身が他の生命との関わりにより存在していることに生徒が気づき、命には限りがあり、どう生きるべきなのか、よりよく、力強く生きていこうとする心情を育てるのに適した資料と考え、本資料を選択した。

4 本時

(1) 本時のねらい

晩年を迎えた一人の女性と、これからの将来を担う高校生の間での、「生命」に関するやり取りを通して、生命の尊さや他の生命に与える影響について改めて認識し、生命に対する畏敬の念を養い、友人や家族の愛情に気づき、かけがえのない命を大切にし、よりよく、力強く生きていこうとする心を育む。

(2) 参観視点

○使用した資料や教材は、生命の尊さを考えさせ、他者との関わり方を考えさせるうえで有効であったか。

○他者との関わりを話し合わせる活動は、よりよく、力強く生きていこうとする心を育むために有効であったか。

5 指導過程

過程	学 習 活 動	時間 形態	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導 入	1「平和」と感じる時はどんな時か、考える。	5 一斉	○あなたはどのようなときに「平和」だと感じますか。 ・家族といるとき ・友人といるとき	○事前アンケートの結果を示し、意見の違いに気づかせる。
展 開 I	2 資料を読み、命のつながりについて考える。 (1) 恵美子さんが手紙を送った気持ちを考える。 > 息子さんからの手紙をどのように感じただろうか。  (2) 息子さんからの手紙に込められた思いを考える。 > 被爆経験をしている息子さんからの思いはどのようなものだろうか。	20 個人 一斉	○主人公恵美子さんの最後のよい思い出となったのはなぜだろうか。 ・高校生が歌を歌っていたから ・戦争のことを考えてくれていたから  ○恵美子さんの息子さんからの励ましにはどのような思いが込められているだろうか。 ・原発事故で被災した人の気持ちが分かる。 ・母の分も懸命に生きてほしいと伝えたかった。	○机間支援を行い、お互いに意見を出し合っているか確認する。  ○主人公の感情に自我関与し、心情を深く理解することができたか。  ○毎日を一生懸命生きることの大切さに気づかせる。
展 開 II	3 他者とのかかわりについて考える。 (1) 個人の意見を考え、ワークシートにまとめる。 (2) グループで意見を出し合う。 (3) グループで発表し合ったことを全体で話し合う。	20 個人 班 一斉	◎「困難なことがあると、安易にあきらめたり、身近な家族や友人に心無い言葉をかけたことはないか」振り返り、話し合ってみよう。 ・面倒だと思うことがある。 ・やりたくないと思ったことがある。 ・友人に厳しい言葉をかけてしまったことがある。	○ワークシートに自分の経験をまとめる時間を確保する。 ○クラスメイトの意見を聞き、比較する。  ◇命の尊さについて身近なこととして捉え、力強く生きていこうという気持ちを高めることができたか。
終 末	4 本時の活動を振り返り、感想をまとめる。	5 一斉	○授業の前後で、自分の考え方に変化がみられたか確認する。	○今までの自分を振り返ることができたか。

研 究 主 題	「差別なき世界をつくるために、私たちができること」
研 究 副 主 題	「自分とは違う人々と共存するために必要なことを考えさせる」

- 1 主題名 他者との平和的な共存・協働
- 2 資料名 「それでも僕は桃を買う」(ふくしま道徳資料集 第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ)  
新聞記事(毎日新聞)

### 3 主題の設定

#### (1) 価値観

現代は地球全体としてグローバル化が進み、国を越えた人々の交流は、今後更に日常化・必然化すると予想される。これからの社会を生き抜く生徒にとって、宗教・人種・言語など、自分とは違う背景や文化を持った人々と交流し、共に生きていく力を身につけることは必須であると言える。現行の高等学校学習指導要領の「第1章 総則」第1款2においても「道徳教育を進めるに当たっては、(中略)人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない」と示されており、今後、他者との共存・協働を考えさせ、その実現に向けた態度を育成することは、非常に重要な課題である。

#### (2) 生徒観

生徒の多くは「差別や偏見はよいことではない」という認識はあるものの、実際に自分の問題として受け止める機会は決して多くないと言える。しかし、差別や偏見を他人事としてとらえてしまう態度は、日常生活において「いじめ」を誘発する素地になりうる。高校生の段階でしっかりと自分のこととして考えさせることは、社会に出た際にも他者を思いやり共存・協働するための土台作りにつながると言える。

実際に起こった出来事や資料に触れることで、差別や偏見をなくすために自分ができることは何かを考えるきっかけとしたい。

#### (3) 資料観

本時に使用する資料は、ある中学生が受けた言われ無き偏見と差別の実体験を基として、東日本大震災に伴う原子力発電所事故後の風評被害にも関連する内容となっている。本県で生まれ育ち、これから社会へ出て行こうとする生徒に現実的な問題としてとらえさせるのに適した資料である。また、登場人物の心情を考えさせることによって、差別や偏見は身近に存在するものであり、それに対してどの様に接していかなければならないかを生徒に考えさせることができるものである。

### 4 本時

#### (1) 本時のねらい

現実には起こっている事象を通じて、差別・偏見が身近に潜む問題であることに気づかせ、それらに対してどの様に対処し、更にこれらの問題を解決するためにできることは何かを考えさせることによって、他者と共存と協働しながら社会を築いていく態度を育成する。

#### (2) 参観視点

○使用した資料および教員の補助的説明は、偏見や差別を身近な問題として生徒にとらえさせるのに適切であったか。

○偏見や差別を無くすためにできることは何かを考えさせる活動は、よりよい社会を実現しようとする態度を養う上で有効であったか。

過程	学習活動	時間 形態	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 本時の学習内容と目的を確認する。	5 一斉	○「差別、偏見」とは何ですか。 ○なぜ差別や偏見はよくないものなのでしょうか。	○自由な発想で発言させ、授業への参加意欲を高める。
展開 1	2 「それでも僕は桃を買う」を読んで、差別や偏見について考える。 (1) 個人の考えをまとめる。 (2) 他の生徒の考えを聞く。 (3) 主人公と、福島県産の桃に共通するものを読み取る。  >他者の考えを聞いて考えが変わったら、その都度、内容を書き足したり変えたりする。	25 個人	◎主人公が過去に受けた体験で、心を痛めたのはどんな言葉であったか。また、その言葉に対してあなたは思うか。  【予想される回答】 ・そんなこと言ってはダメ。 ・相手を傷つける言葉。 ・自分が言われたらいやだ。	○生徒に音読させる。  ○他者の意見を聞いて、様々な考え方があることに気づかせる。
展開 2	3 福島県の桃農家の風評被害に関する新聞記事を読み、2の内容とあわせて差別や偏見に対する自分の意見を持つ。  (1) 記事について個人の考えをまとめる。 (2) 2の内容とあわせて差別や偏見に対する自分の意見を班で話し合う。代表者が発表し、学級全体で意見を共有する。 (3) 差別や偏見を無くすためにできることを考え、ワークシートに書き込む。	15 一斉 班別	◎あなたが心を痛めたのはどんな言葉であったか。また、その言葉に対してあなたは思うか。  【予想される回答】 ・腹が立つ。 ・かわいそう。 ・きちんと分かってほしい。	○記事は授業者が範読し、生徒にはしっかりと聞かせる。  ○他者の感想に耳を傾け、考えを深めさせる。  ○差別や偏見を無くすために、あなたはどんなことに留意して生活していくのかを考えさせる。
終末	4 振り返りシートを使って、本時の活動を自己評価する。	5 一斉	○本時の取り組みを4件法で振り返る。最後に感想を簡略にまとめる。 1) 差別や偏見について、深く考えることができた。 2) これから生きていく上で、差別や偏見に対してどのように向き合えばよいか、深く考えることができた。 3) 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深めることができた。	○自分の取り組みについて、客観的に振り返らせる。 ○机間指導しながら、生徒に応じて個別に助言を行う。





**【県南地区】 棚倉町立棚倉中学校**



# 道徳教育推進校《実施報告書》

## 1 学校紹介

学 校 名	棚倉町立棚倉中学校
所 在 地	東白川郡棚倉町大字棚倉字城跡 8 8 - 5
校 長 名	永山 美雄
学校の教育目標	「生きる希望」と「生きる力」の育成 ○ 確かな学力 ○ 豊かな心 ○ 健やかな体
学級及び児童生徒数	1 5 学級 4 0 0 名
道徳教育にかかる取組の概要	① 教職員の道徳教育に対する意識を高め、道徳の時間を要として学校教育全体を通して道徳教育を推進する。 ② キャリア教育の視点に立った「別業」の整備・充実と「課題対応能力」の育成を目指した道徳教育を実践する。

## 2 研究テーマ

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動できる生徒の育成  
～ 考え議論する道徳を通して道徳的判断力・自己肯定感を高めるための指導のあり方 ～

## 3 テーマ設定の理由

棚倉町では、平成 2 5 年度より、キャリア教育の推進と学力向上を重点目標として挙げている。本校においては、これを受け、キャリア教育の視点を生かした授業づくりによって、学力の向上を図る方策を検討してきた。全国学力・学習状況調査および県学力調査の結果から、本校生徒の学力が向上しているのとらえることができた。また、生活・学習意識調査の結果を分析すると、本校生徒の生活習慣に関する質問への回答より、家庭での学習時間やテレビやゲームの時間、テストで間違えた問題の復習について、前年度より改善されてきていると読み取ることができた。

これらは、これまで推進してきた、キャリア教育の視点を生かした授業づくりの成果とらえることができる。また、生徒指導面での安定化に伴い、生活習慣が改善されてきたこと、さらに、生徒会が主体となって提唱したスローガン「凡事徹底」が生徒に浸透したことが要因と考えられる。

これらを受け、現状に満足することなく、さらに高い教育効果を挙げていくため、

- (1) 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養うこと
- (2) キャリア教育を基盤とした道徳教育の充実を図り、たくましく生きるための基礎的・汎用的能力を身に付けること
- (3) 指導方法の工夫により、人間としての生き方について多面的・多角的に考え、自己決定・自己肯定感を高める授業を展開することで「課題対応能力」の育成を図ることを重点的に取り組むため、本主題を設定した。

## 4 研究計画

月日(曜日)	主 な 研 究 内 容	備 考
4 月 2 6 日(水)	○現職教育全体協議会 ・道徳の学習指導要領の共通理解	講師：県南教育事務所指導主事
5 月 1 5 日(月) ～ 2 5 日(木)	○いじめについて考える授業(全学年)	
5 月 1 6 日(火)	○パイオニア授業(1 年 1 組道徳) ・授業参観 ・全体協議会	講師：県南教育事務所指導主事
5 月 3 1 日(水)	○福島県道徳教育推進協議会	
6 月 2 日(金)	○道徳に関する道徳アンケート調査実施(生徒対象)	
6 月	○研究計画立案	
6 月 2 9 日(木)	○先進校視察 ・福島大学附属中学校	
7 月 1 3 日(木)	○ふくしま道徳教育資料集を活用しての授業	講師：県南教育事務所指導主事
8 月 1 9 日(土)	○キャリア教育の日 ・講演会	講師：静岡産業大学教授
9 月 1 9 日(火) 2 1 日(木)	○ゲストティーチャーによる講話 ① ○初任者研修道徳研究授業(1・3年)	講師：新地町教育委員会SSW

10月 3日(火)	○道徳の授業研究	講師：元ラジオ福島アナウンサー
10月10日(火)	○ゲストティーチャーによる講話 ②	
23日(月)	○先進校視察 ・新潟大学教育学部附属中学校	
11月 8日(水)	○道徳教育地区別推進協議会 ・伝達講習 ・実践報告 ・講話 ・授業参観 ・研究協議	講師：國學院大學教授 伝達講習：白河第三小学校教頭
16日(木) ～17日(金)	○命とこころを育む思春期講座（1年）	
12月 1日(金)	○授業参観日 ・道徳一斉授業 ・講演会	講師：日本ボッチャ協会強化指導部長
12月 8日(金)	○道徳に関する道徳アンケート調査実施（生徒対象）	
1月16日(火)	○現職教育全体協議会 ・授業参観 ・全体協議会 ・実践報告	講師：福島大学総合教育研究センター特任教授
2月14日(水)	○福島県道徳教育推進協議会 ○本年度の研究の反省と次年度の計画	

## 5 生徒の実態及び地域の課題

本校生徒の実態として、目標到達のための手順や手だてが明確になると、前向きに努力できる。また、明朗で気さくな生徒が多く、思いやりの心を持ち、ボランティア活動を行う生徒も多い。しかしその一方で、善し悪しの判断はできるが周囲の雰囲気にならされてしまう生徒が見られる。

地域としては、本町唯一の中学校として広範囲な学区内の5つの小学校から生徒が集まり、そのため遠距離通学者が多く、生徒の個性や家庭環境も様々である。また広い学区の中で、農業、商業、製造業、建築・建設業など保護者の職業や経済的な環境も多様である。

「道徳に関するアンケート」を実施した結果、「自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えること」「将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること」「自分にはよいところがあると感じること」の3点が本校生徒の主な課題であることがわかり、A-3 向上心・個性の伸長、C-6 よりよい学校生活・集団生活の充実、D-1 生命の尊さ、を重点項目として取り組むことが本校及び地域の課題であると考えた。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針

- (1) 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う。
- (2) キャリア教育を基盤とした道徳教育の充実を図り、たくましく生きるための基礎的・汎用的能力を身に付ける。
- (3) 指導方法の工夫により、人間としての生き方について多面的・多角的に考え、自己決定・自己肯定感を高める授業を展開することで「課題対応能力」の育成を図る。

(資料1)

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について

生徒の実態、教師の願い、保護者の願いから各学年に共通する指導の重点を設定した。また、教科・領域等の関連を明らかにした。

(資料2)

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別業」について

各学年の指導目標を達成させるために、必要な内容を重点的に取り上げ、他の教育活動との関連をもたせて主題配列を行った。

(資料3)

## 9 平成29年度 学級における指導計画について

- (1) 道徳教育全体計画に基づき、学級担任の願いや学級の実態を十分に考慮して、それぞれの学級における道徳教育の重点項目を設定した。
- (2) 学級における道徳の時間の指導方針をより具体的にすることで、道徳教育の重点目標が生かされるよう配慮した。

(資料4)

## 10 道徳教育推進教師の実践について

研究テーマに迫るために全教職員の協力のもと、次のような実践を行った。

- (1) 道徳アンケートの実施  
全校生徒対象に道徳性の実態把握のためにアンケートを6月上旬に実施した。また、12月には事後アンケートも実施し、変容を把握し来年度の計画作成に役立てることができた。
- (2) 道徳教育全体計画の見直しと別業の作成  
(1)の結果とキャリア教育の視点を生かした授業づくりから現状に即した道徳の教育計画の見直しと、キャリア教育と関連を持たせた別業の作成を行った。

- (3) 教職員の研修会の実施  
現職教育全体協議会にて指導助言者を招き、平成31年度の教科化に向けての講義と道徳の学習指導要領の共通理解を図ることができた。また、教職員の道徳の意識、授業力向上が図られた。
- (4) ゲストティーチャーによる全校道徳の実施  
「福島県ならではの道徳授業の実践」から、ゲストティーチャーによる講話を実施した。1回目は新地町教育委員会SSWの井戸川あけみ先生より、東日本震災後の現状から「まだ、答えは見つからない、それでも一歩前に進もう」、2回目は元ラジオ福島アナウンサー大和田新さんの「伝えることの大切さ、伝わることの素晴らしさ」という内容で全校道徳を実施した。
- (5) 先進校視察等による研修  
中教研道徳部会、福島大学附属中学校の授業公開、新潟大学教育学部附属中学校の授業公開へ参加し、数多くの授業を参観できた。また、教科化に関する講演会、シンポジウム、分科会に参加できたことで、多くの情報を得ることができた。

## 1.1 道徳の時間について

5月16日(火)	パイオニア授業＝モラルジレンマ・問題解決型の道徳授業 『スリーテン：いろいろな立場や考え』B- (9)	1年1組 (別紙資料)
7月13日(木)	計画訪問＝ふくしま道徳教育資料集を活用しての授業 『ヒューストン日本語補習校だより：集団生活の充実』B- (3)	2年2組 (別紙資料)
9月21日(木)	初任者研修道徳研究授業＝明日をひらくより 『缶コーヒー：公德のモラル』C- (1)	3年4組 (別紙資料)
	『言葉の魔法：人のやさしさ』B- (3)	1年3組 (別紙資料)
11月8日(水)	公開授業＝モラルジレンマ・問題解決型の道徳授業 『トリアージ：命を見つめ命を支える』D- (1)	3年4組 (別紙資料)
12月1日(金)	授業参観＝モラルジレンマ・問題解決型の道徳授業 多様な価値観を認め合う B- (9) いろいろな立場や考え B- (9) 『地元を考える：遠くない未来のために』C- (7)	1年 2年 3年
1月16日(火)	公開授業＝モラルジレンマ・問題解決型の道徳授業 『6番目の選手：友情・信頼』B- (3)	2年4組 (別紙資料)

## 1.2 成果と課題

- 平成31年度の教科化を見据え、全職員で研修と実践の機会を持つことができた。
  - 「別業」の見直しとして、キャリア教育との関連を盛り込み、自校化することができた。
  - 生徒は「道徳」と向き合う時間が増え、人間づくりはもちろん、さまざまな人との関わりや意見の交流を通じて、より互いのよさを認め合うことができるようになった。
  - 教師は指導方法の工夫や改善を行うことができた。また、授業の検討会を実施したことにより、よりよい授業実践をしようと意欲が高まった。
  - 『考え、議論する道徳』の実践により、登場人物の心情理解のみに偏っていた授業からの脱却ができた。
  - 道徳教育とキャリア教育をリンクさせることで学力面と生活面の両面で向上が見られた。
  - 道徳アンケートの結果(資料5)より、本校の課題である「自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えること」「将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること」「自分にはよいところがあると感じること」の3点において、改善が見られた。
- 今後もキャリア教育との関連を重視しながら、「福島県ならではの、棚倉町ならではの」道徳教育とはどうあるべきなのかを模索していく。
  - 教科用図書への導入に向けた準備として、係を中心に内容について事前に研修し、教育課程の編成に役立てる。
  - 平成31年度の教科化に向けて、評価の視点や方法等の研修会を実施していく必要がある。

# 棚倉中学校 経営・運営ビジョン

## 基本方針

学習指導要領、福島県教育委員会及び棚倉町教育委員会の基本方針に基づき、生徒や地域の実態と保護者・地域・時代の要請を踏まえ、心身ともに健康な人間の育成に努める。

そのため本校職員は、**生徒一人一人の特性を見極め、心に響き添い、教師としての義務と責任を十分に自覚し、優れた指導力と深い教育愛によって人間尊重の教育を推進する。**  
 教育公務員として高い倫理観に立ち、職務の重大性の自覚を持ち不祥事や学校事故の未然防止に努める。

## 学校教育目標

「生きる希望」と「生きる力」の育成

- 確かな学力
- 豊かな心
- 健やかな体

## 本校の特色

基礎的・汎用的能力を育成することにより、教育目標を達成する。(コネクトドリームプラン)

## 生徒像

なぜかを考え、正しく判断し、自分で決めて、粘り強く行動できる生徒

## 学校像

生徒一人一人の夢をつなぎ、何事にも前向きにチャレンジさせる学校

## 教師像

生徒一人一人に達成感や成就感を味わわせ、自己肯定感を育てる教師

## 本年度の重点事項

### 「課題対応能力」の育成

### 凡事徹底

### 生徒指導の充実

自分の「夢」を持ちその実現に向かって努力する生徒を育てる

### 学力向上

自分の「夢」を実現するための確かな学力を身につける

### 体力向上

自分の「夢」を実現するための健康な体を育てる

### 研修の充実

- 教科指導：初任研、経験者研修Ⅰ、Ⅱの活用
- 生徒指導：生徒理解の研修
- キャリア教育：地域人材活用

### 生徒活動

- 朝のボランティア
- 読書の推進
- 部活動の奨励
- 各種検定への挑戦
- 地域人材の活用

- コミュニケーションスキルを高める学習活動の工夫
- 主体的な学びにつながる課題設定の工夫
- 家庭学習の充実（学年＋1時間）

達成目標  
**主要5教科、全国・県学力テスト前年度比＋2ポイントにする。**

- 規範意識の確立と保護者への啓発及び連携の強化
- 相談・支援機能の強化
- 問題行動の予防及び初期対応の強化

達成目標  
**事件・事故・いじめ根絶、不登校前年度比20%減にする。**

- 運動量の確保のための場の設定
- 運動技能習得のための学習活動の工夫
- 体力テスト、部活動顧問会を活かした積極的な運動部活動の推進

達成目標  
**運動能力テストのA評価＋B評価を45%以上にする。**

## 創意を生かした教育活動

- 情報モラル教育 ○ 安全教育 ○ 性に関する教育 ○ 食育 ○ 環境教育 ○ 読書活動（読み聞かせ） ○ ボランティア活動 ○ 地域人材の活用

## キャリア教育の推進

達成目標  
**生徒一人一人が主体的に『夢』を語り、努力できる～ 課題対応能力を育てる3つの段階の指導を充実させる～**

**3年間を通して、自分の『夢』とそれに近づく方法を見つける**

- 1年：将来の夢・働くこと・生き方を考える
- 2年：職場体験活動を通して、自分の生活を見直す
- 3年：自分に合った進路を選択する





「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する道徳の指導内容の例

勤労観・職業観などの価値観			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
節度、節制 A-2	自主、自律、自由と責任 A-1	家族愛、家庭生活の充実 C-5	自主、自律、自由と責任 A-1
思いやり、感謝 B-1	向上心、個性の伸長 A-3	より良い学校生活、集団生活の充実 A-6	向上心、個性の伸長 A-3
礼儀 B-2	希望と勇気、意志 A-4	郷土を愛する態度 C-7	克己と強い意志 A-4
友情、信頼 B-3	真実の探究、創造 A-5	我が国を愛する態度 C-8	真理の探究、創造 A-5
相互理解、寛容 B-4		国際理解、国際貢献 C-9	社会参画、公共の精神 A-3
遵法精神、公德心 C-1		生命の尊厳 D-1	勤労 C-4
寛容、謙虚 C-2		自然愛護 D-2	
公平、公正、社会性 D-1		感動、畏敬の念 D-3	
より良い学校生活、集団生活の充実 C-6		よりよく生きる喜び D-4	



道徳科 第1学年										
指導計画作成上特に配慮した事項		中学生としての基本的な生活習慣を身につけ、命の尊さや思いやりの心を大切に、豊かな人間関係を築き、集団の一員として自覚をもって行動しようとする態度が育成されるよう配慮した。また、総合的な学習の時間・情報モラル・他教科との関連に加え、「私たちの道徳」も計画的に活用できるように配慮した。								
道徳の時間の年間計画				他の教科等・諸活動との関連						
月	主題	内容項目	私たちの道徳	教科、総合的な学習 外国語活動と関連の内容 項目	特別活動と関連 の内容項目	生徒指導と関連 の内容項目 ○生活 ○学習	キャリア教育との関連	学校行事、連携	時数	
4	心と形	B-2 礼儀	p.48～51	保健体育 集団行動 新入生対面式 美術 作品鑑賞態度 総合 情報モラル講習会	・専門委員会① ・学活「学級の組織と自分の役割」	○おいさつ・礼儀をしつかりと身につけよう。 ◇1年間の目標をもち、学習計画を立てよう。	・情報モラル講習会	入学式、始業式 身体測定 交通安全教室 情報モラル講習会 避難訓練 授業参観 各種検診	1 1 1	
	心がけたいこと	A-2 節度、節制	p.10～13						3	
	(情報モラル)心身の健康	A-2 節度、節制	p.10～13						1	
5	権利と義務	C-1 遵法精神、公德心	p.134～137	校内体育祭 保健体育 心身の機能の発達と心の健康 美術 色と形 職業講話	・専門委員会② ・生徒会総会 ・学活「なぜわたしたちは学ぶのだろう」	○割合中学生としての自覚をもち、規律ある生活を送ろう。(凡事徹底) ◇授業を大切に、積極的に取り組もう。	・職業講話	校内体育祭 各種検査 バイオニア授業	1 1 1	
	責任の自覚	A-1 自主、自律、自由と責任	p.22～25					中間テスト 中体連陸上大会	3	
	友情の尊さ	B-3 友情、信頼	p.60～63						1	
6	広い心で	B-4 相互理解、寛容	p.72～75	保健体育 思春期保健講座(2次性徴と思春期)	・選手壮行会 ・学活「放射線と生きる」 ・学活「人と個性」	○健康と安全に留意し、諸活動に全力で取り組もう。 ◇期末テストに向けて計画的に取り組もう。		選手壮行会 中体連総合大会 教育相談 PTA奉仕作業 授業参観・PTA体育祭 朝食摂取調べ 期末テスト、 歯科教室	1 1 1 1	
	正義を貫く	C-2 公平、公正、社会正義	p.160～163						4	
	やり抜く心	A-4 希望と勇気、克己と強い意志	p.16～19						1	
	反省と努力	A-3 向上心、個性の伸長	p.38～41						1	
7	集団生活の向上	C-6 よりよい学校生活、集団生活の充実	p.166～169	総合 薬物乱用防止教室 技術 材料と物の価値	・専門委員会③ ・学活「男女の理解(一学期の反省と夏休みの生活)」	○今までの生活を反省し、夏休みの生活設計に生かそう。 ◇学習の成果を確かめ、夏休みの学習計画を立てよう。	・薬物乱用防止教室 ・学習旅行事前学習	薬物乱用防止教室 校内漢字テスト 終業式 夏季休業	1 1	
	誠実な生き方	A-1 自主、自律、自由と責任	p.22～25						2	
8				・学習旅行事前学習	・選手壮行会(歌伝、合唱、英弁)		・学習旅行事前学習	キャリア教育の日 PTA教育講演会	0 0	
9	集団の中での協力	C-6 よりよい学校生活、集団生活の充実	p.166～169	美術 文字のデザイン 英語 Unit10あこがれのポスト 校守三代 総合 学習旅行事前・事後学習 職業講話	・専門委員会④ ・学活「思いやりの気持ち育てよう」	○きまりを守り、秩序ある生活を送ろう。 ◇目標達成に向けて、真剣に授業に取り組もう。	・学習旅行事前・事後学習 ・職業講話	学習旅行 PTA奉仕作業 校内計算力テスト	1 1 1 1	
	ふるさとに生きる	C-7 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	p.200～203						4	
	奉仕の精神	C-4 勤労							1	
	働く喜び	C-4 勤労							1	
10	よりよい社会を目指して	C-3 社会参画、公共の精神		英語 DS ウェブサイト 音楽 「クラスのハーモニーを奏でよう」 美術 共同制作 総合 日輪祭に向けて 総合 職業調べ	・学活「文化祭の成功」	○責任をもって諸活動に積極的に取り組もう。 ◇学習方法の改善を図り、計画的に学習しよう。	・日輪祭に向けて ・職業調べ	中間テスト 避難訓練 芸術鑑賞 日輪祭 合唱コンクール	1 1 1 1	
	男女の理解と協力	B-4 相互理解、寛容	p.66～69						4	
	みんなのために	C-6 よりよい学校生活、集団生活の充実	p.194～197						1	
	真の思いやりとは	B-1 思いやり、感謝							1	
11	生命の尊さ	D-1 生命の尊さ		国語 光る地平線 国語 大人になれなかつた弟たちに... 総合 赤ちゃんふれあい教室	・専門委員会⑤ ・学活「自分と学級」	○健康に留意し、充実した生活を送ろう。 ◇学習のまとめをし、冬休みの計画を立てよう。	・赤ちゃんふれあい教室	三者面談 期末テスト	1 1 1	
	命を見つめ命を支える	D-1 生命の尊さ	p.102～105					赤ちゃんふれあい体験	3	
	生きることの大切さ	D-1 生命の尊さ	p.102～105						1	
12	人のやさしさ	B-1 思いやり、感謝	p.54～57	国語 幻の魚は生きていた 総合 ライフプランニング	・生徒会立会演説会、役員選挙 ・専門委員会⑥ ・学活「職業について調べる」 ・学活「2学期の反省と冬休みの生活」	○時間を守り、落ち着いた生活を送ろう。 ◇不得意教科や苦手分野の克服に努めよう。	・職業調べ ・職業講話 ・ライフプランニング	授業参観 (全クラス=教科道徳) 終業式 冬季休業	1 1 1 1	
	生きがいのある人生	A-5 真理の探究、創造	p.32～35						4	
	広い心	D-4 よりよく生きる喜び	p.120～123						1	
	感謝の気持ち	B-1 思いやり、感謝	p.82～85						1	
1	かけがえのない自然	D-2 自然愛護	p.16～19	国語 少年の日の思い出 美術 地域の伝統工芸 社会 古代までの日本 総合 入試制度について学ぼう	・専門委員会⑦ ・学活「自分の特性と集団」	○新しい希望をもち、自主的・自律的な行動を心がけよう。 ◇新年の抱負をもち、目標を再確認しよう。		始業式 スプリングコンテスト	1 1 1	
	自主と責任	A-1 自主、自律、自由と責任	p.22～25						3	
	正義を求めて	C-2 公平、公正、社会正義							1	
2	伝統や文化の継承	C-8 我が国の伝統と文化の尊重、目を愛する態度		社会 歴史のつらえ方 英語 Unit 6 オーストラリアの兄 音楽 日本の伝統芸能 理科 大地の変化 理科 植物の世界 家庭 調理と食文化 保健体育 武道 美術 暮らしとデザイン	・生徒会総会 ・学活「将来の自分を考える(1年間の反省)」	○友情を深め、更に協力的な学級・学年をつくらう。 ◇学習環境を整え、授業に真剣に取り組もう。		期末テスト	1 1 1 1	
	自然のすばらしさ	D-3 感動、畏敬の念	p.114～117						4	
	世界の人々のために	C-9 国際理解、国際貢献	p.212～217						1	
	明るい家庭	C-5 家族愛、家庭生活の充実	p.180～183						1	
3	国際社会への貢献	C-9 国際理解、国際貢献	p.214～217	社会 世界のすがた	・学活「2年生になる自分」	○1年間の反省し、新しい生活に臨もう。◇着らぬ学習に取り組む、学年のまとめをしよう。		卒業式 修了式	1 1	
			合計							35

## 年間指導計画

道徳科 第2学年														
指導計画作成上特に配慮した事項		中堅学年としての役割を認識し、自他の生命を尊重しながら、集団や自己の向上に努め、真の友情やよりよい人間関係を確立しようとする態度が育成されるよう配慮した。また、総合的な学習の時間・情報モラル・他教科との関連に加え、「私たちの道徳」も計画的に活用できるように配慮した。												
道徳の時間の年間計画				他の教科等・諸活動との関連										
月	主題	内容項目	私たちの道徳	教科、総合的な学習・外国語活動と関連の内容項目	特別活動と関連の内容項目	生徒指導と関連の内容項目	キャリア教育との関連	学校行事、連携	時数					
4	望ましい生活習慣	A-2	○節度、節制	p.10～13	保健体育 集団行動 ・音楽 くらしと音楽 ・美術 生活とデザイン ・総合 自分の適性と希望進路	・専門委員会① ・学活「毎日の学級生活を充実させよう」	○あいさつ・礼儀をしっかりと身につけよう。 ○1年間の目標をもち、学習計画を立てよう。	・情報モラル講習会	入学式、始業式 身体測定 交通安全教室 情報モラル講習会 避難訓練 授業参観 各種検診	1				
	(情報モラル)真の友情	B-3	○友情、信頼	p.60～63					1					
	きまりを守る	C-1	○遵法精神、公德心	p.134～137					1					
5	集団生活の向上	C-6	○よりよい学校生活、集団生活の充実	p.38～41	・保健体育 健康と環境 ・美術 空間の広がり表現しよう ・総合 職場体験希望調査	・生徒会総会 ・専門委員会② ・選手壮行会 ・学活「なぜ人は働くのだろう」	○棚倉中生としての自覚をもち、規律ある生活を送ろう。(凡事徹底) ○授業を大切に、積極的に取り組もう。	・職業講話	校内体育祭 各種検査 バイオニア授業	1				
	反省と向上	A-3	○向上心、個性の伸長						1					
	人と人との交わり	B-4	○相互理解、寛容						p.72～75	1				
6	思いやる心	B-1	○思いやり、感謝	p.54～57	・社会 日本の諸地域・技術 材料と加工 ・家庭 幼児の生活と家族 ・総合 職場体験に向けて	・専門委員会③ ・選手壮行会 ・学活「放射線と生きる」	○健康と安全に留意し、諸活動に全力で取り組もう。 ○期末テストに向けて計画的に取り組もう。	・職場体験に向けて	選手壮行会 中体連総合大会 教育相談 PTA奉仕作業 授業参観・PTA体育祭 朝食摂取調べ 期末テスト 思春期講座	1				
	愛と感謝	B-1	○思いやり、感謝						1					
	誠意ある行為	A-1	○自主、自律、自由と責任						p.22～25	1				
7	温かい家庭	C-5	○家族愛、家庭生活の充実	p.180～183	・Let's Read2 Try to Be the Only One ・保健体育 傷害の防止 ・総合 性に関する講習会 ・技術 肖像権/著作権学習	・専門委員会④ ・学活「社会に生きる一員として(一学期の反省と夏休みの生活)」	○今までの生活を反省し、夏休みの生活設計に生かそう。 ○学習の成果を確かめ、夏休みの学習計画を立てよう。	・性に関する講習会	校内漢字テスト 終業式 夏季休業	1				
	健全な異性観	B-4	○相互理解、寛容	p.66～69					1					
8	着実にやりぬく意志	A-4	○希望と勇氣、克己と強い意志	p.16～19	・総合 職業体験学習 ・国語 気持ちを込めて書こう ・家庭 私たちの消費生活 ・英語 Unit3 Career Day ・英語 Presentation2 町紹介	・選手壮行会 ・学活「わたしたちの習慣と規律ある生活」	○夏休みの生活を反省し、生活のリズムを戻そう。○夏休みの成果を確認し、2学期のめあてをもちよう。	・職場体験事前活動	キャリア教育の日 PTA教育講演会	1				
9	郷土を愛する心	C-7	○郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	p.200～203					・総合 職業体験学習 ・国語 気持ちを込めて書こう ・家庭 私たちの消費生活 ・英語 Unit3 Career Day ・英語 Presentation2 町紹介	・専門委員会⑤ ・学活「職業について考えよう」	○きまりを守り、秩序ある生活を送ろう。 ○目標達成に向けて、真剣に授業に取り組もう。	・職場体験活動 ・職業講話	職場体験 PTA奉仕作業 校内計算力テスト	1
	人々のために	C-4	○勤労	p.172～175									1	
	ともに支え合う	C-4	○勤労	p.172～175	1									
	よりよい社会の実現	C-3	○社会参画、公共の精神	p.148～151					1					
10	身近な日本の文化	C-8	○我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	p.206～209	・音楽 「クラスのハーモニーを奏でよう」 ・美術 共同制作 ・総合 日輪祭に向けて ・職場体験のまとめ	・学活「文化祭の成功」	○責任をもって諸活動に積極的に取り組もう。 ○学習方法の改善を図り、計画的に学習しよう。	・日輪祭に向けて ・職場体験のまとめ ・職業講話	中間テスト 避難訓練 芸術鑑賞 日輪祭 合唱コンクール	1				
	礼儀の大切さ	B-2	○礼儀	p.48～51					1					
	相手の立場で	B-4	○相互理解、寛容	p.72～75					1					
	母校の誇り	C-6	○よりよい学校生活、集団生活の充実						1					
11	差別・偏見の克服	C-2	○公平、公正、社会正義	p.38～41	・美術 日本の美意識 ・総合 職業講話	・専門委員会⑥ ・学活「自己の適正」	○時間を守り、落ち着いた生活を送ろう。 ○不得意教科や苦手分野の克服に努めよう。	・職場体験のまとめ ・職業講話	三者面談 期末テスト	1				
	自分を探そう	A-3	○向上心、個性の伸長						1					
	人間の気高さ	D-4	○よりよく生きる喜び						p.120～123	1				
	理想の実現	A-5	○真理の探究、創造							1				
12	新しい生命	D-1	○生命の尊さ	P.102～105	・理科 動物の生活と生物の変遷 ・保健体育 思春期保健講座(生命誕生) ・国語 話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする ・総合 学習旅行事前学習	・生徒会役員改選 ・専門委員会⑦ ・学活「自己の特性と進路」 ・学活「2学期の反省と冬休みの生活」	○健康に留意し、充実した生活を送ろう。 ○学習のまとめをし、冬休みの計画を立てよう。	・職場体験のまとめ ・学習旅行事前学習 ・職業講話	授業参観(全クラス=教科道徳) 計算コンテスト 終業式 冬季休業	1				
	身近な国際理解	C-9	○国際理解、国際貢献						1					
	国境を越えた愛	C-9	○国際理解、国際貢献	P.212～219					1					
1	自然への畏敬	D-3	○感動、畏敬の念	p.114～117	・国語 走れメロス ・理科 天気とその変化 ・美術 パブリックアート ・総合 高校調べ	・専門委員会⑧ ・学活「立志式へ向けて」	○新しい希望をもち、自主的・自律的な行動を心がけよう。 ○新年の抱負をもち、目標を再確認しよう。	・学習旅行事前学習 ・高校調べ	始業式 スプリングコンテスト 立志式	1				
	かけがえのない命	D-1	○生命の尊さ	p.102～105					1					
	人間みなきょうだい	C-9	○国際理解、国際貢献	p.212～217					1					
2	自然と人間	D-2	○自然愛護	p.114～117	・理科 天気とその変化 ・美術 和の美意識 ・英語 Unit7 Movie Dolphine Tale ・保健体育 武道 ・保健体育「健康と環境」 ・総合 学習旅行事前学習	・学活「学校生活の見直し」 ・生徒会総会 ・専門委員会⑨	○友情を深め、更に協力性のある学級・学年をつくろう。 ○学習環境を整え、授業に真剣に取り組もう。	・学習旅行事前学習 ・高校調べ	期末テスト	1				
	人間の尊厳	D-1	○生命の尊さ	P.102～105					1					
	公害に抗して	C-2	○公平、公正、社会正義	P.160～163					1					
	感謝をあらわす	B-1	○思いやり、感謝	P.82～85					1					
3	自律と責任	A-1	○自主、自律、自由と責任		・総合 学習旅行・事後指導	・学活「最上級生になる自分」	○1年間を反省し、新しい生活に備えよう。○落ちついて学習に取り組む、学年のまとめをしよう。	・学習旅行事前・事後学習	卒業式 修了式 学習旅行	1				
合計									35					

## 年間指導計画

## 別業(3年)

道徳科 第3学年										
指導計画作成上特に配慮した事項		最高学年としての自覚をもち、主体的に他と関わる中で、自他の生命と人格を尊重しながら、自己実現を目指し、よりよく生きていこうとする強い意志を身につけることができるよう配慮した。また、総合的な学習の時間・情報モラル・他教科との関連に加え、「私たちの道徳」も計画的に活用できるように配慮した。								
道徳の時間の年間計画				他の教科等・諸活動との関連						
月	主題	内容項目	私たちの道徳	教科、総合的な学習・外国語活動と関連の内容項目	特別活動と関連の内容項目	生徒指導と関連の内容項目	キャリア教育との関連	学校行事、連携	時数	
4	生きる力	D-1	○生命の尊さ	p.102～105	・理科 生命の連続性 ・美術 絵との対話 ・総合 情報モラル講習会	・専門委員会① ・学活「最高学年を迎えて」	○あいさつ・礼儀をしっかり身につけよう。 ○1年間の目標をもち、学習計画を立てよう。	・情報モラル講習会	入学式、始業式 身体測定・各種検診 交通安全教室 情報モラル講習会 避難訓練・授業参観	1
	(情報モラル)情報を守る	C-1	○遵法精神、公德心	p.134～137 140～145						1
5	集団と役割	C-6	○よりよい学校生活、集団生活の充実	p.166～169	・国語 握手 ・国語 社会との関わりを伝えよう ・国語 相手や目的に応じたスピーチをする ・保健体育 健康な生活と病気の予防 ・美術 パターンアート	・学活「学校生活を充実させるために」 ・生徒会総会 ・専門委員会②	○朝倉中生としての自覚をもち、規律ある生活を送ろう。(凡事徹底) ○授業を大切に、積極的に取り組もう。	・職業と卒業後の進路について ・職業講話	校内体育祭 各種検査 バイオニア授業	1
	希望に向かって	A-4	○希望と勇氣、克己と強い意志	p.16～19						1
	郷土への思い	C-7	○郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	p.200～203						1
6	仕事に生きる	C-4	○勤労	p.172～175	・高校説明会 ・社会 戦後日本の発展と国際社会 ・美術 日本の職人 ・総合 職業と卒業後の進路について	・専門委員会③ ・選手壮行会 ・学活「放射線と生きる」	○健康と安全に留意し、諸活動に全力で取り組もう。 ○週末テストに向けて計画的に取り組もう。	・修学旅行事前学習 ・職業と卒業後の進路について	選手壮行会 中体連総合大会 教育相談 PTA奉仕作業 授業参観・PTA体育祭 朝食摂取調べ 期末テスト	1
	感謝を伝える	B-1	○思いやり、感謝							1
	真の国際貢献	C-9	○国際理解、国際貢献							1
	自己を見つめる	A-3	○向上心、個性の伸長	p.38～41						1
7	限りある命を	D-4	○よりよく生きる喜び	p.120～123	・保健体育 思春期保健講座(性感染症) ・国語 高瀬舟 ・美術 ゲルニカ鑑賞 ・総合 性に関する講習会	・専門委員会④ ・学活「自分に合った進路選択」 ・学活「性感染症の予防(一学期の反省と有意義な夏休み)」	○今までの生活を反省し、夏休みの生活設計を生かそう。 ○学習の成果を確かめ、夏休みの学習計画を立てよう。	性に関する講習会	思春期講座 校内漢字テスト 終業式 夏季休業	1
	生活のリズム	A-2	○節度、節制	p.10～13						1
8	日本人の心	C-8	○我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・総合 修学旅行事前調査 ・選手壮行会 ・学活「生涯を支える健康と安全」	・専門委員会⑤ ・学活「生き方について考える」	○夏休みの生活を反省し、生活のリズムを戻そう。○夏休みの成果を確認し、2学期のめあてをもたせよう。	・修学旅行事前学習	キャリア教育の日 PTA教育講演会	1
9	心の平和を求めて	C-9	○国際理解、国際貢献	p.214～217	・福祉体験学習 ・国語 挨拶・故郷 ・音楽 日本と世界の音楽 ・美術 日本美術の展開と世界交流 ・英語 Let's Read! A Mother's Lullaby ・総合 修学旅行	・専門委員会⑤ ・学活「生き方について考える」	○きまりを守り、秩序ある生活を送ろう。 ○目標達成に向けて、真剣に授業に取り組もう。	・修学旅行事前・事後学習 ・職業と卒業後の進路について ・職業講話	修学旅行 PTA奉仕作業 校内計算力テスト	1
	畏敬の念	D-3	○感動、畏敬の念	p.114～117						1
	差別・偏見のない社会	C-2	○公平、公正、社会正義	p.160～163						1
	心の触れ合い	B-2	○礼儀	p.48～51						1
10	母校を愛する	C-6	○よりよい学校生活、集団生活の充実	p.194～197	・理科 自然と人間 ・社会 よりよい社会をめざして ・音楽 「クラスのハーモニーを奏でよう」 ・美術 共同制作 ・総合 日輪祭に向けて進路説明会	・学活「文化祭の成功」	○責任をもって諸活動に積極的に取り組もう。 ○学習方法の改善を図り、計画的に学習しよう。	・日輪祭に向けて ・職業と卒業後の進路について ・職業講話 ・進路説明会	中間テスト 避難訓練 芸術鑑賞 日輪祭 合唱コンクール 進路説明会	1
	友情に支えられて	B-3	○友情、信頼							1
	家族の願い	C-5	○家族愛、家庭生活の充実	p.180～183						1
	責任ある行動	A-1	○自主、自律、自由と責任	p.22～25						1
11	人間の弱さの克服	D-4	○よりよく生きる喜び	p.120～123	・美術 自分を見つめる ・総合 食に関する講習会 ・保健体育「食生活と健康」	・専門委員会⑥ ・学活「進路の決定」	○時間を守り、落ち着いた生活を送ろう。 ○得意教科や苦手分野の克服に努めよう。	・職業と卒業後の進路について ・職業講話 ・食に関する講演会	三者面談 期末テスト 食育講座	1
	思いやりの心	B-1	○思いやり、感謝	p.54～57						1
	コミュニケーションの原点	B-4	○相互理解、寛容							1
	生きがい求めて	A-5	○真理の探究、創造	p.32～35						1
12	生き抜く力	D-1	○生命の尊さ	p.102～105	・社会 人権と共生社会 ・英語 Unit 3 Fair Trade Event ・総合 職業と卒業後の進路について	・生徒会役員改選 ・専門委員会⑦ 学活「悩みと克服」	○健康に留意し、充実した生活を送ろう。 ○学習のまとめをし、冬休みの計画を立てよう。	・職業と卒業後の進路について	授業参観 (全クラス=教科道徳) 計算コンテスト 終業式 冬季休業	1
	男女の人格の尊重	B-4	○相互理解、寛容	p.66～69						1
	差別を許さない心	C-2	○公平、公正、社会正義	p.160～163 230～236						1
1	個性や立場の尊重	B-4	○相互理解、寛容	p.72～75	・美術 人と芸術の関わり ・総合 職業と卒業後の進路について	・専門委員会⑧ ・学活「卒業までの生活」	○新しい希望をもち、自主的・自立的な行動を心がけよう。 ○新年の抱負をもち、目標を再確認しよう。	・職業と卒業後の進路について	始業式 スベリングコンテスト 学年末期末テスト	1
	人間への慈しみ	B-1	○思いやり、感謝	p.54～57 59						1
	奉仕の心	C-4	○勤労	p.172～175						1
2	自分の生き方	A-1	○自主、自律、自由と責任	p.22～25	・国語 誰かの代わりにわたしを東ねないで ・音楽 くらしと音楽 ・美術 卒業制作 ・家庭 わたしたちと家族 ・社会 新たな時代の日本と世界 ・総合 職業と卒業後の進路について	・専門委員会⑨ ・生徒会総会 ・学活「中学生活のまとめ」	○友情を深め、更に協力性のある学級・学年をつくろう。 ○学習環境を整え、授業に真剣に取り組もう。	・職業と卒業後の進路について	I期選抜試験	1
	人類への愛	C-9	○国際理解、国際貢献	p.214～217						1
	公的モラル	C-1	○遵法精神、公德心	p.148～151						1
	命をいとおしむ	D-1	○生命の尊さ	p.102～105						1
3	自然を守る	D-2	○自然愛護	p.114～117	・英語 Let's Read! An Artist in the Arctic ・理科 地球と私たちの未来のために	・学活「明るい将来へ」	○1年間を反省し、新しい生活に備えよう。○落ち着いて学習に取り組む、学年のまとめをしよう。	・職業と卒業後の進路について	卒業証書授与式 II期選抜試験 III期選抜試験	1
合計										35

道徳教育の学級における計画  
全体指導計画

保護者の願い  
いじめや差別のない安心でき  
る環境で、個々のよさを十分  
に伸ばしてほしい。

教師の願い  
自分のよさと他者のよ  
さを認め、高め合える  
集団をつくりたい。

学級の生徒の実態  
進路表現に向けて意欲的に何事にも取り組むことができる生徒が多い  
が、中には自分の意見を消極的にしか表現できない生徒もいる。

学級目標  
『向日葵のようにポジティブな未来に向かって花開け!!』  
知：夢に向かって頑張るクラス  
徳：行事に燃えるクラス  
体：笑顔で生活できるクラス

学級における道徳教育の基本方針  
・自分の価値と他者の価値を認め、高め合える生徒の育成  
・命の大切さを理解し、安全に生活しようとする生徒の育  
成  
・集団の中で自己を生かし、責任や役割を果たせる生徒  
の育成  
・規範意識を持ち、自浄作用のある集団の育成

目指そうとする学級  
最高学年として自尊を深め、進路実現  
に向けて互いに切磋琢磨しあえる学級

全体の重点目標  
学年としての自尊を深め、自主自律の精神を重んじ、自  
分の行動に責任を持つ生徒を育成する。  
○自他の人格を尊重し、時と場に応じた礼儀作法を身につけさ  
せる。  
○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する  
態度を育てる。  
○集団の一員としての自尊を深め、集団生活の向上に努める精  
神を養う。

年間指導計画

各教科における道徳指導の重点  
総合学習の時間における道徳指導の重点  
○課題への取り組みを通して、自分の生き方を活かす態度を養う。  
○さまざまな人との関わりを通して、自己を見つめ、互いに認め合うことの意義に気づき、自ら進歩  
の価値を高めようとする態度を養う。

道徳の時間  
・道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基礎と  
なる道徳性を養うこと。  
・道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事  
を（広い視野から）多面的、多角的に考えること。  
・自己の（人間としての）生き方についての考えを学習を  
通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て  
ること。

特別活動  
学級活動：学級における諸問題の解決を通して進路感を養う。望ましい人間関係や健全な生活習慣を養う。  
生徒会活動：協働・責任・奉仕・友愛などの精神を養う。望ましい人間関係や健全な生活習慣を養う。  
部活動：自主・自発的な活動を通して、集団の成員としての自尊と責任感を養う。  
部活動の伸びと書かぬ心を養う。目標に向かって粘り強く活動する態度を養う。  
学校行事：各学年を通して、自主的探求的進路感を養う。  
集団の一員としての自尊を高め、公正に行動し、協力して責任を果たす態度を養う。

学校生活における豊かな体験  
・言語環境を整え、様々な言語活動を通して豊かな心を養う。  
・清掃などの活動を通して学校を愛する心を培う。  
・職場体験活動を通して、勤労の喜びや夢の実現への意欲を育てる。  
・ボランティア活動を通して地域に役立つ人間の育成を図る。

基本的な生活習慣に関する内容  
・自己肯定感を高めるとともに、他者を認め尊重する心を育てる。 A-1  
・やるべきことをやり、自分の役割と責任を果たせるようにする。 A-3  
・挨拶・返事など社会生活に必要な素養を身につけさせるとともに、きまりを守  
り的確に善悪の判断ができる心を育てる。 C-6

家庭・地域社会との連携に関する内容  
(1) 家庭との連携 ○宿業参観 ○学級・学年PTA懇談会 ○三者懇談 ○学校諸行事 ○PTA委員会開催  
○学校より「清冊」、学年・学級により、PTA報誌「やまびこ」の発行  
(2) 地域との連携 ○地区5小中学校・地区小中学校合同連絡会 ○青少年健全育成会などの連携  
○地域諸行事への参加 ○職業講話・講演など

<指導の反省>

1

2

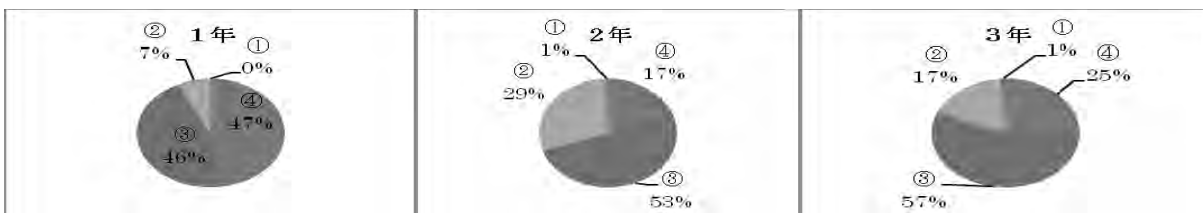
3



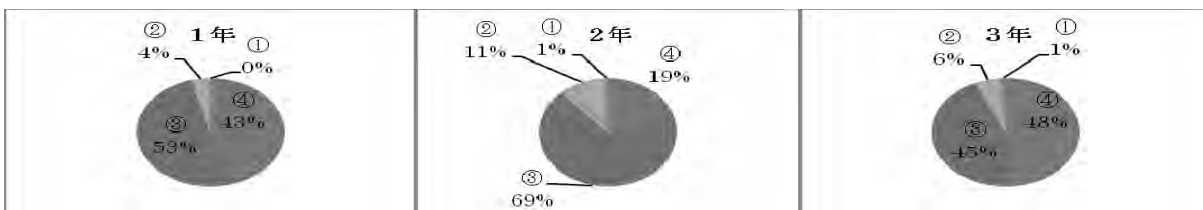
道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考えている。

④そう思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない

6月



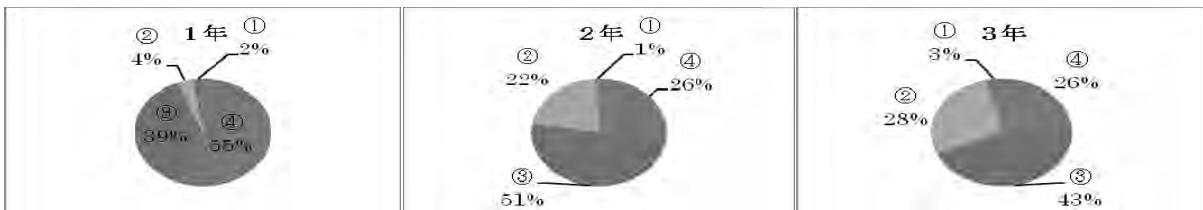
12月



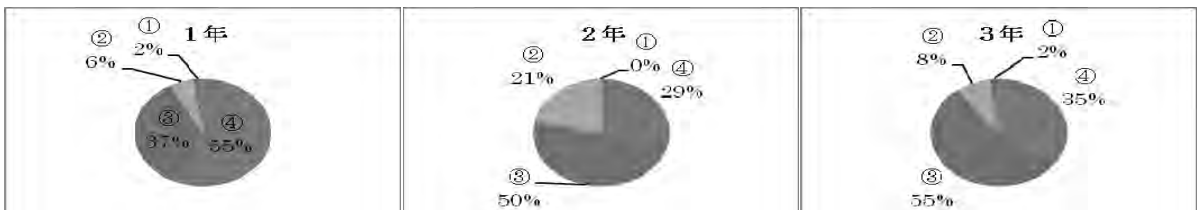
社会人になっても、自分たちの地域や福島県のためになる仕事をしたいと思う。

④そう思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない

6月



12月



自分にはよいところがあると思う。

④そう思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない

6月



12月



第1学年1組 道徳学習指導案

日時：平成29年 5月16日(火)5校時  
場所：1年1組教室 指導者：佐藤かおり

- 1 主題名 『いろいろな立場や考え』 内容項目 B-1(9) 相互理解・寛容 (人との関わり)
- 2 資料名 『スリーテン』出典：問題解決型の道徳授業～ブラグマティック・アプローチ～ 柳沼良太 著 (明治図書)
- 3 主題設定の理由
  - (1) 教材観  
寒い冬の朝に10人の乗客を乗せたバスが途中で故障して動かなくなってしまう。代えの小型バスが来るが、そこには7人しか乗れない。そこで、「どの7人を優先してバスに乗せるか」が問題となる。乗せる基準としては、弱者優先、自分優先、重要人物優先、任意の選出などが考えられる。また、単に見かけだけで相手を判断する場合と、登場人物の早く乗りた理由を聞いた上で判断する場合で、選定が異なる点にも注目する。
  - (2) 生徒観  
男子15名、女子18名、計33名の学級である。全体的には明るく元気で、人なつこい生徒が多く中学校生活を楽しんでいる。一方で、考えが幼く、その時の感情がそのまますぐ言動に出てしまうため、小さなトラブルが起きたり、落ち着きのない生活や集中できない学習態度に表れたりする生徒もいるのが現状である。エゴグラムの調査ではFC(自由奔放な子供の部分)やNP(やさしい母親的な部分)の要素が高い生徒が多い。
  - (3) 指導観  
資料に即したねらいは、『スリーテンの問題を考えることで、他者の立場や言い分を理解し、他者の欲求や権利を尊重しながら問題解決する能力を養う』である。仲間の考えを互いに共有することを通して、自分のことだけでなく周りのことにも目を向け、他人の立場になって物事を考え、行動することのきっかけとなる授業になればと思う。

- 4 指導計画
 

本価値内容・項目の総時数 B-1(9) 総時数1時間

  - (1) 事前指導 エゴグラムの調査
  - (2) 関連資料 「私たちの道徳」p.72~75
  - (3) 事後指導 ①道徳通心の発行 ②「私たちの道徳」の家庭での活用
- 5 本時のねらい
 

人にはいろいろな考え方があることを理解し、それぞれの個性や価値観を尊重しながら問題解決する能力を養う。
- 6 キャリア教育と本時の関連
 

人間関係形成・社会形成能力：コミュニケーションスキルを身に付ける学習活動の工夫  
○教材との出会いを工夫し、生徒の興味・関心を高め、問題解決に向かう問いや思い・願いを引き出す。【視点1】

課題対応能力：主体的に学びを深める学習活動の工夫  
○学習課題と生活経験を関連づけながら自分の考えを持ち、話し合いによって考えを広めることができるようにする。【視点2】

自己理解・自己管理能力：自己肯定感を高める学習活動の工夫  
○自分の言葉でまとめる振り返りの時間を確保し、「自分のよさ、共に学ぶよさ」を意識させることで自己肯定感や所属感、新たな学びにつながるようにする。【視点3】

7 学習過程

階	学習活動・内容	時間	教師の支援	評価(評価方法)
導入	1 旧『心のノート』p.54の奇妙な鳥の絵について話し合う。	5	○鳥の解釈を通して、いろいろな見方や考え方に気づかせ、主題への関心・意欲を喚起する。【視点1】	
展開(前段)	2 資料「スリーテン」を読み、状況や問題を確認する。 発問1 あなたはどのようなようにして乗せると乗せない人を決めますか。	25	○机間指導で意見を把握する。 ○記入が滞っている生徒には状況をつかませて、判断を促す。	
	3 自分の意見を表示するために、黒板にネームプレートをはり、賛成か反対かという立場を明確にする。 4 意見交流をする。 ① 生活班を作る。 ② 班長から順に一人一人意見を発表する。 ③ 仲間の意見を聞き、メモをとる。 ④ 全員の発表が終わったら、質疑応答を行い、さらに意見交流をする ⑤ 班単位でバスに乗らない3人を決定し、発表する。 ⑥ 意見交流後の自分の考えをまとめる。		○「賛成」「反対」の立場を明らかにし、必ず理由を書かせるようにする。 ○黒板にあらかじめ「賛成」「反対」を板書しておく。 ○話し方と聴き方の確認をする。 ○ワークシートに記入したことを発表させるだけでなく、発表後は意見に対する考えや質問も自由に発表させる。 ○各班の人数の理由を大切に取上げる。班同士の意見交流も大切にす。【視点2】 ○意見が変わった生徒を把握する。	
展開(後段)	5 「早く行きたい理由」を読んで、再度考える。	15		○意見は変わらなくても、理由が変わったり付け加えがあったりする場合、ワークシートに記入させ、思考の広がりや深まりを表明させる。 意見交流前よりも、思考の広がりが深まりについて、より詳しく記述できたかを評価する。(ワークシート)
	6 学習活動をふりかえる。	5		○意見交流を通して考えが広がりが深まったことを評価する。【視点3】 ○私たちの道徳を活用し、いろいろな見方や考え方を知ること、価値の深化を図り、終末に余韻を持たせる。 ○記述の内容や授業の様子は、道徳通心等で紹介し、保護者にも発信する。
終末				
8 成果と課題				○生徒の学びの姿がよい。学校が落ち着いている。 ○指導案に授業者の意図が現れており、主体的に話に取り組んでいた。 ○導入とまとめに生活体験との関連があった。 ○生徒自身が動いて意見表明をするなど可視化の効果が現れていた。 ●時間と活動のバランスが取れるとよい。



7 学習過程

段階	学習活動	時間	形態	教師の支援 【評価（評価方法）】
導入	1 資料の写真を提示し、募金活動についての理解を深める。 2 資料「ヒューストン日本語補習学校だより」を読み、登場人物の考えや行動に自分の思いを問わらせる。 【疑問1】なぜ「僕」はもやもやとした気持ちになったのか。 ・楽しそうに活動する友人の輪に入れない ・洗車に参加したいけどできない ・自分は集団の一員でない 【疑問2】なぜ「僕」は土曜日を待ち遠しく思っていたのか。 ・実際に行動したことで集団の一員になることができた ・友人の輪に入ることができ、居場所を見つけた 【疑問3】毎日の学校生活をより良くするために、集団の一員として自分ができることは何だろうか。	5 20	一斉 一斉	○教師の支援 ○日本と海外の募金活動の違いを知り、資料の場を具体的に想像できるようにする。 ○資料を読んで登場人物の心情に自分の思いを重ね合わせ、ワークシートに記入させる。 ○「僕」の中にある迷いや気持ちの葛藤について考え、心情の背景について理解を深める。 ○「僕」が所属している集団を認識し、その集団の一員として行動したことに変化した気持ちを考えさせる。
展開	3 各班での意見交流をする。 (1) 各自ワークシートに記入する。 (2) 班でワークシートの意見を出し合い、実践可能なものを短冊に記入し、黒板に貼っていく。 4 各班で発表を行う。	20	個別 全体	○所属している集団について確認をする。 ○現在の学級できていること、伸ばしたいことなど自由に考えさせる。 ○個人の考えをワークシートに整理し、記入させる。 ○班での意見交流を通して、ねらいに対する考えを深めさせる。 ○所属している集団への理解を深め、生活向上への取り組みを個人や小集団の中で考えることができる。 【視点2】
終末	5 教師の話聞き、学習活動をふりかえる。 (1) ワークシートに本時の授業を通じて考えたことや感想をまとめさせる。	5	全体	○学級での生活の様子から実際に生徒が役割を果たしている様子について話し、生徒の意欲を高める。
8 成果と課題	○話し合いや意見交流を通して、集団生の一員として学校生活の向上のために日々実行できることを考えることができた。 ○学級の取り組みを振り返りながら、学級として達成したい目標を立て、今後の学校生活の見直しを持つことができた。 ●価値理解が不十分なため、見当違いな意見を書く生徒も数名見られた。資料の把握と追求を行う段階で、集団の一員として変化していく主人公の心情を深く考え、時間を取れると良かった。			

第2学年2組 道徳学習指導案

日時：平成29年 7月13日(木) 3校時  
場所：2年2組教室 指導者：小泉 祐佳

1 主題名 『集団生活の充実』内容項目 B-3

2 資料名 『ヒューストン日本語補習校だより』 出典：ふくしま道徳教育資料集 第II集より

3 主題設定の理由

(1) 教材観

本資料では、ヒューストン日本語補習校に通うことになって間もない主人公が、東日本大震災への義援金活動を通して、補習校の一員としての自覚を深めていく様子から、集団の一員としての在り方を考えることに適している教材と考えられる。主人公の思いに共感させるとともに、集団に所属して生活していることを意識させ、集団生活の向上に、個人や集団として日々実行できることを考えさせたいと考える。

(2) 指導観

男子14名、女子13名、計27名の学級である。男子は明るく、活発で授業内での発言も多く見られる。しかし、自分の意見を相手に伝えることや、議論をすることは苦手である。女子は、思いやりのある優しい生徒が多い。自分の考えを持っている生徒が非常に多いが、発表するとなると消極的な一面があり、周囲の目を気にして行動する生徒が多い。学級全体としては、優しくルールを守る生徒が多い一方で、相手の立場になって気持ちを考えることができず、自分勝手な行動をする場面が多々みられる。

(3) 生徒観

生徒は学校内外の集団で積極的に活動している。一人ひとりが集団を構成する一員として互いを大切にすると人間関係を育み、学級での自他の立場に目を向け、利己心や狭い仲間意識を克服し、責務を積極的に果たすことが求められる。本時での学びを通して、今までの生活で集団のために自分自身が行ってきたことを振り返り、よりよい集団生活のために今後どのようなことができるのか具体的に考えさせ、道徳的実践力を高めたい。

4 指導計画

本価値内容・項目の総時数

総指導時間1時間

5 本時のねらい

自己が属する集団への理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を育成する。

6 キャリア教育と本時の関連

課題対応能力：主体的に学びを深める学習活動の工夫

○学習課題と生活経験を関連付けながら自分の考えを持ち、話し合いによって考えを深められるようにする。 【視点2】

第1学年3組 道徳学習指導案

日 時：平成29年 9月21日(木) 4校時  
場 所：1年3組教室 指導者：水野 泰明

1 主題名 人のやさしさ「B-3 友情・信頼」

2 資料名 「言葉の魔法」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について円滑でよりよい人間関係を築きながら社会生活を営んでいくためには、互いを理解し合うことが非常に大切である。しかし、日常生活の中では相手の印象やちよつとした言葉や態度の行き違いから、互いに傷つけて気まずい関係になってしまうことも起こりがちである。毎日の生活の中で、相手を思いやる気持ちを大切にし、誰に対しても優しい言葉遣いやふるまいができる力を身につけさせたい。

(2) 生徒観

穏やかで心の優しい生徒が多く教師の言葉かけを素直に受け止める様子が見られる。教師が教室の整頓をしていけると進んで手伝う生徒もいる。また、相手の立場になつてものごとを考えたり他の人に迷惑をかけてはいけないという心を持つ生徒もおり、話し合いの場面で他の生徒の意見に素直に耳を傾ける様子が見られる。しかし、一方で、友だち同士の間でふざけて暴言を吐いたり相手をけなして楽しんだりする生徒もいる。そこで本時の授業を通して人間関係を通ずるためには、相手の理解し思いやる心が大切であることに気づかせたい。

(3) 指導観

指導にあつたのは、資料「言葉の魔法」を活用し、二つの場面に分けて生徒に読ませる。二つの場面の「私」の心情の違いに気づかせることを通して、言葉の持つ力や相手を理解し思いやる振る舞いの大切さを考えさせるのに適切な資料であると考ええる。導入では、学校生活の様子を想起させ、友だちと楽しく過ごした時のことについて振り返らせることでねらいとする価値への方向付けを図る。展開段階では、資料①を範読し、その場面について気持ちを書かせる。中心発問では、登場人物の心情の変化に気づかせる。終末では、資料②についてワークシートを活用し、考えをまとめていく。相手の気持ちを理解し、思いやりを持った言葉づかいや行動とはどういうものかを考えさせ、言葉の大切さについて振り返らせたい。

4 学習指導計画 (総時数 1時間)  
言葉の魔法 (「第36回人権作文コンクール県大会入賞作品」)

本時のねらい

言葉のやり取りで温かい人間関係をつくることを実感し、他の人々に対して思いやりの心を表現しようとする態度を育てる。

5 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	形態	教師の支援 評価(評価方法)
導入	1 友だちと楽しく過ごした時のことについて振り返る。	5	一斉	○ 教師の支援 ○ 学校生活の様子を想起させ、ねらいとする価値への方向付けを図る。
展開	2 資料①を黙読し、物語の内容を理解する。	40	個人	○ 題名を伏せた資料①を読み、場面の様子をつかませる。
	3 範読する。		集団	○ 主人公の気持ちになつて、話し合いたいところを考えながら聴き、話題の整理と確認を行う。
	4 資料①を聴いて、心に残ったことを発表する。		個人	○ 場面の様子について問いかけ、登場人物の心情を考えさせる。 ○ 生徒の発表を板書する。 ○ 生徒の心に残ったところを中心に話題を整理し話し合わせる。
	【中心発問】 「私はハツとした。」とありますが、私は、なぜ、ハツとしたのでしょうか。		小集団	○ 「ハツとした」登場人物の気持ちの変化に気づかせる。
	5 「私」の心の変化について話し合う。		個人	○ 中心発問により登場人物の心情の変化について考えさせ、ワークシートに書かせる。 ○ 生活班で心の変化について発表し合う。
終末	6 資料②を読み、感想を書く。	5	個人	言葉のやり取りで温かい人間関係をつくるために考えを深めている。(観察・ワークシート) ○ 資料①②を読み、登場人物の心情の変化を基に、自分の素直な考えを書かせるようにする。

6 成果と課題

- 人権作文コンクールの作品を使用することで生徒が身近な題材として捉えることができ、実生活を振り返りながら、活発に話し合うことができた。
- 中心発問により登場人物の心情の変化について、個人や小集団で考えを深めることができた。
- 人関係の温かさや心の表現についてもっと深く踏み込ませるためには、資料にじっくりと向き合わせる時間が必要だった。
- グループで活発に交流することができたが、それらを整理し自分の考えをまとめるためには場の設定やワークシートに工夫が必要だった。

第3学年4組 道徳学習指導案

日時：平成29年 9月21日(木) 4校時  
場所：3年4組教室 指導者：長峰 瑞花

1 主題名 公徳のモラル「C-1 遵法精神、公徳心」

2 資料名 「缶コーヒー」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

私たちが社会生活を安全・安心して営んでいくためには、法・きまりがある。実社会の中では、一人一人が社会全体に目を向け、お互いが安心して生活できる社会をつくっていくこととする社会連帯の精神、そして法を守る精神である公徳心を持つことが必要不可欠である。中学3年生という義務教育最後の学年を迎えるこの時期に、これまでの様々な体験や経験を通して、「私」を大切にすることを「公」を大切にすることを心づけて考えを深めさせたい。

(2) 生徒観

男子15名、女子15名の、計30名の学級である。音楽科の授業からは、クラス全体で取り組むことに集中力があり、落ち着いた様子が見受けられる。校内体育祭では、クラス全体が一致団結し、全員で決めた目標に向かって努力する姿勢がある。一方では、相手の立場を考えず思ったことを素直に発言してしまう生徒も見られ、周囲に不快感を与えてしまう様子も見られる。自分も、相手も、お互いが気持ちよく生活できるよう、マナーを守って行動する大切さに気付かせたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、資料「缶コーヒー」を活用する。先週修学旅行を終えたことを踏まえ、導入では、ボスターの3枚を提示し、それらの共通点は何かを考えさせ、本時のねらいにせまされる。展開では、物語の場面が描かれている2つの絵を使い、登場人物の心情を考えさせ、どのような場面であるかを想像させる。その後、物語を読み、場面の問題点を考えさせ、どのように行動したら物語や絵のようにならないか、思考を深める。終末では、個人でマナーを守ることはどういうことか、これをまとめ、これからどのようなマナーに気をつけていきたいか考えを深める。

4 学習指導時間 (総時数 1時間)

「缶コーヒー」(神奈川県道徳授業研究会)

本時のねらい

お互いが安心して生活できる社会をつくるためにはどのような行動すればよいかを深める。

5 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	形態	教師の支援 評価(評価方法)
導入	1 3枚のボスターから呼びかけている共通点を見つける。	5	一斉	○ 共通点が「マナーを守ること」であることに気付かせ、ねらいにせまされる。
展開	2 絵(1枚目)を見て、2人の登場人物の心情を考える。	40	個人	○ 資料は読ませず、絵から登場人物の心情を想像させる。
	3 絵(2枚目)を見て、2人の登場人物の心情を考える。		個人	○ グループごとに発表させ、板書でまとめる。
	4 2つの絵はどのような場面かを想像する。		小集団	○ 2つの絵から登場人物の心情の変化や場面を想像しているか。(観察)
	5 絵の場面が書かれた物語を読み、問題点を見つける。		小集団	○ ホワイトボードに問題点を書かせ、発表を通して多様な意見を照らし合わせる。
	【中心発問】 どのように行動したら、物語や絵のようにならないかならなかつたらどうだろうか。		小集団	○ 中心発問により思考を深めさせ、マナーを守るということは、自分のためだけでなく、相手のことも考えて行動することであることを気づかせる。
6 3人の登場人物がどのように行動したらよいかについて話し合う。	小集団	小集団	○ お互いが安心して生活できる社会をつくるために、どのような行動したらよいか真剣に考えている。(ワークシート)	
終末	7 マナーを守るとはどういうことか、これをまとめ、これからどのようなマナーに気をつけていきたいか考える。	5	個人	○ 本時で感じたこと・考えたことを踏まえ、学校生活、日常生活において気を付けたいマナーを考えさせ、本時の学びを振り返らせる。

6 成果と課題

○ 主体的・対話的な学びを目標に学習過程を構成し、課題に対し個人で向き合う時間と、小集団で向き合う時間を取り入れることで、様々な考え方や物事のとりえ方を全体で共有することができた。

○ 読み物による学習ではあったが、読み物を資料にせず、2枚のイラストを活用した。吹き出しを考え、それぞれの登場人物の心情を考えることでできた。

● 教師側の見取りが浅かったため、意図的な発問や生徒一人一人の考えを深めることができなかつた。

第3学年4組 道徳学習指導案

日時：平成29年11月8日(水) 5校時  
場所：3年4組教室 指導者：横山紀美枝

1 主題名 『命を見つめ命を支える』 内容項目 D-1(1) 生命の尊さ・生さることの大切さ

2 資料名 『トリアージ』：～問題解決型の道徳授業～

3 主題設定の理由

(1) 教材観

近年社会の変容とともに生活様式も大きく変化し、自己の生命に対するありがたみや自分の命が多  
くの生命とかかわって存在していることを感じ取る経験が少なくなっている。本時では、災害医療の  
現場において行われるトリアージを題材として困難な状況下での医療の難しさ、生命の尊さ、生さ  
ることの意味などを考えさせ、生徒の「命」に対する価値観に揺さぶりをかけたい。

(2) 生徒観

本学級は30名(男子15名、女子15名)であり、全体的には明るく、人なつこい素直な集団で  
あり、落ち着いて生活している。最高学年として様々な行事を通して人と人の関わり合いを大事にし、  
相手を思いやること、他者の気持ちを考えることが徐々にならなくなってきている。どの生徒も  
学校生活や部活動を通して培われた自己の存在意義や自己肯定感を持ちながら生活している様子  
が見られる。

しかし、その一方で考え方が幼さなく、相手の立場を考えずに思ったことを素直に発言してしま  
い周囲に不快感を与えてしまったり、広い視野を持たずに主観的に物事を据えてしまったりする生徒  
もいる。

5月の道徳のアンケートにおいて、生命尊重に関する項目ではクラスのほとんどの生徒が自分の命  
や他人の命は大切だと思つて答えている。将来、人のために尽くす仕事や、社会人になったら地域や  
福島県のために貢献をしたいと思ふかという項目では、今のところまだわからないと答える生徒がク  
ラスの半数程度いる。このことから、本時では震災に関する内容に触れ、命の大切さを自覚させ、考  
え、心に揺さぶりをかけることで郷土や命を大切にすることを育てたい。

(3) 指導観

近年、人の生死を遊び感覚で扱うゲームサイトやマンガ、小説などが現れるなど、現実、非現実が  
混交し、「命の大切さ」や「命の尊さ」を考えさせる事件などがしばしば起こっている。命はかけが  
えのないものであって、決して軽たく扱われてはならない。生命を尊ぶことはかけがえのない命を  
愛おしみ、自らもまた、多くの命によって生かされていることを自覚することである。今年度  
は、ゲストティチャーによる道徳の授業において、東日本大震災について被災した方の話を聞いたり、  
映像をみたりして、生命の尊さ、人間の強さや気高さを感じ取っている。このような取り組みのもと  
に、自分の生命と他者の生命の関わりに気付かせ、かけがえのない自己の生命を尊重し、社会に貢献  
できる態度を養うことが重要であると考える。

近年、医療技術の進歩に伴い人の命をどう据えるのか、議論になることも多い。科学の進歩が著し  
い社会の中で、自分の生命をどのように生きていくのか、他の人の生命と、どのように関わって生き  
ていくのかを考えるのは大切なことであると考えた。

4 指導計画

本価値内容・項目の総時数 D-1(1) 総時数3時間/3

(1) 事前指導 道徳アンケート 5月・12月

- ① ガストティチャーによる講演・・・東日本大震災からの復興～保健室から見えたこと～
  - ② ガストティチャーによる講演・・・東日本大震災からの復興～地元ふくしまの子どもたちに期待すること～
- (2) 関連資料 ドラマ「コードブルー2nd 10話」  
「災害現場でのトリアージと応急処置」山崎達枝著 日本看護協会出版会

(3) 事後指導 ①学級通信の発行 ②道徳アンケート ③授業参観(道徳)

5 本時のねらい

人の命とどう向き合うべきかを議論し、命の大切さを自覚させ、命に対して、考えることができる。

6 キャリア教育と本時の関連

人間関係形成・社会形成能力：コミュニケーションスキルを身に付ける学習活動の工夫

- 教材との出会いを工夫し、生徒の興味・関心を高め、問題解決に向かう問いや思い・願いを引き出す。 【視点1】

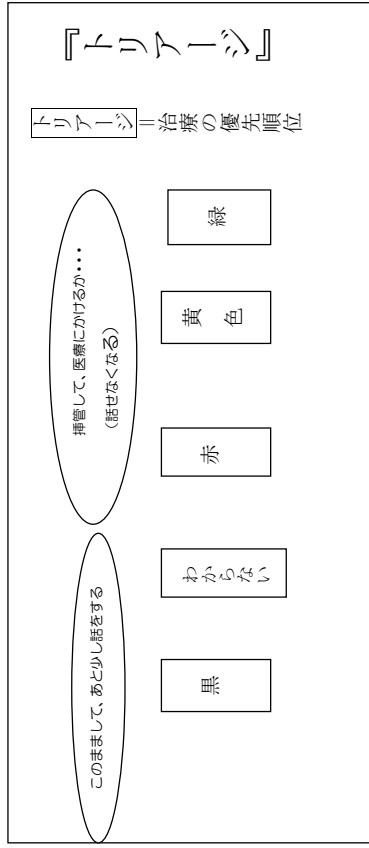
課題対応能力：主体的に学びを深める学習活動の工夫

- 学習課題と生活経験を関連づけながら自分の考えを持ち、話し合いによって考えを広めることができるようにする。 【視点2】

自己理解・自己管理能力：自己肯定感を高める学習活動の工夫

- 自分の言葉でまとめる振り返りの時間を確保し、「自分のよさ、共に学ぶよさ」を意識させることで自己肯定感や所属感、新たな学びにつながるようにする。 【視点3】

7 板書計画



8 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	教師の支援 評価(評価方法)
導入	1 ドラマ「コードブルー」をみる。(編集)	5	音	○教師の支援 評価(評価方法)
	2 発問1 どんな場面でしたか? (何をしていましたか) ・けがの治療 ・タグで治療の順番を決めている。 ・飛行機事故が起こり悲惨な状態。			○主題への関心・意欲を喚起する。
	3 「トリアージ」の説明をする。	5	音	○災害の現場で最大限の医療と、ひとりでも多くの人の命を救うために必要なことを説明する。
	4 発問2 あなたは医師です。夜中に、あなたが1人しかない時に「重症患者」と「軽症患者」と、どちらを優先しますか。	5	劇	○ワークシートに記入させる。
	5 発問3 では、同じくあなたが1人しかない時に「もう手の施しようがない患者＝苦しんでいる」と「重症患者」が同時に入ってきたらどちらを優先しますか。			○問2、問3については考えを挙手で確認する。
展開(前段)	6 「コードブルー」の一場面をみる。(編集)	5	劇	○記入が滞っている生徒には状況を理解させ、判断を促す。
	7 実際に「トリアージ」をおこなわせる。	25		○赤タグ、黒タグを配布する。
	発問4 今の場面で、あなたなら実際にどの札をつけますか。また、理由も書いてください。			○考えがまとまったら、赤タグ、黒タグ一方を胸ポケットに入れさせる。
	○このまましてあと少し話をするか・・・ ○挿管して医療にかけるか・・・ (話せなくなる)	○黒板にタグと同色の色を提示し、自分が選んだ色の下にネームプレートを貼らせ、全体の傾向を確認する。		
展開(後段)	8 ワークシートに自分の考えを書く。	5	筆	○机間指導で意見を把握する。
	9 意見交流をする。			○ワークシートに記入したことを意見交流させる。
	①赤タグ、黒タグに分かれて意見を交流する。 ②仲間の意見を聞く			○発表では意見に対する考えや質問も自由に発言させる。
10 赤タグ、黒タグに分かれてそれぞれの考えを討議させる。				【視点1】 ○互いの思い、考えを尊重し合えるような働きかけをする。
	③自席に着席させる。 ④意見交流後の自分の考えを振り返る。			【視点3】 ○意見交流を通して考えが広がり深まったことを評価する。

1.1 「コードブルー」の続きを読む。(編集)	10 筆	○もう一度同じ質問をすることで命に 関して掘さぶりをかける。 【視点2】 意見交流前よりも、思考の広がり や深まりについて、より詳しく記 述できたかを評価する。(ワークシ ート)
1.2 東日本大震災の時に実際にトリアージ をおこなった病院の様子を話す。		○東日本大震災時のトリアージをおこ なった病院の様子を話すことで生き ることの大切さを考え、この授業の 余韻を持たせる。
1.3 今日の授業での感想を書く。		○何人かに発表させる。

9 成果と課題

- 受容的・支持的風土のある学校がつくられており、道徳の授業の基盤ができています。
- トリアージタグの具体物の使用は効果的であった。
- 自分の立場を明らかにするために、赤・黒・白のタグの工夫は効果的であった。
- 意見交流では、生徒たちが主体的に動いて意見交流する姿が見られた。1学期からの「考え、議論する道徳」の実践の成果が感じられた。
- ゲストティーチャーによる2回の講話、日輪祭でのノーラン等の取り組み、担任の経験談等が、今回の授業とリンクしており、生徒たちも「命」について多様な見方や考え方ができるようになってきた。
- 映像資料を活用する場合は、そのリスクも考慮すべきである。
- ドラマの進行上は「奥さんの立場、赤・黒に分けるのは「医師の立場」と明確でない点があったので、発問は十分に検討する必要がある。

## 第2学年4組 道徳学習指導案

日時：平成30年 1月16日(火)5校時  
場所：2年4組教室 指導者：鈴木 秀治

- 1 主 題 名 『友情・信頼』 内容項目 B- (3) 友情、信頼
- 2 資 料 名 『6番目の選手』

### 3 主題設定の理由

#### (1) 教材観

本教材は、自分が所属する部活動でも起こりうる出来事が書かれており、生徒が自分のこととして考えやすい資料になっている。キョウココの言動はスズに対して配感に欠けた自分本位な言動とも言えるが、見方を変えると、共に頑張ってきた仲間と県大会に行きたいという気持ちのあらわれともとれる。話し合い活動により、それぞれの立場について多角的な物の見方をする中で、より高い価値観に到達できるのではないかと考えた。キョウココのとった方法は適切ではないと判断し、マユがスズとキョウココのそれぞれの気持ちを汲んだうえで、能動的に解決に導こうとすることが望ましいと考える。

#### (2) 生徒観

男子13名、女子14名計27名の学級である。ほとんどの生徒は特定の友人がおり、付き合い方もある程度決まっているが、まだ互いに信頼し合い、高め合おうとする関係には至っていない。友人関係が壊れてしまうことに不安を感じ、正しいと思うことを伝えられず、表面的に合わせてしまう生徒が多い。楽しければそれでよいと考える生徒も少なくない。これは規範意識の低さだけでなく、同調圧力に弱く、自己肯定感や自尊感情の低さとも関連しているように思われる。

#### (3) 指導観

中学生の時期は自我の成長と共に、広く浅い友人関係からさらに踏み込んだ結びつきを求めようとする傾向がみられる。相手の表面的な言動だけでなく、内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願い、互いに励まし合える信頼関係を育てることが大切である。また感情の行き違いや考え方の違いからトラブルになったとしても、互いの人格を尊重し、思いやりを持って接することで、より一層深い友情が構築されることにも気づかせたい。さらに話し合い活動で相互理解の場を設定し、自己肯定感や自尊心を高めたい。

### 4 指導計画

本価値内容・項目の総時数 総指導時間1時間

#### 5 本時のねらい

友情の尊さを理解し、友達を心から信頼して互いに励まし合い高め合おうとする道徳的実践意欲を育てる。

### 6 キャリア教育と本時の関連

人間関係形成・社会形成能力：コミュニケーションスキルを身に付ける学習活動の工夫  
○ 教材との出会いを工夫し、生徒の興味・関心を高め、問題解決に向かう問いや思い・願いを引き出す。 【視点1】

### 課題対応能力：主体的に学びを深める学習活動の工夫

○ 学習課題と生活経験を関連づけながら自分の考えを持ち、話し合いによって考えを広めることができるようにする。 【視点2】

### 自己理解・自己管理能力：自己肯定感を高める学習活動の工夫

○ 自分の言葉でまとめる振り返りの時間を確保し、「自分のよさ、共に学ぶよさ」を意識させることで自己肯定感や所属感、新たな学びにつながるようにする。 【視点3】

## 7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	教師の支援	評価(評価方法)
導入	1 アイスブレイキングをする。 2 「6番目の選手」を鑑賞する。	5	斉	○発想、発言しやすさ・雰囲気をつくる。 ○主題への関心・意欲を喚起する。【視点1】	
展開	3 スズの気持ちになっ考える。 発問1 「あなたがスズだったらどうしますか。」 (1) 自分の意見をワークシートに記入し発表する。 ○誰かに相談する。○黙っている。 4 キョウココへの返事を考える。 発問2 「マユはキョウココに何というか、考えてみよう。」 (1) ワークシートに、マユからの返事を書く。 (2) 書いた内容を発表する。 5 黒板にネームプレートを貼りグループに分かれ、意見交流をする。 (1) グループ間で意見交換する。 ○スズと試合に出たい。 ○ミホと試合に出たい。 ○選べない。 (2) 自分の考えをまとめる。	5 25 10	斉 個別 全体	○全員が自分の問題として考えられるように、教人の発表後、挙手で全員の考えを確認する。 ○それぞれの状況を理解したうえででの返事になるような動きかけをする。 ○自分の問題として考えられるように、ワークシートに理由も記入させる。 ○多様な意見が出ていく場合には、別な考えを提示する。 ○グループ間で意見交換し、多様な考えに触れさせる。 ○班内で出た意見を発表させ板書すること で生徒の思考を整理させる。【視点2】 マユの返事から、互いに励まし合い高め合おうとする意欲を高めることができたか。(ワークシート) ○発表できる生徒がいれば発表させる。	
終末	6 教師の話を聞く。	5	個別		○これからの生活の中で実践できることについて目も目を向けさせる。 【視点3】



## 【会津地区】喜多方市立駒形小学校



## 道徳教育推進校《実施報告書》

### 1 学校紹介

学 校 名	喜多方市立駒形小学校
所 在 地	喜多方市塩川町中屋沢字竹屋丙32-1
校 長 名	鈴木 基之
学校の教育目標	豊かな心とたくましい体を持ち、意欲的に学び合う子どもの育成
学級及び児童生徒数	7学級（特別支援学級1） 76名
学校の教育目標	豊かな心とたくましい体を持ち、意欲的に学び合う子どもの育成 ① 心のやさしい子ども ② 進んで学習する子ども ③ 体をきたえる子ども
道徳教育にかかわる取組の概要	道徳科の内容と教育活動全体を通じて行う道徳教育の関連 学習指導要領の理解と授業の改善による道徳的実践力を育成 ボランティア活動等の体験を通じた自立的に行動できる児童の育成

### 2 研究テーマ

他へのよさに気づき、よりよい人間関係を育む指導  
 — 道徳的価値をとらえ、自己の在り方について考えを深める指導の工夫を通して —

### 3 テーマ設定の理由

道徳教育は、よりよく生きる基盤となる道徳性を育成することがねらいである。子どもたちが力強く生きようとする力を育てるための道徳教育の充実を目指し、研究を進めていきたい。

#### (1) 学習指導要領の趣旨から

道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間の役割が明確にされている。このことは、道徳の時間以外で行う道徳教育の重要性とともに、各教育活動において行う道徳教育としては、取り扱う機会が十分でない内容項目に関する指導を補うことや、児童や学校の実態を踏まえた一層の充実が求められていることを示している。各教科等でも重視されているように、学習の高まりや深まりは、主体的に学習に取り組むことによって可能になり、それは、道徳の指導においても例外ではなく、主題に掲げた「考えを深める」学習を進めていくには、道徳の時間における言語活動の充実も求められる。

＜道徳の時間の特質＞ 道徳の時間は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる時間である。

＜言語活動の充実＞ 自分の考えを基に、話し合ったり、書いたりするなどの表現の機会を充実させ、自分と異なる考えに接する中で考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫する。

#### (2) 今日の課題から

平成30年度からの「特別の教科 道徳」の全面実施を踏まえ、道徳教育の一層の充実を図っていかねばならない。

#### (3) 本校の教育目標から

本校では、「豊かな心とたくましい体を持ち、意欲的に学び合う子どもの育成」を教育目標とし、「心のやさしい子ども」「進んで学習する子ども」「体をきたえる子ども」を掲げている。この教育目標の具現化を図るために、学校経営、運営ビジョンでは、「思いやりの心の育成」「学ぶ楽しさの体得」「健康な身体づくり」の充実を目指すことを明記している。すべての児童が、「豊かな人間性・社会性」「確かな学力」「たくましさ」をバランスよく身に付け、未来を切り拓き、生き抜くことができるよう、道徳教育において、道徳の時間を要として、道徳教育の改善・充実を図り、校長の指導方針のもと、道徳教育推進教師を中心として、担任をはじめ、全職員が一致協力して指導することが不可欠である。

#### 4 研究計画

4月	6日 道徳教育推進委員会 17日 道徳教育推進全体会 18日 道徳に関するアンケート実施（保護者、児童、教師用）
5月	15日～19日 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修） 26日 道徳教育推進全体会
6月	2日 福島大学附属小学校研究公開参観 6日 「みんなで 道徳」の協力依頼・実施（第1回） 17日 筑波大学附属小学校研究公開参観 21日 模範授業 講師 福島大学附属小学校 教諭 伊藤 絵美 様
7月	7日 「みんなで 道徳」の協力依頼・実施（第2回） 31日 校内研修（題材の資料分析 1年, 5年, 6年） 講師 会津心の教育を考える会 理事 佐藤 一志 様
8月	2日 校内研修（題材の資料分析 2年, 3年） 講師 会津心の教育を考える会 理事 佐藤 一志 様 3日 平成29年度教育者研究会参加（国立磐梯青少年交流の家） 23日 校内研修（題材の資料分析 4年） 講師 会津心の教育を考える会 理事 佐藤 一志 様
9月	1日 研究協議（事前研究会 2年, 4年） 10日 「みんなで 道徳」の協力依頼・実施（第3回） 13日 道徳教育総合支援事業 道徳教育地区別推進協議会 授業公開 2年・4年 講演 「道徳の教科化に向けた道徳教育の推進」 講師 上越教育大学大学院 教授 早川 裕隆 様 14日 研究協議（事後研究会 2年, 4年） 15日 研究協議（事前研究会 3年, 5年） 29日 学校訪問（指導訪問） 授業 3年, 5年
10月	3日 研究協議（事後研究会 3, 5年） 13日 平成29年度 福島県小学校教育研究協議会 道徳部会双葉大会講演会参加 講演 「道徳科の展開と評価」 講師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様 26日 研究協議（事前研究会 6年）
11月	6日 研究協議会（事前研究会 1年） 9日 模擬授業（6年） 指導助言 福島大学附属小学校 主幹教諭 肥沼 志帆 様 同 教諭 伊藤 絵美 様 17日 福島県教育委員会委託 平成29年度常葉地区人権教育開発事業 人権教育研究 発表会参加 21日 塩川中学校区小中連携授業研究会 授業 1年・6年 講演会 「これからの道徳授業のつくり方」 講師 麗澤大学 講師 広中 忠昭 様 22日 研究協議（事後研究会 1年, 6年）
12月	11日 道徳に関するアンケート実施（保護者、児童、教師用）
1月	10日 授業実践のまとめ 12日 「みんなで 道徳」の協力依頼・実施（第4回）
2月	6日 「みんなで 道徳」の協力依頼・実施（第5回） 16日 道徳教育推進全体会 ・取り組みの反省

#### 5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校の児童は、素直で、物事にまじめに取り組もうとする児童が多い。教師に言われたことに懸命に取り組む。地域は東部に山麓が迫り、そのふもとに田園が広がっている。学区内は19の地区からなり、集落が点在している。児童が互いに集落へ遊びに行く機会は少なく、行く場合は、保護者の送迎による。地区ごとの交流をいかに図るかが、課題である。課題解決のひとつとして、PTA主催による夏祭りが行われ、交流が持たれている。今年で、7回目となる。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針（資料 1-1, 2）

- (1) 学習指導要領の完全理解
- (2) 「特別の教科 道徳」の円滑・確実な実施に資する授業の在り方の研究
- (3) 道徳教育全体計画の検討
- (4) 道徳教育推進教師を中心とした研修の在り方を模索
- (5) 児童の適切な評価の在り方・評価の在り方の研究
- (6) 道徳教育に関する児童、保護者の意識調査
- (7) 家庭と連携し、「私たちの道徳」の資料をもとに、児童と家庭で話し合う機会の設定

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について（資料 2）

- (1) 各学年の重点目標を設定して学習活動や体験活動を実施する。豊かな体験活動として、地域との交流や総合的な学習の時間で実施する農業科への取り組みとの関連を図っている。

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別業」について（資料 3）

- (1) 内容項目と各教科・特別活動などの指導内容の関連を月ごとに分類している。

## 9 平成29年度 学級における指導計画について（資料 4）

- (1) 道徳に関する意識調査の結果を児童の実態や保護者の願いとしてとらえている。

## 10 道徳教育推進教師の実践について

道徳教育を推進するにあたり、道徳教育推進教師として研修主任と協力しながら道徳の授業研究を中心に校内研修を進めてきた。また、研究テーマとして掲げた「自他のよさに気付き、よりよい人間関係を育む」ために全校ふれあいタイムにおける異学年交流を実践した。

- (1) 道徳の時間の充実  
資料の分析をもとに学習問題をとらえ、問題解決的学習を見据えた指導法の在り方について授業の構想を示した。
- (2) 道徳教育の研修の充実
  - ① 研修会に参加し、伝達を通して教職員間で共有し、道徳の時間の指導に対する意識や指導力の向上に努めた。
  - ② 先進校の視察を計画的に行い、「特別の教科 道徳」の授業に実際に触れる機会を作った。
- (3) 生徒指導との関連  
「広げよう 思いやりの輪」と題して、本年度の重点価値項目の一つである「思いやり・親切」に関わる行為の紹介を全校ふれあいタイムに位置づけた。紹介を通して自他のよさに気付くとともに、児童の自己肯定感につながる場を設定した。

## 11 道徳の時間について（資料 5）

### 1.2 成果と課題

- (1) 道徳の時間の学習指導の構想と効果的な指導法
  - 資料の分析から学習問題をとらえ、問題解決的な学習を構想することができた。
  - 資料の分析を通してねらいの価値が明らかになり、価値に照らした授業を展開することができた。
  - 資料の提示の仕方として、1枚絵を提示したり、場面構成法による資料を提示したりするなどの工夫により、児童は容易に資料の内容をとらえることができた。
  - ゆさぶりをかけるなど発問の工夫をすることで、児童は立ち止まって考え、考えを深めることができた。
  - 役割演技などの体験的な学習を取り入れることで実感を伴った話し合い活動をすることができた。
  - 自己を振り返るためのワークシートの児童の書き付けから児童のこれからの在り方をとらえることができ、評価につながりもできた。
    - 役割演技では、児童達が思ったことを素直に言えるような指導の工夫が必要である。
    - 主題やねらいを考えることは重要であり、ねらいをより具体的にすることで評価につなげたい。
- (2) 道徳の時間を充実させるための基盤づくりの工夫
  - 家庭と連携して取り組む道徳教育の工夫として、道徳的問題を題材とした読み物（道徳の授業で使用している副読本から）を児童と保護者で読み、話し合うという「みんなで 道徳」を実践したことは、道徳性を養う土壌づくりとなった。
    - 今後も実施していく中で、保護者の考えを保護者間で共有できるように工夫していく必要がある。

# ～自分の力に気づき、自分に自信を持ち、さらに高め合って かがやけ 駒形っ子～

## 『教育目標』豊かな心とたくましい体を持ち、意欲的に学び合う子どもたちの育成

〈目指す児童像〉

- 心のやさしい子ども ○ 進んで学習する子ども ○ 体をきたえる子ども
- 私たちが常に意識するのは 子どもの資質・能力の育成 ☆ 支援教育の視点

- ① 学ぶ意欲を高めるとともに、「まじめ」を徹底に行い学ぶ実感を高める。
- ② 学習能力を可視化し、教育力のある学校をつくる。
- ③ 「なかくたくタイム」で自己肯定感を高める。

## 【基本方針】

すべての児童が、「豊かな人間性・社会性」「確かな学力」「たくましさ」をバランスよく身につけ、未来を切り拓き、生き抜くことができるよう、学校、家庭、地域が一体となって、適時、適切、適度な指導・支援を行っていく。

### 心のやさしい子ども （思いやりの心の育成）

- 丁寧な、きれいな、やさしいことばをつかう子ども
- 人の気持ちや考えを、理解しようと努力する子ども
- 自他のよさに気づく子ども
- 協力し合い、助け合う子ども
- 読書が好きで、たくさん本を読む子ども
- 物事の善悪が分かり、悪いことをしない子ども
- ・ 授業を核とした道徳教育の改善・充実
- ・ あいさつや返事、言葉遣いの指導
- ・ 交流の場の意図的な設定
- ・ 栽培活動の充実（生活科・農業科）
- ・ なかたくタイムの工夫
- ・ 読書週間の設定と読書の励行

### 進んで学習する子ども （学ぶ楽しさの体得）

- 学び方が分かり、学習への意欲が高い子ども
- 人の話をよく聴き理解し、自分の考えと照らし合わせる子ども
- 基礎基本が定着した子ども
- 自分の考えを説明できる子ども
- 宿題や自主学習など家庭学習を毎日やる子ども
- 読書が好きで、たくさん本を読む子ども
- ・ 分かる、できる実感のある授業の展開
- ・ まとめを重視した授業の展開
- ・ 児童がたくましく話す授業の展開
- ・ 話の聴き方、説明の仕方の指導
- ・ 日々の授業と家庭学習の関連の強化
- ・ 繰り返し指導 ・ 個に応じた指導
- ・ 定着確認シートの活用

### 体をきたえる子ども （健康な身体作り）

- 基本的な生活習慣を身につけ、特に朝ごはんをしっかり食べる子ども
- 目標を持って毎日運動に取り組む子ども
- 運動が好きなお子子ども
- 自分の命は自分で守る強い気持ちを持つ子ども
- 病気を予防し、けがをしない子ども
- ・ 保健指導や食育の充実
- ・ できる実感と運動量のある体育科の授業の展開
- ・ 年間を通して運動に取り組むための目標の設定
- ・ 安全教育（含熊対策）、放射線教育の充実
- ・ 情報機器の適切な活用に関する指導



## 学校、家庭、地域が各々の役割を自覚し、三者の連携による教育活動の展開

駒形小学校は

- ・ 学校教育活動全体を通して、児童が自分の力に気づき、自信を持ち、自分を好きになり、更に友だちと高め合える学校を目指します。
- ・ そのことにより、不登校0、いじめ0、欠席ゼロ100日を目指します。
- ・ 地域と合同で行う活動や保護者や地域との対話を大切に、地域に開かれた学校を目指します。



駒形小学校の教師は

- ・ 常に率先垂範で児童と共に活動します。
- ・ 常に研さんを積み、自己啓発に努め成長し続けます。
- ・ 常に協力し合って、教育活動の充実に努めます。
- ・ もちろん、不祥事など起こしません。常に危機意識を持って教育公務員としての高い倫理観と自律心を堅持します。

### 《児童の願い》

- ・ もっといろんなことができるように、分かるようになりたい。
- ・ 友だちと仲良く楽しく学校生活を送りたい。



### 《保護者の願い》

- ・ 楽しく学校に通ってほしい。
- ・ 確かな学力をつけてほしい。
- ・ あいさつがしっかりとできるようになってほしい。

### 《地域の思い》

- ・ 子どもは駒形の宝だ。
- ・ 地域のことをよく知ってほしい。
- ・ 地域全体で学校を盛り上げていきたい。



【資料1-2】 学校・家庭と連携して取り組む道徳教育の工夫

これまで、地域・家庭との連携を意図し、保護者会や学校評議員会において『道徳授業の参観』を行ってきている。今年度、道徳教育を推進していくにあたり、もう一步踏み込んだ連携の在り方を模索した。

まず、4月のPTA総会時の校長の話の中で、「平成30年度から道徳が教科化されること」「道徳教育をさらに充実させるために、県の道徳教育推進校の指定を受けたこと」を保護者に知らせた。

一方で、保護者、家庭との実際的な連携として、道徳的問題を題材とした読み物（道徳の授業で使用している副読本から）を児童と保護者等とで読み、話し合うという『みんなで道徳』を考案した。

1 『みんなで道徳』の実際

『みんなで道徳』の内容はおおよそ次のとおりである。（保護者宛の文書の抜粋）

（前略）そこで、文部科学省から発行された「私たちの道徳」にある読み物を基に、児童とご家族とで話し合う機会を設定していただきたいと存じます。話し合うと言いましても考えを一致させ何か結論を出さなければならないというものではありません。児童の感想等を肯定的に受け止めていただき、その上で保護者ご家族の方の考えをお話しされる、その話を聞いてまた児童が思ったこと考えたことを話すというような流れでお願いしたいと思います。  
（平成29年6月7日付 保護者宛依頼文書）

NO. 2

## みんなで どうとく

おうちの人と いっしょに どうとくの本を よんでみましょう。  
そして おもったことや かんがえたことを おうちの人と おはなしてみよう。

	2年	なまえ	
よんだ日	7月16日(日)	おはなしの だいいい	森のともたち

おもったこと・かんがえたこと

わたしはにげないでみんな  
といっしょにたまたかうけどにけ  
たいさもちにきなりましたでも  
みんなといっしょにみんながた  
たからるのわたしもたがいたいし

おうちの方から (お子さんの続柄をお書きください) (母)

困っている人がいたら助けてい みんなと一緒に力を  
合せて守りたいと言ったものの、相手がとんでもなくて  
怖かったら、本当に助けられるかなと自分におきかえ  
考えることができ、逃げたくはる自分もいるかもしれないこと  
を認めることができました。その自分とどう向き合えば助けら  
れるかを考えて行動していきたいなと思います。

ありがとうございました。7月19日(水)まで担任にご提出ください。

[みんなで どうとく 2年生]

NO. 3

## みんなで 道徳

おうちの人と一緒に道徳の本を読んでみましょう。  
読み終わったら、思ったことや、考えたことをおうちの人とお話ししましょう。

	学年 6年	氏名	
読んだ日	10月2日(月)	お話の題名	ぼくは後悔しない

思ったこと・考えたこと

わたしは後悔したことが何度もあります。例えば  
「おれ、したらなあ。もっと上手にぞきたのと思、たことば  
とんどです。でもこの話は後悔をしておいことば書か  
れてました。この話から、友達からこを言わないではなくて  
友達からこを言えておれたいと思、ました。わたしも  
友達からこを言えるようになりたいです。

おうちの方から (お子さんの続柄をお書きください) (母)

自分の友達に嫌われるかもしれないと思ってしまうと  
思、た事と言えないような時もある。でも自分が正しいと  
思、た事は伝える必要がある。後悔をしない為に勇気と  
持っていてほしい。自分の気持ちを素直に伝える  
ようになってほしい。

ありがとうございました。10月10日(火)まで担任にご提出ください。

[みんなで 道徳 6年生]



家庭で道徳教育を行ってもらうことが目的ではない。あくまでも、児童が道徳性を養うための土壌づくりであり、学校教育に対する保護者等の興味・関心の喚起でもあり、学校と家庭の一体感を家庭、学校それぞれが具体的に味わうものである。

読み物の決定は、各学級担任が、それぞれの学級の状況や授業の内容等を考慮して決定し、土日を挟んだ1週間の間で保護者等の都合のよい時に実施してもらうようにし、12月までに3回実施した。

回収した『みんなで 道徳』は、児童と保護者の感想等について、改めてプリントに起こし、全教職員でその内容を共有した。

## 2 成果

始めたばかりの実践であり、これが成果であるとはっきり示すことは難しいが、保護者等の感想を載せ現在の状況としたい。

<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【母】) 4年</p> <p>今日の方、自分も道徳を勉強したので、この本を一緒に読ました。          心奪んでおくと、自分も一緒に読んで、私も読んであげたいと思いましたが、          身体も使うのが好きだったので、98歳のおじいさんの話、(心に)          5分ほど読んでおいた。偉いおじいさん、おじいさん          ほんまに偉い。</p>	<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【母】) 4年</p> <p>子供には、「思いやり」を感じてもらって          するのはうれしいです。自分はその立場に          立ててあげることができれば、前回の思いやりが          今の自分、思いやりが、自分が気づいてあげられる          うれしいです。大人でも気づいてあげたいです。</p>
<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【母】) 2年</p> <p>やさしい気持ちになって、おじいさんと一緒に、おじいさんが偉い          顔になっておじいさんが「おじいさん」と話してくれ、おじいさん          が「おじいさん」と話してくれ、おじいさんが「おじいさん」と話してくれ、          生活への大切さを伝える機会に思いました。</p>	<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【父】) 5年</p> <p>息子の感想に若干不安を感じる面もありましたが          相手の立場や心情を考え、思いやりのある発言や行動          ができる心を持った人間に成長してほしいと思えます。          サッカーのゲームプレーを通して身に付けていってくれる          ことを願っています。</p>
<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【母】) 3年</p> <p>一度読んで、次に読んで、おじいさんの話、おじいさんの話、おじいさんの話、          楽しかったです。おじいさんの話を聞くと、おじいさんの話、          おじいさんの話を聞くと、おじいさんの話、おじいさんの話、          いろんな考えがある話、おじいさんの話、おじいさんの話、</p>	<p>おうちの方から (お子さんの読柄をお書きください【母】) 6年</p> <p>物語りを読んで、服が強く人々を助けたことに気付けたことは、          良かったと思います。子供と話をし、将来は、福祉、医療関係に          興味があると話していました。今後色々困難があるのは          思いますが、そのうちに服が強く感謝の気持ちを伝える          成長していきなると思っています。</p>

「おうちの方から」の欄に書かれた内容は大きく次の3つになる。

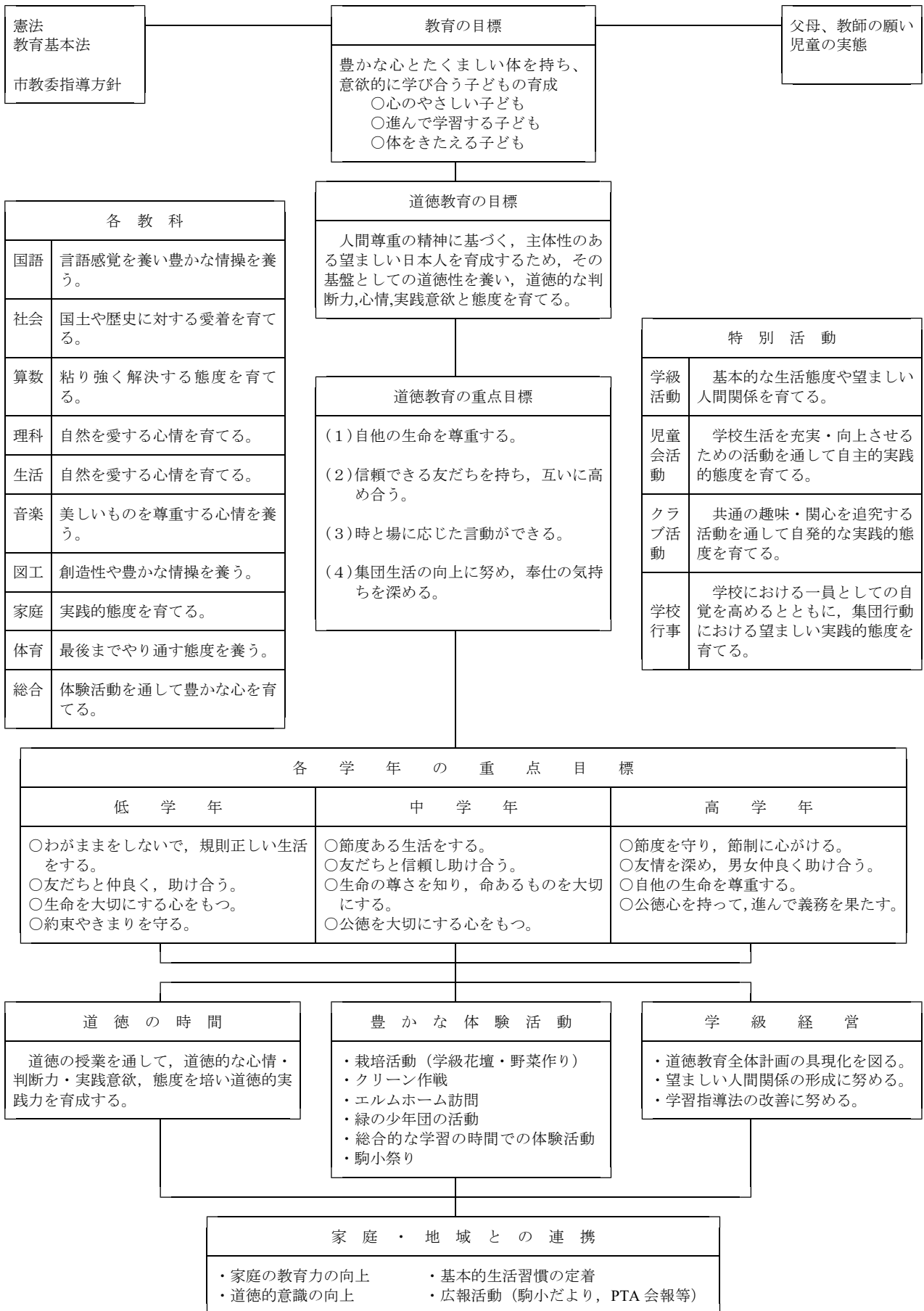
- その道徳的問題に対する保護者自身の考えを述べているもの。
- その道徳的問題に対する子どもの考えを理解し、その成長を実感しているもの。
- その道徳的問題を基に、改めて子どものよりよい成長を願っているもの。

また、「親子でいろいろと考え、話し合うことができるとてもいい時間だった。」という感想も多かった。全家庭で実施できたことも大きな収穫である。

今後も、この『みんなで 道徳』は定期的の実施し、児童が道徳性を養う土壌づくりを一層進め、学校と家庭との連携を強めていくとともに、保護者の考えを保護者間で共有できるように工夫していく。

道徳教育全体計画

(資料 2)





平成29年度 道徳教育の学級における指導計画 (第3学年)





## 第2学年道徳学習指導案

(資料 5)

平成29年9月13日(水) 第3校時 第2年教室  
授業者 教諭 川網由美子

### 【授業テーマ】

生活体験を振り返る活動を通してねらう価値に迫り、動植物に優しい心で接したり、育てたりしようとする道徳的実践の意欲づけを図る授業

#### 1 主題名 生きものにやさしく 3-(2) 自然愛、動物愛護

(資料名 「ぼくのカブトン」 出典 ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集)

#### 2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、生活科などを通してバッタやザリガニなどの生き物の世話をしたり、アサガオやミニトマトの栽培観察など行ったり、自然や動植物などと直接触れ合う体験を数多くしてきている。

事前アンケートによると「動植物をかわいいと思いますか。」に対して「思う82%」「思わない18%」という回答があり、「思わない」と答えた児童は「虫が苦手」「虫アレルギー」と答えている。また、「動植物の世話(水やえさをあげるなど)を続けていますか。」の問いにも18%の児童が「忘れることがある」と答えている。

自然との触れ合い経験に差があったり、この発達段階では、自然環境の中で生きている動植物の生態について詳しく理解していなかったりして、どのようにかかわっていいかわからない場合も見られる。そのため、慈しみの気持ちが希薄だったり、関心が薄く継続しての世話が必要であることに思いが至らなかったりしていることもあるように思われる。

- 身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育栽培などを経験し、自然や動植物などと直接触れ合ったりする活動や体験を無くして自然愛や動植物愛護の気持ちを育てることはできない。直接体験を通して自然や動植物の不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることの愛おしさなどを通して実際に感じるができる。そこから、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強く生まれる。ここでは、動植物の素晴らしさに気付いたり、優しく接したりしていこうとする道徳的価値を養うことをねらいたい。

- 本資料は、カブトムシに苦手意識のあったぼくが主人公である。観察園に言って改めてカブトムシを見たり、飼育者から話を聞いたりしたことでカブトムシの不思議さや強さなどに魅力に気付き、愛着を持ち始め守り育てたいという気持ちに変化していく。主人公の心情の変化に共感したり、生き物の不思議さや愛おしさを感じ取らせたりしたい内容の資料である。

- 指導にあたっては、まず、子ども達に、「生き物を見つけた時、どんな気持ちになりますか。」  
「その生き物を飼いたいと思いますか。」と投げかけ、ねらう価値の方向付けをする。

資料「ぼくのカブトン」を読んで、初めに、主人公のぼくがカブトムシを苦手と感じている気持ちをとらえさせる。児童の中にも虫が苦手な人がいるので共感できる気持ちを押さえたい。その後、観察園で出会ったカブトムシの魅力に気付き惹かれたり、飼育員さんの話からカブトムシの不思議さに触れたりしたことで興味を持ち飼いはじめることになる主人公の気持ちの変化に共感させていきたい。そこで、写真を提示したり、飼育員さんの話から分かるカブトムシの魅力となる言葉を押さえたりすることで、主人公の気持ちの変化に寄り添い動植物の魅力や愛おしむ気持ちを感じとらせたい。

低学年の段階では、身近な自然に興味を持って接しようとする児童が多い。また、生活科等において、動植物を直接育てる機会も多い。これらの経験を単なる経験として終わらせないためにも、どのように育てたいか。また、どのような気持ちで育てたいかといった振り返りをすることが大切である。自分の経験を振り返ることで、自然に親しみ、優しい心で動植物に接していこうとする態度を育むことができる。終末に、児童の校外学習「公園で遊ぼう」「生き物探し」の写真や、「あさがお」「ミニトマト」の観察カードなどを提示し、バッタやザリガニを探して捕まえた活動や、植物の世話などを想起させ、今まで身近な自然の中で楽しく遊んだり、自然と親しんだりした活動や、生活科で体験した生き物の世話や飼育、植物の栽培や観察など体験したことなどから自分を振り返り、これからの自分の在り方を考えさせる中で、「動植物に優しくしたい」という意欲を育てたい。

- 3 本時のねらい  
身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する態度を養う。
- 4 授業の視点  
①生活体験の振り返り  
②自己を見つめる学習カード

5 学習過程

学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
<p>1 自然愛・動物愛護に関する行為を想起し、ねらいをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物を見つけたときどんな気持ちになりますか。</li> <li>・その生き物を飼いたいと思いますか。</li> </ul>	5	○アンケートをして、ねらいの価値への方向付けを図る。
<p>2 資料「ぼくのカブトムシ」を読んで主人公の気持ちを考える。</p> <p>(1)「カブトムシ自然観察園」へ行くことになって「もじもじ」している「ぼく」の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖いなあ。</li> <li>・お兄ちゃんは、「かっこいい。」って言ってるよなあ。</li> </ul> <p>(2)「カブトムシ」を触りたい、飼いたいと思った「ぼく」の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うわあ、ぴっかぴかだあ。</li> <li>・大きな角だなあ。</li> <li>・強そうだなあ。</li> <li>・木のしるをあげるからね。</li> </ul>	2 5	<p>○兄が夢中になっているカブトムシのことが気になるが、苦手な気持ちを振り払えない「ぼく」の気持ちに共感させたい。</p> <p>○写真を提示し「虫めがね」で覗いて見たり、飼育員さんから話を聞いたりして、カブトムシに魅力を感じ、不思議さに引かれた時の気持ちに気付かせる。</p> <p>○魅力を感じ、不思議さに引かれ、愛おしく思えて飼い始めた「ぼく」の気持ちに価値を見い出させる。</p>
<p>3 今までの自分を振り返り、これからの自分を見つめる。</p> <p>(1)自分が生き物を捕まえたり、飼ったりした時は、どんな気持ちだったか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザリガニが脱皮しました。元気で大きくなって欲しいと思いました。</li> <li>・ミニトマトの花が終わって小さな実になりました。早く赤くなって欲しいと思いました。</li> </ul> <p>(2)生き物を世話するのに大切なことを考えて学習カードに記入し、これからの自分を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい住みかを作ってお世話をしたいな。</li> <li>・水や肥料をあげよう。元気に大きくなって欲しいな。</li> </ul>	1 5	<p>○内容項目に照らして、今まで生活科で体験したことの中から自分を振り返る。</p> <p>○これからの自分の在り方について考える。 ※優しい心で飼おうとする気持ちを持つことができたか。</p>



## 6 板書計画

◎生きものに やさしくする

- ・生きものは かわいいな。
- ・いつまでも、元気でいてほしいな。
- ・やさしくせわをしよう。

「カブトン」を  
かっている  
ぼくの  
場面絵

「おじおじ」  
してごる  
ぼくの  
場面絵

「ぼくの カブトン」

◎生きものに やさしくするって…

生きものってすごいよ  
ひみつが あるよ

◇「カブトン」を かっている ぼく

- ・ぴっかぴかで かっこいいな。
- ・つのが つよそうだな。
- ・木のしるが すきなんだね。
- ・一年しか生きられないんだね。
- ・優しくしてあげよう。
- ・羽のしまい方の ひみつもわかったよ。

「おじおじ」してごる ぼく

- ・こわいなあ。
- ・お兄ちゃんは「かっこいい。」って  
言ってる

- ・バッタのあしは ふとくてつよいよ。
- ・ザリガニが だっぴしたよ。
- ・ミニトマトには 小さな毛があるよ。
- ・ザリガニの 水こうかんは  
たいへんだよ。



## 7 成果と課題

- 生活科の学習で書いたワークシートを提示し活用したことで、自分が体験活動で見つけた生き物の素晴らしさを想起することができた。
- グループで話し合わせたことにより、資料から読み取れるカブトムシの魅力を自分で気づかないところを知り、共有することができた。
- 自分を振り返り、これからの自分の在り方を考え「動植物に優しくしたい」という思いを道徳カードに書くことができた。
- 資料から状況を読み取るための補助として、写真を活用したが、主人公の心情に自分の気持ちを重ね合わせるための発問や絵などを工夫する必要がある。

## 第4学年 道徳学習指導案

平成29年9月13日(水) 第3校時 4年教室  
授業者 教諭 小荒井俊人

### 【授業テーマ】

場面ごとの読み取りをすることで、ねらいとする価値に迫り、相手のことを思いやることの大切さに気付かせる授業

1 主題名 相手を思いやって、親切に 2-(2) 思いやり、親切  
(資料名 「心と心のあく手」 出典 学研)

### 2 主題設定の理由

○ 本学級は男女の仲がよく一緒に学習したり、協力して活動したりできる児童が多い。また、給食をこぼしてしまった児童がいると進んで助けてあげたり、一人でいる児童を遊びに誘ったりできる児童もいる。しかし、その行為は、一方向的なベクトルでの関わりになってしまうことが多く、しなくてよいことまでしてしまうことがあったり、自分のそのときの気分で関わり方が変わったりする児童もいる。また、友達の喜びが自分の喜びにつながっていると感じている児童は少ない。そのため、この時期に温かい心を育み、相手の気持ちを考え、相手にとって心からの喜びとはどんなものなのかを考えさせることは大切であると考えます。

○ 本主題は、内容項目2-(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」ことをねらいとしている。これは、他の人と接する時の基本姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、実践できる児童を育てようとする内容項目である。

この時期の児童は、友達に対して親切にはできるが、相手の気持ちを推し量って行える児童は少ない。そのため、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが重要になる。思いやりとは、相手の立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。社会生活をするうえで、思いやりの気持ちを持ち、親切にするということは、望ましい人間関係を築く基礎になる。自分だけがよいことをしたという自己満足で終わるのではなく、相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを推し量ることによって、どうすることが相手にとってよいことなのかを考えて行動する、本当の意味での思いやり・親切について考えようとする態度を育てたい。

○ 主人公の「ぼく」は、学校の帰り道、重そうな荷物を持ったおばあさんに出会い、迷いながらも手を貸そうと声をかける。しかし、おばあさんに断られてしまい残念に思いながら家に帰る。すると、母からおばあさんはリハビリ中であることを聞く。数日後、再度おばあさんを見かけたとき、声をかけようか迷う「ぼく」が、どうすることがおばあさんのためになるかを考え、おばあさんが坂を上り切るまで黙って見守り続ける。そして、その後、不意におばあさんからかけられた言葉で心が温かくなるという話である。

○ 指導に当たっては、まず、「親切な人はどんな人か」について考えを出させ、実生活の中で自分が他の人とどのように関わっているか想起させる。

次に児童の実態から、資料を事前に配付し、通読させておく。授業では、その資料を3つの場面に分け、場面ごとに主人公の気持ちとともに自分だったらどうかについて話し合っていくことで価値に迫っていきたい。

第1場面では、重い荷物を持って転びそうになったおばあさんに声をかけた主人公に対して、自分だったら声をかけるか問いかけ、主人公と自分を重ね合わせて考えられるようにする。そして、その後、おばあさんに断られた主人公の気持ちを考えるときの残念な気持ちを共感できるようにする。

第2場面では、おばあさんが歩く練習をしていたことが分かったときの主人公の気持ちを考えさせることで、「相手の状態や気持ち」に気付かせていきたい。

第3場面では、数日後、再度おばあさんに出会い主人公が葛藤の末、後をついて行くまでの気持ちについて話し合うことで、主人公の気持ちの変化に気付かせていきたい。そして、坂を

上り切ったおばあさんからかけられた言葉を主人公がどのように捉えたかについて話し合うことで、その人が困っているのは何なのかを推し量ることの大切さを学び、本当の思いやりについて考えさせていく。相手の身になって考え、温かい心で接することが大切であることをしっかりつかませていきたい。また、思いやりや優しさは、困っている人を助けたり、親切にしたりすることだけでなく、親切にされたときの感謝の気持ちを相手に伝えることも大切であることに気付かせたい。

最後に、これまでの自分とこれからなりたい自分についてカードに書かせることで、相手の気持ちや思いを推し量り、思いやって、親切にすることが大切だという思いを持たせたか児童の変容を見取っていききたい。

### 3 本時のねらい

相手の立場を理解し、思いやりの心を持って温かく見守ろうとする心情を育てる。

### 4 授業の視点

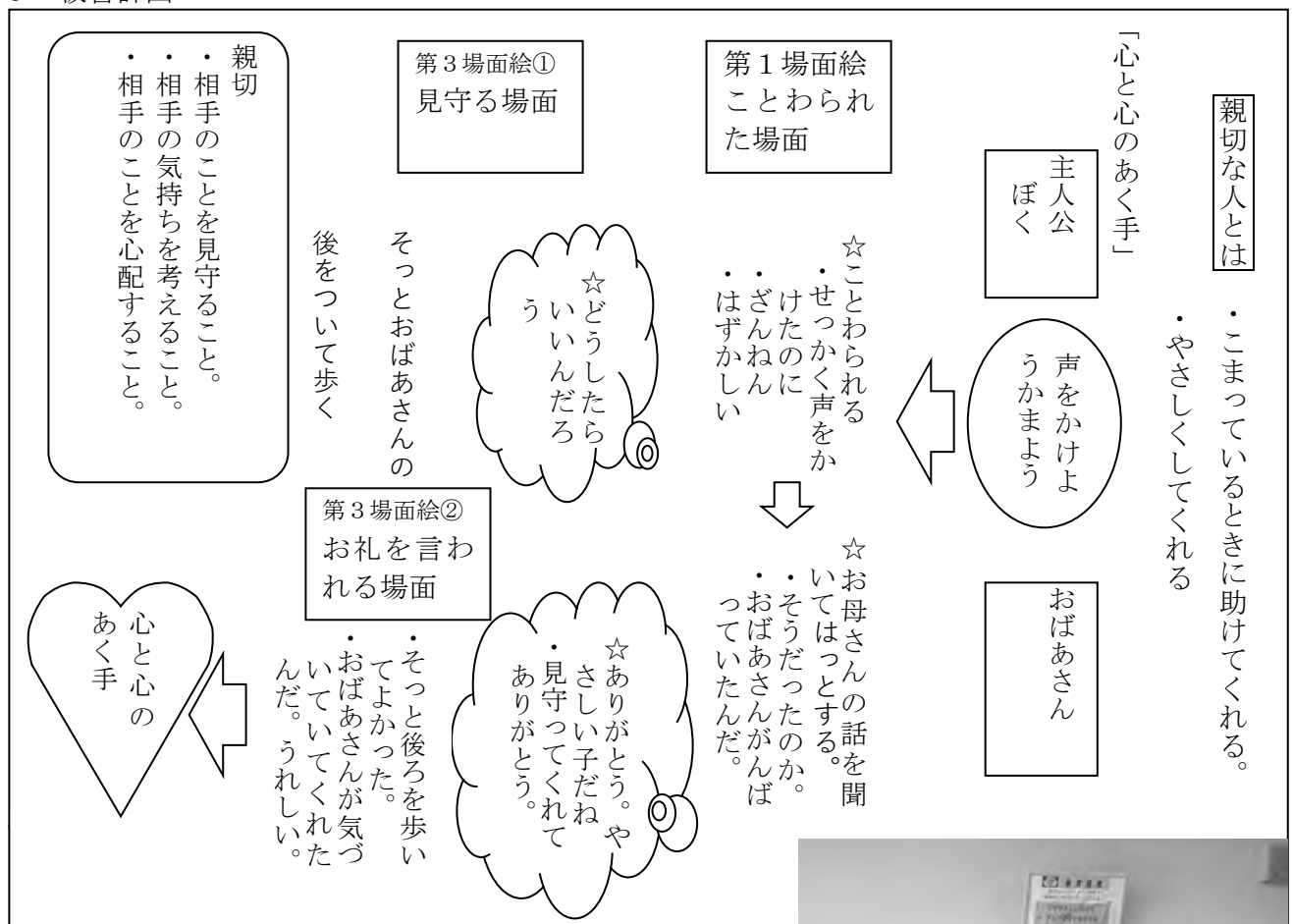
- ① 主人公の気持ちを捉え、自分の考えを出しやすくするための場面ごとの話し合いの在り方
- ② 自己の変容を確かめる学習カードの活用

### 5 学習過程

学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
1 親切な人はどんな人だと思うか話し合う。	5	○親切な人とはどんな人なのか話し合い、ねらいとする価値への方向づけを図る。
2 資料「心と心のあく手」を読んで話し合う。 (1) 親切を断られたぼくの気持ちを考える。(第1場面) ・せっかく声をかけたのに残念だ。 ・断られて恥ずかしい。	3 5	○3つの場面構成ごとにぼくの気持ちを自分と重ね合わせながら考えるようにさせる。 ○親切心からおばあさんに声をかけたのに、断られたぼくの気持ちを捉えさせる。
(2) お母さんからおばあさんのことを聞いたときのぼくの気持ちを考える。(第2場面) ・そうだったのか。 ・断られた理由が分かってよかった。 ・お母さんに褒められてうれしい。		○おばあさんの現在の状況を知り、ぼくの気持ちの変化を「はっとした。」という言葉から捉えさせたい。
(3) 数日後おばあさんに出会い、後ろについて行くぼくの気持ちを考える。(第3場面) ・声をかけたほうがいいかな。 ・ぼくに何ができるかな。 ・がんばれ、おばあさん。		○ぼくに何ができるか悩む主人公の気持ちを考えさせる。(なかなか意見が出ないときは小グループで話し合わせる。) ○直接手助けをしていないことを押さえながら、見守ることも親切であることに気づかせる。
(4) おばあさんから言葉をかけられたときのぼくの気持ちを考える。(第3場面) ・おばあさん上り切れてよかったね。 ・おばあさんは気付いてくれたんだ。 ・ぼくの思いが伝わったんだ。 ・見守ってよかった。		○おばあさんが坂道を上り切れたときのぼくの気持ちを考えさせることと、おばあさんがどうして「ありがとう」と言ったのか考えさせることで、相手の気持ちを考える(推し量る)ことの大切さに気付かせたい。

<p>(5) どうして題名が「心と心のあく手」なのかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことを思う気持ちが伝わったから。</li> <li>お互いに思いが通じ合ったから。</li> </ul> <p>3 今までの自分を振り返り、これからの自分について見つめる。</p> <p>(1) 道徳カードに書く。</p> <p>(2) 発表する。</p>	<p>5</p>	<p>○ぼくの気持ちと、おばあさんの気持ちが、第1場面と第3場面では違うことを押さえることで、相手の気持ちを思い合うことの大切さに気付かせたい。</p> <p>○内容項目に照らして、今までの自分を振り返り、これからの自分の在り方について考えさせる。</p> <p>※相手の気持ちを考えながら、親切にすることの大切さに気付くことができたか。</p>
--	----------	---

## 6 板書計画



## 8 成果と課題

- 心情を考える際に、ペアやグループでの意見の交流を実施したことにより、自分と友達の考えを比較し、さらに広げたり深めたりすることができた。
- これまでとこれからの自分の記述は、自己評価につながった。また、発表することによって考えがさらに広まった。
- 資料の場面ごとに、登場人物の心情に自分の気持ちを重ね合わせて話し合ったが、中心発問につながる場面に絞っての話し合いが必要であった。



**【南会津地区】 檜枝岐村立檜枝岐小・中学校**





# 道徳教育推進校《実施計画書》

## 1 学校紹介

学 校 名	檜枝岐村立檜枝岐小学校・檜枝岐中学校
所 在 地	福島県南会津郡檜枝岐村字下ノ原939番地
校 長 名	橘 成 美
学校の教育目標	郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子供 ～探究する児童生徒 まっすぐな児童生徒 きたえる児童生徒～
学級及び児童生徒数	小学校 4学級 28名 中学校 2学級 15名
道徳教育にかかる 取組の概要	①道徳の授業実践 ②道徳の意識調査（学校評価・学校生活質問表等と合わせて） ③道徳教育全体計画の見通しと別葉の整備 ④道徳教育としての評価の在り方 ⑤家庭・地域との連携

## 2 研究テーマ

9年間を見通した小中一貫教育を活かして

### 自ら伸びようとする児童生徒の育成

～「つなぐ」をキーワードにした、考え、議論する道徳を通して～

## 3 テーマ設定の理由

本校の児童生徒は素直で真面目な反面、教師の指示待ちが見られ、自分たちで創意工夫しそれぞれの思いや考えを実行しようという姿勢が弱い。そこで以下の(1)～(3)の内容を踏まえ、小中の教職員がその課題に真摯に向き合い、「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)を中心として、子供たちが自分の考えを明らかにし、他者の考えを比較検討したり、広げたり深めたりしていく中で、探究心をもって、まっすぐな心で、たくましく社会を生き抜く力を育てていきたいと考えテーマを設定した。

### (1)「特別の教科 道徳」の実施

子供たちを取り巻く社会情勢、コミュニケーションや人間関係のあり方が大きく変化している。その一方で、それらに対応した教育や支援がまだ確立されておらず、対応しきれていないという現状がある。さらに、教育の最大の目標は、「人格の完成」であり、その基盤となるものが道徳性である。その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命であるが、道徳教育には量的課題と質的課題が挙げられている。

その背景を踏まえて、道徳教育として養うべき資質は、社会の大きな変革の中で児童生徒が自分の夢や目標を持って、それに向かって生きていくために、多様な価値観に誠実に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢である。発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図っていくことが求められている。

併せて、量的確保(年間35時間単位時間を確実に確保)と質的転換(子供たちが道徳的価値を理解し深く考えてその自覚を深める)を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「考える道徳」「議論する道徳」を道徳の時間を要として、指導方法の改善を図っていくことが必要である。道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方や他者との関わりについて考えを深める学習を通して、道徳的判断力、道徳的心情や道徳的実践意欲と態度を育てるものとする。

(2) 本校の教育目標より

本校では、中学生が「15歳の春」(中学校卒業時)を迎えると、高校進学のために村を巣立って行かねばならない。そこで、9年間を見通した小中一貫教育校を推進し、中学校を卒業するまでに、常に探究心をもって学び続け、誠実で善い行いをしようとし、何事もあきらめずに心や体を鍛えようとする児童生徒の育成を目指している。そのため教職員には、思考力・判断力・決断力を児童生徒に身につけて社会に送り出すという責任がある。

特に「つなぐ(つながる)」に焦点を当て、小中一貫校としてのよさを生かしながら、体系的に児童生徒の発達段階に応じて道徳科の質的改善について努力していきたいと考えている。そこで、子供と子供を「つなぐ」こと、子供と家庭や地域の人を「つなぐ」こと、子供と道徳の資料や体験、経験を「つなぐ」ことにより、自分を理解し、他者を理解し、自分のよさや友だちのよさを認めることのできる子供を育成したい。

(3) 昨年度の研究の反省より

昨年度は、「子供と子供をつなぐ」に焦点を当て、より重点的に研究を進めた。「子供と子供をつなぐ学びあいの工夫」について深めていくことで、児童生徒が「わかる、できる」楽しさを実感できる主体的な授業づくりにつながるのではないかと考え、系統的な小中の児童生徒の発達段階に応じた各教科の授業の質的改善について工夫してきた。

4 研究計画

月	日	曜	研究内容	主な行事
4	7 14 21	金 金 金	研究推進委員会(研究推進計画立案) 全体会①(研究推進計画、方向付け確認) 各部会の話し合い	6入学式 19～家庭訪問 25授業参観
5	12 19 31	金 金 水	全体会② 第1回授業事前研究会 全体会③ 第1回授業研究会・事後研究会 県道徳推進協議会出席	12(小)水泳学習開始 24(小)修学旅行 27(中)人権教室
6	9 23	金 金	全体会④ 第2回授業事前研究会 全体会⑤ 第2回授業研究会・事後研究会 研究推進委員会	15村政100周年記念事業 29(小)尾瀬学習
7	14	金	全体会⑥(研究推進計画、方向付け確認)	10授業参観、(小)人権教室 12(中)～燧ヶ岳登山 20終業式 25～(中)修学旅行
8	24	木	公開授業案検討会①(全体会⑦)	25始業式
9	14	木	公開授業案検討会②完成、公開授業の準備(全体会⑧)	11村民大運動会 14人権作文発表会
10	6 13	金 金	全体会⑨ 公開授業 全体会⑩(公開授業の反省まとめ)	17(小)音楽祭(合奏)
11	10	金	研究推進委員会(研究のまとめについて)	3文化祭
12	8	金	全体会⑪(研究のまとめについて)	4授業参観 22終業式
1	12	金	全体会⑫(研究物まとめ)	9始業式 11～(中)スキー教室 18～(小)スキー教室
2	16	金	研究推進委員会(次年度の計画立案)	2一日入学 6雪上運動会
3	9	金	全体会⑬(次年度の計画について検討会)	13小中合同卒業証書授与式 22(小)6年生送る会 23修了式

## 5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校は、小学生28名、中学生15名の小規模校である。小学生は、大変明るく元気がよく、真面目に規則正しい生活をしている。中学生は少ない人数の中でも多くの行事や部活動に責任を持って取り組み、協力し合い、何事も真面目に取り組むことができる。また、小中一貫教育を推進しており、合同での行事や小学生から中学生までの縦割り班(ファミリー班)活動などを通して、絆を深め、互いに支え合って行動する姿が多く見られる。

さらに、本村は、今年で村政独立100周年を迎える節目の年に当たる。村には「結の精神」が息づいており、互いに支え合ったり分かち合ったりする温かい気持ちがあり、それは、児童生徒にも受け継がれている。また、教育に対する関心も高く、学校の教育活動には常に協力的であり、懸命に取り組んでいただいている。

その一方、素直で真面目な反面、教師の指示待ちが見られ、自分たちで創意工夫しそれぞれの思いや考えを実行しようという姿勢が弱い。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針

以下の教育課程基本方針に基づき、**学校運営ビジョン(資料1)**により具体化する。

- (1) 本校教育目標及び、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳教育の目標を達成するため、道徳科を要とし、学校の全教育活動を通じて、総合的・発展的な指導を進め、道徳性を養うことに重点を置く。
- (2) 道徳教育をさらに推進するために、道徳教育推進教師を中心に、道徳教育全体計画の作成と計画的・発展的な指導の充実を図り、人権教育や各教科との横断的・有機的な関連を図られるようにする。
- (3) 本校の特色を生かした道徳教育を実践していくために、道徳の重点目標を明確にし、家庭や地域社会等との連携を図るための具体的な活動について、別葉を活用していく。
- (4) 「道徳科」の指導においては、問題解決的学習、体験的な学習など多様な指導方法を取り入れるとともに、多面的・多角的に考え、自己の生き方(人間としての生き方)について考えを深めることができるよう、「考え、議論する道徳科」の質的転換に努める。
- (5) 「15歳の春」を見据え、教師と児童生徒、児童生徒相互の好ましい人間関係を育て、一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる学級経営に努める。

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について(資料2)

- 学校の教育目標の達成のために、本校の小中一貫教育校としての特色を生かし、小学校1年から4年までを「基礎基本定着期」、小学校5年から中学校1年までを「充実期」、中学2年と3年生を「発展期」とし、その児童生徒の実態を踏まえ重点目標を明確にした。
- 各教科、総合、特別活動等における道徳指導としての関連、その他本校ならではの特色ある教育活動との関連を図ることができるよう学校の教育活動全体を通して実践できるようにした。
- 地域・家庭との連携を密にしながら、道徳教育の充実を図ることができるようにした。

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について(資料3)

- 道徳教育全体計画の目標達成に向けて、各学年の児童生徒の実態を踏まえ、重点目標を掲げ、各教科、特別活動等と「道徳科」の内容項目の関連づけを図った。
- 学級担任が各教育活動との関連や指導時期等を見通しながら実践できるようにするとともに、地域や家庭との連携を図りやすく工夫した。
- 児童生徒がその資料の内容や関連価値について確認することによって、振り返りができるように各教室で掲示して活用することとした。

## 9 平成29年度 学級における指導計画について(資料4)

- 道徳の全体計画や別葉の内容に基づき、学級の実態を十分に考慮し重点項目を設定して配当した。
- 各担任が追加したり工夫したりした点を書き込み、次年度に生かすことができるようにした。

## 10 道徳教育推進教師の実践について

研究テーマに迫るために、校長のリーダーシップのもと、全教職員の協力により次のような実践を行った。

### (1) 道徳教育の量的確保、質的転換

量的確保として、道徳実践チェックシートの活用、年間35時間完全実施、質的転換として授業検討会等による指導理論、指導法の共有化を図りながら道徳教育の充実に励んだ。

### (2) 「つなぐ」を活かした「考え、議論する道徳」実践研究

視点Ⅰ「主発問の精選」、視点Ⅱ「つなぐの工夫」に重点を置いた授業実践及び授業検討会の実施、互見授業の定期的な実施を行い、授業のブラッシュアップに励んだ。

### (3) 9年間を見通した指導計画に基づく、小中連携授業の推進

小中9年間を、発達段階を踏まえた3つのブロックに分け、ブロック同士の「つなぐ」を意識した、研究仮説の検証を推進し、学校教育全体の充実に励んだ。

### (4) 実態把握

道徳の意識調査（学校評価・学校生活質問表等と合わせて）や各種検査（知能検査、NRTテスト）を踏まえた指導と子供の変容の見取りを行った。

### (5) 道徳教育としての評価の在り方と方法

道徳の教科化に向けた準備と実践を積み重ね、評価の具体的方法の検討を行った。

## 11 道徳の時間について

全学級で指導助言者を招いて、研究授業を行った。

5月19日	第1回授業研究会	中学2年	D- (19)	生命の尊さ	(別紙資料：指導案)
6月23日	第2回授業研究会	小学3、4年	D- (19)	自然愛・動植物愛護	(別紙資料：指導案)
		中学1年	B- (6)	思いやり・感謝	
10月5日	公開授業	小学1、2年	B- (7)	感謝	
		小学5、6年	C- (12)	規則の尊重	(別紙資料：指導案)
		中学3年	C- (10)	遵法精神、公德心	

## 12 成果と課題

- (1) 量的確保・質的転換を意識し、道徳実践チェックシートを活用した年間35時間の完全実施、主発問の精選と3つの「つなぐ」に焦点をあてた道徳教育の充実に励むことで、教師の道徳の授業力のブラッシュアップはもちろん、子供たちの自己肯定感が高まり、道徳性が育まれた。
- (2) 3つの「つなぐ」に焦点をあてながら授業実践を行ったことで、それぞれの成果が見られた。子供と子供を「つなぐ」では、役割演技やKJ法の活用などにより、自己対話を深めながら、考えを他者と伝え合う「考え、議論する道徳」に近づくことができた。資料と「つなぐ」では、普段生活している場所の写真や音を導入で効果的に使うことで、子供たちの体験を思い起こさせながら実践意欲を高めることができた。家庭・地域と「つなぐ」では、道徳の取り組みを学校だより・学年だより等で家庭に発信したり、地域の方をG.Tとして招いた授業を実施したりすることで、家庭や地域とのつながりが深まるとともに、保護者の意識も変わってきている。
- (3) 9年間の発達段階に応じて、研究ブロック内外で定期的に話し合いが行われたことで、授業の中で議論させる手立てやワークシートの活用など学年・学級を越えて足並みを揃えた指導ができた。
- (4) 今後は、子供自らのPDCAサイクルの確立を目指して継続した指導を続け、道徳の教科化に向けた準備を進めていくことが必要となる。今年度の成果を活かしながら、子供たち一人一人が伸びようと思える教育活動を実践していくことが私たちの責務である。
- (5) 評価の在り方や方法について、各自模索しながら実践してきた。子供たちの学習成果物へのコメント記入、資料掲示、道徳コーナーの充実、各種行事での振り返りなど、子供たち自らが自己の成長を実感できる記録の集約、保管を引き続き継続し、子供たち一人一人の心に寄り添った評価を心がけていくことが必要である。



# 平成29年度 檜枝岐村立檜枝岐小中学校 学校経営・運営ビジョン

＜目指す学校像＞明るく楽しく活気ある学校  
 ○子ども：楽しく学べる学校  
 ○保護者：信頼できる学校  
 ○教師：働きがいのある学校

【校訓】わたしたちのねがい  
 真実を探究すること  
 善正しく、真つ直ぐであること  
 美心清らかで、礼儀を重んじること

○教育関連法規 □福島県復興計画  
 ○第6次総合教育計画 □南会津教育事務所夢教育

＜檜枝岐村の願い、(檜枝岐まらめきプラン)＞  
 ○向学心と夢がで輝やかな心と体を育む教育  
 ○環境の変化に対応できる柔軟で広い視野を身に付けた子ども  
 ○保護者の願いは  
 ○自らの進路に関心を持ち実現に向けて努力する子ども  
 ○郷土を愛し自信と誇りを持ったたくましい子ども

## 郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子どもも 探求する児童生徒も 大きくまっすぐな児童生徒も



「15歳の春」を見据えた小中一貫教育の推進

◇学習指導要領に基づき、**目指す児童生徒像「24の力」**を意識した9年間を見通した教育課程の編成(各教科指導計画及び各種教育計画の作成・実施)  
 ◇小中教職員による学習指導・生徒指導(中学校教員による小学校での教科担任制や小中教員によるT・U指導、小中全職員による生徒指導協議会の実施)  
 ◇アミミリ一班を軸とした小中児童生徒の交流活動(入学式や卒業式等の小中合同行事、クリーン作戦やボランティア活動等の実施)  
 ◇郷土学習を大切にしたいキャリア教育を推進し、進路探索の基盤形成(郷土の伝統文化の継承・自然体験学習、特別活動の活性化・計画的な進路指導)  
 ◇学校・家庭・村が一体となった教育環境づくり(小中PTA活動、「24の力」、運動会や文化祭等の学校・家庭・村が一体となった行事の実施)



**知** 探求心を高め、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。

①自ら学習に取り組む ②家でも毎日学習する ③人の話をしっかり聞く  
 ④読書をたくさんする ⑤檜枝岐のことをよく知り、尽くす

①**自主自学** ②**言語力** ③**郷土愛**

《目標値：「24の力」探究する児童生徒3.5以上 自主学習提出率100%》

○ **わかる・できる授業づくりを実践します**

□ねらいとまともめを意識した授業改善  
 □アクティブ・ラーニングと言語活動の充実  
 ・各教科において主体的で対話的な学びの実践  
 □ICTを活用した授業の活性化  
 □教科担任制、乗り入れ指導の工夫改善

○ **学習の基盤作りを徹底します**

□檜枝岐スタダンドの有効活用  
 ・個に応じた学習サイクルの構築  
 ・小中一貫した家庭学習、生活ノート  
 □新聞の活用と読書活動の活性化  
 □地域を生かし、郷土に尽くす郷土学習の充実

**徳** 望ましい人間関係を築く力を育てます。(コミュニケーション力)

①笑顔であいさす ②「ありがとう」「ごめんねさーい」を言える  
 ③みんなのために働く ④人にやさしくする ⑤約束やままりを守る

①**自律** ②**共生** ③**規範意識**

《目標値：「24の力」まっすぐな児童生徒3.5以上 いじめ不登校0》

○ **きめ細かな生徒指導により人間性・社会性を育みます**

□一人一人に寄り添う生徒指導の活性化  
 ■**つなぐをキーワードにした道徳教育の充実**  
 ・考える議論する道徳科の実践  
 □地域に尽くすキャリア教育の充実  
 ・創造性を育む体験活動の充実  
 □豊かな心を育む図書館教育の充実

○ **向上心の高い集団づくりをめざします**

□アミミリ一班を生かした集団活動の充実  
 ・小中一貫(合同活動)の活性化  
 □よさを認め合う学級づくり  
 □思いやりと感謝の心を育む「働く」活動の充実

**体** 健康・安全の意識を高め、自己管理能力の育成を図ります。

①規則正しい生活をする ②バランスのよい食事をする  
 ③丈夫な体をつくる ④何事も最後までやりぬく ⑤自分の命を大切に  
 ⑥健康管理 ⑦不機嫌 ⑧生命尊重

《目標値：「24の力」きたえる児童生徒3.5以上、出席率98% 体力テストAB85%以上》

○ **自分手帳を生かして自己管理能力の育成を図ります。**

□個に応じた健康教育の活性化  
 ・ミニ講座の工夫  
 ・うがい手洗いの励行  
 ・歯磨きの徹底  
 □体力向上プログラムの活性化  
 ・体力アップの活性化  
 ・運動身体づくりプログラムの継続実施

○ **安全教育の充実にも努め児童生徒を守ります**

□児童生徒の安全確保(登下校・校舎内外の安全整備)  
 ・学校安全の目的充実  
 ・ミニ講座の工夫  
 □命の尊さを育む防災教育・防犯教室の充実

＜学校家庭地域との連携＞

◎ 児童館・学校・家庭・地域・関係機関が一体となった学びの共同体を構築します。  
 ◎ 郷土の人材・自然・文化を生かし、尽くします。(自然体験学習の実施・地域の施設の利用、学校交流の実施、「地域の名人」との交流学習)



平成29年度

### 道徳教育全体計画

檜枝岐村立檜枝岐小中学校

- ・日本国憲法 ・教育基本法
- ・学校教育法 ・教育関係法規
- ・学習指導要領 ・いじめ防止対策推進法
- ・福島県教育委員会重点施策
- ・南会津教育事務所指導の重点
- 「檜枝岐きらめきプラン」
- ・向学心と豊かで健やかな心と体を育む教育
- ・環境の変化に対応できる柔軟で広い視野を身に付けた子ども

《学校の教育目標》  
郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子ども  
1. 探求する児童生徒  
2. まずぐな児童生徒  
3. きたえる児童生徒

《本校の道徳教育目標》  
自ら伸びようとする児童・生徒の育成  
～「つなぐ」をキーワードにした、考え、議論する道徳を通して～

- 《児童・生徒の実態》
- 素直で子供らしい。
  - 年齢を超えて、仲のよい集団活動・集団行動ができる。
  - 意欲的に学習に取り組む。
  - 人間関係が固定化しているため、言葉遣いや接し方に遠慮がないことがある。
  - 挨拶はできるが、表情や声の大きさに個人差がある。

- 《教師の願い》
- ・思いやりや感謝の心を持って働く子
  - ・よさを認め合う子
  - ・健康で安全に生活できる子
  - ・体力づくりに励む子
  - ・学びの習慣を身につけた子
  - ・主体的に学ぶ子

本校の重点目標

○柔軟なものの見方や考え方を身に付け、主体的に行動しようとする児童・生徒の育成  
○身近な人々の支えや善意に気付き、感謝の気持ちを言葉や行動で表せる児童・生徒の育成

#### 学年別重点目標

基礎・基本定着期 小1～小4	充実期 小5～中1	発展期 中2～中3
周りの友達と協力しながら様々な活動に進んで参加し、多様な価値観があることを理解する。	諸活動に積極的に参加し、柔軟なもの見方を身に付け、主体的に行動しようとする態度を養う。	これまでの経験を生かし、仲間とともに自らの理想を追求しようとする自主的・自律的な態度を養う。
自生活が周囲の人々の支えによって成り立っていることに気付き、尊敬と感謝の念をもって接する態度を養う。	身近な人々の支えや善意を再認識し、感謝の気持ちを言葉や行動で表そうとする態度を養う。	様々な集団や社会の一員としての自覚をもち、潤いのある人間関係を築こうとする実践的な態度を養う。
関連内容項目 ◎2-(4) ◎4-(2) ○2-(3)	関連内容項目 (小) ◎2-(5) ◎4-(4) ○2-(3) (中) ◎2-(6) ◎4-(5) ○2-(3)	関連内容項目 ◎2-(5) ◎4-(5) ○2-(4) ○4-(4) ○2-(3)

#### 道徳の時間

道徳教育の要として、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動など、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育を補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚など、自己の生き方についての考えを深め、道徳実践力を育成する。特に本校では「少人数学級の特長」や「複式学級(学年差)の特長」を配慮し、児童・生徒一人一人が主体的にかかわる道徳の時間の指導の充実を図る。

#### 特別活動における道徳教育

集団や社会の一員としての自覚を深め、仲間と協力してよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。	
学級活動	学級や学校生活を豊かにし、向上させるとともに、健康で安全な生活をしようとする態度を養う。
児童会・生徒会活動	児童会や生徒会において、協力し問題を解決する活動を通して、集団の一員としての自覚や自主的・自律的な態度を養う。
クラブ活動(小)	共通の興味・関心をもつ異学年の集団活動を通して仲良くねばり強く取り組む態度を養う。
学校行事	様々な体験活動(豊かな体験)を通して、協調性・連帯感・公共の精神などの道徳性を養う。
部活動	自らの目標を目指し、仲間と励まし合いながら、希望と勇気をもって最後までやり抜く態度を養う。

#### 家庭・地域社会との連携

学校と家庭が共通理解のもと積極的に連携し、豊かな体験を通して児童の内に根ざす道徳性の育成を図る。	
道徳の時間	事前調査、意見感想の依頼、事例紹介、授業及び指導内容のお知らせ、授業参観、学級懇談会
道徳実践	「檜枝岐のよい子の一日」「24の力」の理解・協力、行事への参加
P T A 協力事業	学年、地区、各委員会(厚生、文化、育成)の事業
育成会活動	ソフトボール、バドミントン、スキー
広報活動	「学校だより」「学級だより」「PTA会報」

#### 各教科・総合・外国語活動における道徳指導

基礎的・基本的な内容の定着を図り一人一人に満足感や成就感を与え、意欲的に学習に取り組む児童の育成を図る。	
国語	互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。
社会	我が国の国土と歴史に関する理解を深め、郷土や国を愛する心情や公民的資質を育てる。
算数・数学	日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え表現する能力を育てる。
理科	栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。
生活(小)	生活上必要な習慣を身に付け、自立への基礎を培う。
音楽・図工・美術	音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。作り出す喜びを味わい、美しいものや崇高なものを尊重する心を育てる。
技術・家庭	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てる。
保健体育	健康増進と体力向上を図り、明るく楽しい生活を営む態度を養う。
英語・外国語活動	英語・外国語を通じて、言語や文化など、国際理解と人間愛について体験的に理解を深める。
総合	体験的活動、問題解決的な学習を通して、道徳的価値の自覚を深め自己の生き方を考える態度を養う。

#### その他の教育活動

豊かな体験	生徒指導
豊かな体験を通して学校や地域に対する愛着を育てる。 ・尾瀬自然環境学習の実施 ・地域、学校交流の実施 ・「地域の名人」との交流学習 ・歌舞伎の伝承	基本的な生活習慣や礼儀作法を身に付け、楽しい学校生活を送る態度を育てる。 ・「24の力」の活用
環境の充実・整備	道徳コーナー
人間関係の充実、環境の整備を通して豊かな心を育てる。 ・個を生かす場の設定 ・言語環境の整備 ・物的、自然環境整備	道徳的価値のある写真や資料を定期的に紹介する。
現職教育との関連	
・「特別の教科 道徳」実施に向けたプロジェクトチーム(心育成部)年度始め 道徳教育関連の年間計画についての話し合い 2学期 心育成部などによる授業提供・研修会の実施 3学期 今年度の反省	

平成29年度道徳教育全体計画(別業)第1、2学年

本校の道徳教育目標	自ら伸びようとする児童・生徒の育成	本校の重点目標	○柔軟なものの見方や考え方を身に付け、主体的に行動しようとする児童・生徒の育成 ○身近な人々の支えや善意に気付き、感謝の気持ちを言葉や行動で表せる児童・生徒の育成
-----------	-------------------	---------	--

内容項目\教科・領域など	道徳	月	特活				各教科	月	地域・家庭との連携、関連活動	月
			学級活動	月	クラブ・児童会・委員会	月				
1-(1) 基本的な生活習慣	りすのちよろたえんびつはなんさいランドセルは十二さい	4 8 12	・2年生になって ・給食の準備とマナー ・なんでも食べよう ・ぞうじのしかた ・じょうずな整理整頓 ・2学期をむかえて	4 8 11 8			・がっこうだいすき(生活)	4	・家庭訪問	4
1-(2) 勤勉努力	がんばれホイッ かけ算けんてい	5 11					・作文『会津駒』(国語) ・じぶんでできるよ(生活)	2 12	・水泳学習開始式 ・漢字検定 ・計算検定	5
1-(3) 勇気	みみずくとおほしさま ぼくよびにいってくる	11 1					・なんじなんじはん(算数)	7	・スキー教室	1
1-(4) 正直誠実・明朗	ひつじかいのいたずら きんのおの	6 1					・花さかじいさん(国語)	1		
2-(1) 礼儀	おじいさんこんにちはい なりやまのこんたろう	4 3	・気持ちのよいあいさつと言葉遣い	6	・1年生を迎える会	4	・はきはきあいさつ(国語) ・よろしくね(国語)	4 4	・着任式・始業式 ・入学式 ・地区児童会	4
2-(2) 親切	ごろりんごろんごろろろろ ぼくにできること ねがいごとのあかいふね	5 10 2	・みんなで使う場所をきれいにしよう	5			・おおきなかぶ(国語) ・かいがら(国語) ・サラダでげんき(国語)	7 9 10	・檜枝岐クリーン作戦	5
2-(3) 友情	わけっこしよう およげないりすさん	6 12	・ともだちのよいところを見つけよう ・みんななかよし ・お楽しみ会をしよう	7 12			・かいがら(国語) ・スイミー(国語) ・フェスティバル(生活)	7 2 12	・尾瀬自然体験学習	7 12
2-(4) 尊敬・感謝	がっこうのようむしゅじさん たけとんぼづくり きつねとぶどう	9 10 3	・係を決めよう ・6年生を送る会の計画を立てよう	5 2	・6年生を送る会	3	・あしたヘジャンプ(生活) ・秋の中土合探検(生活)	3 10	・係活動・当番活動 ・縦割り班清掃	9
3-(1) 生命尊重	ふしぎな音 あかちゃんがるまれるよ	6 1	・避難訓練、防犯教室について考えよう ・たいせつなからだ ・おへそってなあに	5 2			・春の中土合探検(生活)	6	・防犯教室	
3-(2) 自然愛・動植物愛護	わたしはもんしろちよう おおきなあれどんぐりん	6 11	・尾瀬学習に向けて	6			・生き物をさがしに行こう(生活) ・どうやってみをまものかな(国語) ・みんなでぞだてよう(生活)	6 7	・尾瀬自然体験学習	6
3-(3) 敬けん	おつきさまがみている せかいでいちばんうつくしいこえ	9 2					・花いっぱいになあれ(国語) ・合奏祭の練習(音楽)	3 9		
4-(1) 規則尊重・公德心	じゅぎょうがはじまります 森のけいじばん おじさんののがみ	5 2 10	・学校図書館の使い方	6			・なかまづくりとかず(算数) ・なんばんめ(算数) ・ボールゲーム(体育)	4 6		
4-(2) 勤労	のぶくんはポスターがかり	7	・教室をきれいにしよう	2			・いろいろなふね(国語)	10	・校内美化活動(ファミリー班清掃)	
4-(3) 家族愛	おてつだい ぼくのうちのゆうはん	7 12					・サラダでげんき(国語) ・じぶんでできるよ(生活)	10 12		
4-(4) 愛校心	たのしいがっこう 先生からのおうえんメッセージ	4 3	・文化祭を成功させよう ・みんなで使う場所をきれいにしよう ・もうすぐ進級	10 5 3			・学校探検(生活) ・校歌(音楽)	4 3	・児小中文化祭	11
4-(5) 郷土愛	どうぶつ森のおまつり すてきがいっぱい	9 10	・運動会を成功させよう				・むかしばなしをたのしもう(国語) ・歯がぬけたらどうするの(国語) ・国歌「君が代」(音楽) ・どきどきわくわく村たんけん(生活)	12 1 3 5	・村民大運動会	9

## 平成29年度道徳教育全体計画(別葉) 中学校第1学年

本校の道徳教育目標		自ら伸びようとする児童・生徒の育成			本校の重点目標		○柔軟なものの方や考え方を身に付け、主体的に行動しようとする児童・生徒の育成 ○身近な人々の支えや善意に気付き、感謝の気持ちを言葉や行動で表せる児童・生徒の育成			
内容項目\教科・領域など	道徳	月	特別活動			各教科	月	地域・家庭との連携、関連活動	月	
			学級活動	月	委員会・部活動					月
1-(1)	望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制	山に来る資格がない忘れ物	7 11	中学生になって 中学校の生活と約束	4		春曇りの向こうに(国)1-(3)、2-(3)	4	係活動 当番活動	通年
1-(2)	希望、勇気、強い意志	九番バッター	9	初めての中体連大会に向けて	5	部活動				
1-(3)	自主自律、誠実と責任	増えた塩ます デンさん 父のひとこと	5 12 1				少年の日の思い出(国)	1		
1-(4)	真実愛、真実の追求、理想の実現	ジュリーマンの夢	3							
1-(5)	反省と向上、個性の伸長	木箱の中のえんぴつたち	2	各学期の目標、反省 夏、冬休みの計画と反省	適宜				定期テスト	
2-(1)	礼儀、適切な言動	朝市の「おはようございます」	4				Unit2学校で(英)	5	着任式 始業式 入学式 卒業式 等の儀式的行事	通年
2-(2)	人間愛、思いやり	心をつなぐバス 思いやりの日々	10 2	お互いのよさを見つける	11	部活動			縦割り班清掃	
2-(3)	友情・信頼	ちいちゃんのつめ	12	気持ちの通った友だち関係	9		星の花が降るころに(国) 2-(3)、3-(3)、2-(5)	9		
2-(4)	正しい異性理解と人格の尊重	班でのできごと	6	異性との協力と思いやり	9					
2-(5)	個性や立場の尊重、寛容の心、謙虚	自分らしさ～松井秀喜～	5							
2-(6)	感謝、報恩	キタジマくんからのメッセージ	4				Unit11思い出の一年(英)	2		
3-(1)	生命の尊重	花に寄せて 決断！骨髄バンク移植第一号 見沼に降る星	6 11 3	防災安全①	6		植物の世界(理)	5	防犯教室 避難訓練	6
3-(2)	自然の愛護、豊かな心、畏敬の念	ハチドリの一としづく 火の島	7 3	防災安全②	2		大地の変化(理) 世界から見た日本の自然環境(社)	3	自然教室(一泊登山)	7
3-(3)	人間の強さと気高さ、生きる喜び	二度と通らない旅人	1				幻の魚は生きていた(国)4-(4)、4-(8)	11		
4-(1)	遵奉、権利義務、社会の秩序と規律	選手に選ばれて	11			生徒会活動				
4-(2)	公德心、社会連帯の自覚	本が泣いています	6						校内美化活動	通年
4-(3)	正義、公正公平、差別・偏見の克服	正義ってなに？ いじめっ子の気持ち	4 5							
4-(4)	役割と責任の自覚、集団生活の向上	全校一をめざして 席がえ	10 2	学級組織づくり					村民運動会	9
4-(5)	勤労、社会への奉仕、公共の福祉	「看護する」仕事 楽寿号に乗って	8 11	ボランティア活動の意義	5				村内職場体験活動	8
4-(6)	家族愛	母はおいしい	12							
4-(7)	愛校心、校風の樹立	合唱コンクール	9	生徒会活動への貢献	通年				文化祭	11
4-(8)	郷土愛、先人への尊敬と感謝	ぼくのふるさと	10				身近な生物観察(理) 郷土の歴史(社) 桜守三代(国)4-(5)	4 12	村内クリーン作戦	5
4-(9)	愛国心、伝統の継承と文化の創造	古都の雅、菓子的心	5				Unit10あこがれのポストン(英)	1		
4-(10)	国際理解と平和、人類愛	命を助けたい 日本から来たおばさん	6 1				Unit5学校の文化祭(英) Unit7ブラジルからサッカーコーチ(英)	8 10	語学研修	5

平成 29 年度 学級における道徳指導計画

檜枝岐小学校 第 3・4 学年

<p>「檜枝岐きらめきプラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 向学心と豊かで健やかな心と体を育む教育</li> <li>・ 環境の変化に対応できる柔軟で広い視野を身に付けた子ども</li> </ul>	<p><b>【 教育目標 】</b> 郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子供</p> <p>知：探求する児童生徒 徳：まっすぐな児童生徒 体：きたえる児童生徒</p> <p><b>【 道徳教育目標 】</b> 自ら伸びようとする児童・生徒の育成 ～「つなぐ」をキーワードにした、考え、議論する道徳を通して～</p>	<p>学級の児童の実態 第 3 学年 3 名 第 4 学年 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 素直で子供らしい。</li> <li>○ 年齢を超えて、仲のよい集団活動・集団行動ができる。</li> <li>○ 意欲的に学習に取り組む。</li> <li>● 人間関係が固定化しているため、言葉遣いや接し方に遠慮がないことがある。</li> </ul>
<p>保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康で我慢強い子</li> <li>・ 郷土を愛する子</li> <li>・ 誰とでも仲良く生活できる子</li> </ul>	<p>道徳の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 柔軟なものの見方や考え方を身に付け、主体的に行動しようとする児童・生徒の育成</li> <li>○ 身近な人々の支えや善意に気付き、感謝の気持ちを言葉や行動で表せる児童・生徒の育成</li> </ul>	<p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康で我慢強い子</li> <li>・ 正直で他人に迷惑をかけない子</li> <li>・ 何事も責任をもって成し遂げる子</li> <li>・ 確かな学力を身につける子</li> <li>・ 郷土を愛する子</li> </ul>
<p>学年の重点目標</p> <p>周りの友達と協力しながら様々な活動に進んで参加し、多様な価値観があることを理解する。 自分の生活が周囲の人々の支えによって成り立っていることに気付き、尊敬と感謝の念をもって接する態度を養う。</p>		
<p>学級における指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団生活の決まりを守るとともに、自分の役割や仕事を自主的に行う態度を育てる。</li> <li>○ 相手のことを思いやる心を大切にし、友達や自分たちの生活を支えている人々に対する感謝の気持ちを持ち、助け合う態度を育てる。</li> <li>○ 郷土の文化や生活及び学校に親しみ、大切にしていこうとする態度を育てる。</li> </ul>		
<p>各教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や場面に応じて、伝えたいことや自分の考えをはっきりと表現できる児童生徒の育成を図り、自己表現力の向上に努める。</li> <li>・ 各教科での話し合い活動や、主体的・対話的な学習活動などを通して、自己の能力を高めるとともに、集団としての所属感、連帯感を育てる。</li> </ul>	<p>特別活動との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 係活動や各行事により集団の一員としての自覚を深めるとともに、お互い協力し、助け合う集団活動を通して、よりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。</li> <li>○ 係活動チェック表</li> </ul>	<p>総合的な学習の時間との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちとの関わりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を通して、望ましい人間関係の育成に努める。</li> <li>・ 豊かな体験を通して学校や地域に対する愛着を育てる。</li> <li>○ 尾瀬自然環境学習の実施</li> <li>○ 「村探検」での地域の方との交流学習</li> </ul>
<p>家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校と家庭が共通理解のもと積極的に連携し、豊かな体験を通して児童の内面に根ざす道徳性の育成を図る。</li> <li>○ 道徳の時間のワークシート紹介</li> <li>○ 道徳の授業内容を学年便りで周知</li> <li>○ 授業参観の実施</li> </ul>	<p>生徒指導との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣や礼儀作法を身につけ、楽しい学校生活を送る態度を育てる。</li> <li>○ 「24の力」の活用</li> <li>○ 「檜枝岐のよい子の一日」</li> </ul>	<p>保健・食育指導との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康、食に関する自己管理能力を高めることができる態度を育てるとともに、自ら児童生徒の生活課題に気づき、解決策を考える場を設ける。</li> <li>○ 養護教諭との T・T による授業の実施</li> <li>○ 保健給食ミニ講座</li> </ul>

## 中学校第2学年 道徳科 学習指導案

平成29年 5月19日(金) 第5校時  
 中学校第2学年教室 授業者 吉村 憲治

- 1 主題名 3- (1) 生命尊重(※4- (3) 差別・偏見の克服)
- 2 資料名 「動物と生きるためには？」(出典：NHK「オン・マイ・ウェイ」第14回)
- 3 主題設定の理由と資料について

### (1) 児童・生徒の実態

本学級の生徒(男子1名、女子2名)は、小学校から共に生活し、互いの良さや欠点を理解した上で、互いを思いやりながら仲良く生活している。ペットを飼っている生徒も多く、動物を大切に育てたり、学級の植物を協力して育てたりしている様子が見られる。また、4月に実施した道徳に関するアンケートの「命はかけがえないものだと思う」という項目には、全ての生徒が「そう思う」と回答しており、生命を大切にし、尊重することの必要性はおおむね理解していることが分かった。しかし、学級外で育てている花が枯れていてもあまり気に留めなかつたり、近くにいる虫などにいたずらをしたりしていることがあり、自分の興味のある生命を大切にすることを覚えているもの、それ以外の生命についてはないがしるがしてしまっていることがある。

### (2) ねらいとする価値について

生命は、かけがえない大切なものであり軽々しく扱われてはならないものである。しかし、生徒たちにとっては実際に健康を損ねたり、危険な目に遭ったりしてはじめて生きていることの尊厳や命を実感するというのが現実である。近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間との関わりが希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり、生命の尊厳について考える機会を失いつつある。さらに、自殺やいじめなど生命を軽視する問題も起きている。

人間としてかけがえない生命が与えられていることに喜びと感謝の念を持ち、生きることへの価値を見出し、自他の生命を大切にすることに努める生徒を育てることが重要であると考へ、本主題を設定した。

### (3) 資料について

本資料では、傷ついた野生動物の命を数多く救っている獣医師の森田さんが、エゾシカの増加による深刻な農業被害が相次ぐ現状の中で、動物を救うことと農家の苦悩や窮状との間で葛藤する姿が描かれている。生徒にとっても、どちらの立場にも共感できる部分があると思われる。しかし、実生活を振り返ると食物を残して無駄にしてしまったり、害虫や雑草の駆除をしたりなど、当たり前のように何気ない気持ちで命をないがしろにしてしまうことは少なくない。どんな生物も懸命に生きているという点で、命は同じである。身の回りに命が溢れていることやどんな命もかけがえないものであることを再認識させ、自己を含めたあらゆる生命の尊厳への理解につながるよう促して、生きることへの喜びと感謝を持って生活しようとする心情を育てていきたい。

### (4) 指導について

指導にあたっては、子どもたちが自分のこととしてとらえられるようにするために、日常生活の行動をとってあげ、生徒の生活地域に関係する内容の資料にした。その中で、自分の行動と理想の行動の間に差があることに気づかせ、自分の考えと他者の考えを比べたり、感じ方の違いを理解したりして、ねらいとする道徳的価値について考えられるようにしたい。

## 4 研究内容との関連

### I 子供一人一人が、考え、議論していくための「主発問の精選」

手立て：補助発問と主発問を厳選し、必然性、共感性のある発問にする。

- ・必要最低限の発問だけにして、生徒たちの活動の時間を確保する。
- ・言葉を選ばず、一度で全員が理解できるような必然性、共感性のある発問にする。

### II 子供自身が、考え、議論していくための「つなぐ」の工夫

#### ☑ (ア) 子供と子供をつなぐ学びあいの工夫

☐ (イ) 子供と家庭・地域をつなぐ

☐ (ウ) 子供と道徳の資料や体験、経験をつなぐ

手立て：考えを深め、広げていくような発表の仕方や話し合い方の工夫。

- ・様々な発表方法で、各々の考え方や感じ方に違いがあることに気づかせる。
- ・机間指導等により各々の考えを把握し、意図的指名を行う。

#### 5 指導過程

##### (1) 本授業の内容

ねらい：生命の尊厳を理解し、かけがえない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

段階	学習活動・内容	◎主発問	○補助発問	時間	形態	◎指導上の留意点	☆研究内容との関連	※評価
導入	1 価値の方向付けを図る。 カメラマンを見つけたときどこで処するかを考え、伝え合う。 助ける？ 駆除する？		○補助発問	7	全	○ 檜枝岐村の生物を確認しながら、郷土理解を深める。 ☆ みんなの考えを全体で比較できるように心パロメーターを黒板に掲示し、自分の考えをワークシートに書かせ、価値の方向付けを図る。		
展開	2 資料映像を見て、話し合う。 ・映像を見ての感想を書く。 ○ 「あなたなら、どうしますか？」 助ける？ 駆除する？			18	全 個	☆ 机間指導を行い、各々の考えを把握する。 ☆ 意図的指名により、自分の考えとの違いに気づかせる。 ☆ みんなの考えの変化が全体で比較できるように心パロメーターを黒板に掲示し、自分の考えをワークシートに書かせる。		
	3 自らの生活を振り返り、話し合う。 ◎ 「命に大小はあるのか？」			20	全 個 班 全	○ 場合(シカとカメムシ)によって心パロメーターに違いがあることに気づかせ、そのことについて議論する。 ☆ 机間指導を行いながら自分の考えを表現できているか確認し、朱書きで称賛する。 ☆ ワークシートをグループで回して、その人の考えを読んだ上で思ったことや考えたことを色ペンでワークシートに記入させる。 ○ 生徒それぞれに先生方にインタビューをさせ、多様な価値観に触れさせる。 ※ 自他の生命の大切さについて深めることができたか。 【ワークシート・発言、観察】		
終末	4 本時のまとめをする。 (1) 詩を掲示する。 (2) 自己評価を行う。			5	全 個	○ 私たちの道徳を活用し、追求した価値を確認し、行為への意欲づけを図る。 ☆ 机間指導しながら生徒のまとめを把握する。 ☆ 意図的指名により生徒の考えが深まるようにする。 ※ 本時の授業でねらいとする価値に迫ることができたか。 【ワークシート・自己評価】		



6 授業実践の成果と課題

<成果>

- I ○ 生徒の実態を踏まえ、発問を精選したことで生徒一人一人が深く考えていく流れがスムーズだった。また、発問の構成を吟味したことで、生徒の考えようとする気持ちは深まった。
- II ○ 意図的に意見をつなぐ問いかけや指名をすることで子供たちの考えや意見を引き出すことができた。また、全体発表だけでなく、感想シートを回し見しながら生徒それぞれの考えを共有し、感想を記入させることで、多様な考えに触れることができた。

他○ 自分のこととしてとらえられる教材の精選、視覚的に自分の意志を明確にできる心パロメーターの活用、大人の悩む姿を見ることができた先生方への質問コーナーを取り入れたことで、生徒一人一人が意欲的に授業に取り組み、考えを深めることにつながった。

<課題>

- I ● 子どもの問いとして引き出していくための言葉やタイミングを授業の中で子どもたちの反応に合わせて、授業を微調整していくコーディネーター力が重要であることを感じた。
- II ● 少人数であっても多面的、多角的に考えを深め、広げていくための手立ての工夫。
- 他 ● 今回の資料は、生徒にとっても効果的なものであったが、毎時間厳選した資料を準備することが可能なのか。また、資料の内容をどこまで深めていくのか。資料精選、分析の重要性を感じた。

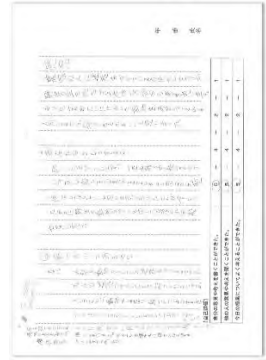
【生徒記述】※一部、抜粋

主発問に対する生徒記述とそれに対する感想記入

- 命に大小はない。人間も動物からすると迷惑をかけているかもしれないけど、迷惑をかけてすぐ殺されたら困る。ということ、動物もいきなり殺されたら困ると思う。
- Aさん：そうだね。すぐに殺されたら困るね。
- Bさん：優しいと思いました。カメムシも理不尽に殺されたら困るかもしれませんね。

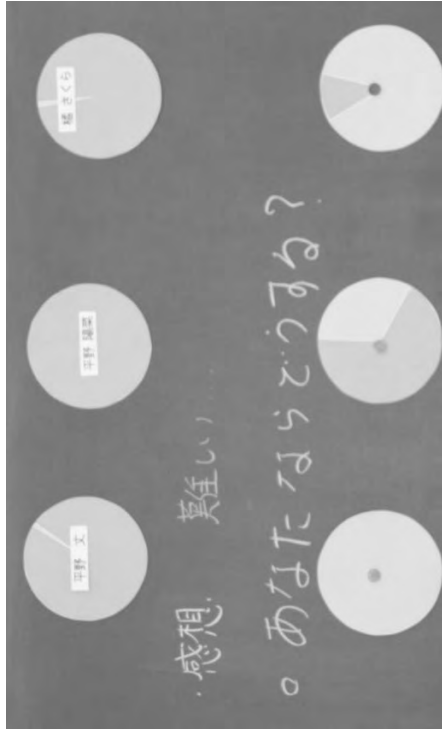
授業を終えての感想記述

- 色々な意見の人がいた。みんな、なるべく助けたいというので優しいと思いました。私は、自己中なのかもしれないけど、自分に害があるものは排除してしまうのは変わりないと思います。



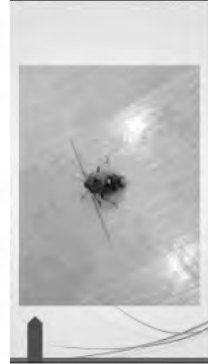
資料：使用したツール、ワークシート等  
 <心のパロメーター（心円グラフ）の活用>

- ・自分の思いを表現し、変容を視覚的にとらえやすくするために使用。



<スライド>

- ・地域の様子を振り返ったり、心を揺さぶったりする資料として利用。



## 小学校第3・4学年 道徳科 学習指導案

平成29年6月23日(金) 第5校時  
 小学校第3・4学年教室 授業者 丸山まどか  
 G.T 星 勝盛氏

- 1 主題名 3- (2) 自然愛・動植物愛護
- 2 資料名 「森がすき」 (出典：文溪堂 3年生のどうとく)
- 3 主題設定の理由と資料について

### (1) 児童・生徒の実態

本学級の児童(男子4名、女子4名)は、どの学習にも意欲的に取り組むことができ、協力し合いながら仲良く生活している。4月に実施した道徳に関するアンケートの「命はかけがえのないものだと思う」「檜枝岐村が好き」という項目には、全ての児童が肯定的に回答しており、生命や自然を大切にすることの必要性を理解しており、自分たちが住む村に対する愛郷心も強いことが分かった。総合的な学習の時間で、村についてのテーマを考えた際に、児童が村の好きなところとして、ほとんどの児童が「村の自然」を挙げた。しかし、どのように守っていけばよいか、という発問に対しては、具体的にどうすればよいか分からない、という答えがほとんどで、大切にしたいという心情があるものの、自然保護の知識やこれからは自分たちが村の自然のために行動を起こそうという実践意欲はあまりないという現状である。

### (2) ねらいとする価値について

地球を取り巻く環境は、温暖化をはじめとして、さまざまな問題が噴出している。このことは、人間が自然よりも人工物や機械的なものに接して暮らすことが多くなってきたからだ。古来、人間は自然を恐れ、自然を畏敬し、自然に親しみ守られて生きてきた。人間は未来に向かって、自然との調和を忘れてはならない。自然を愛し、環境を守ることを、一人一人が自覚しなければならぬ。身近な自然に親しむことを通じて、自然のもつ不思議さや美しさ、すばらしさに気づき、自然や動植物との共存を考えるような豊かな心が児童に育つことを願う。そのためにも、檜枝岐の自然について考える体験を通して身近な自然の大切さに気づかせ、自分ができることについて考えさせることで、道徳的実践力を高めていきたいと考え、本主題を設定した。

### (3) 資料について

本資料は、始めに主人公の「わたし」が、車の窓から見た森の景色に感心し、森の探検に出かけることになる。そこで、お父さんから森の役割についての話や昔の森の様子を聞きながら、探検をする。そして、森の空気のおいしさを感じたり、木の実を見つけたりする。森の中の音や夢中になって聞いている時や新しい木の芽を見つけた時の主人公の気持ちに共感することで、植物の力強さやたくましく感動し、その不思議さや一生懸命生きようとしている自然のすばらしさを素直な気持ちで見つめ、身近な自然を大切にしようという心情を養うことができる。資料である。

### (4) 指導について

指導にあたっては、資料にある森の中の写真の美しさに十分共感させたい。児童が自然を身近なものとして再認識することができるよう、檜枝岐村の自然や尾瀬の写真を見せたり、野鳥のさえずりなどの音源を効果的に活用したりする。その上で、資料をもとに、森は普遍的であること、命が育つことに気づかせる。展開後段では、ゲストティーチャーにより植物を再生させるには大変な時間がかかることを説明してもらい、森の大切さについての理解をさらに深めさせる。実際に檜枝岐村の自然を守ってきた方を招請することで、自分たちが住む地域の森も人によって守られてきたことを実感させたい。

## 4 研究内容との関連

I 子供一人一人が、考え、議論していくための**主発問の精選**  
 手立て：植物の立場に立つて考えさせることで、自然に対する一人一人の考えを見つめ直すことができるようにする。


II 森ではたくさんの方の命が育っていることに気づくことができるように発問を精選する。  
 ・植物の命の大切さを実感させるために、守られる立場の植物の気持ちを考えさせる。  
 子供自身が、考え、議論していくための「**つなぐ**」の工夫  
 (ア) 子供と子供をつなぐ字びあいの工夫  
 (イ) 子供と家庭・地域をつなぐ」  
 (ウ) 子供と道徳の資料や体験、経験を「つなぐ」

手立て：檜枝岐村の自然の写真を見たり、村の自然保護に携わってきた方の話を聞いたりすることで、自分たちの地域の自然について考えるようにする。  
 ・実際の尾瀬の写真や音源を効果的に活用し、自然の中の雰囲気や再体験させるようにする。  
 ・尾瀬の自然保護についてゲストティーチャーに話をしてもらう。

## 5 指導過程

### (1) 本授業の内容

ねらい：自然のすばらしさに気づき、自然に親しみ、動植物を大切にしようとする心情を育てる。

段階	学習活動・内容	◎主要問	○補助発問	形態	時間	留意点	☆研究内容との関連	※評価
導入	1 価値の方向付けを図る。 ・ 檜枝岐村の自然の写真のスライドショーを見る。	◎ 檜枝岐村の自然の写真のスライドショーを見る。	○ 補助発問	全	5	○ 写真を見て、木や森のよさを発表させ、それぞれの自然への考え方を確認する。 ☆ 電子黒板に尾瀬や村内の写真を掲示し、身近な自然を再認識させることで、価値の方向付けを図る。	○ 指導上の留意点 ☆ 研究内容との関連	※ 評価
展開	2 資料「森がすき」を読んで話し合う。 ○ 「森の中に入っていた時、かよ子はどんなことを思った？」 ○ 「春の森の中で木の芽を見つけたかよ子はどんなことを思った？」	◎ 「森の中に入っていた時、かよ子はどんなことを思った？」	○ 補助発問	全	20	○ 登場人物を紹介し、かよ子の気持ちに注意して聞く、という観点を示してから観読する。 ☆ 資料の写真と、檜枝岐村の自然の写真を掲示し、自分たちの身近に同じように自然があることを実感できるようにする。 ☆ 野鳥のさえずりなどを聴かせたり、深呼吸をさせたりして森の中にいる雰囲気を感じさせる。 ☆ 森の中の小さな芽の写真や、「大きくなるのに何十年もかかるといふ」というお父さんの言葉を提示することで、森では命が育っていることに気づかせる。	○ 指導上の留意点 ☆ 研究内容との関連	※ 評価
	3 尾瀬の自然について話し合う。 (1) 踏み荒らされた湿原の写真と復元した湿原の写真をみる。	◎ 尾瀬の自然について話し合う。	○ 補助発問	全	10	○ 檜枝岐では自然と人がどのように関わってきたかを伝え、自然の大切さについて考えさせる。	○ 指導上の留意点 ☆ 研究内容との関連	※ 評価
	(2) ゲストティーチャーの話を聞く。 	◎ ゲストティーチャーの話を聞く。	○ 補助発問	全	10	☆ 檜枝岐村の自然保護に携わってきた方の話を聞き、自分たちの地域の植物の再生に関わってきたことを知り、自分たちが住む地域の自然も人によって守られてきたことを実感させる。 ☆ 尾瀬の植物の気持ちを考えることで、森の命の大切さを実感することができるようになる。	○ 指導上の留意点 ☆ 研究内容との関連	※ 評価
終末	4 本時のまとめをする。 (1) 感想を書く。 (2) 自己評価を行う。	◎ 「尾瀬の植物は、どんなことを思っているのかな？」	○ 補助発問	全	10	※ 自然のすばらしさに気づき、自然に親しみ、動植物を大切にしようとする心情を高めることができる。 【ワークシート・役割演技、観察】	○ 指導上の留意点 ☆ 研究内容との関連	※ 評価

6 授業実践の成果と課題

<成果>

- I ○ 植物の視点に立って気持ちを考えさせましたことで、植物を大切にしようという心情を高めることができました。
- II ○ 普段生活している檜枝岐の写真や音を効果的に使ったことで、子供たちの経験を手引きし、意欲を高めることができました。
- 子供たちが行った尾瀬学習の写真と昔の荒れた尾瀬の写真と比較した上でGTの話につなげたことで、子供たちが自分の地域のことであると実感でき、資料と子供をつなぐことができました。

他○ 次週に行われる尾瀬学習との関連も踏まえた計画性のある学習を行うことで、子供たちの実践意欲が高まっていた。

- 電子黒板(ICT)を活用したことで、板書には発問を写真だけに写真だけの提示だけで、まとめがあり、分かりやすく見やすい板書となった。

<課題>

- I ● 立場が不明瞭な発問によって、児童が混乱してしまっただけで、自分がこの花だったらどう思う？」など、言葉を選ばず、立場を明確にした発問や声かけができていかなかった。
- II ● GTの話はもう少し打ち合わせが必要だった。授業者からの質問形式を進めていた方が、視点もぶれずに話を向えたのではないかと。
- 子供同士が議論する場がなかった。一人の子の意見に対する感想や疑問などを聞き、子供同士をつなげる活動を通して、多様な価値観にふれる議論の場ができていたのではないかと。
- 他 ● 子供の考えを書くことに精一杯で、表情を見る余裕がなかった。すべてを板書するのではなく、キーワードのみ板書していくことも必要だった。

【主発問「尾瀬の植物はどんなことを思っているのかな？」への記述】※一部、抜粋

- しづげんをあらさらされたくないし、ふまれたらこまるな。
- もつと花や葉をふやして、見てくれる人に「すごい！」と言わせたいな。もつともつと種をつくらせ！
- ほくはたくさんの人ににおしてもらったから、みんなに気づいてほしいな。

【授業を終えての感想記述】

- 来週、尾瀬に行ったらときには植物をふんだりちぎったりしないで大切にしたいです。
- おおの花たちは、さいしよはふまれたりしてあまりなかつたけど、人の力でなおしてきれいなおおになつたので、木道の上を落ちないように気をつけていきたいです。



また生えるのに時間がかかると、ほくのことを踏まないでね！

資料：使用したツール、ワークシート等

<スライドの活用>

- ・ 副読本の資料や尾瀬の湿原復元の資料を効果的に提示するために使用。



<GTの活用>

- ・ 湿原を復元させる活動についての話を伺う。子供たちは湿原が人の手によって復元されてきたことを知り、驚きの声をあげて熱心に話を聞いていた。

<尾瀬学習後のお礼の手紙>

- ・ 尾瀬学習から帰ってきた後、お礼の手紙を書いたところ、GTの話を思い出しながら尾瀬を歩いたことが分かる感想が書かれており、道徳の学習と学校行事とのつながりが見られた。





# 小学校第5・6学年 道徳科 学習指導案

平成29年10月 6日(金) 第4校時  
 小学校第5・6学年教室 授業者 佐久間 伸

- 1 主題名 Cー(12) 規則の尊重
- 2 資料名 「外国からのメッセージ」 ふくしま道徳教育資料集・第1集
- 3 主題設定の理由と資料について

(1) 児童・生徒の実態  
 本学級の児童(男子5名、女子2名)は、どの学習にも意欲的に取り組み、互いの良さや個性を理解しながら仲良く生活している。4月に実施した道徳に関するアンケートの「学校のきまりを守っている」、「家の人や友達との約束を守っている」という項目には、3名が「できている」、4名が「どちらかといえはできていない」と回答しており、規則を守ることの大切さをおおむね理解していることが分かった。しかし、授業開始までに学習の準備が間に合わなかったり廊下や階段を走ったりすることがあり、きまりや約束は守らなければならないと分かっているにもかかわらずできていないことがある。

(2) ねらいとする価値について  
 児童の成長には、社会や集団の様々な規範を身に付けていくことが含まれる。しかし、児童にとってはきまりを守る大切さを理解していても、なぜきまりを守らなければならないのか、少しくわしいはきまりをやぶっていいのではないかなど、自分の都合のいいように解釈してしまうのも現実である。他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することにも、義務を遂行せず、権利ばかりを主張しては、社会は成り立たない。社会生活上のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成していく点から、児童がきまりやマナーの意義を理解し、遵法精神をもつところまで高めていきたいと考え、本主題を設定した。

(3) 資料について  
 本資料は、東日本大震災後の「日本人の冷静で落ち着いた行動」と、「住人が避難していなくなった家での窃盗事件」や「原発事故による風評被害」がある事実を知った主人公が、日本人の行動を見直そうとする姿が描かれている。日本人の行動を見直そうとする主人公の姿からきまりやマナーの意義を考え、進んでそれらを守っていくようとする心情を育てていきたい。

(4) 指導について  
 導入では、子供たちが身近な問題としてとらえることができるように、身の回りのきまりやマナーに関するポスターを取り上げ、きまりがある理由について考えさせ、価値の方向付けを図る。展開では、被災した日本人の落ち着いた行動を取り上げた記事をもとに、なぜ、日本人の行動は賞賛を受けたのかを考えさせる。また、日本人の立場からの心情も想像させ、双方の立場から考えさせることで、物事を多面的・多角的に捉えさせたい。さらに、日本人の行動を見直そうとする主人公の気持ちを「KJ法」により児童の意見をつないでいくことで、ねらいとする道徳的価値に迫らせたい。展開後段では、きまりやマナーの意義、それらを守ることの大切さについてより深く考えさせたい。

## 4 研究内容との関連

- I 子供一人一人が、考え、議論していくための**主発問の精選**  
 手立て：より深く考えられるような主発問にするために、資料の中心場面を明確にする。  
 ・外国人、日本人双方の心情を想像させることで、多面的・多角的に考えられるようにする。  
 ・資料の中心場面に焦点を絞って提示することで、ねらいとする価値により迫らせる。

## II (ア) 子供と子供をつなぐ学びあいの工夫

- ☑ (ア) 子供と子供をつなぐ学びあいの工夫
- ☐ (イ) 子供と家庭・地域を「つなぐ」
- ☐ (ウ) 子供と道徳の資料や体験、経験を「つなぐ」  
 手立て：児童相互の考えを深め、広げているような話し合いの工夫。  
 ・児童の表情や発言を的確に捉え、問い返しや児童同士をつなぐ発問をする。  
 ・KJ法を活用し、児童相互の考えを整理、深めていく。

## 5 指導過程

(1) 本授業の内容  
 ねらい：きまりやマナーの意義を理解し、それらを守りよりよく生活しようとする心情を育てる。

段階	学習活動・内容	◎主発問	○補助発問	時間	形態	○指導上の留意点	☆研究内容との関連	※評価
導入	1 価値の方向づけを図る。 身の回りに、きまりやマナーに関するポスターが多いのはなぜだろう。			5	全	○身の回りに、色々なきまりやマナーに関する掲示物を提示し、興味関心を高める。 ○きまりが多い理由を考えさせ、価値の方向付けを図る。		
	2 資料「外国からのメッセージ」を読んで話し合う。 なぜ、日本人の行動が(中国の新聞記事)で紹介されたのだろうか。			20	全 個	○資料の写真(給水車に並ぶ避難者たち)を提示し、日本人の行動に着目させる。 ○資料の中心場面を電子黒板で提示し、考えるポイントを焦点化する。 ☆ 外国人、日本人それぞれの視点・立場から考えさせ、話し合わせることで、より深く考えさせる。 ○ 世界に賞賛された日本人のよさ(道徳の血)についても気付かせ、それを受け継いで行く大切さも考えられるようにする。		
展開	○ なぜ、日本人は落ち着いて行動できたのだろうか。 ◎ わたしは、なぜ考え込んでしまったのだろうか。			10	個 全	☆ KJ法を活用し、互いの考えを整理しながら話し合いを深められるようにする。 ☆ 意図的指名や問い返しなどによって、きまりの意義について考えを深めたり、広げたりできるようにする。 ○ ワークシートを活用し追求した価値を確認し、行為への意欲づけを図る。 ※ きまりやマナーの意義を理解し、それらを守りよりよく生活しようとする心情を高めることができたか。		
	4 本時のまとめをする。 (1) 教師の説話を聞く。 (2) 自己評価を行う。			10	個 全	○ 学校生活の中で具体的な出来事を取り上げ、その行動を称賛し、行為への意欲づけを行う。 ※ 本時の授業でねらいとする価値に迫ることができたか。 【ワークシート・自己評価】		

6 授業実践の成果と課題

< 成果 >

I 〇 導入時、校内のポスターを提示することで、児童の実態に合わせながらスラスムーズに価値への方向付けができた。また、ICT機器を活用し資料の要点をまとめ提示したことにより、児童により深く考えさせることができた。

II 〇 意図的指名や問い返し、児童同士をつなぐ発問をすることで児童一人一人の考えや意見を引き出すことができた。また、主発問に関して KJ法を活用しながら話し合いを進めることや相違点を明確にしたが話し合いを広げることができた。

他 〇 ワークシートについて、罫線のみをメモ欄と自己評価、感想欄という自由度のあるものを継続して活用してきた。児童は多様な考えを自由に書いたり、自ら整理しながら考えをまとめたりすることで、考えを深め、振り返りを行うことができた。

< 課題 >

I 〇 ICT機器の活用によって資料の要点をまとめて提示するややすく提示することができた。その一方で、児童の想像力、考えを狭めてしまう可能性も含まれていることも考え、ICT機器の活用場面、タイミング、内容、量などを工夫していく必要がある。

II 〇 KJ法を活用しながら児童自身が主体的に話し合いをつなげ、広げていけるような指導のやり方が重要である。また、日頃から児童が主体的な話し合いを進めていけるような指導の積み重ねが必要である。

他 〇 今回の震災に関連した資料は、児童にとって日本人の行動を考え振り返るには効果的であったが、児童の生活の実態に合っていたのか。資料の精選、分析を児童の目線から考えることの重要性を感じた。

【児童記述】※一部抜粋

主発問に対する児童の記述

- 〇 なぜ、こういう人たちがいるのか残念だな。
- 〇 中国の人々から「日本人は道徳の血が流れている。」と言われたのに、これでは逆だと思う。
- 〇 日本がこのままでは、協力して被害を少なくすることができないと思う。

授業を終えての感想記述

- 〇 自分のことだけを考えていると悪いイメージを持たれてしまうかもしれない。
- 〇 マナーを守るのは、他の人が嫌な気持ちにならないようにするため。マナーを守れば、他の人が助かるかもしれない。



資料：使用したツール、ワークシート等

< 板書計画 >

外国からのメッセージ

中国(海外)

- ・すい
- ・感動
- ・自分も大変なのに、なぜ

私は考え込んでしまった

- ・しかたない
- ・このままではけな
- ・日本の心意気を変えたい

きまりやマナーを守る

(写真)

給水車に遊ぶ日本人

日本人の落ち着いた行動

- ・きまりだから
- ・がまん
- ・思いやり

「ポスター」

きまりが多い  
知らない人がいるから  
みんなを守ってほしい

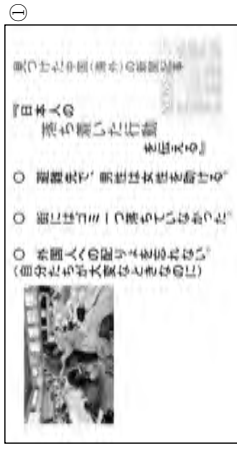
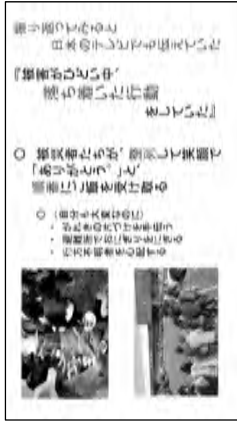
< 導入で活用したポスター >



< 校内に張られていたポスターを活用 >

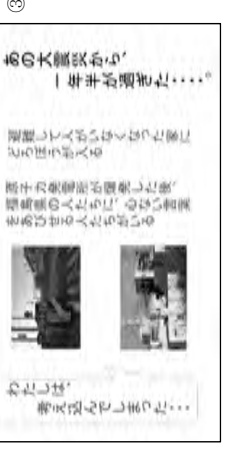


< スライド >



< 掲示写真 >

【給水車に遊ぶ避難者たち】





**【相双地区】 南相馬市立原町第三中学校**



# 道徳教育推進校《実施報告書》

## 1 学校紹介

学 校 名	南相馬市立原町第三中学校
所 在 地	南相馬市原町区下太田字川内前12番地の2
校 長 名	熊澤 正人
学校の教育目標	◎自ら進んで学ぶ生徒 (自主) ◎明朗で思いやりのある生徒 (寛容) ◎健康でたくましい生徒 (挑戦)
学級及び児童生徒数	5学級 82名
道徳教育にかかる 取組の概要	全教育活動における心の教育や生き方を考える教育の実践と、体験活動を通じた道徳的実践力の育成を目指し、豊かな人間性を育てる。

## 2 研究テーマ

豊かな学び合いを通して、郷土を愛し、自分の生き方を深める道徳の時間  
～自分の考えをもち、お互いの考えを伝え、学び合う授業づくりを目指して～

## 3 テーマ設定の理由

明るく素直な生徒が多く、言われたことや指示されたことに対して、最後まできちんと取り組む生徒が多い。しかし、小規模校ということから、お互いに刺激し合い、競い合うことが少なく、自分の現状に満足し、目標に向けてねばり強く向上しようという気持ちがやや薄い。そこで、まず自分の意見を明確にすることを基本に、友達の考えを知ること、自分にはない考えに触れ、考えを深められるようにさせたい。その手立てとして、「書く」ことを通して、自信をもって発表できる環境を整え、友達の意見を聞いて「書く」ことで自分の意見と比較しながら考えを深めさせたい。

また、道徳意識調査(資料12)から、本校生徒は自尊感情が低く、また、将来の夢や目標をもっている生徒が少ない。これらは、本校が東日本大震災及び原子力発電所事故による風評被害や、大人たちの不安などから影響を受けた、子どもの自尊心の低さに通じる部分があるのではないかと考えられる。それらを受けて、自分の身近な人々がふるさとのために活動している姿に目を向け、親しみやすい内容を提示し、自分の生き方を模索する時間を設けることで、これからの将来を心豊かに力強く生き抜こうとする心情を育てていきたいと考え、本テーマを設定した。

## 4 研究計画

月	内 容
4、5月	文献研究
5月19日(金)	現職教育全体協議会
6月23日(金) 6月28日(水) ～29日(木)	道徳教育推進校としての取組の概要についての提示 先進校視察〔福島大学附属中学校〕
7月 5日(水) 7月12日(水) 7月20日(木) 7月27日(木)	道徳推進の研究について検討 第1回道徳意識調査の実施 今後の道徳教育推進校としての道徳教育の取組について検討 研修会(中教研一次研)への参加〔原町第二中学校〕

8月 2日 (水)	「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会参加 〔万葉ふれあいセンター〕
8月 7日 (月)	道徳教育シンポジウム参加〔日比谷図書文化館〕
8月30日 (水)	現職教育委員会 (9月の検証授業に向けて)
9月12日 (火)	授業研究Ⅰ・事後研究会
9月27日 (水)	現職教育委員会 (10月の検証授業に向けて)
10月 3日 (火)	授業研究Ⅱ・事後研究会
10月11日 (水)	現職教育委員会 (11月の検証授業に向けて)
10月26日 (木)	現職教育委員会 (11月の検証授業に向けて)
11月13日 (月)	研修会 (中教研二次研) への参加
11月15日 (水)	現職教育委員会 (11月の検証授業に向けて)
11月16日 (木)	授業研究Ⅲ (道徳教育推進協議会)
12月12日 (火)	授業研究Ⅳ・事後研究会
12月21日 (木)	第2回道徳意識調査の実施
1月	研究のまとめ

## 5 児童生徒の実態及び地域の課題

### (1) 生徒の実態

本校は全校生徒82人の小規模校である。生徒は明るく素直で、身だしなみやあいさつなどきちんとしている生徒が多い。また、物事に対して真面目に取り組む生徒が多く、言われたことや指示されたことはやり遂げようとするが、自分の意思を明確にもち、積極的に活動することは苦手である。2つの小学校だけの固定化された人間関係であるため、現状に満足する生徒が多く、また、自分を表現することが苦手な生徒もいる。

### (2) 地域の課題

南相馬市原町区の南に位置し、東日本大震災と原子力発電所事故の影響で、避難した家庭が多く、年々子どもの数が減少している。生徒数が減少した今も、昔と変わらず学校教育に対して大変協力的な地域である。生徒たちの活躍を心から応援しており、自分の子どもが卒業した後も、地域や同窓会の積極的な関わりが見られる。その反面、子どもたちは、インターネットやゲームの普及などにより、地域に関心が薄く、将来、「地域を良くしたい」、「福島県のためになる仕事をしたい」と考えている生徒の割合が低く、地域の方々の協力が当たり前だと感じている。体験活動等を通じた道徳的実践力の育成を図り、家庭や地域と連携を図りながら、道徳教育を推進していく必要がある。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針

学校経営・運営ビジョン(資料1)をもとに、校長が示した指導方針は次の通りである。

- 学校課題・目指す生徒像を全教職員で共有し、常に教育実践の根底に置く。
- 学校課題解決のための道徳重点目標として、次の内容項目について実践研究を進める。
  - ・ 1 - (2)  
より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
  - ・ 1 - (4)  
真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
  - ・ 4 - (4)  
自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
  - ・ 4 - (8)  
地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬

と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

- 心の教育や生き方を考える教育実践を進めるための指導の工夫、改善を進める。
- 「特別の教科 道徳」の実践に向けて、「考え、議論する道徳」の授業のあり方について研究を進める。
- 道徳教育推進が本校現職教育の主題と関連したものとなり、主題の追究をより推進することにつながる。
- 道徳の教科化を視野に評価のあり方について研究を深める。
- ゲストティーチャー、ふくしま道徳教育資料集等の活用を計画的に進める。
- 教員の道徳教育研修の充実を図る。
- 保護者、地域に対して本校の道徳教育への理解を深めるため、道徳授業の公開、教育活動や取組の成果を発信するための工夫、改善を進める。
- 生徒の生活の中に生きる道徳教育の推進のため、体験活動等を通じた道徳的実践力の育成を図る。

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

教育目標を達成するために、道徳意識調査のアンケートの結果から、生徒の実態や教師・保護者の願いを考慮して、道徳教育の重点目標を設けた。その中で、さらに、学年ごとに発達段階に応じて重点指導内容を設定した。

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画「別葉」について（資料3）

道徳の時間と各教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関連を示しながら、全教育活動において意識・実施しやすいよう、月ごとの一覧表にまとめ、作成した。

## 9 平成29年度 学年（学級）における指導計画について（資料4）

生徒の実態から、学年重点目標を設定し、学級における道徳教育の基本方針を明らかにした。学期ごとに反省と評価を行い、次の学期に生かせるようにした。

## 10 道徳教育推進教師の実践について

- (1) 道徳の授業の在り方・作り方を提示し、授業を行う教員同士の共通理解と、授業を参観する教員同士の授業分析の視点について焦点化を図った。（資料5、6）
- (2) 道徳的環境作りを次の①～⑤の内容で行った。道徳の授業だけでなく、学校生活全般の中で道徳に関心をもってもらうための手立てを考えた。（資料7）
  - ① クラスに『道徳の時間』の計画』を掲示
  - ② 『みんなの道徳』～心を耕そう～の掲示
  - ③ 『モラル・エッセイ』コンテストへの参加
  - ④ 全校生徒による『給食ありがとう』の感謝の手紙の作成
  - ⑤ 職員会議等で協議される学校行事等の計画に道徳の内容項目を提示

## 11 道徳の時間について

- (1) 授業研究Ⅰ 3年1組（資料8-1、8-2）  
郷土愛、先人への尊敬と感謝【内容項目4-(8)】  
「ふるさとの発展のために」～「私たちの道徳」～  
※ ゲストティーチャーの活用、ペア・グループ学習
- (2) 授業研究Ⅱ 2年1組（資料9-1、9-2）  
伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度【内容項目4-(8)】  
「こどもの日」～「ふくしま道徳資料集 第Ⅲ集」郷土愛 ふくしまの未来へ～

- ※ 地域の映像の活用、意図的指名、ペア学習
- (3) 授業研究Ⅲ 1年1組(資料10)  
郷土愛、先人への尊敬と感謝【内容項目4-(8)】  
「ぼくのふるさと」～中学道徳1 「明日をひらく」～  
※ アクティブ・ラーニングの活用、ペア・グループ学習
- (4) 授業研究Ⅳ 1年1組(資料11)  
自主自律、誠実と責任【内容項目1-(3)】  
「デンさん」～中学道徳1 「明日をひらく」～  
※ 意見の理由付け、ペア学習

## 1.2 道徳意識調査の実施(資料12)

生徒の道徳に対する意識を把握するため、7月と12月の2回、全生徒を対象に道徳意識調査を実施する。(道徳意識調査は高知県教育委員会 Web ページ掲載の「道徳意識調査(中学校用)」を使用)

## 1.3 成果と課題(○成果 ●課題)

### (1) 道徳の時間の指導について

- 道徳的価値に迫るためのペア学習やグループ学習などを取り入れたため、話し合い活動が活発に行われるようになった。
- 電子黒板や映像などの補助教材を生かした教材提示の工夫により、生徒たちが真剣に考え、お互いに意見の交流が行われる場面が多く見られた。
- ゲストティーチャーの活用や地域の映像の活用など身近なところから郷土愛に迫ったことで、生徒が大いに興味・関心をもって授業に取り組むことができた。
- アクティブ・ラーニングを意識した取組により、自分の意見をもつ生徒が増えた。いろいろな生徒の意見を聞くことにより、対話的な学びが広がり、いろいろな見方・考え方を働かせるようになった。
- 「ふるさと」をキーワードに自我関与を促す発問の工夫が必要であった。
- 発問を1つに絞るなど発問を精選して、生徒に考えさせたい道徳的価値を深い学びにつなげる必要がある。

### (2) 道徳的環境作りについて

- クラスに『道徳の時間』の計画』を掲示したことで、生徒は学期ごとにどんな内容に触れていくのか見通しをもつことができた。また、道徳の時間の計画表があることで、生徒たちの道徳に対する意欲・関心の高まりが見られた。
- 学校行事実施案に道徳の内容項目を提示することにより、教員間でも日常から道徳的価値を意識するきっかけになっている。
- 全校生徒による『給食ありがとう』の感謝の手紙』を毎年送ることにより、陰ながら学校を支えている方々への感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感できた。
- 掲示物を計画的に貼り替える必要がある。
- 各教科等と道徳との関連を意識した授業の展開の意識付けを図りたい。

### (3) 道徳意識調査の結果より

- 内容項目を焦点化したことにより、2回目のアンケート結果の方がほとんどの項目で上回った。何が課題なのかを精選することにより、指導側もはっきりとした目的意識をもって授業することができた。
- 自己肯定感の項目だけが、あまり変化がなかったため、今後はもっと生徒たちの心に寄り添い、自分を認め、相手を認める意識を図った内容項目を強化していきたい。



# 平成 29 年度 南相馬市立原町第三中学校 学校経営・運営ビジョン

## 自主・寛容・挑戦 - 夢の実現 -

本校では「自主」「寛容」「挑戦」の教育目標を掲げ、「夢の実現」のために日々取り組む生徒の育成を目指して教育活動を続けております。  
 また、震災後6年を経て保護者・地域の皆様の本校に寄せる大きな期待とご支援により、以前にも増して整備され充実した教育環境のもと生徒の朗らかな声が響く学校生活が展開されています。  
 平成29年度の学校経営・運営ビジョンを作成するにあたり、保護者、生徒、教職員へのアンケート等により生徒に身につけさせたいことが明らかになってきました。それは、「夢や目標に向かっての努力・考えや意見を表現し主張する力・相手の立場や気持ちを認める態度」などです。前年度の「目標に向かってチャレンジする生徒」の姿から、今年度は**粘り強さ・根気強さ**をもって**あきらめず、実現・達成するまで努力する**という生徒像を目指し重点目標を「目標達成に向けて、ねばり強く努力する生徒」としました。最後までやり抜く意欲は自分に自信をもつことから生まれます。そのため全ての教育活動の根底に生徒の自己肯定感の育成を置いて取り組んでまいります。  
 校長 熊澤 正人

### <学校経営の基本>

1. 生徒第一、優先主義を貫きます
2. 職員とともに考え、行動します
3. 保護者や地域の期待に応えます

### 教育目標

- ◎ 自ら進んで学ぶ生徒 (自主)
- ◎ 明朗で思いやりのある生徒 (寛容)
- ◎ 健康でたくましい生徒 (挑戦)

### =プロの教師としての姿=

1. 高邁な教育的理想 『理想』
2. 意欲的な研修、読書 『研修』
3. 質の高い授業実践 『実践』
4. 一社会人としてのモラルの向上 『倫理』

### 【育てたい3つの心】

～重点目標の達成を支える心～

- 自己肯定感(自信)と他者肯定感(信頼)
- 自分の考えをいかにして表現しようとする心
- 自ら決めたことに責任をもち、ねばり強く取り組もうとする心

### 重点目標

『目標達成に向けて、ねばり強く努力する生徒』

### 【めざす5つの力】

～重点目標の達成のために必要な力～

- 社会に対応する、思考、判断、表現する力
- より高い目標を目指す、目標設定力
- 目標達成のために、継続して努力する力
- 協同して学び、磨き合う力
- 情報を集め、先を見通す力

### 確かな学力を

#### 身につけさせます

- ◎ 学び合う授業を通して、思考力、判断力、表現力を高めます
  - ・「授業の約束3ヶ条」「学び合う授業づくり10ヶ条」の意識化と実践
  - ・「南相馬市9つの課題」を意識した授業改善
  - ・全員が学びに参加する授業の展開
  - ・全教師による研究授業と研修の充実
  - ・定期的な学習相談の場の設定と、質問タイムの実施
  - ・書くことを中心とした言語活動の充実
  - ・少人数学級編制のメリットをいかした個に応じた指導の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化を図ります
  - ・担任による家庭学習への支援・指導
  - ・パワーアップテストの活用
- ◎ 英語、漢字、数学等の各種検定試験に一人1回は挑戦させます
  - ・全校をあげての支援体制
  - ・個に応じた目標の設定と個別支援
- ◎ 読書の好きな生徒を育てます (年間24冊以上目標)
  - ・毎朝10分間の読書活動
  - ・家庭での読書の推進、啓蒙
  - ・図書室環境の整備
  - ・授業での図書室の有効活用

### 豊かな人間性を

#### 育てます

- ◎ 道徳教育を充実させます
  - ・全教育活動における心の教育や生き方を考える教育の実践
  - ・道徳の授業の工夫(ゲストティーチャー・私たちの道徳・県版資料の活用)
  - ・体験活動を通じた道徳的実践力の育成
- ◎ 国際理解・福祉教育、情報教育を推進します
  - ・ALTを活用した異文化理解
  - ・福祉体験学習の推進
  - ・情報活用能力、情報モラルの向上
  - ・ICTを活用した授業実践
- ◎ 協同性、社会性を培う体験活動を充実させます
  - ・生徒会活動の活性化、生徒主体の行事の工夫
  - ・ボランティア活動の推進
  - ・清掃活動の充実
  - ・生徒による中庭や花壇の整備
  - ・PTA奉仕作業や廃品回収の生徒協力
- ◎ 生き方を考える進路指導の充実を図ります
  - ・3年間を見通したキャリア教育
  - ・職業講話と職場体験活動の推進
  - ・上級学校等訪問の実施

### 健やかな心とからだを

#### はぐくみます

- ◎ 健康増進、体力の向上をめざします
  - ・体力や運動能力の実態をふまえた体力向上推進計画の作成と実施
  - ・自主性を生かした部活動や体力の基礎作りの実践
  - ・心のケアの充実
  - ・個別の健康相談の実施
  - ・食育の推進
  - ・性教育の充実
  - ・放射線教育の充実
- ◎ いじめのない学校をめざします
  - ・定期的なアンケート調査の実施
  - ・教育相談の充実
  - ・全教師によるいじめは許さない指導
  - ・スクールカウンセラーの有効活用
- ◎ 安心・安全な学校づくりをめざし、安全教育を推進します
  - ・交通事故防止への具体的実践 (立哨指導、交通教室の充実)
  - ・施設設備の定期点検及び補修
  - ・火災、地震、津波等に関する実際の訓練の実施
  - ・防犯カメラの活用(3カ所)
  - ・不審者侵入に対する実際の訓練の実施

### 地域・保護者に

#### 信頼される学校にします

- ◎ 学校の情報を定期的に発信します
  - ・各種便りの定期的発行、HPの毎日の更新による本校教育活動、生徒の様子などの情報発信
  - ・学校運営ビジョン、経営方針の説明
  - ・学校評価の実施と活用、評価結果の公開
- ◎ 保護者・地域との連携を推進します
  - ・学校行事の公開、PTA活動の充実
  - ・地域の教育力の活用(地域教材、外部講師)
  - ・学校評議員会の充実
  - ・地域行事への積極的参加
- ◎ 実効性のある学校運営体制を整備、改善します
  - ・PDCAサイクルの充実
  - ・校内組織の活性化(運営委員会、生徒指導委員会等)
  - ・服務倫理委員会の計画的な開催(不祥事の絶無)
  - ・いじめ防止基本方針運用といじめ問題対策連絡協議会の設置
- ◎ 美しい教育環境を整えます
  - ・校舎内外の整理整頓
  - ・市教委との連携による教育環境整備

### 南相馬市授業改善プラン

#### 「基礎・基本の定着と活学力の向上」

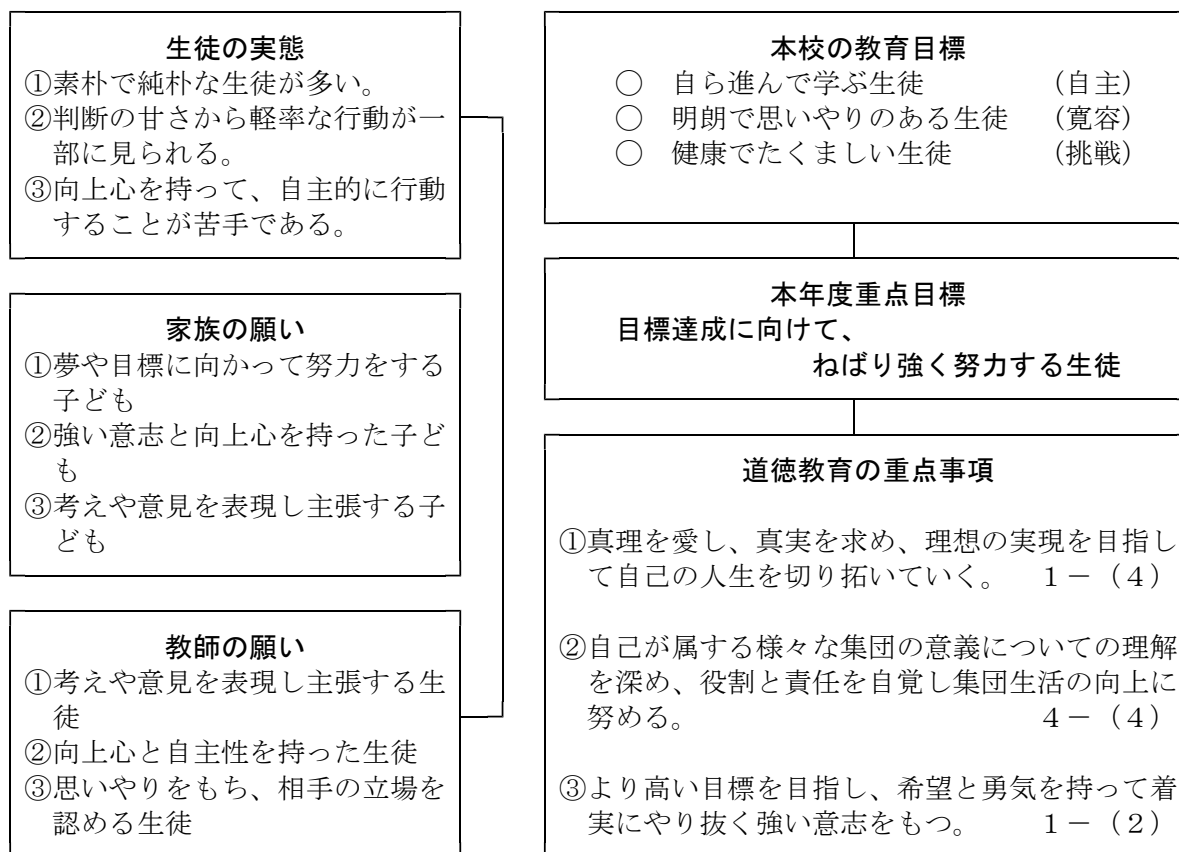
～学力向上に向けた「9つの課題」の改善～  
 発表する場の設定 学び合う授業づくり  
 資料を読みとる力の育成  
 根拠を明確にして書く力の育成  
 ノートづくりの工夫 板書の工夫  
 適用とまとめの時間の確保  
 家庭学習の習慣化 読書活動の推進

### ◎ 各教科の達成目標 ○ 全国学力学習状況調査・福島県学力調査で全国平均へ到達する。

国語	互いに意見を述べ合い、より適切な作文にしたり、より正しく理解したりする能力を育てます。	美術	発想や感動の共有を通して、生活に活きる造形活動の充実を図ります。
社会	課題解決学習を通して、社会的な思考力・表現力を育てます。	保健体育	積極的に運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進、体力の向上を図ります。
数学	基礎・基本の定着を図り、活用する力を育てます。	技術・家庭	実習を通して、知識・技能を身につけ、生活を工夫する能力と活用する力を育てます。
理科	知識や技能の確実な定着を図り、科学的な思考力や表現力を育てます。	英語	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの技能を総合的に育成し、発信力を育てます。
音楽	表現、鑑賞を通して、音楽の持つ豊かさや美しさを感じ取る態度を育てます。		

# 道徳教育全体計画

資料2



1 年	2 年	3 年
○常に自主的に考え、自ら選んだことを誠実に実行し、その結果について最後まで責任を果たそうとする態度を育てる。 1-(2)	○常に自主的に考え、自ら選んだことを誠実に実行し、その結果について最後まで責任を果たそうとする態度を育てる。 1-(2)	○望ましい生活習慣を継続し、心身を積極的に鍛錬しようとする態度を育てる。 1-(1)
○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。(夢への努力) 1-(4)	○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。(夢への努力) 1-(4)	○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。(夢への努力) 1-(4)
○温かい人間関係の気持ちを深め、思いやりの心を持ち、すべての人を尊重する態度を育てる。 2-(2)	○集団の一員としての役割を自覚し、一人一人が自らの責任を果たそうとする態度を育てる。 4-(4)	○集団の一員としての役割を自覚し、一人一人が自らの責任を果たそうとする態度を育てる。 4-(4)

**道徳の時間の指導方針**

豊かな道徳性を養い、道徳的実践力を高める。

- ・道徳性を高めるための指導法の工夫をする。
- ・道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高めるためにふさわしい資料の収集・活用を図る。
- ・地域の人々の積極的な参加や協力を得て、開かれた道徳を推進する。
- ・教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深める。

資料3

平成29年 第1学年 道徳の全体計画別業(道徳と各教科・特別活動等との関連表)

月/教科名	道徳	学級活動	特別活動	学校行事	英語	音楽	美術	保健体育	技術	家庭
4月	<p>より高い目標を目指し、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>学級活動            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>生徒会活動            生徒会総会(4) 新体力テスト            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>学校行事            第1学期始業式・入学式            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>英語            オリエンテーション            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>音楽            オリエンテーション            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>美術            オリエンテーション            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>保健体育            オリエンテーション            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>技術            ガイダンス            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>	<p>家庭            ガイダンス            1-1) 道徳的成長、希望と夢を抱き、強い意志をもつ。1-(2) 道徳的成長、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1-(4) 集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4-(4)</p>
5月										
6月										
7月										
8月										
9月										
10月										
11月										
12月										
1月										
2月										
3月										

学年（学級）における指導計画 【 第2学年 】

南相馬市立原町第三中学校  
第 学年 担任

道徳教育全体計画

道徳の重点目標	
○より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。1－(2)	学年の生徒の実態 ○言われたことに対して、素直に取り組み生徒が多い。 ○幼少期から同じ集団であるために、競争意識や向上心に対して欲がない。 ○道徳的意識は高まっているが、実践につながらない。 ○将来への希望をもち、自分の個性を伸ばして、前向きに取り組む意識が低い。
○真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。1－(4)	
○集団の一員としての自覚をもち、集団生活の向上に努めようとする。4－(4)	

道徳教育の重点指導内容	
○常に自主的に考え、自ら選んだことを誠実に実行し、その結果について最後まで責任を果たそうとする態度を育てる。1－(2)	学年の道徳の時間の基本方針 ○資料を通して、自分の意見や考えをもち、友人と意見を交わしながら、考えを深め、議論する道徳を展開する。 ・授業では、生徒の考えをつなげ、ねらいや道徳的価値に対する考えを深めることができるよう工夫する。 ・プリント等を活用し、自分の考えを書き、発表しやすくする。そして、お互いの考えを知り、道徳的価値に対する考えをより深められるようにする。 ・発言しやすい雰囲気づくりをし、友人の意見を聞き、自分の意見の中に取り入れ、道徳的価値を深められるようにする。
○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。1－(4)	
○集団の一員としての役割を自覚し、一人一人が自らの責任を果たそうとする態度を育てる。4－(4)	

道徳教育の重点指導内容	
○常に自主的に考え、自ら選んだことを誠実に実行し、その結果について最後まで責任を果たそうとする態度を育てる。1－(2)	学年の道徳の時間の基本方針 ○資料を通して、自分の意見や考えをもち、友人と意見を交わしながら、考えを深め、議論する道徳を展開する。 ・授業では、生徒の考えをつなげ、ねらいや道徳的価値に対する考えを深めることができるよう工夫する。 ・プリント等を活用し、自分の考えを書き、発表しやすくする。そして、お互いの考えを知り、道徳的価値に対する考えをより深められるようにする。 ・発言しやすい雰囲気づくりをし、友人の意見を聞き、自分の意見の中に取り入れ、道徳的価値を深められるようにする。
○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。1－(4)	
○集団の一員としての役割を自覚し、一人一人が自らの責任を果たそうとする態度を育てる。4－(4)	

道徳教育の重点指導内容	
○常に自主的に考え、自ら選んだことを誠実に実行し、その結果について最後まで責任を果たそうとする態度を育てる。1－(2)	学年の道徳の時間の基本方針 ○資料を通して、自分の意見や考えをもち、友人と意見を交わしながら、考えを深め、議論する道徳を展開する。 ・授業では、生徒の考えをつなげ、ねらいや道徳的価値に対する考えを深めることができるよう工夫する。 ・プリント等を活用し、自分の考えを書き、発表しやすくする。そして、お互いの考えを知り、道徳的価値に対する考えをより深められるようにする。 ・発言しやすい雰囲気づくりをし、友人の意見を聞き、自分の意見の中に取り入れ、道徳的価値を深められるようにする。
○理想を求め、その実現をめざして、自己の人生を切り開いていこうとする態度を育てる。1－(4)	
○集団の一員としての役割を自覚し、一人一人が自らの責任を果たそうとする態度を育てる。4－(4)	

学習指導要領が求める道徳科の姿をつかむ

道徳教育研究推進の焦点化

- 「考え、議論する道徳」への一層の転換
- (1) 議論する授業
    - = 物事を「多面的・多角的」に考える授業
  - (2) 生き方について考え、判断する力を重視する
    - = 「道徳的な判断力」を育てることを意識

道徳科の指導の在り方・方法

- アクティブ（能動的）な授業への一層の質的改善
- (1) 主体的な取組→問題意識
    - 教師の方向付けに留まらず、生徒自らが問いをもって臨む
  - (2) 協働的・対話的な追求
    - 人物への共感に留まらず、価値や生き方を話し合う
  - (3) 能動的な学び…磨き合い
    - 多様な感じ方・考え方を並べて終わらず、自己の納得を求める

質の高い多様な指導方法

- (1) 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
  - 教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値場面を深く掘り下げて、その判断や心情を考察することにより、道徳的価値の理解を深めることができる。
- (2) 問題解決的な学習
  - 生徒一人ひとりが生き生きと出会う様々な道徳的諸価値場面や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。
  - 問題場面について生徒自身の経験を問う発問や、問題場面を自分の経験に照らして考察することを通じて、道徳的価値を養うことができる。
- (3) 道徳的行為に関わる体験的な学習
  - 問題場面などの体験的な学習を通して、実際の場面や課題を伴って理解することを通して必要な資質・能力を主体的に解決するために必要となることを養うことができる。
  - それに対して自分なりの行動をとるか、という問題解決のための役割演技を通して道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

授業における考察の視点

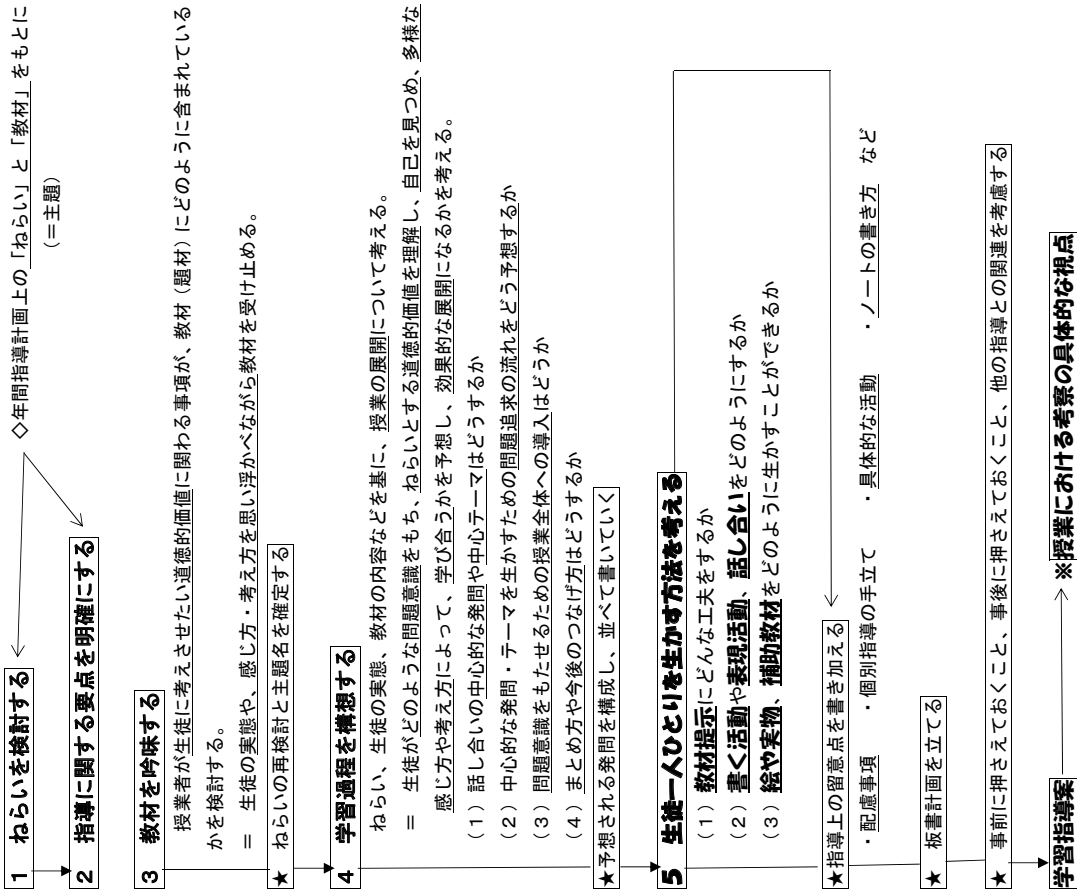
- 主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）
- (1) 主体的な学び
    - 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげていく「主体的な学び」が実現できているか。
  - (2) 対話的な学び
    - 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
  - (3) 深い学び
    - 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを言いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。



資料6

# 道徳授業の作り方

南相馬市立原町第三中学校



資料7

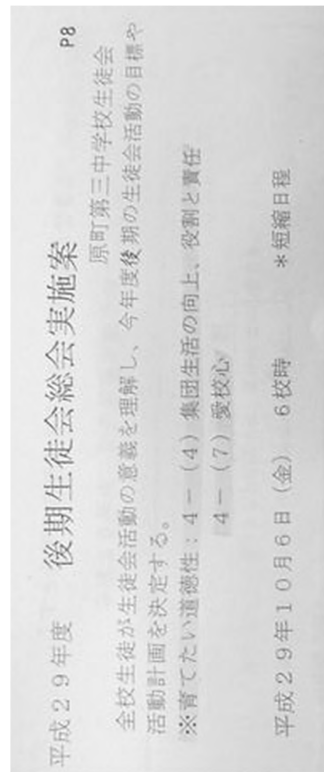
- ① クラスに『道徳の時間』の計画」を掲示
- ② 『みんなの道徳』～心を耕そう～の掲示



④ 「給食ありがとう」感謝の手紙



⑤ 職員会議等で協議される学校行事等の計画に道徳の内容項目を提示





7 準備物 私たちの道徳、道徳ファイル、ワークシート、電子黒板、ゲストティーチャー (元太田区長会長)

8 指導過程

授業のテーマ	自分の考えを基にしたペアでの話し合いやゲストティーチャーの話を通して、郷土に対する認識を深め、郷土を愛し、その発展に努めることの大切さに気づく授業
--------	---

1 主題名 郷土愛、先人への尊敬と感謝 (内容項目4-(8))

2 資料名 『ふるさとの発展のために』(私たちの道徳)

3 主題設定の理由

(1)価値観・・・郷土を愛することは、自分の生まれ育った郷土や住んでいる所の自然や伝統、文化に関心を持つことである。この関心に伴う郷土への愛着の心情が郷土愛である。郷土を自分自身の住む郷土をよきようにして、新たな郷土のあり方や考え方が生まれ、自分の心や態度を育てたい。このように新たな視点から郷土愛が生まれ、自分自身の心や態度を育てたい。また、ゲストティーチャーの様々な活動を知ること、地域の方々の地域に対する思いを伝え、地域の現状や良さを改めて感じさせたい。

(2)生徒観・・・基本的には2つの小学校から入学してきた生徒であるが、通常学級は1つのため、生徒はほぼ同じ顔ぶれで長い期間を生活している。そのため、多くの生徒は、本心を隠したり表面だけを飾ったりしている。そのため、多くの生徒は、本音をぶついたり、男女分け隔てなく、仲良く学校生活を送っている。授業でも、積極的に発言をしたり、元気に発表したりする様子が多く見られる。一方で、普段から大人しい生徒は、自分の考えを表現し出すことが躊躇してしまうこともある。また、各種アンケートから見ると、自己肯定感の割合が全体的に低く、自分に自信を持っていない生徒も見られる。全体的には、自己主張はできるが、根柢のない優越感や劣等感を持ってたり、その場の状況に流されてしまったりすることも少なくない。

(3)資料観・・・本資料は、地域に目を向け、郷土を愛し、その発展に寄与しようとする態度を育むものである。資料やゲストティーチャーの話から、地域社会に対して様々な視点から思いを深め、郷土を愛し、その発展に努めていきたい。また、ふるさとと郷土の発展に貢献する具体的な事例を通して、様々な人々のふるさとへの思いに触れながら、郷土に対する認識を深めていくようにしたい。

4 指導計画 (4-(8)に関して)

時	主題名	資料名	ねらい
1 (本時)	郷土への思い	ふるさとの発展のために	郷土を愛し、地域社会をより良いものに発展させていく気持ちをもちたい。
2	二宮金次郎・富田高慶	報徳社法に学ぶこと	自分が地域の一員であることに自覚を持ち、地域を尊敬・尊重し、より良いものに向いようとする意欲を高める。

5 本時のねらい 郷土を愛し、地域社会をより良いものに発展させていく気持ちを持つことができる。

6 授業の構成

本資料をあくまで手掛かりにして、生徒一人一人が自分自身を振り返るために葛藤したりしながら、郷土をよりよく見ようとする機会にした。そして、充実した日々を送るために自分は何をすれば良いかを考え、各自が十分に考えた。それを基にしてペアでの話し合いをそのために、各自が十分に考えた。それを基にしてペアでの話し合いを行わせ、自分の考えを相手に伝えたい。その中で、他者の考えを聞いて、いろいろな考え方に触れさせ、さらに、ゲストティーチャーの話や、地域の現状を知り、様々な活動を考えることで、価値の内面的な自覚が図れるようにする。

段階	学習活動・内容	時間	形態	評価方法
導入	1 道徳アンケートの結果を見て自分の考えを発表する。ために(地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある) (社会人になっても、自分たちの地域や福島県のためになる仕事をしたいと思う。) ○この結果をあなたはどのように思いますか。 ○ここまで考えられない。 ・自分の将来とも関わってくるので仕方ないと思う。	5	全体	○教師の支援 ○主題への方向付けと導くが導入なので簡単に扱ひ、あまり深入りしないようにする。 ○連続で指名していくことで、発言しやすい雰囲気づくりをする。
展開	2 資料「ふるさとの発展のために」の範読を聞く。 (1) 郷土についての自分の考えをワークシートに書く。 ○郷土で誇れる所はどこですか。 ○郷土で改善が必要なのはどこですか。 (2) ペアにて自分の考えを伝え、話し合う。	10	個人	○自分の考えを書かせることで、郷土への関心を高め、自分自身を振り返るきっかけにさせる。 ○ペア学習によって話し合いをしやすいように配慮する。 ○どうすれば郷土はさらに良くなるのか等を観点にした話し合いができるようにする。 ○郷土を愛し、地域社会をより良いものに発展させていくためには、「郷土を思う気持ち」が問題になることに気づかせる。 ○話を聞くことを通して、自分の内面を見つめさせる。 ○郷土に居続けることも郷土を愛すること、外から郷土を思う気持ちを持つことも郷土を愛することであるということにも気づかせたい。
閉	3 ゲストティーチャーの話聞く。郷土の歴史的な位置付け ※郷土の産業の特色 ※震災への対応 等	15	全体	
終末	4 本時を振り返り、再度自分の考えを書く。 ○自分が何をすれば地域社会をより良いものと思えるか。 ・愛する気持ちを持つ。 ・郷土に居続ける。	10	個人・全体	自己を見つめ、今後どんなことを考えながら生活していくかが大切かをワークシートにまとめていく。 (ワークシート・観察) ○机間指導により何人かに発表させる。

## 第3学年 道徳シート「ふるさと」の発展のために

3年 組 番

9月12日(火)

質問 1 : アンケートの結果を聞いて、思ったことは？

質問 2 : 郷土についての自分の考えを書きましょう。  
① 郷土で誇れるところはどこですか？

② 郷土で改善が必要な所はどこですか？

活動 1 : 話し合い (友だちの考えなどをメモしてみよう。)

活動 2 : ガストティーチャー (お話しを聞いた感想などを書いてみよう。)

質問 3 自分が何をすれば、地域社会をより良いものに発展させられるか？

### 【第3学年 研究授業 考察】

#### 〔1〕教材提示にどんな工夫をすか

- 電子黒板を効果的に活用したことで、今、何について話し合ったり、考えたりすればよいかが、明確であった。
- 提示したスライドで流れが分かり、話し合いが活発に行われていた。
- ガストティーチャーが地元の方であり、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。
- 教材提示からガストティーチャーへのつなげ方に、ひと工夫があるとより効果的であった。
- 事前にガストティーチャーと話し合いをした上で、授業の流れを見てもいいながら、参加する形にした。事前の打ち合わせの重要性和、そのときの授業の流れによって、準備していた内容が変わってしまう点など、難しい部分が生きてきた。

#### 〔2〕書く活動や表現活動、話し合いをどのようにするか

- ペア学習から4人での話し合いに展開してお互いの考えを深めている場面が見られた。
- ペア学習により、あまり多く書けなかった生徒が相手の意見を聞いて、賛同し、ワークシートにたくさん書いている姿があった。
- それぞれ自分の意見をしっかりとしており、きちんと書いている生徒が多かった。
- ペア学習が奇数の場合、ペアがないので、話し合いに入るまでに時間がかかった。その場合の配慮も必要かもしれない。
- 同じ着眼点でも、生徒によって反対意見があったので、対比させてみてよもよかった。

#### ◇指導助言

- ◇ 『考え、議論する道徳』に向け、主体的な活動を促す言語活動（考えを書く活動、話し合いなど）が効果的に取り入れられていた。道徳的価値について、自分の考えを深める場面を設定する必要がある。
- ◇ 道徳の時間は学級活動との区別化を図るために、自己理解による振り返りや実践に向けての意欲を喚起する時間にしたい。「この地域に生きてきてどういうときに「いいな」と思えるか」など、1つの決まった答えではなく、お互いが納得する答えを探すことができるような発問も効果的である。
- ◇ 本地区は、郷土愛を取り上げる上で「復興」に関することが欠かせない。「復興」への思いが強すぎると生徒が本音で自己を振り返ることが難しくなってしまう。教材の葛藤場面における登場人物の心の動きに迫ることが重要である。
- ◇ ガストティーチャーを迎える理由と内容項目の関連を明確にすることが道徳の授業づくりには重要である。
- ◇ 今やっていることを続けていくことが大切であることを生徒に気付いてほしい。
- ◇ 今後は積極的に道徳の授業を公開するなどして、学校と家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図りながら、道徳の授業の実施や教材の活用などに保護者や地域の人々の参加や協力を得られるような取り組みを見せたい。



ことで、友達の考えのよさに気づいたり、共感したりできるようにする。さらに、映像資料を使用することで、映像の効果により生徒の感性を揺さぶり、自分の意見をもって、友達の意見に耳を傾けることができるように配慮していきたい。

- 7 準備物 ふくしま道徳教育資料集 第三集、道徳ファイル、ワークシート、電子黒板、DVD (南相馬の子どもの祭り～小沢と下江井の天神様のお下がり～)

8 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	教師の支援 評価(方法)
導入	◎主な発問 ・予想される生徒の反応 1 自分の住む地域の祭りや行事について、知っていることを発表する。 ・相馬野馬追、太田神社のお祭り、小高の花火 2 DVD を視聴する。 3 資料「子どもの日」の雑誌を聞いて話し合う。	5	全体	○写真を提示することで、地域の祭りや行事を想起させ、価値への方向付けを行う。 ○発言しやすさ、雰囲気を作る。 ○映像資料により、資料に関心をもたせ、イメージしやすようにする。
展開	(1) 丘の上の天神様を見上げたときの、ぼくの気持ちを考える。 ◎丘の上の天神様を見上げたとき、ぼくは、どんなことを考えたのだろう。 ・お祭りをやってみよう。 ・昔から伝わったお祭りが復活し、参加できよう。 ・おじいちゃんと一緒に参加できてよかった。 (2) ペアで自分の考えを伝え合う。 (3) 自分の考えを発表する。	15	個人	○書き出せない生徒には、「最初は、祭りに来てやるの？とおじいちゃんに言っていたけど、頭になってみこしを担いでいるのは、どんな気持ちかな」と具体的に声をかけ、書き出せるきっかけを作る。
終末	4 郷土を愛するということとはどのようなことか考える。 (1) ワークシートに自分の考えを書く。 ◎みんなにとつて郷土を大切にすること、愛すること、というのは、どういうことか、考えてみよう。 ・いろいろな行事に参加したり、その土地のことを知ったりする。 ・その土地に住むこと。 ・土地、自然、人間、行事等を大切にすること。 ・次の世代につなげること。 (2) ペアで自分の考えを伝え合う。 (3) 発表する。	20	個人	○お祭りにこだわらず、郷土を大切にすることは、どんなことをすることなのかと投げかける。 ○郷土についても郷土を離れても、故郷を思う気持ちがあれば、それも郷土を愛することにも気がつく。
終末	5 本時を振り返り、再度自分の考えをまとめよう。 ◎友達の意見に触れ、郷土を愛することにについて自分の意見をまとめよう。	10	全体	伝統と地域のつながりを知り、自分の郷土を大切にしようという気持ちをもち、それができたか。 (ワークシート・観察)

第2学年1組 道徳学習指導案

平成29年10月3日(火) 6校時  
場所 2年1組 指導者 鈴木孝子

授業のテーマ	自分の考えをもち、ペアでの話し合いを通して、さまざまな考えを学び合い、郷土に対する思いを深める授業
--------	---

- 1 主題名 伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度【内容項目4-(8)】

- 2 資料名 『子どもの日』(ふくしま道徳資料集 第三集 郷土愛 ふくしまの未来へ)

3 主題設定の理由

- (1) 価値観・・・都市化、過疎化が進み、そのため郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっていく傾向がある。郷土によって育まれた伝統や文化を学ぶことで郷土がかけがえのない存在であること、郷土を真摯に向き合い、郷土に対する理解を深め、多面的に考えるきっかけにしたい。また、郷土を愛し、大切にすることは、長年にわたり郷土を作り上げてきた先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ、感謝の心をもつとともに、今後の人々のために発展させて、継承していくことでもある。本主題を通して、地域の人々が大切にしてきた伝統と地域のつながりを知り、自分の郷土を愛し、大切にしようとする心情を育てたい。
- (2) 生徒観・・・基本的に2つの小学校から入学してきた生徒であるが、通常学級は1つで、生徒の顔ぶれが変わらないため、明るく、個性豊かな生徒が多い。男女ともに仲が良く、お互いのよさや特徴を理解している。しかし、一方でそのままの自分を受け入れてもらえていない不安感から、向上心や競争心が少なく、現状に満足してしまう生徒も多い。そこで、できる限り多様な感じ方、考え方を発表させ、物事を多面的にとらえる機会を与え、自分の考えを見つめたり、深めたりする時間になるよう心がけて道徳の授業を行っている。
- (3) 資料観・・・本資料の「天神様のお下がり」は、南相馬市に明治時代から続く伝説行事である。地域を守る住民の地域愛と、後世に伝統を伝えたいという思いや子どもたちへの深い愛情があったからこそ、伝統を絶やさずに続けてこられたことを伝える資料である。郷土のよさを伝える一人として、郷土を愛する心情を育てたい。また、郷土を離れ、今なお県外で生活している住民や、今後、生徒たちが成長して故郷を離れても、伝統を様々な形で継承しようとする努力を重ねることができるとも気がつけようようにしたい。

4 指導計画【4-(8)に関して】

時	主題名	資料名	ねらい
6月	郷土を愛する心	祭りの夜	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めようとする心情を養う。
10月(本時)	伝統と文化の尊重 郷土を愛する態度	子どもの日	地域の人々が大切にしてきた伝統と地域のつながりを知り、自分の郷土を大切にしようとする心情を育てる。

- 5 本時のねらい 地域の人々が大切にしてきた伝説行事を地域の中で行ってきた人々の思いやつながりを知り、自分の郷土を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

6 授業の構想

本資料を手がかりに、自分の故郷を見つめ、自分自身を振り返り、友達の意見に共感したり、違う意見にふれたりして、郷土を考える機会にしたい。また、自分こととしての故郷とは何なのかを考え、自分の住む地域について関心をもって、これからの充実した日々を送れるようにしたい。  
そのために、まずは自分の考えを書くことにより整理するようにする。また、ペアで意見を交流し、話し合わせることで、考え方の幅をもたせたい。また、ペアから全体へつなげることで、自分の考えと照らし合わせ、物事を多面的にとらえるようにしたい。友達の考えを聞き取り、自分と異なる考えを加えることを習慣化させる

○「こどもの日」 ～郷土愛～

2年1組 ( ) 番 氏名 ( )  
 1 自分の住む地域の祭りや行事について知って書くことを書こう。



2 「こどもの日」を読んで、考えよう。  
 (1) 丘の上の天神様を見上げたとき、ぼくは、どんなことを考えたのだろう。

○自分の考え  
 ◇友達へ  
 ◇友達の考え

(2) みんなにとって、郷土（ふるさと）を大切にすることは、どういふことをさすのか考えてみよう。

○自分の考え  
 \*なぜ、そう思ったのか、理由も書こう。  
 ◇友達の考え  
 \*なぜ、そう思ったのか理由も書こう。

3 友達の意見を聞いて、郷土を愛することについて自分の意見をまとめてみよう。

【第2学年 研究授業 考察】

(1) 資料と関連した映像資料の活用

- 地域のお祭りや行事を事前に家に聞くことにより、前日から興味関心を持ち、様々な意見が出た。
- DVD を視聴したことにより、お祭りのイメージを持つことができ、生徒たちが真剣に入り込んでいる。

(2) 書く活動やペアでの話し合い

- 普段の授業から書くことを意識していることがよく分かり、書くことが苦手な生徒もしっかり書いていた。書くことよって考え、次の考えが浮かぶ様子が見てとれた。
- ワークシートに自分の考えと他の考えを書いていた。そこからさらに、意見がぶつかる場面があるようにすると良い。
- 板書計画がしっかりしていた。プリントの工夫が書かせる手立てとして有効であり、それが発表につながっていた。
- 意見を書ける、言える生徒が育っている。
- 批判的な意見はなかったのか。ペアでの話し合いの方法を前後、左右、多数などに広がれば、互いに別な意見に触れる機会を増やせたのではないか。
- ペアでの話し合いは、プリントの交換ではなく、言葉として発して意見交換ができればよかった。

(3) 意図的指名による教師のコーディネート

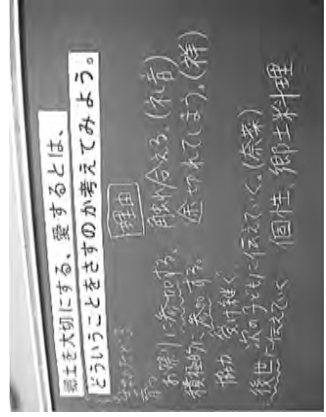
- 意図的指名が効果的であった。指名された生徒は誇らしげに発表していた。
- 意図的指名のための観察がすばらしい。そして、準備した上でのコーディネートが良かった。
- 昨年度までのスーパードクター事業が生かされた指導だった。

◇指導助言 福島大学教授 松下 行則 様

- ◇ 担任が道徳好きなのが伝わってくる授業であった。しかし、心情中心の授業であり、生徒は道徳の価値を言葉でしか伝えていない。
- ◇ 考えが前提にあって言葉を重ねていく感じになっている。郷土に関心が薄い子どもたちにも焦点を当て、友達や教師の言葉で価値観に揺さぶりをかけていく。それをどう判断するかが必要である。
- ◇ 教材が長すぎると読み取りの授業になってしまう。今回のように、小学校の教材を活用することも良いアイデアである。
- ◇ ペアワークの時間をもっと取る。生徒が主体的となる授業を活動させていく。教師の話は理想としては2割、最初と最後が良い。担任の子どもたちの話をまとめる力は抜群であった。子どもたちに対話をさせるために引っかけが必要である。例えば・・・「郷土を愛することってどういうこと？」「本当に愛さなくてはいけないの？」ペアやグループワークで深める。教材の問題場面「なんで祭りをするのか。」自分の生活に重ね合わせていく。

役割演技、ペア学習を利用していくことも考えられる。

- ◇ 子どもたちにも目標を明示する。どう評価されるかがわかって初めて主体的になれる。主体的な判断力を育成するために一人一人の考えの違いを明確にする。生徒は周りもみんなほとんど同じ考えだと思っている。





第1学年1組 道徳学習指導案

平成29年11月16日(木) 3校時  
場所：1年1組 指導者：森田 雄彦

授業のテーマ	総合的な学習の時間との関連を図り、体験したことを基に、資料の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えながら話し合い、自己の考えを広げ深める授業
--------	--

1. 主題名  
郷土愛、先人への尊敬と感謝【4-8】
2. 資料名  
【ふるさとに生きる】 ぼくのふるさと (中学道徳① 明日をひらく 福島県版 東京書籍)
3. 主題設定の理由
  - (1) 価値観  
中学生の時期は、自分のことは自分ですという考えから、自分は他人の世話にならない、なっていないという狭い考え方になることもある。自分は自分一人だけで存在しているのではなく、家族や社会に大きく先人、高齢者によって生かされていることに気づくことは難しい。そこで、人間が生きてきた背景に数々の先人たちの犠牲や貢献があり、また現在の地域社会を築いてくれた高齢者の努力の上に、自分が存在するということを自覚を持たせたい。

- (2) 生徒観  
道徳意識調査では、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」という問いに対して、84%の生徒が「考えることがある」と答え、「社会人になっても、自分たちの地域や福島県のためになる仕事をしたいと思う。」という問いに対して、96%の生徒が、「思う」と答えている。しかし、小学校入学直前に東日本大震災があり、そのため他地域における避難生活を経験した生徒は、特に自分が現在暮らしている地域について詳しく知らないことがある。  
2学期は、郷土について調べることをテーマとした総合的な学習の時間で、地域のさまざまな場所を見学し、地域の人や高齢者と触れ合う機会も持つことができた。その体験を通して、郷土に尽くした先人たちの努力の跡を知ったり、身近な高齢者を人生の先輩として、また地域社会を支えてくれた人として理解し、尊敬と感謝の念を持つことができたと、地域の中で生活し、地域の人々が助け合っていることを理解し、一人一人だけで暮らしているのではなく、地域の中で生活しているのは、地域を築いてくれ、支えてくれた人々がいたからであり、自分も地域を支えなければならぬ一員であるということにより理解してもらいたい。

- (3) 資料観  
串原村に根づいて生活している人々は、それぞれに悩みや問題をかかえてながらも力強く日々を暮らしている。ふるさとを素材に愛する主人公の夢や希望が素直に語られている。  
また、この資料は生活に関連する生徒作文であり、知見資料でもある。大都市においては、一般的に郷土意識や地域・家庭の連帯感が薄くなり、山村でもその傾向が強まっている。そこで、近くに住む各家庭が、自分たちの町や村をつくっているという地域社会の構成を理解し、自分もその一員として、日常接する人々との人間関係を見直し、郷土の発展に尽くすことの大切さに気づかせたい。

4. 指導計画【4-(8)に関して】

時	主題名	資料名	ねらい
1	郷土愛、先人への尊敬と感謝	【ふるさとに生きる】 ぼくのふるさと	郷土に尽くしたさまざまな人々への感謝の気持ちをもち、郷土の発展に尽くそうとする意欲を育てる。
2 (本時)	郷土への尊敬と感謝	【ふるさとに生きる】 ぼくのふるさと	

5. 本時のねらい  
郷土に尽くした人々の気持ちと、自分がふるさとにできることは何かということを考える。
6. 授業の構想  
総合的な学習の時間においても、自分の生まれたところや住んでいるところに愛着を感じていることも理解することができた。しかし、中学生のこの時期は、まだ生活圏が限られていて、自分「ふるさと」を他との比較で考えるのは難しい。「ふるさと」という言葉から、「ふるさと」を自由にイメージし、「心のふるさと」などという使い方のように、話し合う場面では、グループ活動を取り入れて、自由に発言できるようにする。  
資料「ぼくのふるさと」を読み、串原村のお年寄りが村を離れたがらない気持ちを、お年寄りに共感しながら考えたり、大人になっても串原村で働き、村の発展のために寄与したりしていきたいという作者の気持ちを考えた発言も求めていきたい。

資料10

準備物  
7. 中学道徳① 明日をひらく 福島県版 (東京書籍)、道徳ファイル、ワークシート、電子黒板  
8. 指導過程

段階	学習活動・内容 (主な発問 ◇予想される生徒の考え)	時間	形態	教師の支援 ☆評価 (方法)
導入	1. 自分のふるさとについて、事前に調べた結果を発表し合う。 (1) 自分の住んでいる地域のよいところ、自慢したいことについて発表する。 ◇ 自然豊かで、静か。 ◇ 歴史があり、苦労をした人がいる。 (2) 自分の住んでいる地域の気になるところ、不満なことについて発表する。 ◇ 店が少ない。 ◇ 人が少ない。	10	全体	○ 総合的な学習の時間で体験したことを基に発表することから、資料への方角づけを行う。 ○ いろいろな人の意見や考えを謙虚に受けとめ、参考になるように、事前に生徒が意見を記入したカードを提示する。 ○ 記入されている意見に対しての深入りは避け、あくまでも授業の導入にする。
展開	2. 「ぼくのふるさと」を読んで話し合う。 (1) 串原村はお年寄りが多いが、この村を離れたがらないのはどうしてだろうか。 ◇ 生まれ育ち、住み慣れているから。 ◇ すっと守り続けていきたいから。 (2) 作者が串原村を大好きだというのはなぜだろうか。 ◇ 誇りや愛情を持っているから。 ◇ 心のよりどころにしているから。 (3) 作者が、「大人になっても串原村で働き、村の発展のために努力していきたい」と考えたのはなぜだろうか。 ◇ やりがいがあるから。 ◇ 役立ちたいから。 ◇ 家族と一緒に住みたいから。	20	個人	○ お年寄りの考えを、単なる自分勝手や独りよがりを受け取らないよう、個別に指示をする。 ○ 主人公自身の心の中にある、串原村への感情に気づくように、発問や指示をする。
閉			グループ	○ 串原村や村に住む人々への配慮をした主人公の考えとその背景にあるものをしっかりと伝えられるよう、自分の考えと他の生徒の考えをワークシートに記入しながら、グループによる話し合いをするよう、指示する。 ☆ 作者のふるさとを大切にしよう、よりよい村をつくろうとする気持ち【ワークシート参照】
終末	3. ふるさとのためになにができるのか、なにが大切なのかを話し合う。 自分の住んでいる地域を大切にしたい、どうすればよりよくできるか、自分ができることは何か。 ◇ 環境に関すること ◇ 人間関係に関すること ◇ 将来、他地域に住んだ場合は、…	20	グループ	○ 自分の生き方とふるさとの発展という相対する立場・考え方を対比しながら、両者の共存の在り方について考えられるよう、指示や板書をする。 ☆ 郷土を愛する気持ちを持ち、よりよくするために自分のできることを考えようとしたか。【表紙参照】



1. 地区の良いところや気に入っているところ、嫌なところ、不満に思うこと

工地区	大 変 千 年	太 田 千 年
<p>良いところ 気に入るもの</p> <p>自然豊か 落ちつく(のどか) 皆優しい 四季の空気が良いから</p>	<p>思い出がある 不審者も比較的 少ない</p> <p>石神谷村のゆかり 地味(住みやすさ)な(ゆかり)が 野生動物にあらざる</p>	<p>昔物(洋服バツカウ) 馬具がある(盛城入田) 原三申が学区内 伝統的(伝)で物にあ 。ここにがわ(1店)</p> <p>ゆか少ない 通かせない 仮道場がある 街灯が少い</p> <p>。トミカが(田舎)にしては 。子(ま)か(ない) (語彙が)か 。ま(ま)か(ない) (語彙が)か 。ま(ま)か(ない) (語彙が)か 。野生動物が出る</p>

2. 原町区の良いところや気に入っているところ、嫌なところ、不満に思うこと

良いところや気に入っているところ	嫌なところ、不満に思うこと

3. 「ぼくのふるさと」を読んで話し合おう。(裏面に記入!!)

4. 自分の住んでいる地域をどのように大切にしているか、これから自分にできることは何なのか  
(どうすれば、もっとよくなるのか、)

3. 「ぼくのふるさと」を読んで話し合おう。

(1) 串原村はお年寄りが多いが、この村を離れたがらないのはどうしてだと思いますか。

～自分の考え～

～他の人の考え～

(2) 作者が串原村を大好きなのはなぜなのでしょう。

～自分の考え～

～他の人の考え～

(3) 作者が、「大人になっても串原村で働き、村の発展のために努力していきたい」と考えたのはなぜだと思いますか。

～自分の考え～

～他の人の考え～

第1学年1組 道徳学習指導案

日時：平成29年12月12日（火）第5校時  
場所：1年1組教室 指導者：菊池 可南子

資料1-1

6 準備物 中学道徳 1 明日をひらく 福島県版（東京書籍）、道徳ファイル、ワークシート、プリント

研修（授業）のテーマ 学び合いを通して、自他の良さに気付き、互いに認め、高め合おうとする生徒の育成を図る。

- 1 主題名（学習指導要領上の位置づけ）  
自主自律、誠実と責任【内容項目1-（3）】
- 2 資料名（単元名・題材名）  
「デンさん」（出典：東京書籍 中学道徳1「明日をひらく」）
- 3 主題設定の理由  
(1) 価値観  
人間はいつの時代も、そして何事にも簡単で安易な方向へ流れてしまいがちである。特に、戦後、経済優先や個人尊重の価値観が大切にされ、日本人が長い歴史の間培ってきた、誠実な生き方を導ぶ風潮は軽んじる傾向にある。しかし、私利私欲を捨て、美直に自己の信念に従って生きる姿は、時代や国を選ばず人々に感銘を与え、何より、自分自身が豊かな人生を送ることができる。従って、このような時代に生きる生徒たちにこそ、人が誠実で自律的な生活をおくる美しさや大切さを理解させたい。  
※ 誠実とは、小学館大辞泉によれば「私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対すること。また、そのさま。」という意味を表す。  
(2) 生徒観  
地区二校の小学校の卒業生が当該クラスを構成している。明るく素直で、積極的に活動できる生徒が多い。学級の係の仕事や掃除などは責任をもって取り組むことができる生徒が大半であるが、人任せにしてしまう生徒もいる。道徳意識調査では、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考えている。」という質問に対して84.4%が「そう思う」と答えている。そのため、授業中における話し合い活動では、活発に意見を出し合うなど、互いの壁をつくらず良好な人間関係を築いている。

(3) 資料観（教材観）  
本資料は、岸本英夫著「宗教と私たち（2）心の幸福」（三十書房）からの出典である。1959年の発行で、年代制約はやや古く、主人公のデンさんが高校に行かず働いている物語設定などは、生徒に物語の年代の古さを感じさせると思われるが、誠実さについて考えさせるには年代の古さを利点と捉えることもできる。また、主人公が中学を卒業する世代という設定から、デンさんの感直な生き方を生徒各自に置き換えて考えさせたり、近い将来の自己の姿と重ね合わせたりして考えさせることも可能であると考える。

4 本時のねらい  
自他のことにとらわれず、常に自主的に考え、誠実に実行することにより、生きがいのある生活を追求しようとする態度を育てる。

5 授業の構想  
導入で、事前に「自分の今までの行動で周りの人から喜ばれた経験」についてアンケートに書かせておき、内容を把握しておくことで、生徒の考えを引き出しやすくしておく。他者の考えを聞くことで、自己の生き方について考える意識を喚起させ、授業につなげたい。展開では、書く活動を取り入れ、自分の考えを整理できるようにする。また、考えを多く引き出すことができるよう、ペア活動を取り入れる。様々な考え方や生き方について、共感的に広く受け止めることで、生きがいある人生について考え、追求しようとする態度を育てたい。表面的な意見にとどまることのないように「どうしてそう思ったか」等の理由を問う発問をし、生徒の内面にある思いに迫るような授業展開をしていきたい。

7 指導過程

段階	学習内容・活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	時間 (分)	形態	○教師の支援 【評価方法】
導入	1 「自分の今までの行動で周りの人から喜ばれた経験」について話し合う。 ・家の手伝いをしたら喜ばれた。 ・近所のお年寄りの荷物を持つのを手伝ったら感謝された。	5	全体	○事前に資料を読ませることで、方向付けをさせる。 ○いくつかの意見を取り上げ、生徒の思いに触れるために、「そのときどういう気持ちだったか」などと問いかける。
展開	2 資料「デンさん」を読んで話し合う。 (1) デンさんの行動について考え、発表する。 ○デンさんが周囲の人に愛されているのは、デンさんのどんな姿からだろうか。 ・何か頼まれると、責任を持ってやってくれるから。 ・多くの人が世話になっているから。 (2) デンさんの気持ちについて考え、ペアで意見を交換し、発表する。 ○デンさんが他人のために行動するのは、どんな気持ちからだろうか。 ・困っている人を助けたいという気持ち。 ・自分も嬉しいと思えるから。	15 10	全体 ペア	○生徒に様々な思いに気づいてもらうために、意見をわかりやすい言葉で短く板書する。 ○考えを深めるために「なぜ、何の得にもならないことをするのか」など問いかける。 ○机間指導をすることで、話し合いが進まないということがないようにさせる。 ○多様な意見に触れるために、ペアで意見が出ないときは、必要に応じて前後でも話し合う。
終末	3 デンさんの生き方に触れ、自分の生活を振り返る。 ○周囲の人たちのために、自分の考えで実行していけそうなことはどんなことだろうか。 ・部活動で、自分たちで考えた練習メニューを取り入れる。 ・近所のゴミ拾いをやる。 ・家のお風呂洗いや皿洗いを手伝える。 ・前に褒められてうれしかったから。 ・人の役に立つことに誇りを感じるから。	15	個人 ↓ 全体	○理由を引き出し、生徒の思いに触れるために、「どうしてそう思ったのか」「そう思ったきっかけはなんだったのか」などと問いかけ、全体で共感できるようにする。 自主的に考え、誠実に実行していることとする意欲が高まったか。 (観察・発表)
	4 教師の説話を聞く。	5	全体	○関連のある話を聞かせることで、今後の生き方や考え方を深めるきっかけにさせる。

道徳意識調査（中学生用）

月 日

（ ）年（ ）組 名前：

次のことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

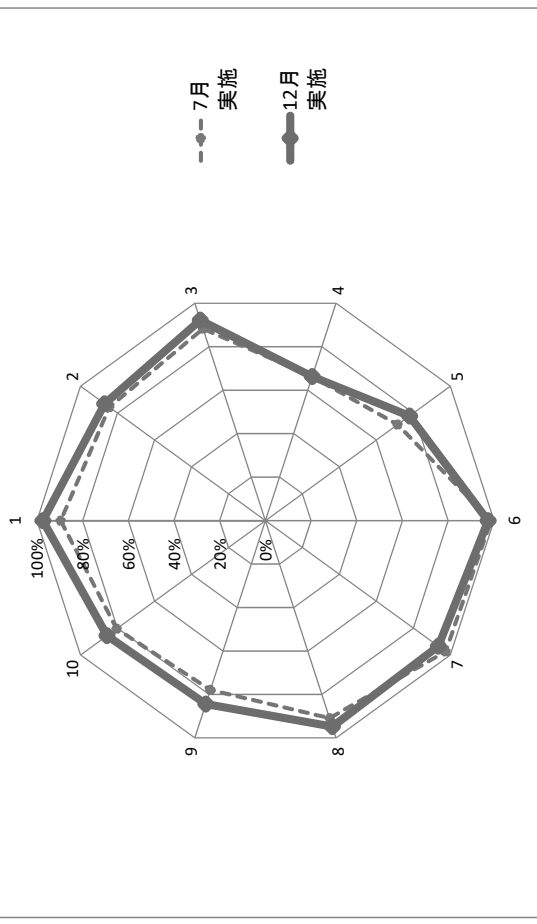
NO	質問項目	(できていると思う)	(もう少し頑張りたい)	(もう少し頑張らなければならない)	(できていない)
1	道徳の勉強は、好きだ。	4	3	2	1
2	道徳の授業では、自分に考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	4	3	2	1
3	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。	4	3	2	1
4	自分には、よいところがあると思う。	4	3	2	1
5	将来の夢や目標をもっている。	4	3	2	1
6	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。	4	3	2	1
7	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	4	3	2	1
8	学校の規則を守っている。	4	3	2	1
9	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	4	3	2	1
10	社会人になっても、自分たちの地域や福島県のために働く仕事をしたいと思う。	4	3	2	1

※高知県教育委員会「道徳意識調査(中学校用)」使用

資料12

【中学生用】道徳意識調査総括票

学校名		南相馬市立原町第三中学校									
回答児童生徒数		7月実施					12月実施				
		77					77				
		人					人				
肯定的意見 % (小數第1位まで)											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
7月実施	89.6%	84.4%	88.3%	66.2%	71.4%	98.7%	97.4%	90.9%	77.9%	80.5%	
12月実施	97.4%	87.0%	92.2%	66.2%	77.9%	97.4%	93.5%	94.8%	84.4%	85.7%	



7月<分析・考察>

「人間関係」、「規範意識」、「道徳の時間」については、90%前後の数値である。特に、「人の気持ちがかかりたい」、「いじめはいけない」の項目が98.1%と今まで継続して行ってきた結果が高い数値で表れている。それに対し、「社会貢献・郷土愛」、「自尊感情」、「夢・志」については、70%台の数値である。低い数値ではないものの、他の項目と比べると落ち込みが大きい。そこで、道徳の重点をこの3点に絞り、授業を展開していけば、生徒たちの中の自尊感情を高め、夢をもって郷土を愛することへの関心が高まるのではないかと考える。

12月<分析・考察>

道徳の授業で、「1回目のアンケート結果より上回る項目が多かった。項目9、10に関しては、取り組んだ成果が生徒の意識となって数値に表れたことは良かった。しかし、「自分には良いところがある」は、変化がなかっただけに、別のアプローチの仕方も必要になってくる」と考えられる。次年度は、内容項目を1の「主として自分自身に関すること」を中心に、普段の学校生活や家庭生活や家庭内の様子などを考慮しながら、道徳的価値を深めていく必要があると考える。また、ペア学習やグループ学習などを通して、自分の意見を受け入れられ、自分の意見が反映される機会が授業を通して定着していけば、生徒たちの内面的変化も期待できるのではないかと考えられる。

**【いわき地区】 いわき市立赤井中学校**



## 道徳教育推進校《実施報告書》

### 1 学校紹介

学 校 名	いわき市立赤井中学校
所 在 地	いわき市平赤井字大門 1 3
校 長 名	石 井 直 人
学校の教育目標	【自立】 志をもって学び、学力を高める生徒 【剛健】 心身ともに健康で最後までやり抜く生徒 【友愛】 互いに敬い切磋琢磨する生徒
学級及び生徒数	5 学級 1 4 5 名
道徳教育にかかる 取り組みの概要	道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため、学校教育全体を通して、次の点に重点をおいて道徳教育を推進した。 ①道徳教育の充実 生き方を振り返る道徳の時間の指導について充実を図った。 ②豊かな心の醸成 目的を明確にした体験的な活動の充実を図った。 ③より良い人間関係の育成 他の人格や意見を尊重する態度の育成を図った。 ④目標設定と実現への支援 様々な領域での目標実現のための方法を助言し、励ました。

### 2 研究テーマ

◎研究主題

『自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成』

○研究副主題

「生徒のよさを引き出し、実践意欲を高める評価の工夫はどうすればよいか」

研究の具体的内容（県中教研道徳部報第50号より）

- ①評価の在り方と視点
- ②評価の方法
- ③評価の視点による見取りと表記の工夫
- ④実践意欲につながる終末の工夫

### 3 テーマ設定の理由

道徳意識調査（平成29年6月実施）の結果を見ると、①「道徳の時間の勉強は好きですか」、②「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と否定的に答えた生徒の割合が、それぞれ25%、39%と多かった。

資料の提示や発問を工夫して道徳の時間の学習をさらに充実させることにより、生徒は道徳的価値を主体的に捉えて自分の生き方を見つめ、やがて道徳的实践力が高まっていくものと考え、本主題を設定した。

また、道徳科における評価は、生徒の人間的な成長を育み、自己のよりよい生き方を求める姿勢や取り組みを評価することで、それらをさらに励まし、勇気づけるものである。そして教師にとっては生徒の道徳性を養うために、自らの指導を振り返り、その後の指導に生かすべきものである。

【どのような子ども像を目指して道徳教育を推進するか】

◎自他の生命を大切にし、思いやりの心を育成する。

【道徳教育を推進する上でのポイント】

○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。



- 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもつ。
- 道徳の教科化へ向けて、今まで取り組んできた様々な実践を通して生徒の変容をどのように見取り、評価の資料としてどう蓄積していくか。
- 日々の道徳の授業の積み重ねを「道徳性の育成」にどうつなげていくか。

【重点内容項目】

- B 主として人との関わりに関すること  
『思いやり、感謝』
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
『生命の尊さ』

4 研究計画

4月13日	○企画委員会（道徳教育推進についての校長の指導方針）
4月28日	○職員会議（道徳教育推進についての展望）
5月11日	○道徳教育全体計画及び別葉、年間指導計画の修正 ○企画委員会 ・道徳意識調査について ・指導案作成並びに検討 ・道徳コーナーの設置検討 ・道徳だより（「学校だより」で）
6月6日	○第1回意識調査
6月20日	○第1回意識調査分析完了
7月18日	○計画書提出
7月18日	○「命の大切さを学ぶ授業」（被害者に優しい人づくり事業）県警
夏季休業	○1学期研究実践のまとめ
9月11日	○第1回要請訪問（黒 沢先生）2年2組 四家指導主事
9月19日	○第2回要請訪問（大和田先生）3年2組 中田指導主事
9月26日	○道徳講演会 ※講師：アクアマリンふくしま
10月4日	○道徳講演会 ※講師：いわき市社会福祉協議会
10月6日	○第3回要請訪問（上遠野先生）2年2組 窪木指導主事
11月13日	○公開授業並びに研究協議（3分科会） 上遠野先生 1-1 「手渡されたパン」 窪木指導主事 永 山先生 2-1 「五〇〇人の大家族」 四家指導主事 木 村先生 3-1 「たった一秒の『ありがとう』」 中田指導主事
11月14日	○第2回意識調査
11月28日	○第2回意識調査分析完了
3学期	○研修の成果と課題の確認 ○研究紀要作成 ○次年度の研修へ向けた検討 ○報告書の提出（1月16日前後）
年間	○道徳授業づくり ○各教科、特別活動等における道徳教育の実践

5 生徒の実態及び地域の課題

本校生徒の実態として、明るく素直で物事に一生懸命取り組む生徒が多いことが挙げられる。しかし、9割以上の生徒が赤井小学校から入学してくるため、幼少よ

り同じ人間関係での生活が長く、競争心や粘り強くやり抜くことに欠ける生徒も見られる。人間関係や規範意識に対して肯定的な意見をもっている生徒が多いが、考えの異なる他者とも認め合い、助け合おうという実践につながらないのが現状である。少数ではあるが、「思いやり」や「生命尊重」への意識が低い生徒や自己肯定感の低い生徒が見られる。

学区が広く自然豊かな地区であるため、保護者の送り迎えで通学したり、街灯がないところを登下校したりしている生徒がいる。

## 6 道徳教育における校長の指導の方針

※資料 1

本校では教育目標に【「自立」志をもって学力を高める生徒】【「剛健」心身ともに健康で最後までやり抜く生徒】【「友愛」互いに敬い切磋琢磨する生徒】を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に努めているところである。道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため、学校教育全体を通して次の点に重点をおいて道徳教育を推進している。

- ①道徳教育の充実 ○生き方を振り返る道徳の時間の指導を充実させる。
- ②豊かな心の醸成 ○目的を明確にした体験的な活動を充実させる。
- ③より良い人間関係の育成 ○他の人格や意見を尊重する態度を育成する。
- ④目標設定と実現への支援 ○様々な領域での目標実現のための方法を助言して励ます。

(1) 道徳教育推進教師を中心として教職員の研修意欲を高め、道徳教育の一層の充実を図る。

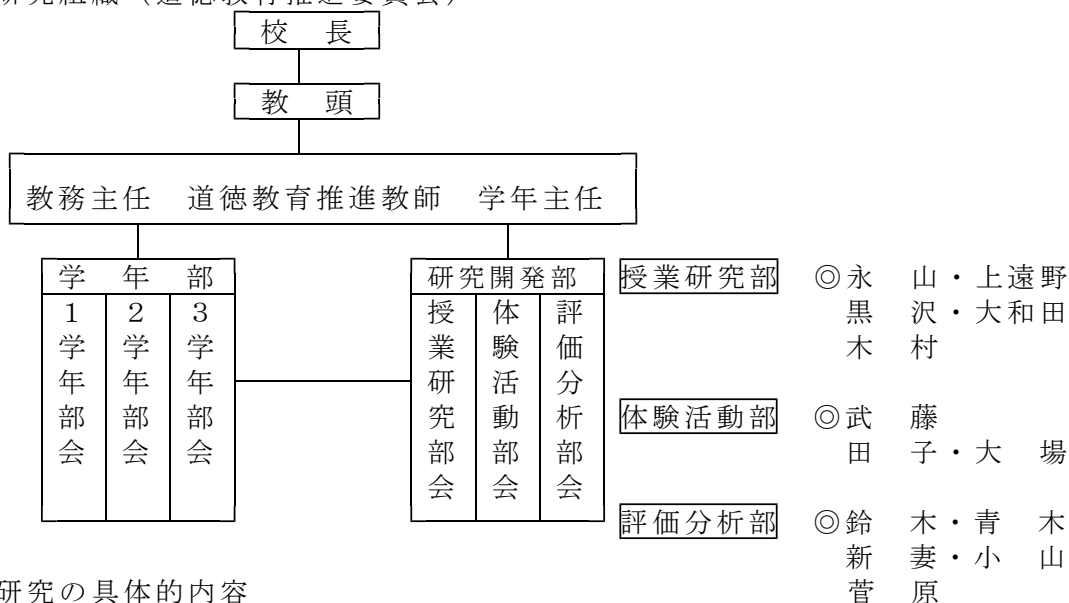
○ 学校全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働きかける。

(2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を構築するにあたっては、小規模校の少ない教職員で新たな部署を設けることは困難であることから、既存の研究組織を生かし、道徳教育推進委員会を組織し、全教職員が協力して取り組んでいく。

(3) 校長、教頭等の積極的な参加

校長、教頭による道徳の時間の指導を行い、教職員の意識の高揚を図りながら、道徳の時間の充実を推進する。

(4) 研究組織（道徳教育推進委員会）



(5) 研究の具体的内容

- ①効果的な資料選定と指導計画の整備
- ②道徳の授業改善・充実（効果的な資料提示と発問の工夫）
- ③体験活動を生かした道徳教育の推進
- ④家庭・地域との連携

## 7 平成29年度 道徳教育の全体計画について ※資料2

- (1) 学校として道徳教育の組織的な取り組みができるように全教師の協力によって作成した。
- (2) 時代や社会の要請、生徒の実態や学校、地域の実態と課題、保護者や教師の願いを十分に取り入れ、発達段階に応じた各学年の重点目標を設定した。
- (3) 豊かな体験活動における指導や日常生活における指導との関連、小学校や家庭・地域社会との連携を推進する取り組みについて明示した。

## 8 平成29年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について ※資料3-1・3-2

これまでの道徳教育の全体計画を見直し、道徳と各教科、特別活動との関わりを明らかにした「道徳教育の全体計画別葉1」と学校行事、生徒会行事との関わりを示した「道徳教育の全体計画別葉2」を「平成29年度ふくしま道徳教育推進プラン」を参考に作成したところである。今後は、朱書きするなどしてより実効あるものへ整備していきたい。

## 9 平成29年度 学級における指導計画について ※資料4

道徳教育全体計画を柱にし、目指す生徒像を明らかにした上で生徒の実態に配慮した道徳の時間の指導方針について作成した。また、学級における教育環境の整備や他学年との連携、家庭や地域社会への情報発信について配慮した計画を作成した。

## 10 道徳教育推進教師の実践について

- (1) 道徳教育の指導計画の作成に関すること
  - ① 生徒や保護者、地域の実態、学校行事や総合的な学習の時間の体験活動等を考慮に入れた道徳教育全体計画別葉2の作成の推進役となった。
  - ② 学級の道徳の時間の指導計画作成のアドバイス役として取り組んだ。
- (2) 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
  - ① 道徳講演会の立案や当日の運営を行った。
  - ② 道徳の時間の指導と学校行事・総合的な学習の時間における体験活動との関連を意識した取り組みの推進役となった。  
「1日体験活動」：【勤労・奉仕・公共の福祉】【希望・勇気・強い意志】  
「関伽井祭（文化祭）」：【人間愛・思いやり】【役割と責任の自覚】
- (3) 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
  - ① 道徳意識調査や学級力アンケートなど実態調査の実施並びに分析を推進した。
  - ② 道徳授業研究会を研究公開時の公開授業と合わせて延べ6回計画・実施した。
  - ③ 事後研究会では、自ら建設的な発言をすることで、全教職員に道徳の時間の指導の改善・充実の工夫を促すためのリーダーとしての自覚をもった言動が見られた。
- (4) 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
  - 自らが、「ふくしま道徳教育資料集」や文部科学省の「私たちの道徳」を使った道徳の時間の指導を行うことで、他の教職員の道徳の時間の指導の在り方を示した。
- (5) 道徳教育の研修の充実に関すること
  - 自らが参加した研修会での成果や資料を全教職員に示し、教職員の道徳の時間の指導に対する意識や指導力の向上に努めた。

## 1 1 道徳の時間について

### (1) 授業の実際

※資料 5

主題名 「温かい人間愛」 B-6 思いやり、感謝

題材名 第1学年「手渡されたパン」

第2学年「五〇〇人の大家族」

第3学年「たった1秒のありがとう」

(出典は全て「ふくしま道徳教育資料集Ⅱ集 敬愛・つながる思い」)

### (2) 授業の記録【公開授業分科会での協議内容から】

#### ○ 第1学年の授業に関すること

- ・クラスの雰囲気がよい。
- ・この題材は1年生の実態には早かったかも知れない。  
(「共感できるか」「できないか」で2年生で実施してもよい)
- ・小学校では、「思いやり」と「感謝」は別項目になっている。そのことを踏まえて指導するとよい。
- ・生徒にゆさぶりをかけるポイントはいくつかあるが、生徒の実態に応じて発問を設定することが大切である。
- ・道徳で大切なことは価値を理解させること、考えさせること。このことを、授業で積み重ねていきたい。年間35時間を欠かさず実施することが大切である。
- ・完全実施に向けて準備していくためのロードマップが必要である。(いつ・何を・どのように)
- ・各学校で研修会の内容を伝達したい。

#### ○ 第2学年の授業に関すること

- ・つぶやきがとても素直に出されていた。日頃の先生のご指導だと思う。
- ・心情グラフにネームマグネットを貼った後の生徒の発言に、多様な考えが反映されていた。
- ・けがをしているクラスメートのために他の生徒がネームマグネットをさりげなく貼る姿が印象的であった。
- ・展開での発問構成、指導過程、心情グラフは登場人物の立場を明確にさせて考えさせていた。
- ・グループ活動の考えはまとめなくてもよいのでは。やりとりをするだけでもよい。
- ・限られた授業時間と内容をどう充実させるかが大切である。自分の立ち位置を明確にさせることが必要である。
- ・今回の授業でどこを徹底的に考えさせるか重点を明確にするか。「受け入れる・受け入れない」を問うた場面で、ゆさぶった時にどうなったか。
- ・ワークシートは評価に合わせて精選する。時間と内容を常に考えたい。
- ・「感謝」だけに絞って扱ったことはよかったのではないか。
- ・大切な場面はキーワードを貼りながら、さらには関係を明確にするなど、板書に工夫が必要である。
- ・教科書になったら家で本を読んでもくる、家族で考えてくるということも実践したい。
- ・本時は「受け入れる」立場をとる生徒が多かった。教師は逆の立場の説話を投げかけて終わるということをしてよいと思う。

#### ○ 第3学年の授業に関すること

- ・素直な生徒で先生の指導で一生懸命取り組んでいた。
- ・付箋の活用(思考ツール)は、コーディネート研究の成果であった。
- ・主題のとらえ方を「解説」から掘り起こしていた。日頃の研究が今日の公開へ結びついた。

- ・「感謝」と「思いやり」の資料は扱いが難しい。ふくしま道德教育資料集の活用が素晴らしい。
- ・時間を超えてストーリーを深められると本当の感謝につながる。
- ・話し合いの場において、どんな視点でどんな発問をするとよいか。生徒の身になって考え、意図的に発問できるとよい。
- ・自分だったらどうするか。自我関与させて考えさせる。
- ・資料を分断して与えることは、学習効果を考えて授業者が選択してよい。
- ・本時は、「『感謝』の理解の基に他者との関わりの中で自分の価値をどのように深めたのか」が評価である。

#### ○赤井中学校の研究に関すること

- ・福島県教育委員会の道德教育地区別推進協議会並びにいわき市中学校教育研究会道德部会と連携した取り組みであった。
- ・学校全体で進める道德教育の推進、道德の時間の実践、家庭や地域社会との連携、道德意識調査結果の変容など、進んだ取り組みの実践が授業や研究紀要を通してよくわかった。

#### ○研修会の運営等に関すること

- ・異校種の先生方と研究協議を進めることで具体的な実践例を踏まえた意見交換があり、大変有意義であった。
- ・司会の先生方の焦点を絞った協議やテンポよい進め方で、いろいろな意見を聞くことができて参考になった。
- ・普段悩んでいることについて、いろいろな考えを聞くことができた。
- ・具体的な実践例を踏まえた意見交換があり、自校でも先生方に伝えたい内容であった。
- ・授業を組み立てるまでの苦労や準備の大変さが授業者の言葉の端々に感じることができた。

## 1 2 1 年間の成果と課題（生徒の変容や学校での取り組みを振り返って）

### (1) 成果

#### ① 教師の変容から

道德の時間の指導を改善するために、全職員が3回の研究授業を参観し、その後の研究協議などを通して指導技術を身に付け、意図的・計画的に授業を組み立てることができるようになった。教師の思いや工夫が生徒にも伝わり、お互いがよい授業を作ろうという雰囲気が生まれた。

また、資料の選定・分析においては、多岐にわたるアドバイスを得て、これまでにない視点を得ることができたり、発問の工夫などにも生かすことができたりと、指導力が向上したと思われる。

さらに、環境整備においても、道德の時間のワークシートや意見・考えなどを、生徒の目に触れる場所へ教師が意図的に掲示するようにした。それは、学年を超えた道徳的価値のフィードバックなどにつながるものとなった。

#### ② 生徒の変容から

※ 資料 6

アンケート結果からも顕著なように、まず道德の時間の授業への意識が変化した。どちらかというと、「資料を読み、価値について考える。」という生徒の印象から、「資料を読んで、自己を様々な角度から見つめ直す。」「本音を言う。」「他の生徒と意見や考えを交流する。」「自問自答する。」「発問に個人でまたは複数で考える。」など、多様な活動により積極的な姿勢が見えるようになった。



## (2) 課題

### ① 道徳の時間の指導について

今年度、道徳の時間の改善・充実のために、3回の要請訪問を通じた研究授業を行うことにより、それぞれの担任の先生方の道徳の時間における指導の在り方を検証することができた。指導法に関する校内研修を全職員参加のもとで深め合うことで、教師一人一人の授業づくりへの意識と指導技術の向上を図ることができたことは大きな収穫であった。

ただ、研究期間が1年間と限られていたので、まだまだ授業改善へ向けての余地は大きく残されており、更なる指導力の向上を目指していく必要がある。

### ② 道徳性の高まりについて

「道徳の時間」においては、生徒の肯定的な意見が増え、道徳的価値について、より深く考える素地ができつつあると考えられる。

しかし、1回目と2回目の道徳意識調査からは、道徳的実践力の高まりが、必ずしも日頃の道徳的実践に結びついているとは言いがたい。原因の一つとしては、日頃の「道徳の時間」において高まった道徳的実践力を、教師が意図的に実践に結びつけるための「特別活動の在り方」「総合的な学習の時間の在り方」などの体験活動における体系的な取り組みが、まだまだ不十分であるということがあげられる。

今後、道徳教育の全体計画別葉1及び別葉2などを参考にしながら、さらに教育活動全体における道徳教育の位置づけを明確にしていく必要がある。

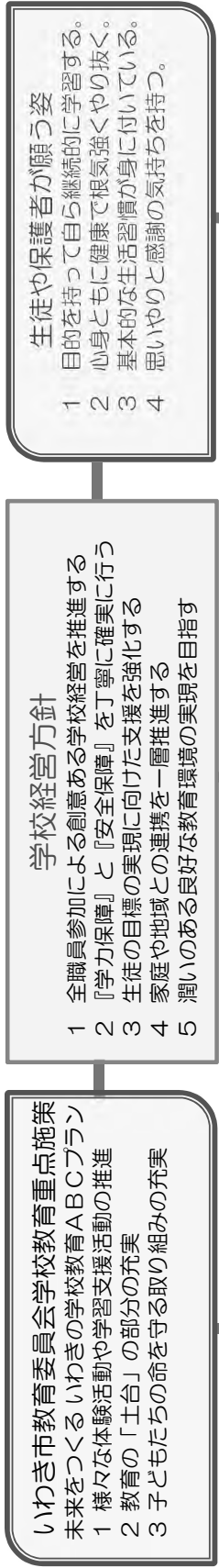
### ③ 家庭や地域との道徳教育における連携について

※ 資料7

家庭や地域との道徳教育における連携を推進するために、学校ホームページや「学校だより」などを通して情報発信をしてきた。今後は、双方向のやりとりが、さらに必要になってくるだろうと推測される。発信するだけでなく、どう家庭や地域の声を受信し、それを今後の道徳教育に生かしていくのが課題である。

また、小中連携をさらに推進するために、道徳の時間の研究を通して小中が協働的に研究するような素地を作ることも念頭におきたい。

平成29年度 学校経営・運営ビジョン いわき市立赤井中学校 校是 自立 剛健 友愛



教育目標

【自立】 志をもって学び学力を高める生徒

【剛健】 心身ともに健康で最後までやり抜く生徒

【友愛】 互いに敬い切磋琢磨する生徒

具体的実践事項

1 基本的な生活習慣の徹底  
①赤井中AAAを徹底して身に付けます。  
(挨拶や時間厳守、思いやり、日々成長)  
②規則正しい家庭生活ができるよう支援します。  
2 健康と体力の保持・増進  
①健康の実態を理解させ関心を高めめます。  
②食事への関心を高め食育を推進します。  
③目標を持って体力作りに取り組みさせます。  
④不安や悩みの解消に努めます。  
3 強い意志の形成  
①全校あげて部活動に取り組みます。  
②あたり前のことを完遂させます。  
③習動を奨励し学校を休まない生徒を増やします。  
④徒歩による登校を推進します。  
4 安全教育の推進  
①危機に対応できる行動訓練を充実させます。  
②情報モラル教育を充実させて事故やトラブルの未然防止を図ります。

1 道徳教育の充実  
①生き方を振り返る道徳の授業を充実させます。  
②道徳的価値を意識した行事を推進します。  
③自他の生命を大切に思いやりの心を育成します。  
2 豊かな心の醸成  
①目的を明確にした体験的な活動を充実させます。  
②奉仕の心とその実践力を高めめます。  
③心を豊かにする良書に親しませます。  
3 より良い人間関係の育成  
①正しく自己主張する経験を積ませます。  
②他の人格や意見を尊重する態度を育成します。  
③人間関係向上のための活動を取り入れます。  
④愛校心や集団への帰属意識を高めます。  
4 目標設定と実現への支援  
①一人一人に役割と責任を与えます。  
②様々な領域で目標を立て発表させます。  
③目標実現の方法を助言し励まします。  
④目標達成の過程を互いに評価し合わせます。  
⑤目標の達成状況を評価し賞賛します。

1 潤いのある教育環境の実現  
①全校あげて校舎内外の美化に努めます。  
②掲示物や植物などで潤いのある環境をつくりまします。

2 開かれた学校づくりの推進  
①小・中連携事業を推進します。  
②学校ホームページ等による情報発信を推進します。

3 教師の指導力の向上  
①積極的に研究授業を行い指導力を向上させます。  
②校内研修を充実させ、職能の向上を目指します。

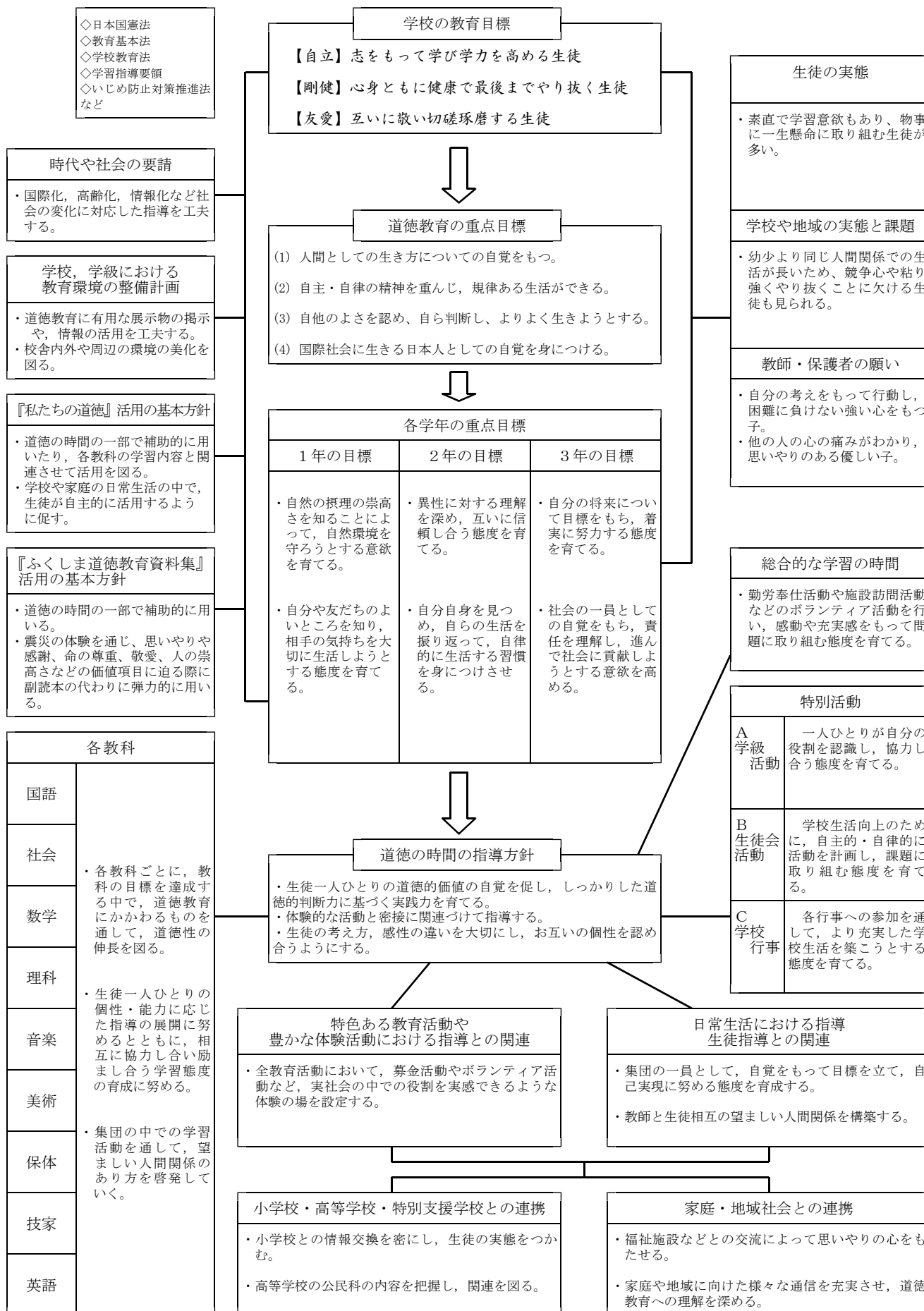
教育環境の整備

1 潤いのある教育環境の実現  
①全校あげて校舎内外の美化に努めます。  
②掲示物や植物などで潤いのある環境をつくりまします。

2 開かれた学校づくりの推進  
①小・中連携事業を推進します。  
②学校ホームページ等による情報発信を推進します。

3 教師の指導力の向上  
①積極的に研究授業を行い指導力を向上させます。  
②校内研修を充実させ、職能の向上を目指します。

# 平成29年度 道徳教育全体計画



平成29年度 道徳教育の全体計画別表1 (道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表)

道徳教育の重点目標	道徳の時間	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	社会	数学	理科	音楽	体育	保健体育	芸術・文化	家庭科	外国語	総合	その他
1. 道徳の時間	2. 特別活動	3. 総合的な学習の時間	4. 道徳	5. 社会	6. 数学	7. 理科	8. 音楽	9. 体育	10. 保健体育	11. 芸術・文化	12. 家庭科	13. 外国語	14. 総合	15. その他	
1. 道徳の時間	2. 特別活動	3. 総合的な学習の時間	4. 道徳	5. 社会	6. 数学	7. 理科	8. 音楽	9. 体育	10. 保健体育	11. 芸術・文化	12. 家庭科	13. 外国語	14. 総合	15. その他	

内容項目	道徳の時間	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	社会	数学	理科	音楽	体育	保健体育	芸術・文化	家庭科	外国語	総合	その他
1-1) 望ましい生活習慣・健康・節度	受験生あつこの日記 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 学習方法の見直しと改善計画 ・路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						1-1) 望ましい生活習慣・健康・節度
1-2) 希望・勇気・強い意志	・素直の輝き あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						1-2) 希望・勇気・強い意志
1-3) 自主・自律・誠実・責任	・素直の輝き あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						1-3) 自主・自律・誠実・責任
1-4) 真摯愛・理想の表現	この町のために ・五方向切られた男 ・清く正しく学ぶ	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						1-4) 真摯愛・理想の表現
1-5) 向上心・個性の伸長	この町のために ・五方向切られた男 ・清く正しく学ぶ	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						1-5) 向上心・個性の伸長
2-1) 礼儀	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-1) 礼儀
2-2) 人間愛・思いやり	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-2) 人間愛・思いやり
2-3) 信頼・友情	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-3) 信頼・友情
2-4) 男女の敬愛	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-4) 男女の敬愛
2-5) 自他の尊重・謙虚・寛容の心	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-5) 自他の尊重・謙虚・寛容の心
2-6) 感謝	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						2-6) 感謝
3-1) 生命尊重	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						3-1) 生命尊重
3-2) 自然愛・畏敬の念	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						3-2) 自然愛・畏敬の念
3-3) 人間の弱さの克服・人間の気高さ・生きる喜び	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						3-3) 人間の弱さの克服・人間の気高さ・生きる喜び
4-1) 法や守りの道徳・社会の秩序と規律	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-1) 法や守りの道徳・社会の秩序と規律
4-2) 公徳心・社会連帯・よりよい社会の実現	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-2) 公徳心・社会連帯・よりよい社会の実現
4-3) 正義・公正・公平・差別や偏見のない社会の実現	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-3) 正義・公正・公平・差別や偏見のない社会の実現
4-4) 集団生活の向上・役割と責任の分担	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-4) 集団生活の向上・役割と責任の分担
4-5) 物事の善さ・美しさの共有・公共の福祉	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-5) 物事の善さ・美しさの共有・公共の福祉
4-6) 家族愛	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-6) 家族愛
4-7) 愛敬心	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-7) 愛敬心
4-8) 郷土愛	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-8) 郷土愛
4-9) 日本人としての自覚・文化の継承と創造	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-9) 日本人としての自覚・文化の継承と創造
4-10) 国際理解・人類愛	100人の大先輩 ・あこがれの消防団 When in Romado as the い恋恋 ・負けない！カラム伊達 ・真珠玉 御水本善吉	生涯学習活動 あいさつ運動(通年) 入学式、卒業式	学級活動 路上観察としての自覚と抱負	・敬語 ・私を兼ねないで	・類似な図形の面積	・相似な図形の面積	・飛立ちの日に ・水泳	・家族 ・卒業	・体づくり運動						4-10) 国際理解・人類愛

※赤字はわたりつらぬき(文部科学省) 赤字はふくしま道徳教育資料集(福島県教育委員会) 黒字は副読本(株式会社正通社)による。

## 平成29年度 道徳教育全体計画別葉2 (学校行事・生徒会行事と内容項目との関連表)

いわき市立赤井中学校

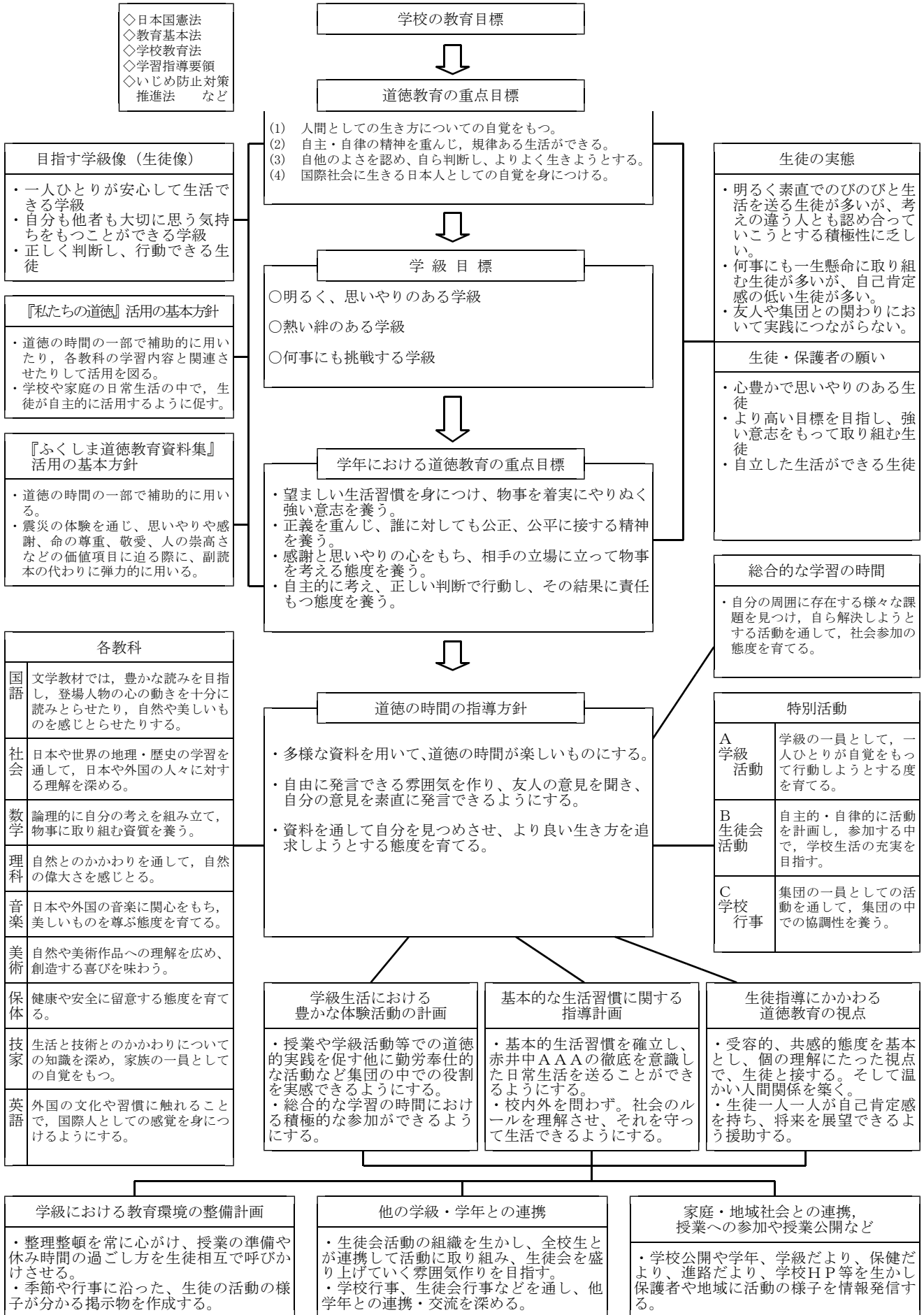
		A					B				C							D					
		(1) 自主、自立、自由と責任	(2) 節度、節制	(3) 向上心、個性の伸長	(4) 希望と勇氣、克己と強い意志	(5) 真理の探究、創造	(6) 思いやり、感謝	(7) 礼儀	(8) 友情、信頼	(9) 相互理解、寛容	10 遵法精神	11 公正、公平、社会正義	12 社会参画、公共の精神	13 勤労	14 家族愛、家庭生活の充実	15 よりよい学校生活、集団生活の充実	16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	18 国際理解、国際貢献	19 生命の尊さ	20 自然愛護	21 感動、畏敬の念	22 よりよく生きる喜び
始業式	4月				○			○														○	
入学式					○			○														○	
対面式								○														○	
交通教室										○		○								○			○
生徒会委員会1		○										○											
全校集会1																							
学習態度訓練週間		○	○																				
生徒会総会									○														
修学旅行		○						○	○													○	
遠足		○						○	○								○	○				○	
避難訓練1	5月																					○	
平支援学校交流								○															
全校集会2								○															
ノーメディアデー		○	○																				○
市中体連壮行会	6月			○	○																		
ノーメディアデー		○	○																				○
クリーン作戦												○	○									○	
生徒会委員会2	7月	○											○										
命の大切さを学ぶ授業									○													○	
スマホ安全教室		○	○																				○
全校集会4																							
1学期終業式					○				○														
2学期始業式					○				○														
1日体験学習	9月								○														
学習態度訓練週間2		○	○																				
市駅伝大会壮行会				○	○																		
生徒会委員会3		○																					
平支援学校交流2									○			○											
生徒会役員選挙1					○																		
避難訓練2																						○	
生徒会委員会4		○											○										
ノーメディアデー		○	○																				○
クリーン作戦2																						○	
新人戦壮行会	10月			○	○																		
食育講座																							
全校集会6																						○	○
親子ふれあい弁当デー																							○
生徒会総会2										○													
関ヶ原祭		○		○	○				○														○
進路説明会						○																	○
全校集会7																							
朝食を見直そう週間																							○
経済体験活動2年		○	○						○				○	○									○
三者相談				○																			
ノーメディアデー		○	○																				○
生徒会委員会5		○																					
薬物乱用防止教室		○								○	○											○	○
生徒会委員会6	12月	○											○										
全校集会8																							
2学期終業式					○				○														
3学期始業式					○				○														
学習態度訓練週間3		○	○																				
ノーメディアデー		○	○																				○
生徒会役員選挙2	2月				○																		
ノーメディアデー		○																					○
生徒会委員会7		○																					
卒業式全体練習					○				○														○
3年生を送る会	3月				○				○														○
卒業式予行					○				○														○
卒業式					○				○														○
全校集会8																							
修了式					○				○														○
離任式						○			○														



平成29年度 学級における道徳教育指導計画

いわき市立赤井中学校  
1年1組

- ◇日本国憲法
- ◇教育基本法
- ◇学校教育法
- ◇学習指導要領
- ◇いじめ防止対策推進法 など



資料 5

学習指導案 1

第 1 学年 1 組 道徳 徳学 学習 指導案

平成 29 年 11 月 13 日 (月) 第 5 校時 授業者 上遠野 理恵子

- 1 主題名 「温かい人間愛」 中心価値 B - (6) 思いやり、感謝
- 2 資料名 「手渡されたパン」
- 3 主題設定の理由 ふくしま道徳教育資料集第 II 集 敬愛・つながる思い

(1) 価値観

人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。その関係を根底で支えているのは、互いの感謝の心である。そして、他者の思いやりに触れ、感謝の念を抱くことで、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからである。ことを自覚するようになる。

しかし、中学校では、自立心の強まりとともに、自己を支えてくれる多くの人の善意や支えに気づく一方で、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしている。そこで、本時では、支えてくれた周囲の人たちの言動に対する感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする態度が、互いの心の絆をより強くするのだというように気づかせたい。

(2) 生徒観

明るく素直で物事に一生懸命に取り組む生徒が多い。しかし、小学校からクラスメイトが変わらず、幼少より同じ人間関係での生活が長い。お互いの立場が固定化され、切磋琢磨する姿が乏しい。道徳に関するアンケートの結果からは、人間関係や規範意識に対して肯定的な意見をもっている生徒が多いことが分かるが、考えの異なる他者とも認め合い、助け合おうという実践につながる言いが現状である。このような現状から、他者の思いやりや気づき、感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心を育てたいと考えている。

(3) 資料観

本資料は、東日本大震災後、家族とともに茨城県のおばの家に避難した中学 1 年生の主人公を描いたものである。主人公は、余震と放射能による不安からやりのな怒りでイライラを募らせ、両親や祖父、避難先のお婆にも反抗的な態度をとっていった。しかし、公園で出会った見知らぬお婆さんのお婆さん善意と思いやりに心を動かされ、自分の態度を反省し、自分がたくさんの支えによって生かされていることに気づき始めるといった内容である。人は多くの人の善意や思いやりに支えられて生きていくことに改めて気づかせ、感謝の気持ちを素直に表そうとする態度の大切さについて考えさせることのできる資料である。

(4) 指導観

資料を通して、人生には人の善意や思いやりに対し感謝する場面がたくさんあり、お互いに支え合っていることに気づかせたい。また、単に思いやりや感謝の大切さに気づかせるだけでなく、感謝の気持ちを言葉にして伝えることの重要性についても考えさせたい。

資料を前半と後半に分けて範読し、主人公に感謝の気持ちが生まれていく心情の変化に触れながら展開を進めていく。展開後段でこれまでの生活経験を振り返らせることと、授業の感想をワークシートに記入させることで生徒一人ひとりの変化を見取る一助としたい。

4 準備物 資料「手渡されたパン」、ワークシート

5 ねらい

人は人の支えによって生きていることを理解し、感謝の気持ちをもち強く生きていくようにする態度を育てる。

6 指導過程

段階	学習活動	時間形態	主な発問 ◎中心発問 ◇予想される生徒の反応	指導上の留意点 □評価 ○教師の意図
導入	1 感謝の気持ちについて、自分自身について振り返る。 2 資料を読んでもう一度考える。 (1) 震災後から外に出たときまで自分の行動について考える。	5 分 1 斉	○日常生活の中で、どんなときに「ありがとう」と言うだろうか。 ◇助けってもらったとき、応援してもらったとき。	・指問 ○教師の意図 □評価 ・今までの経験を振り返り、返り、自由な雰囲気での発言させる。 ・おば宅から外に出るまでで範読し、考えさせる。 ・震災直後が置かれた状況を確認した上で、自分が食べようとしたらどうするかを想像させる。
展開	(2) 涙もなくて涙がこぼれながら考えた。 み上げてきた。 涙もなくて涙がこぼれながら考えた。 み上げてきた。	10 分 1 個別	○震災後からおば宅の外に出たときまで自分の行動をどう思ったか。 ◇生活が急変し、自分でもむしややくしやすさと思うので共感できる。 ◇みんなつらいのに、自己中心的で共感できない。 ◇僕はこれではいけないことは分かっていると思う。	・おば宅から外に出るまでで範読し、考えさせる。 ・資料の続きから最後までで範読し、考えさせる。 ・おばあさんの言葉を思い出して、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。
前段	(3) 家の帰ってから、お婆さんの行動について考える。	15 分 1 個別 1 グル	○涙もなくて涙がこぼれながら考えた。 み上げてきた。 涙もなくて涙がこぼれながら考えた。 み上げてきた。	・資料の続きから最後までで範読し、考えさせる。 ・おばあさんの言葉を思い出して、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。 ・おばあさんの言葉を読んで、自分も書いてみる。
後段	(4) 自分が感謝の気持ちを伝えたい人について考える。	3 分 1 斉	○「家に帰ろう」の後にはどんな言葉が続くだろうか。 ◇家族のみんなに謝ろう。	○「おばさん、そして、お父さんとお母さんに謝らなくちゃ」の部分には休ませておく。
展開	3 感謝の気持ちについて考える。 (1) 自分だったら、家についてどうするか考える。	10 分 1 個別 1 グル	○自分だったら、どのような態度を取ってしまっしつかり食べて元気に頑張る。	・グループで黙読し、互いの意見を交換し、合えるようにする。 ○感謝の気持ちで表すことの大切さに気づかせる。
後段	(2) 自分が感謝の気持ちを伝えたい人について考える。	5 分 1 個別	○自分が感謝の気持ちを伝えたい人について考える。	□ワークシートに自分の考えをもてたか。
終末	4 「私たちの道徳」P84 伝えた「ありがとう」を詠む。	2 分 1 斉	○「私たちの道徳」P84 伝えた「ありがとう」を詠む。	・教師自身の体験談も話し、余韻を残す。

学習指導案 2

第2学年1組 道徳学習指導案 授業者 永山 公栄  
平成29年11月13日(月) 第5校時

- 1 主題名 「温かい人間愛」 中心価値 B- (6) 思いやり、感謝
- 2 資料名 「五〇〇人の大家族」  
ふくしくしま道徳教育資料集第II集 敬愛・つながる思い

3 主題設定の理由

(1) 価値観  
学習指導要領にあるように、「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族など  
の支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝」する  
ことは、学校生活はもちろん、社会生活においても人と人とが関わる中で最も大切な  
価値項目であると言える。どんな人でも周囲の様々な人々から支えられることなしに  
は生きていくことはできない。ただ、生徒にとつて、そのことを普段の生活の中で強く  
意識する機会は少ないのが現状である。そのため、震災という大変な状況が描かれ  
ている本資料においてじっくりと考えさせることは、大切なことであると考ええる。

(2) 生徒観  
穏やかな性格の生徒が多く、班や係の活動も友人と協力して行うことができる。ま  
た、道徳に関するアンケートの「人には親切にしたいですか。」「人が困っているま  
きは進んで助けていますか。」といった項目で肯定的な回答が多く、「人の気持ち  
分かる人間になりたいと思う」生徒が多いことが分かる。しかし、自発的に考え行動  
する面が弱く、上記のアンケートの結果も、自分なりの考えからくるものでなく一般  
的であろうと思われる。そのため今回の授業では、様々な人々の視点に立ち自分なり  
の根拠を明確にしながら深く考える機会とした。

(3) 資料観  
三代続いた旅館の主人が、東日本大震災の被災者を無料で受け入れることを決断し  
たことにより、主人である父、主人公である娘の「私」、兄、従業員、被災者、それ  
ぞれの立場の思いが交錯する姿が描かれている。困難な状況の中で、それぞれの登場  
人物が、互いを労い、思いやる姿が、受け入れに反対していた兄や私の気持ちを  
変えていった経緯を考えると、人は互いに思いやり、支え合うことで生きてい  
うことに気づくことができる資料である。

(4) 指導観  
あまりにも甚大な被害をもたらした震災という状況の中で、様々な人々が置かれた  
立場を改めて確認することで、それぞれの人が互いを思いやりやっていること、人は  
支え合えないながら生きていくことに気づかせたい。

授業を進める上で、はじめに前半部だけ資料を与え、結末を伏せることで、父の決  
断を客観的に考えることが可能となり、「私」や兄の気持ちが変わったことも明瞭に  
なることを考えた。展開後段では、事前にとったアンケートの結果を再び見直す活  
動を取り入れることで、改めて「感謝」や「思いやり」の大切さに気づかせたいと考  
える。

また、普段何気なく用いている「感謝」や「思いやり」という言葉を多面的・多角  
的に捉え、考えを深めることができるよう、意見の交流の仕方を工夫したい。

- 4 準備物 資料 「五〇〇人の大家族」、ワークシート
- 5 ねらい 困難な状況下でも、人は思いやり、支え合いながら生きていくということに気づき、  
周囲の人を思いやり、感謝しようとする態度を育てる。

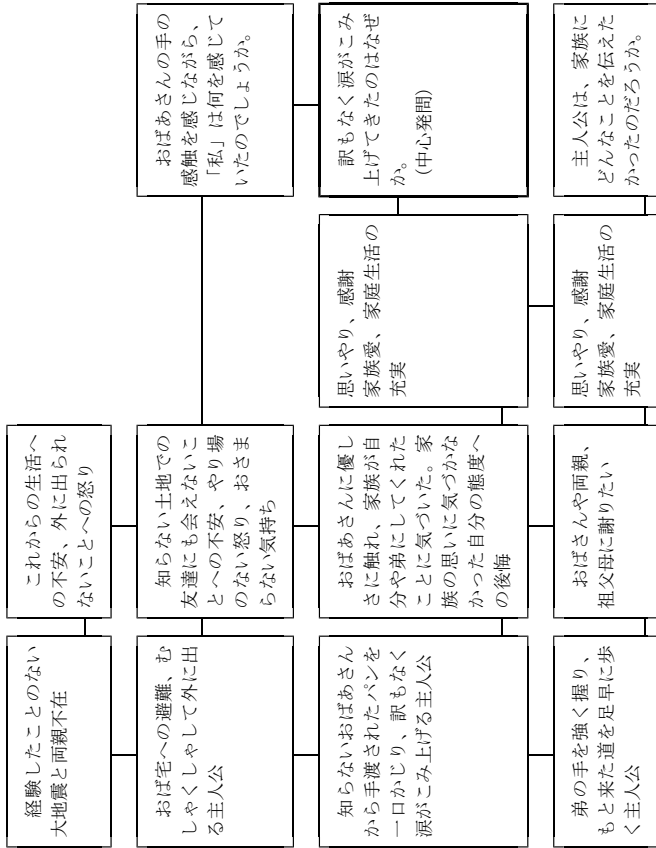
7 資料分析図

(主要場面)

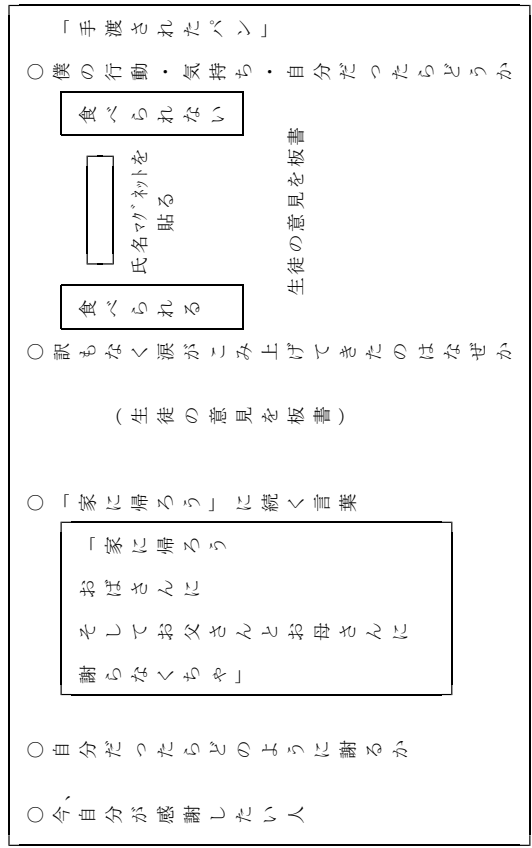
(心の動き)

(道徳的価値)

(主な発問)



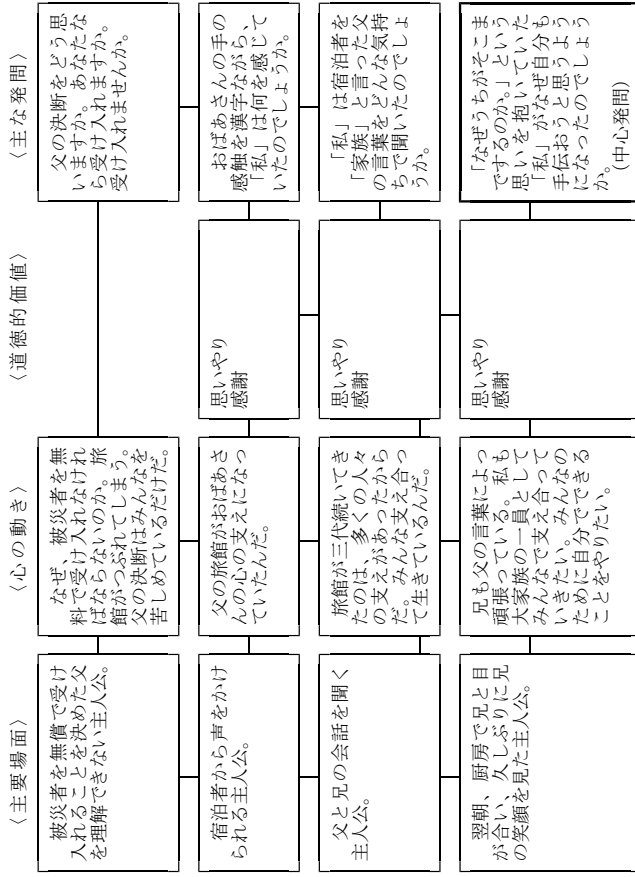
8 板書計画



6 指導過程

段階	学習活動	時間形態	主な発問◎中心発問 ◇予想される反応	指導上の留意点 □評価 ○教師の意図
導入	1 人に何かをしてもらってありがたかった経験について振り返る。	3分 一斉	◎これまで人に何かしてもらってありがたかったこととはどんなことでしょうか。 ○感謝とはどのようなことでしょうか。	・指導上の留意点 □評価 ○教師の意図 ・事前アンケートの結果について提示する。
展開	2 資料「五〇〇人の大家族」を読んで考える。 (1) 資料の前半部分を読む。	6分 一斉	◎「なぜうちがそこまで思えるのか。」という思いを自分も手伝おうか。 ○「私」がなぜ自分も手伝おうか。 ◇受け入れる、受け入れない	・教師が音読する。
展開	(2) 父の決断について考える。 (3) 資料の後半部分を読む。 (4) 「三階の食事は私が運びます。」という思いを自分も手伝おうか。	10分 個別 一斉	◎「なぜうちがそこまで思えるのか。」という思いを自分も手伝おうか。 ○「私」がなぜ自分も手伝おうか。 ◇受け入れる、受け入れない	○多様な意見を出させるために、受け入れてくれない理由を明確にするようにさせる。 ・教師が音読する。
展開	3 自分の生活を振り返る。(1) 「感謝」について一度考える。	5分 8分 個別 一斉	◎「なぜうちがそこまで思えるのか。」という思いを自分も手伝おうか。 ○「私」がなぜ自分も手伝おうか。 ◇受け入れる、受け入れない	・「私」の気持ちに変化した理由を3つに限定し、その人達の言葉に注目させる。 ・見の心情の変化についても気づくことができるようにさせる。 ◎事前のアンケートと比較することによって、感じる考えが違ってくる。
展開	(2) 自分を支えてくれた人について考える。	10分 グループ 一斉	◎「なぜうちがそこまで思えるのか。」という思いを自分も手伝おうか。 ○「私」がなぜ自分も手伝おうか。 ◇受け入れる、受け入れない	◎「私」の気持ちに変化した理由を3つに限定し、その人達の言葉に注目させる。 ・見の心情の変化についても気づくことができるようにさせる。 ◎事前のアンケートと比較することによって、感じる考えが違ってくる。
終末	4 本時のまとめをする。	3分 一斉	◎1の心情グラフでの自分の気持ちをもう一度考え、自分の変容を確認する。	◎教師自身も体談話を話し、余韻を残して終わる。

7 資料分析図



8 板書計画

◎人に何かをしてもらってありがたかったこと

○感謝するとは

「五〇〇人の大家族」

◇登場人物

従兄 父 自分とかなんとか助けた  
業 負担が増えたら旅費もなせよ。  
できるだけのことをしてあげよう。

◎父の決断

心情グラフ

◇受け入れる。  
(生徒の意見を板書)

◇受け入れない。  
(生徒の意見を板書)

◎「私」の思いの変化

でも「なぜうちがそこまで思えるのか。」

「三階の食事は私が運びます」  
(生徒の意見を板書)

◎思いやり

感謝

(生徒の意見を板書)

◎あなたを支えてくれた人

(生徒の意見を板書)

◎それの人たちあなたができること



学習指導案3

第3学年1組 道徳 学習指導案 公美子  
平成29年11月13日(月) 第5校時 授業者 木村

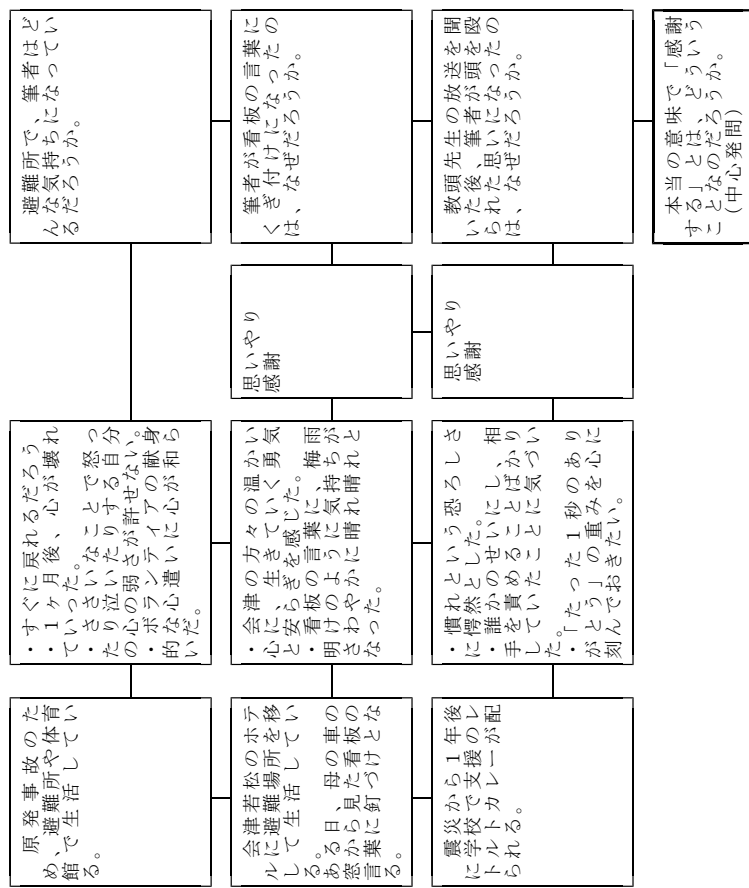
- 1 主 題 名 「温かい人間愛」 中心価値 B- (6) 思いやり、感謝
- 2 資 料 名 「たった1秒のありがとう」  
ふくしま道徳教育資料集第II集 敬愛・つながる思い
- 3 主 題 設 定 の 理 由  
(1) 価値観  
人は互いに支え合い、思いやり、思いやりの支え合いを互いに感謝する心が、人間関係の絆を深めるものである。そして感謝の心とは、他者が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、その言動をありがたくと感じたと共に起こる人間の自然な感情である。  
しかし、思春期のまっただ中である中学生たちには、ややもすると「やっとなって当たり前」と錯覚しているような危うさも感じられる。中学生のこの時期に、思いやりや心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、すすんでそれに応えることの大切さに気づかせたいと思う。
- (2) 生徒観  
男女の仲が良く、協力して学校生活を送ることができ、しかし、道徳に関するアンケートの結果を見ると、3学年という年齢にしては自立心が低い傾向にある。指示待たずにはなく、集団生活の中で自分はどう考え、どう行動すべきかを意識させる生活体験の場の設定が必要と思われる。また、思いやりや気持つきがあることも、学級の仲間や周囲の人たちに積極的に言動で表すことのできない生徒もいる。このような現状から、相手の思いやりに対して、それに気づき、素直に感謝の気持ちを言動で表すことのできる姿勢を身に付けさせたいと考え。
- (3) 資料観  
この資料は、東日本大震災にとともに福島第一原子力発電所の事故により、避難を余儀なくされている中学2年生の作文である。最初の避難生活では、今まで当たり前であった日々の事々を奪われ、筆者の心がすさんでいく。その後の会津の避難所では、支援者の温かい心に触れ、人間らしい生活と心を取り戻していく。しかし、日々が過ぎていくうちに、感謝の気持ちを忘れてしまっている自分に気づく。筆者の体験を通して、本当の「ありがとう」の重みを考えさせることのできる資料である。
- (4) 指導観  
筆者の避難生活の体験を通して、当たり前前にも、多くの人の人の温かい善意が自分を支えていることに気づかせたい。その人たちの心の絆を深めていくためにも、感謝の気持ちを伝えることは大切である。また、それは形式的なものではなく、相手の思いやりの心に応えることでもあることに気づかせたい。  
本時の授業のテーマが「感謝する」ことであることを示し、資料を通して筆者の気持ちの変化を追いながら、展開後段において自分の実生活での感謝に対する本音から、本質に迫る考えや思いへの変容を引き出したい。
- 4 準 備 物  
資料「たった1秒のありがとう」 ワークシート 付箋
- 5 ね ら い  
日々の生活の中で、まわりの支えによって生きていることに気づき、相手に対して感謝の気持ちをもち、それに応えようとする態度を育てる。

6 指導過程

段階	学習活動	時間	主な発問 ◎中心発問	指導上の留意点
導入	1 「感謝」についての方を確認する。 2 本時の話し合いのテーマが「感謝」であることを知る。 3 資料を読み、意見交流する。 (1) 原発事故のため、生活する筆者の気持ちを考える。 (2) 会津若松の避難先で筆者の気持ちを考える。 (3) 支援されている筆者に対しての変化を考える。	10分 3分 8分	◎「感謝する」とは、どのようなことをいうのだろうか。 ◇おれを言うこと。 ◇ありがたがること。 ◎ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◇ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。	◎ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◇ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。
展開前段	4 「感謝」の本当の意味について考える。 (1) 自分の意見を付箋に記入する。 (2) グループで意見交流する。 (3) 発表する。	12分 3分	◎ 本当の意味で「感謝」とは何か。 ◎ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。	◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。
展開後段	5 普段の生活をふり返り「感謝」について自分の思いや考えをワークシートに記入する。	5分 個別	◎ 相手の思いやりや気持ちに気づき、感謝の気持ちを返して相手にも気づかせるか。 ◎ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。	◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。
終末	6 資料の最後の部分の朗読を聞く。	3分 一斉		◎ 筆者が看板の言葉に気づかぬところか、精神的に追い込まれていないか。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。 ◎ 筆者は会津で人々の温かい善意に支えられて、「ありがとう」として感謝すること。

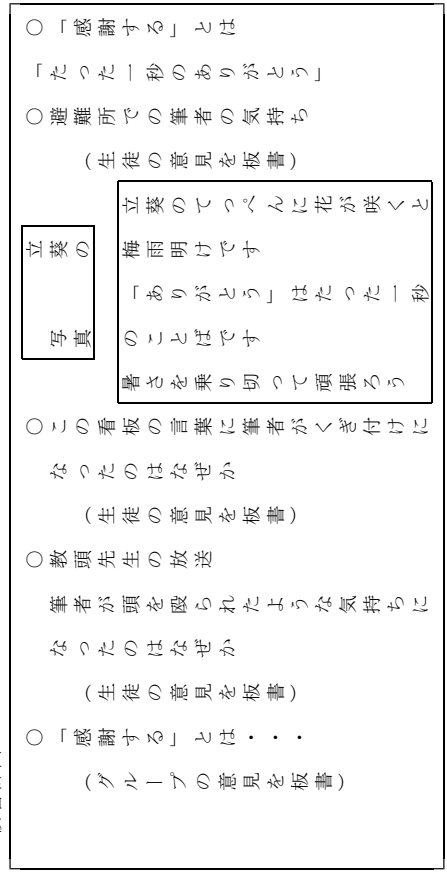


7 資料分析図  
(主要場面)



本当の意味で「感謝  
することなのだろうか。  
(中心発問)

8 板書計画



【研究公開のアンケート結果から (記述式)】

- 赤井中の先生方が何度も研究授業を積み重ね、研究主題に迫った授業であった。
- 教師の授業に対する熱意を感じる授業であった。
- 生徒が自分の言葉で、自分の思いを語ろうとしていたのが印象的であった。
- 1年生の授業を参観しました。先生の押しつけにならないよき雰囲気での授業でした。
- 研究紀要を参考にさせていただき、自校での研修も進めていきたいと思えます。
- 中学校授業を初めて参観しましたが、生徒たちが自分の考えをしっかりと発表してい  
て素晴らしいと思いました。
- 全体計画や別業について計画的に作成に取りかかりたいと思いました。
- 赤井中での取り組みが大変参考となり、自校でもやりたいと思います。赤井中で学ん  
だことを伝え、道徳教育を推進していきたいと思えます。
- 学校全体で協力して取り組む必要性を強く感じました。
- 事前に指導案を拝見して、資料分析図、板書計画、指導過程の形態から誰でもすぐに実  
践できるとわかりやすい計画だと思いました。
- 赤井中学校では男女とも自分の考えを書き、発言が多かったので大変充実していました。
- 多面的・多角的に考えさせなければならぬことを改めて感じました。
- 2年生の授業を拝見しましたが、発問、板書、ワークシート、学習形態など具体的にど  
うすればよいかを学ぶことができました。
- 校長先生のご指導の下、全職員が道徳を大切に扱っていることがよく分かりました。

道徳意識調査（いわき市立赤井中学校）

全校生(6月)

全校生(11月)

NO	質問項目	全校生(6月)					全校生(11月)					
		(できている)	(できている)	どちらかといえは	(できている)	肯定的意見	肯定的領域別意見平均	(できている)	どちらかといえは	(できている)	肯定的意見	肯定的領域別意見平均
道徳時間	1 「道徳の時間」の勉強は、好きだ。	16.8%	56.9%	22.6%	3.6%	73.7%		25.0%	61.0%	10.3%	3.7%	86.0%
	2 「道徳の時間」の勉強は、ためになると思う。	48.2%	45.3%	3.6%	2.9%	93.4%	83.0%	41.9%	45.6%	10.3%	2.2%	87.5%
自尊感情	3 「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。	25.5%	56.2%	14.6%	3.6%	81.8%		33.1%	55.9%	9.6%	1.5%	89.0%
	4 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。	57.7%	35.8%	5.1%	1.5%	93.4%		60.3%	35.3%	4.4%	0.0%	95.6%
生活習慣	5 自分には、よいところがあると思う。	27.0%	35.0%	29.9%	8.0%	62.0%	75.7%	11.8%	50.7%	30.1%	7.4%	62.5%
	6 将来の夢や目標をもっている。	41.6%	29.9%	19.7%	8.8%	71.5%		39.7%	26.5%	20.6%	13.2%	66.2%
人間関係・規範意識	7 朝、決めた時刻に自分で起きている。	32.1%	29.2%	25.5%	13.1%	61.3%		33.1%	34.6%	25.7%	16.9%	57.4%
	8 学校に持っているものを、前の日に確かめている。	45.3%	22.6%	16.8%	15.3%	67.9%	71.0%	33.1%	33.8%	20.6%	12.5%	66.9%
人間関係・規範意識	9 机やロッカーの中など身の回りの整理整頓をしている。	38.0%	46.0%	12.4%	3.6%	83.9%		34.6%	50.0%	12.5%	2.9%	84.6%
	10 人の気持ちに分かる人間になりたいと思う。	59.9%	39.4%	0.0%	0.7%	99.3%		62.5%	42.6%	0.0%	2.2%	97.8%
人間関係・規範意識	11 いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	67.9%	26.3%	4.4%	1.5%	94.2%		62.5%	36.0%	1.5%	0.0%	98.5%
	12 人の役に立つ人間になりたいと思う。	61.3%	35.0%	1.5%	2.2%	96.4%		58.8%	37.5%	3.7%	0.0%	96.3%
人間関係・規範意識	13 学校のきまり(規則)を守っていますか。	57.7%	38.0%	3.6%	0.7%	95.6%		52.2%	42.6%	4.4%	0.7%	94.9%
	14 人には親切にしたいですか。	64.2%	32.1%	3.6%	0.0%	96.4%	94.4%	65.4%	33.1%	0.7%	0.7%	98.5%
人間関係・規範意識	15 人が困っているときは、進んで助けていますか。	27.7%	62.8%	8.8%	0.7%	90.5%		25.0%	63.2%	10.3%	1.5%	88.2%
	16 近所の人に会ったときは、あいさつをしている。	57.7%	34.3%	7.3%	0.7%	92.0%		52.9%	40.4%	5.1%	1.5%	93.4%
人間関係・規範意識	17 木を折ったり、動物を傷つけたりすることは、いけないことだと思いませんか。	66.4%	29.9%	3.6%	0.0%	96.4%		68.4%	30.1%	0.7%	0.7%	98.5%
	18 学級活動等では、互いに信頼して話し合い、励まし合って、よりよい学級生活をつくろうとしていますか。	31.4%	57.7%	9.5%	1.5%	89.1%		28.7%	64.7%	5.9%	0.7%	93.4%
人間関係・規範意識	19 生徒会活動や学校行事において、学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしていますか。	44.5%	57.7%	8.0%	1.5%	90.5%		43.4%	64.7%	2.2%	0.7%	97.1%
	20 部活動では、高い目標に向かって苦しいことにもくじけず、頑張ろうとしていますか。	61.3%	46.0%	2.9%	0.0%	97.1%		55.9%	53.7%	1.5%	2.2%	96.3%

参考：全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙)・「道徳教育実践研究事業」(文部科学省)における児童生徒の意識調査

# 赤井中学校だより

第 2, 2 号 平成 29 年 1 月 17 日 発行 校長 石 井 直 人

## 『道徳教育推進校』公開授業

11月13日（月）に、福島県教育委員会指定「道徳教育推進校」としての授業を公開しました。授業をご覧いただきました保護者の皆様、ありがとうございます。指導助言の先生から「クラスの雰囲気がよい」「発問に対するつぶやきがとても素直である」「一生懸命で真剣に取り組んでいる」とお褒めの言葉をいただきました。

1年1組 授業のようす



第1分科会のようす



授業者 上遠野先生



指導助言 窪木先生



2年1組 授業のようす



第2分科会のようす



授業者 永山先生



指導助言 四家先生



3年1組 授業のようす



第3分科会のようす



授業者 木村先生



指導助言 中田先生



## 【資料】

- 「ふくしま道徳教育推進プラン」
- 道徳教育推進校の役割について
- 平成29年度道徳教育実施状況調査
- 道徳だより「道徳のかけ橋」第12～17号



### 【課題】

「特別の教科 道徳」の円滑な実施と改正学習指導要領の趣旨の実現に向けた各学校の取組に対する支援。

### 【目的】

改正学習指導要領の趣旨の実現に向けての取組を推進するとともに、大震災を経験した本県だからこそ、子どもたちに「命の大切さ」「家族や地域の絆」「思いやり」や「郷土を愛する心」等を育むための「家庭や地域社会等との連携を図った道徳教育」の充実を図る。

### 道徳教育リーフレットの作成・配布

- ◆ 学校だけでなく、保護者や地域社会等との連携を図った道徳教育の充実に向けてリーフレットを配布し、県教育委員会や学校の取組を広く発信する。
- 年2回配布
- 教職員・保護者等を対象

### 「モラル・エッセイ」コンテスト

- ◆ 県民参加型の道徳教育を推進するため、心温まるエッセイを募集し、道徳教育の資料として活用する。
- 年1回開催

### 福島県道徳教育推進協議会

- ◆ 福島県の道徳教育の充実を図るため、本事業の実施を含め、本県の課題を明らかにしながら必要な指導助言を行う。
- 年2回開催(5月・2月)
- 構成員 学識経験者、学校関係者(小・中教研道徳部長、特支・高等学校代表)、県教委、教育事務所・教育センター、担当指導主事等

### 地区別推進協議会

- ◆ 学校、家庭・地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための協議を行い成果を普及する。
- 参加対象
  - 各地区の小・中・高・特別支援学校の道徳教育推進教師等
  - 保護者、地域住民、関係機関等
- 各地区1回開催
- 内容
  - 「道徳の時間」の授業研究会
  - 学識経験者等の講義・演習
  - 推進校の実践報告等
  - 地区の実態に応じた協議等

### 推進校による実践研究

- ◆ 学校、児童生徒等の実態を踏まえ、道徳教育に関するテーマを設定し、実践研究を行う。
- 研究内容
  - 研究テーマの設定
  - 全体計画・年間計画等の検討
  - 道徳教育推進教師の役割の検討
  - 道徳の時間の授業公開
  - ふくしま道徳教育資料集の活用
  - 先進校等への視察
  - 成果報告と普及への協力
  - 地区別推進協議会での実践発表等

### ゲストティーチャーの派遣

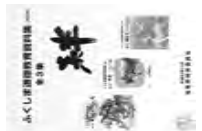
- ◆ 教室、職員室にゲストティーチャー(外部講師)を派遣し道徳教育の充実を図る。
  - ゲストティーチャーとともに授業を行う。
- ゲストティーチャーから道徳教育に関する講演等を聞く。

### 「特別の教科 道徳」の実施に向けた研修

- ◆ 道徳指導者研修会(教育事務所・教育委員会)(7月)
- 指導主事を対象
- ◆ 「特別の教科 道徳」の円滑な実施に向けた研修(小・中・特支学校)
- 管理職・道徳教育推進教師を対象

### 「ふくしま道徳教育資料集」等の活用

- ◆ 福島県ならではの道徳教育を進めるため、「ふくしま道徳教育資料集」等の活用促進を図る。
- 活用・指導事例の収集
- 活用・指導事例の紹介





## 道徳教育推進校の役割について

福島県教育委員会

福島県では、平成24年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定しています。推進校は次のような活動を行います。

- 1 推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究の推進をする。
- 2 推進校は、ゲストティーチャー（教室G T）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
- 3 推進校は、ゲストティーチャー（職員室G T）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
- 4 推進校は、研修会等へ積極的に参加して研究と修養に努め、「道徳の時間」の充実を図る。
- 5 推進校は、域内の各学校へ道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
- 6 推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。

なお、需用費、研修会等への参加に係る経費、ゲストティーチャーへの申請や経費にかかる事務手続きは県教育委員会（各教育事務所）が行います。

### 実践研究内容

- 研究テーマの設定・・・学校における今年度の重点を核として1年間のテーマを設定。
- 校長の指導の方針の明確化・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
- 全体計画・年間指導計画の提出・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
- 道徳教育推進教師の実践報告・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
- 道徳の時間の授業公開・・・保護者や地域への公開授業を開催。
- ふくしま道徳教育資料集の活用・・・実践例を紹介。
- 地区別推進協議会等での実践発表・・・地区別推進協議会で中間報告。
- 1年間の成果の報告と普及への協力・・・道徳教育推進校報告書の作成。

- 1年間の研究推進校です。県内7地区に1校ずつ、小・中・高等学校の中から推進校を設定します。
- 推進校の実践した研究成果は「道徳教育推進校報告書」にまとめ、県内に広く発信します。
- 推進校の関係者は、県道徳教育推進協議会に出席（年2回）し、他地区の推進校と情報交換しながら1年間の研究推進を行います。

さらに、県教育委員会が魅力的なゲストティーチャーを派遣します。

### 道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

#### ■ 推進校へゲストティーチャーを派遣

##### ① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ホームルーム活動の時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。

##### ② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室へ講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

## 平成29年度 道徳教育実施状況調査

平成30年1月15日現在

※ 学校数 小学校444校 中学校220校 小・中学校664校

※ 休校(小学校2・中学校1) 臨時休業(小学校4・中学校2) 分校は本校分を含む

※ 実際に教育活動を行っている学校数 小学校438校 中学校217校 小・中学校655校

調査項目	回 答	小学校	中学校	全 体
1 (1)ふくしま道徳教育資料集 活用の有無	①全学年で活用した。	49.8%	34.6%	44.7%
	②一部の学年で活用した。	37.7%	52.5%	42.6%
	③これから活用する予定である。	12.6%	12.4%	12.5%
	④活用する予定はない。	0.0%	0.5%	0.2%
	※ ①+②	87.5%	87.1%	87.3%
(2)ふくしま道徳教育資料集 用場面(複数可)	①道徳の時間に活用した。	98.9%	99.1%	98.9%
	②①以外の学校教育活動で活用した。	16.2%	6.9%	13.1%
	③家庭で活用した。	3.2%	3.7%	3.4%
	④その他(学級通信で活用、朝の読書で活用等)	1.6%	1.8%	1.7%
(3)ふくしま道徳教育資料 集に収められた「資料」の活 用の仕方(複数可)	①そのまま活用した。	94.7%	88.5%	92.7%
	②部分的に活用した。	31.7%	31.8%	31.8%
	③改作して活用した。	1.1%	4.1%	2.1%
	④その他(パンフレットとして作成・配布等)	0.9%	1.8%	1.2%
2 道徳の授業参観(公開授 業・保護者向け授業参観)	①全学級実施した。	41.8%	13.4%	32.4%
	②全学級ではないが実施した。	46.1%	61.8%	51.3%
	③今年度中に実施する予定である。	10.5%	9.7%	10.2%
	④実施する予定はない。	1.6%	14.7%	6.0%
	⑤その他(校内研修での授業参観等)	0.0%	0.5%	0.2%
	※ ①+②	87.9%	75.2%	83.7%
3 家庭や地域社会との連携 による道徳の指導(複数可)	①保護者が授業に参加した。	46.1%	7.8%	33.4%
	②地域の人々が授業に参加した。	11.9%	10.1%	11.3%
	③保護者や地域の人々以外(ゲストティーチャー)を招き実施した。	25.6%	24.0%	25.0%
	④実施する予定はない。	26.5%	54.4%	35.7%
	⑤その他(保護者へアンケート・手紙の協力依頼等)	11.0%	9.2%	10.4%
4 「私たちの道徳」の活用状 況(複数可)	①道徳の時間に活用した。	100.0%	98.6%	99.5%
	②道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	45.9%	13.4%	35.1%
	③家庭に持ち帰らせた。	40.2%	13.8%	31.5%
	④活用していない。	0.2%	0.5%	0.3%
	⑤その他(親子読書の教材として活用等)	0.2%	0.5%	0.3%
5 「私たちの道徳 活用の ための指導資料」の活用状 況(複数可)	①全学級に配当している。	93.8%	84.3%	90.7%
	②活用している。(過半数以上)	39.0%	27.6%	35.3%
	③活用していない。	3.2%	4.6%	3.7%
	④その他(日常生活で活用等)	0.0%	2.3%	0.8%
6 (1)道徳教育全体計画の 「別業」(様式は任意)(学校 数)	①作成している。	94.1%	80.6%	89.6%
	②今年度中に作成する予定である。	5.5%	13.8%	8.2%
	③作成する予定はない。	0.0%	0.9%	0.3%
	④その他(次年度作成する等)	0.5%	4.6%	1.8%
(2)道徳教育全体計画の 「別業」の活用の有無(学校 数)	①成果や課題などを記入して活用している。	13.5%	6.0%	11.0%
	②記入はしていないが確認をするなどで活用している。	79.7%	72.8%	77.4%
	③活用していない。	5.3%	15.7%	8.7%
	④その他(現在作成中等)	1.6%	5.5%	2.9%
7 道徳教育の全体計画(学校数) 「いじめ防止対策推進法」の明示	①明示している。	69.6%	59.0%	66.1%
	②明示していない。	30.4%	41.0%	33.9%
8 道徳の時間の指導体制 (複数可)	①校長先生が参加した。	32.2%	21.7%	28.7%
	②教頭先生が参加した。	21.9%	19.8%	21.2%
	③担任以外の教職員が参加した。	39.3%	73.7%	50.7%
	④その他(GTの活用、学年道徳の実施等)	26.9%	18.4%	24.1%
9 先行実施の状況 (複数可)	①改正学習指導要領に示された内容項目を用いて教育課程を編成している。	26.9%	15.7%	23.2%
	②通知票に「道徳の時間」に係る欄を設けている	2.5%	1.4%	2.1%
	③①②以外の先行実施をしている。	11.6%	7.4%	10.2%
	④先行実施はしていない。	60.3%	74.2%	64.9%

道徳だより  
**道徳のかけ橋**

**第12号～17号**

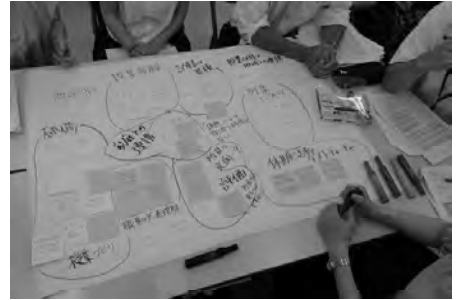


# 道徳のかけ橋

平成29年10月30日発行  
第 1 2 号  
福島県教育庁  
義務教育課

## 「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会を7地区で開催しました。

8月2日の相双地区をはじめに、県内7地区において、小中学校・特別支援学校の管理職、道徳教育推進教師等（各校1名悉皆）が参加し、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会を開催しました。この研修会は平成30年度に小学校、平成31年度に中学校で予定されている道徳科の完全実施に伴う行政説明及び協議等を目的とするものです。



いずれの地区においても、道徳教育全体計画や年間指導計画の立案、質の高い多様な指導方法、評価の在り方等について先生方が熱心に説明に聞き入り、その後の質疑やグループ協議において、自分の学校の現状や課題、これからのロードマップ等を確かめ合う等、有意義な研修となりました。

今号からは、全5回1週間おきに発刊し、この研修会で説明し、質問のあった内容について特集し、皆様にお届けします。今後の完全実施、教育課程編成に向けて参考にしていただければ幸いです。

### 道徳教育の課題と特別の教科化がめざすものは？

#### 道徳教育の課題と特別の教科化がめざすもの

##### 量的課題

- ▶ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- ▶ 他教科等と比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていることもあるのではないかと懸念されている。

年間35時間単位の時間が確実に確保されるという量的確保

##### 質的課題

- ▶ 教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。
- ▶ 地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。
- ▶ 授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。
- ▶ 学年が上がるとつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくなる状況にある。

子供たちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるといった質的転換

「道徳教育の在り方に関する懇談会」報告書（H25.12.26）における指摘より

まずは、35時間の授業を量的に確保することが大切です。子どもたちが「道徳」と向き合う時間を確実に確保したいものです。

その上で「登場人物の心情を理解させるだけの型にはまった指導になりがち」等の課題を受け止め、効果的な指導方法を共有して質的な転換を図っていきましょう。



### なぜ「特別」なの？教科化の具体的なポイントは？

#### 道徳の「特別の教科」化（学習指導要領の改正）

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」（小・中学校で週1時間）を「特別の教科 道徳」（「道徳科」）（引き続き週1時間）として新たに位置付ける（平成27年3月27日）

##### 具体的なポイント

- ☑ 道徳科に検定教科書を導入
- ☑ 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善  
「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ☑ 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- ☑ 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を認め、励ます評価（記述式）  
指導要録の様式例は示すが、内申書には記載せず、入学者選抜に使用しない

※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む。

「教員免許がなく、担任が担当することが望ましいこと」「数値などの評価がなじまないこと」等、教科にない側面があるため、「特別」なのです。

また、教科化の具体的なポイントとして①教科書の導入 ②体系的な内容への改善 ③質の高い多様な指導方法を工夫 ④児童生徒を受け止め、認め、励ます評価の4つがあります。（この4つのポイントについては、次号以降で詳しく説明していきます。）





## 道徳教育の目標は？道徳科の目標は？

### 道徳教育の目標

(小(中)学校学習指導要領第1章総則 第1 教育課程編成の基本方針 2. 抜粋)  
 学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。  
 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

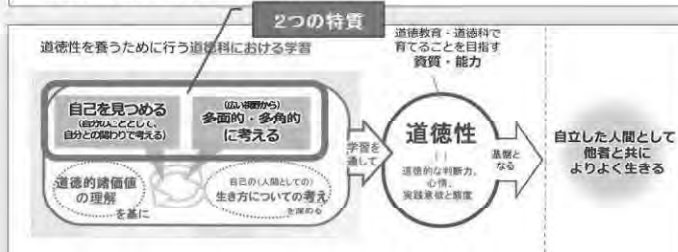
- 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述・「総則」編に記載
- 「特別の教科 道徳」の記述・「特別の教科 道徳」編に記載
- 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない。
- 育むものは、内面的資質としての道徳性に統一

新学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科 道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科 道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、現行学習指導要領にあった「道徳的実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

### 「特別の教科 道徳」の目標

(小(中)学校学習指導要領第3章 特別の教科 道徳)の「第1目標」  
 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



朱字で記述された「〇〇学習を通して」の部分が特に大切です。

具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、

- 自己を見つめること
- 物事を多面的・多角的に考えることを押さえることがとりわけ大切です。

この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。

**Q** 道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜですか。担任以外が行ってはいけないのでしょうか。

**A** 道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にもふれあう機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられます。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではありません。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的です。

学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切です。

## 本年度の各地区の道徳教育推進校を紹介します。

### 平成29年度 各地区道徳教育推進校

- 〔県 北地区〕伊達市立大田小学校
- 〔県 中地区〕福島県立小野高等学校
- 〔県 南地区〕棚倉町立棚倉中学校
- 〔会 津地区〕喜多方市立駒形小学校
- 〔南会津地区〕檜枝岐村立檜枝岐小学校
- 〔相 双地区〕南相馬市立原町第三中学校
- 〔いわき地区〕いわき市立赤井中学校

県内7つの小・中・高等学校を道徳教育推進校とし、地域に根ざした道徳教育の推進とその研究を進めています。現在、この7つの推進校を、各地区の道徳教育推進の「要」として、道徳地区別推進協議会をはじめとして、授業の研究公開や講演会等を積極的に行っております。

なお、推進校には、「道徳教育推進報告書」を作成していただき、各学校にお届けするとともに、義務教育課ホームページにも掲載し、皆様に発信する予定です。



# 道徳のかけ橋

平成29年11月6日発行  
第 1 3 号  
福島県教育庁  
義務教育課

## 各地区において、平成29年度道徳教育推進協議会が開催されています。

各地区においては、右記の日程・会場で道徳教育地区別推進協議会が開催されています。この研修会は、各学校が3年に1回参加できるよう割り当てで実施しています。

9月13日には、会津地区の道徳教育推進協議会が喜多方市立駒形小学校で開催され、2学級の授業公開をはじめ、道徳教育指導者養成研修報告や実践報告等が行われました。さらに、上越教育大学大学院の早川裕隆教授の講話をお聞きし、その後、「児童生徒の望ましい道徳性を育成するために」をテーマに研究協議を行いました。協議には、各市町村のPTA代表者も参加し、地域社会や家庭における子どもたちの様子から、各地区の現状や課題について積極的に話し合っていました。

それぞれの協議会において、各地区及び自校の道徳教育の「強み」と「弱み」が明確になり、道徳教育の充実に向けた見通しがもてるようになりました。

地区	会場	日時
県北	伊達市立大田小学校	11/24(金)
県中	県立小野高等学校	10/ 2(月)
県南	棚倉町立棚倉中学校	11/ 8(水)
会津	喜多方市立駒形小学校	9/13(水)
南会津	檜枝岐村立檜枝岐小学校	10/ 6(金)
相双	原町市立原町第三中学校	11/16(木)
いわき	いわき市立赤井中学校	11/13(月)

前号に引き続き、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会の説明と質問いただいた内容について、とりまとめたものを掲載します。今回は2回目です。

## 道徳教育全体計画はどう作成すればよいの？別葉はどうすればよいの？

### 小（中）学校学習指導要領第1章総則 第4 指導計画の作成にあたって配慮すべき事項 3 抜粋

- 小・中・共通
- 道徳教育の全体計画の作成
    - ⇒重点目標の設定
    - ⇒各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示
  - 活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編）
 

例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したものの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられる。（参照：道徳のかけ橋第4号 平成26年12月15日発行）
  - 校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。
 

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編）

    - 道徳教育の指導計画の作成に関すること
    - 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
    - 道徳科の充実と指導体制に関すること
    - 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
    - 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
    - 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
    - 道徳教育の研修の充実に関すること
    - 道徳教育における評価に関すること など

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますので参照願います。また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。「別葉」の作成にあたっては、「(H26.12.15)道徳のかけはしNO.4」を参照願います。

## 教科用図書の導入で何が変わるの？

### 【ポイント1】検定教科書の導入について①

#### 法的根拠

**教科書の法的根拠**  
学校教育法34条（教科用図書・教材）  
小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。（中学校にも準用）

**教科書の定義**  
教科書の発行に関する臨時措置法2条（定義）  
この法律において「教科書」とは、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程の構成に応じて組織的並びに系統的に編纂された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

副読本や「私たちの道徳」を大切にしながら、比較的自由に教材を選択し活用していた今までと違い、教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。

なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。



## 教科用図書の教材以外を使用してはいけないの？

Q：ふくしま道德教育資料集の活用は今後どうなるか。

(小学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点 1教材の開発と活用の工夫)  
 (2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導  
 道德科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないとは言うまでもないが、道德教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道德的価値について考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。

(同 2 道德科に生かす教材)

(3) 多様な見方や考え方でできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること  
 なお、教科用図書以外の教材を使用するに当たっては、「学校における補助教材の適正な取扱いについて」(平成27年3月4日 初等中等教育局長通知)など、関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用することが重要である。

○「主たる教材」としての教科用図書教材

⇒ 今後は主題、教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要

○「副教材」として、ふくしま道德教育資料集をはじめ、市町村発行の道德教育資料集等を積極的に位置付けたい。

⇒ 意図的・計画的・組織的な計画と活用を

「ふくしま道德教育資料集」「市町村発行の道德資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道德(WE B版)」や「小(中)学校 道德読み物資料集(文科省)」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うこととなります。

Q 道德教育の全体計画の作成に当たって、どんなことに配慮すべきですか。

以下のポイントについて、学校としての計画(ロードマップ)を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなります。

- A
- 「重点目標」「指導の重点化」(重点とする内容項目の設定)を校長の方針の下、道德教育推進教師が要となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。
  - 「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道德教育との関連性や整合性が図られているか。
  - 別葉をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしていくか。
  - 評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

Q 自作教材は、今後活用することができなくなるのでしょうか。

- A 自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切です。そのためには、「小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科道德編 第3章 道德科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となります。

Q 複式学級の年間指導計画をどう作成すればよいか教えてください。

- A 小(中)学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道德 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされていますので、御留意ください。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編 第3章 道德科の内容 第1節 内容構成の考え方(3)」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる～」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導において、該当学年にはない内容項目を加えて指導できる旨が明記されています。

これらを踏まえると、複式学級における教育課程編成に際しては、次の3例が想定されます。

- A 学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習(「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による)
- B 2年間分をそれぞれ第1年次(A年度)と第2年次(B年度)別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習(該当する両学年の教科書の同時(一括)給与)
- C 2年間分の学習内容について、A年度は○学年の教材を主に、B年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習(A年度は○学年の教科書給与、B年度は●学年の教科書給与)

繰り返しますが、BやCでは、該当学年にない内容項目を加える場合も想定され、当該学年の全ての内容項目が取り上げられているか細心の注意を払う必要があります。また、いずれのケースにおいても、今後の学級編制の推移を想定し、教科書給与上の事務手続きを適切に行うするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められます。さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もありますので、各市町村教育委員会に確認願います。



# 道徳のかけ橋

平成29年11月13日発行  
第 1 4 号  
福島県教育庁  
義務教育課

## 「特別の教科 道徳」の完全実施に向けた準備は進んでいますか。

今号も「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で説明し、質問があった内容について特集します。右の表は、昨年度実施した「平成28年度道徳教育実施状況調査」の結果から「先行実施の状況」の項目を抜粋したものです。所属する学校では、完全実施に向けた準備は進んでいますか。小学校は平成30年度、中学校は平成31年度からの完全実施が近づいてきました。先般開催された「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会に参加された先生方には、実施までのロードマップを作成し、見通しをもって完全実施に臨めるようお願いしたところです。ロードマップの作成に当たっては、全体計画・別業、年間指導計画の作成や評価の在り方の検討、保護者への説明と周知及びその時期等が重要なポイントとなります。校長の明確な指導方針の下、道徳教育推進教師を要として、全職員で共通理解を図りながら、完全実施までの準備を進めてくださるようお願いいたします。

回答	小学校	中学校	全体
①改正学習指導要領に基づいた内容項目を用いて教育課程を編成している。	12.3	10.5	11.7
②通知表に「道徳の時間」に係る欄を設けている。	0.7	0.0	0.5
③①②以外の先行実施をしている。	8.3	6.4	7.7
④先行実施はしていない。	79.1	83.2	80.5

県教育委員会でも、保護者等を対象に発行を予定している「道徳のとびら」において、周知と啓発を図る予定です。各学校においても、保護者集会やお便り等機会を設けて、保護者への周知や啓発に努めていただきますようお願いいたします。

13、14号に引き続き、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会の説明と質問いただいた内容について、とりまとめたものを掲載します。今回は3回目です。

## 内容項目が追加・整理され、体系的に分かりやすく整理されました。

### 【ポイント2】項目の追加と体系的なものへの改善①

**内容項目の追加**

「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。

- 【小・低学年】19項目  
「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加
- 【小・中学年】20項目  
「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加
- 【小・高学年】22項目  
「よりよく生きる言ひ」追加
- 【中学校】22項目

**体系的なものへの改善**

手掛かりとなる言葉の付記

記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目（3項目追加）、中学年は20項目（2項目追加）、高学年・中学校は22項目（高学年は1項目追加）となります。前号でも述べましたが、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には漏れのないよう留意してください。

また、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉（キーワード）を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



### 【ポイント2】項目の追加と体系的なものへの改善②

※ 必ずして人の関わりで調べること  
「道徳 道徳」

① 児童生徒の発達特性

② 指導要領

③ 児童生徒の発達特性

○ 「その年齢ならではの」児童生徒の発達特性を押さえる。  
○ 隣接する年齢の児童の発達特性を押さえ、類似と相違を確認する。  
○ 確認した発達課題を生かして、児童生徒の実態や教材の特性を押さえる。

従来、小（中）指導要領道徳解説編では、内容項目は各学年毎に記述され、学年間の発達特性や発達課題の違いが読み取りづらくなっていました。そこで、記述の仕方を改め、各学年毎ではなく、内容項目毎の記載に変更されました。授業を行う際には、授業を行う学年の発達特性や発達の課題が何かを把握するとともに、隣接する学年等の記述も読み、児童生徒の実態や教材の特性を押さえることが大切です。

# これからの指導方法はどうなるの？

## 【ポイント3】問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

### 問題解決的な学習の工夫

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。

### 道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするよう道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。

### 特別活動等の多様な実践活動を生かす工夫

道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。

小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされ、「（H28.7.22）特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」では、従来一般的に行われた「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」を加えて、「質の高い多様な指導方法」として、3つの指導方法が例示されています。

なお、今まで一般的に実践されてきた「登場人物の自我関与型」の授業が否定されているような誤解がありますが決してそうではありません。否定されているのは「読み取り」や「人物の心情理解のみ」の授業です。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

	×	読み物教材の登場人物への自我関与型の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験	×
ねらい		登場人物の心情理解のねらいが中心で、道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。	
指導方法		登場人物の心情理解のねらいが中心で、道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。	
登場人物の心情理解のみの指導		登場人物の心情理解のねらいが中心で、道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。	
評価		登場人物の心情理解のねらいが中心で、道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。道徳的諸価値の理解を促すことが目的である。	道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。道徳的行為に関する体験的な学習を促すことが目的である。	

この表が、上記の専門家会議の報告書に掲載されている質の高い多様な指導方法のイメージです。道徳教育推進教師の皆様には、是非この表の原寸大の印刷物を、先生方全員にお配りいただき、これからの多様な指導方法について共有し実践に生かしてください。なお、表の両側には、「×」の表記で、課題が多く形式的な指導として以下の2つが示されています。

- 登場人物の心情理解のみの指導
  - 主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話し合い
- この2つだけでなく、「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」や「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等も散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりをこころがけることが大切です。

**Q** 「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」などの多様な指導方法を耳にするようになりました。両者に関連はあるのでしょうか。これから求められる授業の在り方について教えてください。

**A** これから求められる質の高い多様な指導方法として例示された「問題解決的な学習」等の指導方法は「考え、議論する道徳」をより具体化し、道徳科の特質に根ざした最も有効な指導方法であると考えられます。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の実践と研究が期待されることです。なお、示されている3つの指導方法は、一つ一つが独立した型ではないことに留意しながら、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うなどの工夫も大切です。



# 道徳のかけ橋

平成29年11月20日発行  
第 1 5 号  
福島県教育庁  
義務教育課

## 「特別の教科 道徳」の実施に係る校内研修を行っていますか。

研修の時間がなかなかとれない…

授業や子どもの姿を基にした研修を行いたいけれど…

このような先生方の声を、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で耳にしました。現在、文部科学省では、道徳の教科化に向けた教員の研修の充実のために、「道徳教育アーカイブ」を設置し、動画等で配信しています。

道徳教育アーカイブ <https://doutoku.mext.go.jp/>



授業映像＋授業者インタビューを合わせて、一本20～30分程度で見ることができ、動画に合わせて職員で話し合ったり、道徳科の今後の動向等を確認したりすれば、研修をより効果に実施することができます。

また、独立行政法人教職員支援機構のホームページにも、校内研修シリーズとして「道徳教育」の動画があり、今回の教科化の要点等についての解説を視聴することができます。このような動画等も積極的に活用しながら、効果的に研修を深めていただきたいと思います。

県教育委員会でも、保護者等を対象に発行を予定している「道徳のとびら」に加え、この「道徳のかけ橋」を適宜発行したり、道徳教育推進校報告書をお届けしたりするなどして、積極的に情報を発信していきます。

13～15号に引き続き、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会の説明と質問いただいた内容について、とりまとめたものを掲載します。今回は4回目です。

## 「特別の教科 道徳」の評価は？

評価の「基本的な考え」と「方向性」については以下ようになります。まず、評価者としての教師が継続的に把握するのは「学習状況」と「道徳性に係る成長の様子」であり、「数値による評価は行わない」ことを押さえる必要があります。また、把握した学習状況と道徳性に係る成長の様子は、指導に生かすことが明記され、他教科同様、道徳科においても「指導と評価の一体化」を強く意識しています。

## 道徳教育に係る評価等の在り方について

### ○改訂後の学習指導要領(特別の教科 道徳)

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

【基本的な方向性】

(H27.6～H28.7)

- 数値による評価ではなく、記述式とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要

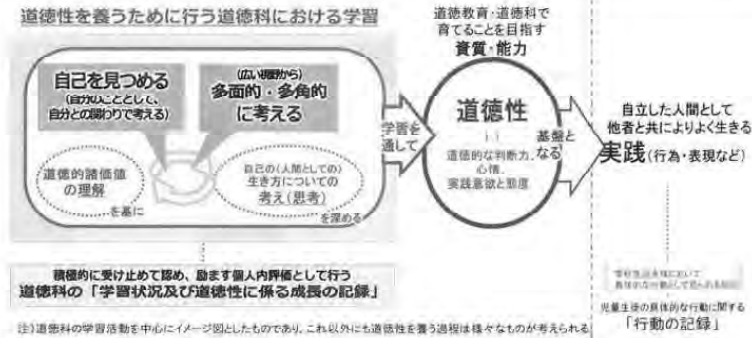
※専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要領の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知



# 道徳科の評価はどのように進めたらよいのでしょうか？

## 道徳科の学習活動と評価のイメージ

○道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価(ABCの段階をつける)ことは妥当ではない。  
 ○道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論することを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うこと」によって、道徳性を養うことを目指すもの。  
 一このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である。



- 児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
- 観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
- 道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
- 学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。



- 指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
- 道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号(平成28年8月10日付)で発出しています。
- 指導要録の様式については、各学校の設置者が決定することとなります。また、記入例や記入の手引き等については、今後、県教育委員会から情報発信していきます。

別紙3

各教科の学習の記録		特別の教科課程	
I 観点別学習状況		II 特別の教科課程	
道徳	道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)	特別の教科課程(道徳科)	道徳科(道徳性)
国語	読解力、表現力、語彙力	特別の教科課程(国語)	国語(読解力、表現力、語彙力)
算数	数感、計算力、図形力	特別の教科課程(算数)	算数(数感、計算力、図形力)
理科	科学的態度、観察力、実験力	特別の教科課程(理科)	理科(科学的態度、観察力、実験力)
社会	社会的態度、規範意識、責任感	特別の教科課程(社会)	社会(社会的態度、規範意識、責任感)
総合	総合的な学習の態度、探究力	特別の教科課程(総合)	総合(総合的な学習の態度、探究力)
外国語	外国語の理解力、コミュニケーション能力	特別の教科課程(外国語)	外国語(外国語の理解力、コミュニケーション能力)
音楽	音楽の理解力、表現力	特別の教科課程(音楽)	音楽(音楽の理解力、表現力)
美術	美術の理解力、表現力	特別の教科課程(美術)	美術(美術の理解力、表現力)
体育	体育の理解力、運動能力	特別の教科課程(体育)	体育(体育の理解力、運動能力)
家庭科	生活の理解力、生活技能	特別の教科課程(家庭科)	家庭科(生活の理解力、生活技能)
保健	健康の理解力、健康意識	特別の教科課程(保健)	保健(健康の理解力、健康意識)
労働	職業の理解力、職業意識	特別の教科課程(労働)	労働(職業の理解力、職業意識)
職業	職業の理解力、職業意識	特別の教科課程(職業)	職業(職業の理解力、職業意識)
道徳	道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)	特別の教科課程(道徳)	道徳(道徳性)

画像は小学校児童指導要録のイメージ(中学校生徒指導要録、特別支援学校小学校部・中学校の児童指導要録、生徒指導要録も同様)

Q 「大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とありますが、具体的に教えてください。

A 小(中)学校学習指導要領解説「第5章 第2節 道徳科における児童(生徒)の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされています。指導要録の記入上の大きくりなまとまりは、一年間を指しますが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、各学校で設定する必要があります。当然のことですが、保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられます。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切です。

Q 「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのですか、教えてください。

A 一つ一つの内容項目ごと(授業ごと)に、「ABC」や「数値」等による評価をしないことを意味します。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大きくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかにか成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価するので、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは何ら問題ありません。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもありません。

※次号でも続けて、道徳科の評価について特集していきます。

# 道徳のかけ橋

平成29年11月27日発行  
第 1 6 号  
福島県教育庁  
義務教育課

## 道徳科の特質に根ざした「〇〇ならではの」道徳教育の実現に向けて

第12号から5号続けて、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で説明し、質問があった内容について特集を組んでお伝えしてきました。今回の完全実施では、質の高い多様な指導方法や評価を中心に、道徳教育の枠組みが大きく変わり、「フルモデルチェンジである」と研修会でも説明してきました。今回のフルモデルチェンジに対応し、今まで以上に道徳教育の充実を図ることができるようお願いいたします。充実させていく過程では、「市町村ならではの」「地区ならではの」「〇〇小（中）学校ならではの」といった「〇〇ならではの」道徳教育をどう実現していくかの視点も大切です。

なお、今回の5号に渡る特集の内容や、今後の教育課程編成に向けた質問等がございましたら、各教育事務所にお問い合わせいただきますようお願いいたします。県教育委員会といたしましても、「福島ならではの」道徳教育の実現に向けて、より一層取り組んでまいります。

それでは、前号に引き続き、「評価」を中心にお伝えいたします。

### 評価を行う際、どのような点に配慮すればよいのでしょうか？

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）〔別紙2〕（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

#### 道徳科の評価の工夫に関する例

（専門家会議の意見より）

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
- ・ 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- ・ 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。 ※成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）〔別紙2〕（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

- ・ 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取心を掛けるようにすること。
- ・ 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- ・ 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- ・ 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

- 各地区の研修会では、評価をどう進めればよいかの質問がありました。以前にもお話しした「特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。この例は示唆に富む事例ばかりですので、ぜひ参考にしてください。

#### 〔評価の工夫例（一部抜粋）〕

- ファイル等の累積による学習状況の継続的把握
- 児童生徒や保護者に、成長の過程や到達点を伝える場の設定
- 児童生徒自身のエピソードの集約と活用 等



- 長い期間の中で児童生徒の変容を見取ること
- 教員同士で互いに授業を見合う場の設定。チームとして取り組むこと
- 評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもつ必要性 等



## Q & A（評価を中心に、評価以外の質問も含めて）

**Q 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのですか。**

**A** 「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられます。  
また、児童生徒の人格そのものに働きかける道徳科の目標としては、観点別に行う評価（ABCの段階を付ける）自体が妥当ではないと考えられます。

**Q 個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないのでしょうか。**

**A** 児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにABCを付ける）ことは適当ではないと考えられます。  
一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことは大切であると考えられます。  
小（中）学習指導要領解説編では、「学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点を重視することとしています。

**Q 特別支援学校における道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わりますか。また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきですか。さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきですか。**

**A** 特別支援学校においても、道徳の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっています。準ずるということは、同一ということの意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおり取り扱わなければならないことを意味します。しかしながら、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第130条第2項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によることとされています。  
なお、特別支援学校学習指導要領第5章 特別の教科 道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、3つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がありますので御留意ください。  
また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導要領を踏まえる必要があります。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様となります。

**Q 教科化について参考となる文書やホームページ、動画等を教えてください。**

**A** 12号から特集してきた内容で引用した報告書や動画等についてまとめて掲載します。校内研修、教育課程編成等の参考にしてください。  
〔学習指導要領等〕  
○ 小（中）学校学習指導要領 平成29年3月31日 文部科学省（文部科学省HP）  
○ 小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年6月（7月）文部科学省（文部科学省HP）  
〔通知等〕  
○ 学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（28教義第846号 平成28年8月10日付）  
〔報告書・広報誌等〕  
○ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（文部科学省HP）  
○ 福島県道徳教育推進報告書（福島県教育庁義務教育課HP）  
○ 道徳のとびら（福島県教育庁義務教育課HP）  
○ 道徳のかけ橋（福島県教育庁義務教育課HP）  
〔動画等〕  
○ 道徳教育アーカイブ（<https://doutoku.mext.go.jp>）  
○ 校内研修シリーズ「道徳教育」（独立行政法人教職員支援機構HP）

# 道徳のかけ橋

平成30年2月14日発行  
第 1 7 号  
福 島 県 教 育 庁  
義 務 教 育 課

## 平成29年度福島県道徳教育実施状況調査の概要をお知らせします。

平成30年1月15日現在

調 査 項 目	回 答	平成30年1月15日現在			
		小学校	中学校	全体	
ふくしま道徳教育資料集活用の有無	活用した。	87.5%	87.1%	87.3%	A
	これから活用する予定である。	12.6%	12.4%	12.5%	
	活用する予定はない。	0.0%	0.5%	0.2%	
ふくしま道徳教育資料集活用場面 (複数回答)	道徳の時間に活用した。	98.9%	99.1%	98.9%	
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	16.2%	6.9%	13.1%	
	家庭で活用した。	3.2%	3.7%	3.4%	
	その他(3月震災追悼に活用予定等)	1.6%	1.8%	1.7%	
ふくしま道徳教育資料集に収められた 「資料」の活用の仕方(複数回答)	そのまま活用した。	94.7%	88.5%	92.7%	
	部分的に活用した。	31.7%	31.8%	31.8%	
	改作して活用した。	1.1%	4.1%	2.1%	
	その他(学級通信での活用、朝の読書で活用等)	0.9%	1.8%	1.2%	
道徳の授業参観(公開授業・保護者向け授業参観)	実施した。(今年度中の実施予定を含む)	98.4%	84.9%	93.9%	B
	実施する予定はない。	1.6%	14.7%	6.0%	
	その他(校内研修での授業参観等)	0.0%	0.4%	0.1%	
家庭や地域社会との連携による道徳の 指導(複数回答)	保護者が授業に参加した。	46.1%	7.8%	33.4%	
	地域の人々が授業に参加した。	11.9%	10.1%	11.3%	
	保護者や地域の人々以外(ゲストティーチャー)を招き実施した。	25.6%	24.0%	25.0%	
	実施する予定はない。	26.5%	54.4%	35.7%	
「私たちの道徳」の活用状況 (複数回答)	道徳の時間に活用した。	100.0%	98.6%	99.5%	
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	45.9%	13.4%	35.1%	
	家庭に持ち帰らせた。	40.2%	13.8%	31.5%	
	全学級に配当している。	93.8%	84.3%	90.7%	
「私たちの道徳 活用のための指導資料」 の活用状況(複数回答)	活用している。(過半数以上)	39.0%	27.6%	35.3%	
	活用していない。	3.2%	4.6%	3.7%	
	その他(保護者アンケート・手紙の協力依頼等)	11.0%	9.2%	10.4%	
道徳教育全体計画の「別業」作成状況	作成している。(今年度作成予定を含む)	99.6%	94.4%	97.8%	
	作成する予定はない。	0.0%	0.9%	0.3%	
	その他(次年度作成する等)	0.5%	4.6%	1.8%	
道徳教育全体計画の「別業」活用の 有無	成果や課題などを記入して活用している。	13.5%	6.0%	11.0%	C
	記入はしていないが確認をするなどして活用。	79.7%	72.8%	77.4%	
	活用していない。	5.3%	15.7%	8.7%	
	その他(現在作成中等)	1.6%	5.5%	2.9%	
道徳教育の全体計画に「いじめ防止対策推進法」 を関係法令として位置付けている(明示)	明示している。	69.6%	59.0%	66.1%	D
	明示していない。	30.4%	41.0%	33.9%	
道徳の時間の指導体制(複数回答)	校長先生が参加した。	32.2%	21.7%	28.7%	
	教頭先生が参加した。	21.9%	19.8%	21.2%	
	担任以外の教職員が参加した。	39.3%	73.7%	50.7%	
	その他(GTの活用、学年道徳の実施等)	26.9%	18.4%	24.1%	
先行実施の状況(複数回答)	改正学習指導要領に示された内容項目を用いて教育課程を編成している。	26.9%	15.7%	23.2%	
	通知票に「道徳の時間」に係る欄を設けている。	2.5%	1.4%	2.1%	
	上記以外の先行実施をしている。	11.6%	7.4%	10.2%	
	先行実施はしていない。	60.3%	74.2%	64.9%	

### ～道徳教育を推進する上での各学校にお願いしたいこと、確認してほしいこと～

上記のA～Dの視点に基づいて、以下の4つをお示ししますので、参考にしてください。

- A** ふくしま道徳教育資料集の活用状況は、「活用した」「これから活用する予定」合わせて99.8%であり、各学校で積極的に活用されています。教科用図書導入後も、「ふくしまならでは」の道徳科の授業の具現に向けて、各地域、各学校の実態に合わせて積極的に活用願います。
- B** 授業参観について、「実施した(今年度中の実施予定を含む)」と回答した学校の割合(年度中の実施予定を含む)が、93.9%と極めて高い割合です。今後も、保護者や地域と一体となった道徳教育の実現をめざしたいものです。
- C** 「(別業を)作成している」(97.8%)及び「(別業を)活用している」(88.4%)と望ましい傾向に近づいています。今後も「つくって終わりの別業」ではなく、「見直しを繰り返し、活用できる別業」を目指して計画的に進めてほしいと思います。なお、道徳科の全面実施に向けて、別業を改訂する場合は、道徳のかけ橋第4号(平成26年12月15日発行)を是非参照願います。
- D** 道徳教育全体計画に「いじめ防止対策推進法」が明確に位置付けられてきています。より実効性のあるいじめ防止に向けて、道徳教育の役割を明確に意識したいものです。なお、明示されていない学校については、大きな課題ととらえ、しっかりと確認・共通理解して新年度に臨むようにしてください。

## 「特別の教科 道徳」の全面実施に向けたQ & A

次年度の教育課程編成に向けて、新たな質問事項を取りまとめましたので、掲載します。合わせて、今まで寄せられた質問については、道徳のとびら第12～16号に掲載しておりますので、まだ確認されていない場合は合わせて御一読願います。

**Q 現在、来年度の教育課程編成を行っている小学校です。学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまいます。このような場合、どのような対応が考えられますか。**

**A** 各学校の道徳教育の重点内容項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもありません。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまいます。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（WEB版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられます。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してください。

**Q 来年度に向けて、複式学級の教育課程編成を行っている小学校です。本校では、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行う予定です。道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、何か配慮・工夫する点がありましたら教えてください。**

**A** 例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせる弾力的な学習指導を実施することなどが考えられます。具体的には、次の例の通りです。  
（例）3・4学年（複式学級）において、5月第2週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想  
 導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。  
 展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせる実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。  
 展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、親切・思いやりにかかわって自分の生活を見つめ直したりする。  
この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかありません。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切です。  
なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であっても、どうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考えます。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切です。

**Q 全面実施を来年度に控えた小学校ですが、道徳科の教育課程編成上、「これだけは…」というポイントがあれば、教えてください。**

**A** 小学校学習指導要領（平成29年3月）・第3章特別の教科道徳・第3指導計画の作成と内容の取扱いの1には、「…第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする」とされています。低学年19項目・中学年20項目、高学年22項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となりますので、各学年の年間指導計画を必ず確認してください。

**Q 再来年度に全面実施を控えた中学校ですが、教科化に向けた準備が十分に進んでいません。全面実施を次年度に控えた平成30年度は、どのような取組を行えばよいでしょうか。**

**A** 前述の平成29年度の道徳教育実施状況調査によれば、教科化に向けて何らかの先行実施を行っている中学校の割合が24.5%となっています。各学校では、全面実施までのロードマップを作成し、計画的・組織的に取組を行っていただきたいと思っております。その取組の例としては、次のような取組が考えられます。  
 内容項目を新学習指導要領に対応して計画・実施する。  
 質の高い多様な指導方法（道徳のかけ橋第14号参照）や評価、道徳教育アーカイブ（道徳のかけ橋第16号参照）等を活用した研修を実施し、教員の教科化の趣旨や内容の理解及び指導力の向上を図る。  
 保護者や地域住民に向けて、道徳科の全面実施に向けた周知を行う。  
なお、周知の際のポイントは、道徳のとびら（平成29年11月発行）の『特別の教科 道徳』がいよいよ始まります。」コーナーを参照にしてください。  
 通知表の所見を試行的に実施するなどして、次年度の評価に向けた見通しをもつ。





ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

---

平成30年3月 9日 印刷  
平成30年3月15日 発行

福島県教育委員会

---